

**利府町介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、
在宅介護実態調査及び介護サービス事業所調査
報 告 書**

令和8年7月

利 府 町

目 次

第1章 調査の概要

1. 調査の目的	3
2. 調査の概要	3
(1) 調査対象者	3
(2) 調査内容	3
(3) 調査方法	4
(4) 調査時期	4
(5) 配付回収結果	4
3. 調査結果の見方	4

第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

0. 調査対象者の概要	9
(1) 調査票の記入者	9
(2) 調査対象者の概要	9
1. あなたのご家族や生活状況について	11
(1) お住まいの地区	11
(2) 家族構成	12
(3) 介護・介助の状況	12
(4) 暮らしの経済的状況	15
(5) お住まい	16
2. からだを動かすことについて	18
(1) 体を動かすこと	18
(2) 転倒	20
(3) 外出	22
3. 食べることについて(問3)	26
(1) 身長・体重(BMI)	26
(2) 口腔	27
(3) 歯の状況	29
(4) 体重の減少	31
(5) 食事をともにする機会	32
(6) 食事の内容	33
(7) 食事の味付け	33
4. 毎日の生活について	34
(1) 物忘れなど	34
(2) 自分でできる日常生活	36
(3) 知的な生活行動	39
(4) 社会的な生活活動	41
(5) 趣味、生きがいの有無	43
5. 地域での活動について	45
(1) 地域の活動への参加頻度	45
(2) 地域活動への参加意識、意向	46
6. 就労について	48
(1) 現在の就労状態	48
(2) 就労を引退した時期	48
7. たすけあいについて	50
(1) 心配事や愚痴の話相手	50
(2) 病気の時の看病や世話	52

(3) 家族や友人・知人以外の相談相手	54
(4) 友人・知人との関係	54
8. 健康について	57
(1) 現在の健康状態と幸せの程度	57
(2) この1か月間のこころの状況	59
(3) 飲酒、喫煙の習慣	61
(4) 治療中、または後遺症のある病気の有無	64
(5) 歯科診療の受診	65
(6) 耳の状態	66
(7) 新型コロナウイルス感染症	68
9. 認知症にかかる相談窓口の把握について	71
(1) 認知症の方の有無	71
(2) 認知症の相談窓口の認知	72
(3) 地域で生活していくための必要な取り組み	74
(4) 認知症になったら、自分にとって一番望ましい生き方	74
10. 地域包括支援センターについて	75
(1) 包括支援センターの役割の認知	75
(2) 包括支援センター職員等と相談した経験の有無	76
(3) 包括支援センターの位置の評価	77
11. 介護予防について	78
(1) 介護予防の取り組みの有無	78
(2) 町や地域包括支援センターが実施している介護予防の取り組みの認知	80
(3) 参加したい介護予防の事業や教室	82
12. 地域での生活について	83
(1) 「隣近所や町内会などのつながり」について	83
(2) あなたの家庭での役割	86
(3) ふだんの生活の外出手段	88
(4) ふだんの生活で困っていること	89

第3章 リスク分析

1. リスク分析の概要	93
2. 評価項目別の結果	94
(1) 運動器	94
(2) 転倒	95
(3) 閉じこもり	96
(4) 低栄養	98
(5) 口腔機能	99
(6) 認知機能	100
(7) うつ傾向	101
(8) 手段的日常生活動作 (IADL)	102
(9) 知的能動性	104
(10) 社会的役割	105
(11) 生活機能総合評価	106
(12) 判定結果のまとめ	108

第4章 在宅介護実態調査

1. 調査対象者の属性	111
2. A票 調査対象者ご本人について	113
(1) 調査票の回答者、家族類型	113
(2) ご家族・親族からの介護の頻度	113

(3) 主な介護者の属性	115
(4) 介護の内容	116
(5) 仕事を辞めた方の有無	119
(6) 介護保険サービス以外のサービスの利用について	119
(7) 施設等への入所・入居の検討状況	121
(8) 現在抱えている傷病	122
(9) 訪問診療利用の有無	123
(10) 介護保険サービスの利用について	123
3. B票 主な介護者の方について	125
(1) 介護者の勤務について	125
(2) 介護の継続、不安について	128

第5章 介護サービス事業者調査

1. 在宅生活改善調査	133
(1) 自宅等から居所を変更した利用者の行先別の人数	133
(2) 自宅等から居所を変更した利用者の要介護度の内訳	134
(3) 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者	135
(4) 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者の属性	136
(5) 生活の維持が難しくなっている理由	137
(6) 生活が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更	141
(7) 「その他施設当の待機者」と「在宅サービス待機者」の生活の改善に必要なサービス	142
2. 居所変更実態調査	143
(1) 地域内の居所移動の実態	143
(2) 居所変更した理由	148
3. 介護人材実態調査	149
(1) サービス系統別の資格保有の状況	149
(2) 年齢別の資格保有状況	150
(3) サービス系統別の常勤職員・非常勤職員の割合	151
(4) 過去1年間の介護職員の職場の変化	154

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「利府町高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画」の策定にあたって、本町高齢者の日頃の生活の様子や健康状態、介護サービスの利用状況、介護サービス事業所のサービス提供状況、運営状況等について把握し、計画策定のための基礎資料を作成することを目的とします。

2. 調査の概要

本調査は、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」、「在宅介護実態調査」および「介護サービス事業所調査」の大きく3種類の調査を実施しました。それぞれの調査の対象者、内容、調査方法、調査時期及び回収結果は以下のとおりです。

(1) 調査対象者

① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

- ・ 令和7年12月5日現在、本町にお住いの65歳以上の高齢者
- ・ 介護保険の要介護認定以外の高齢者及び一部介護保険の要支援認定者

② 在宅介護実態調査

- ・ 令和7年12月5日現在、本町にお住まいで介護保険の要支援・要介護の認定を受けている本人及び介護者の方
- ・ 在宅で生活している方

③ 介護サービス事業者調査

ア. 在宅生活改善調査

- ・ 利府町内の居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、地域包括支援センターの9事業所及びそこに所属するケアマネジャー

イ. 居所変更実態調査

- ・ 利府町内の介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、介護老人保健施設、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）、住宅型有料老人ホームの7事業所

ウ. 介護人材実態調査

- ・ 利府町内の指定介護保険サービス事業所の12事業所
- ・ 利府町内の指定介護保険サービス事業所（訪問系）の3事業所及びそこに所属する介護職員

(2) 調査内容

① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

- ・ あなたのご家族や生活状況について
- ・ からだを動かすことについて
- ・ 食えることについて
- ・ 毎日の生活について
- ・ 地域での活動について
- ・ 就労について
- ・ たすけあいについて
- ・ 健康について

第1章 調査の概要

- ・ 認知症にかかる相談窓口の把握について
- ・ 地域包括支援センターについて
- ・ 介護予防について
- ・ 地域での生活について

② 在宅介護実態調査

- ・ 調査対象者ご本人について
- ・ 主な介護者の方について

③ 介護サービス事業者調査

- ・ 在宅生活改善に関するサービス実態について
- ・ 居所変更に関する実態について
- ・ 介護人材に関する実態について

(3) 調査方法

- ・ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査は調査票を郵送配付、郵送回収
- ・ 介護サービス事業者調査は、インターネットメールにより調査票を配付・回収

(4) 調査時期

- ・ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は令和7（2025）年12月5日から令和8年（2026）年1月9日まで
- ・ 介護サービス事業者調査は令和8（2026）年2月から令和8（2026）年3月23日まで

(5) 配付回収結果

① 今回調査結果

調査の種類	配付数	有効回収数	有効回収率
① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2,000	1,551	77.6%
② 在宅介護実態調査	600	427	71.2%
③ 介護サービス事業者調査	31	27	87.1%

② 前回調査結果

調査の種類	配付数	有効回収数	有効回収率
① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2,000	1,619	81.0%
② 在宅介護実態調査	600	477	79.5%
③ 介護サービス事業者調査	31	30	96.8%

3. 調査結果の見方

- ・ 本調査結果の見方の注意事項は、以下のとおりである。
- ・ 調査数（n = number of cases）は比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答者になるかを示す。
- ・ 回答の構成比は百分率（%）で表わし、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。従って単一回答形式の質問においては、回答比率を合計しても100.0%にならない場合がある。また、回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答形式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の比率を合計すると100.0%を超える。

- 選択肢の語句が長い場合、図表及び本文で一部を簡略化して表現している。一部簡略化した表現の選択肢がある場合、設問の図表下に注書きを付している。

第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

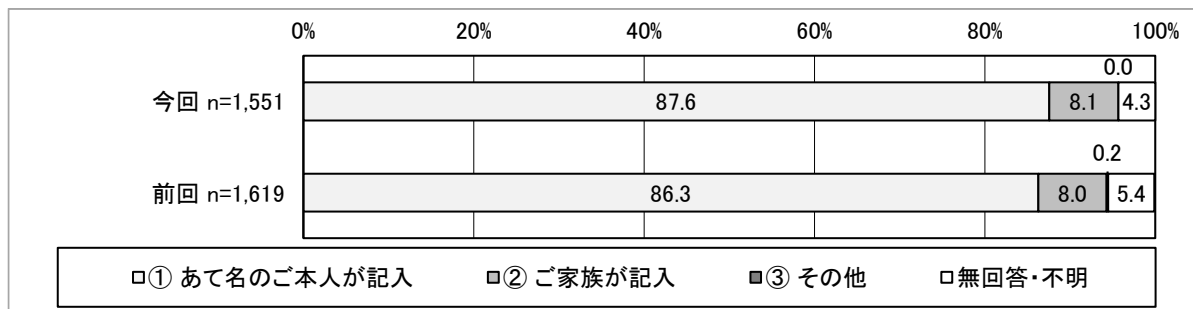
0. 調査対象者の概要

本調査の回答された高齢者（有効票の回答者）の概要は、以下の通りです。

(1) 調査票の記入者

「あて名のご本人が記入」が87.6%を占め、「ご家族が記入」の8.1%となっています。前回と比較し、ほとんど差はありません。

【全体集計】



(2) 調査対象者の概要

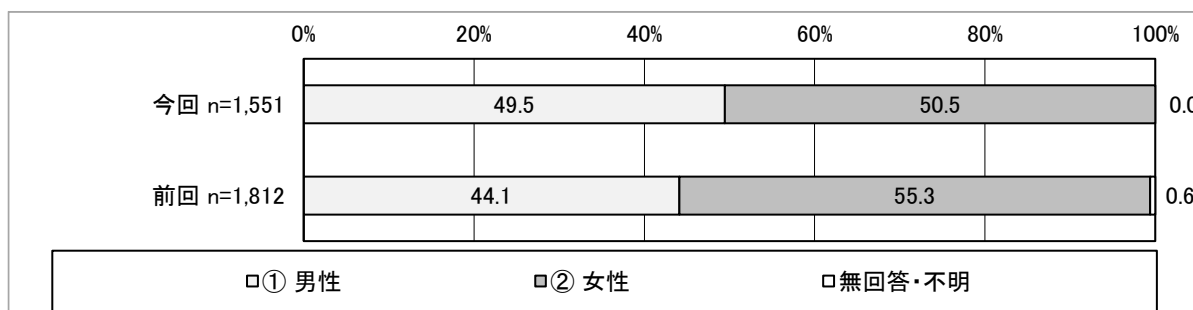
調査対象者の性別、年齢、要介護区分は次の通りです。日常生活圏域は1圏域になっています。なお、データの出典は介護保険台帳（令和7年12月5日現在）になっています。

性別は「男性」が49.5%を占めます。前回と比較し「男性」が上昇しています。年齢は「70～74歳」が27.4%と最も高く、「65～69歳」の27.1%が続きます。前回と比較し、75～79歳が上昇しています。団塊の世代が後期高齢者になったことの影響が見られます。

要介護区分については、「一般高齢者」が94.1%を占めます。前回と比較し、ほとんど差はありません。また、今回調査において介護予防・日常生活支援総合事業対象者の回答者数は6名であったため、一般高齢者に含めて集計を行っています。

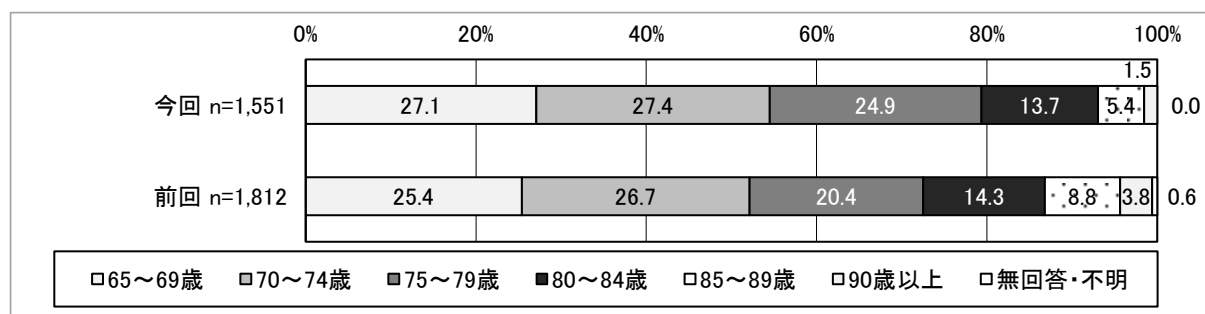
① 性別

【全体集計】



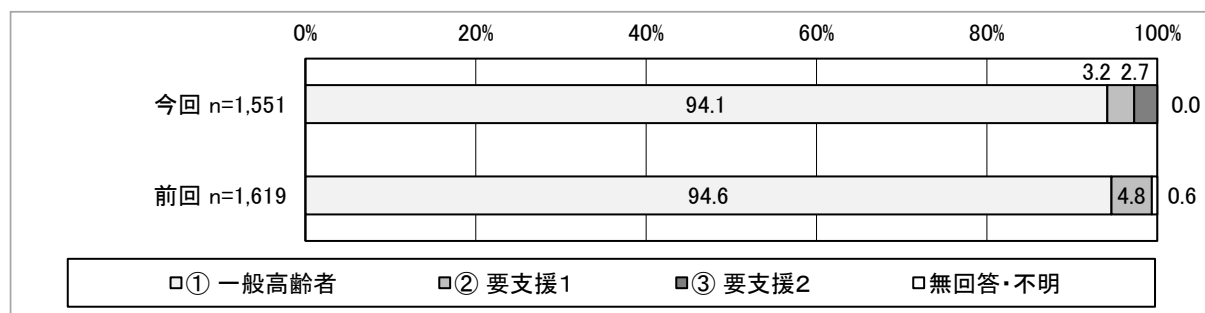
② 年齢

【全体集計】



③ 要介護区分

【全体集計】



注：今回調査において介護予防・日常生活支援総合事業対象者の回答は3名であったため、今回、前回とも要支援1に含めて集計を行っています。

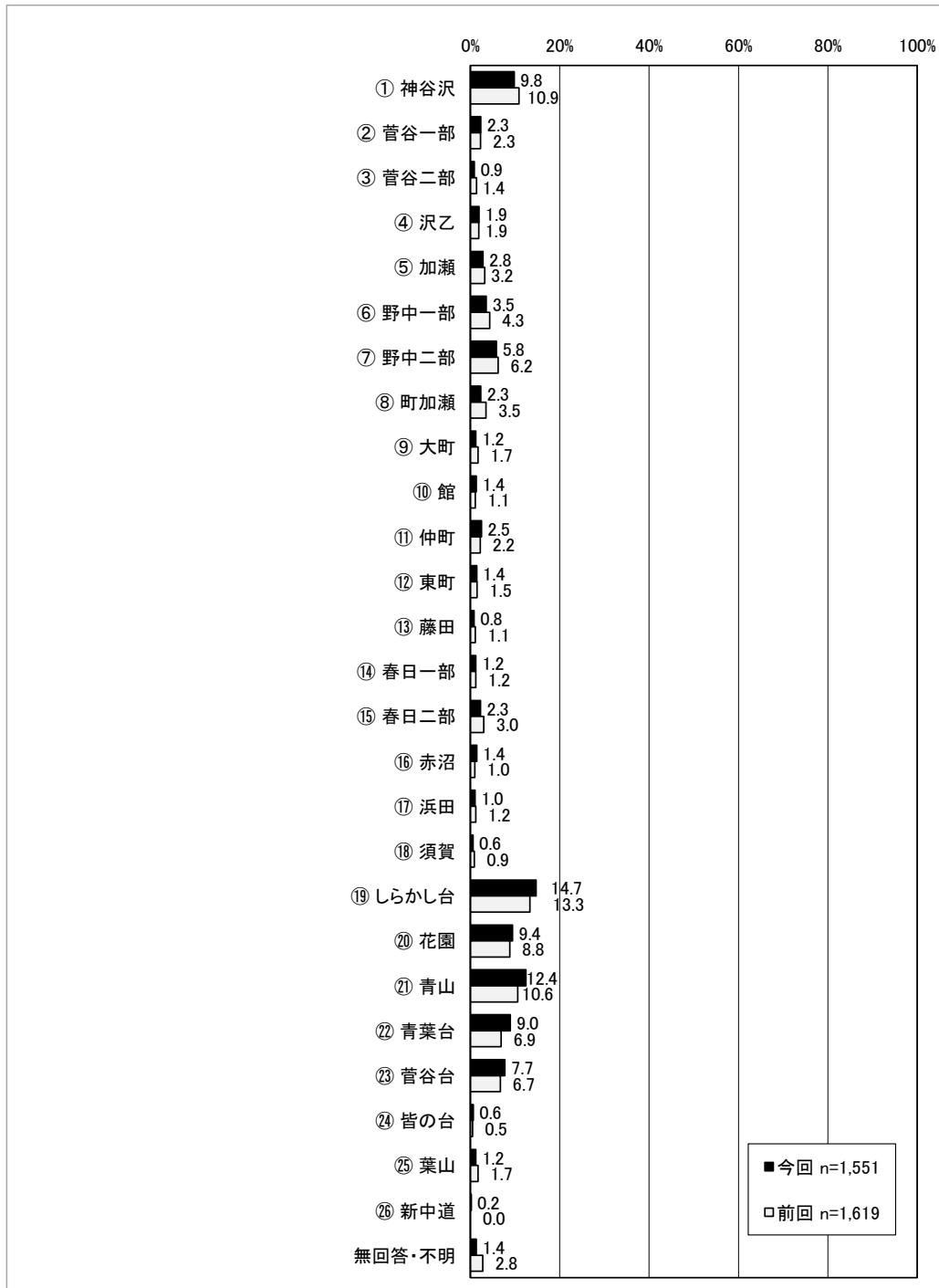
1. あなたのご家族や生活状況について

(1) お住まいの地区

問1 お住まいの地区はどちらですか(回答は1つ)

「しらかし台」が14.7%と最も高く、「青山」の12.4%、「神谷沢」の9.8%、「花園」の9.4%、「青葉台」の9.0%と続きます。前回と比較し、大きな変化は見られません。

【全体集計】

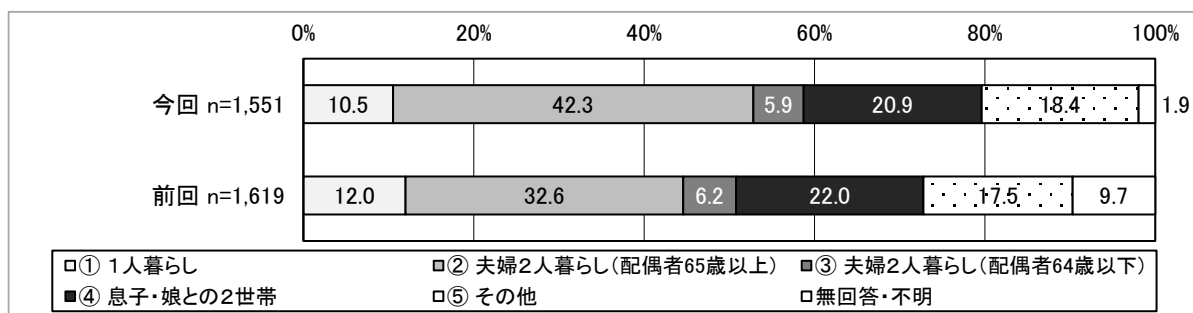


(2) 家族構成

問2 家族構成をお教えてください(回答は1つ)

「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」の42.3%が最も高く、「息子・娘との2世帯」の20.9%が続きます。前回と比較し、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が大きく上昇しています。

【全体集計】



(3) 介護・介助の状況

「介護・介助の必要性」については、「介護・介助は必要ない」が88.9%を占め、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は6.3%、「現在、何らかの介護・介助を受けている」は3.8%となっています。前回と比較し、「介護・介助は必要ない」が上昇しています。

回答者の属性別にみると、性別ではほとんど差は見られません。年齢別では年齢が高くなるほど介護の必要性が高くなり、「90歳以上」で「現在、何らかの介護・介助を受けている」が25.0%になっています。要介護区分別では、「現在、何らかの介護・介助を受けている」の割合が「要支援1」は42.9%、「要支援2」は52.4%と高くなっています。

「介護を受けることになった場合、どのようにしたいか」については、「自宅で介護保険などを利用して生活したい」が55.0%と過半数を占め、「分からない」の14.4%、「特別養護老人ホームなどの介護施設に入所したい」の13.5%が続きます。なお、前回は調査項目はありませんでした。

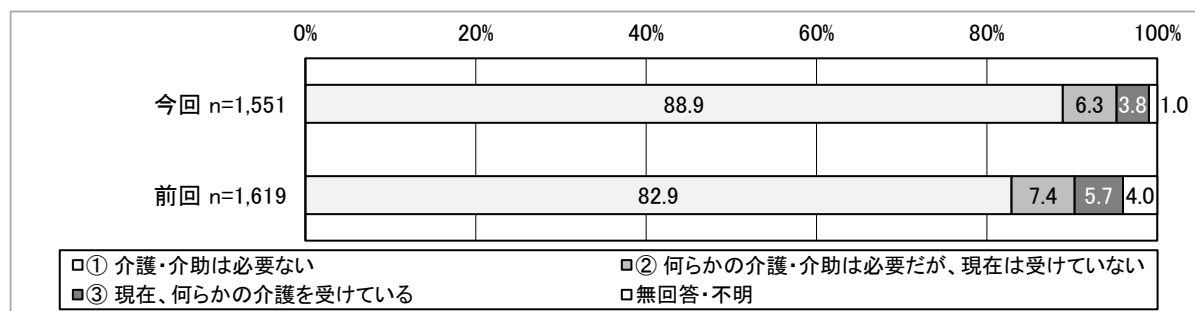
「介護・介助が必要になった主な原因」については、「高齢による衰弱」の23.6%が最も高く、「骨折・転倒」の14.6%、「糖尿病」の13.4%が続きます。前回と比較し、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が若干上昇しています。

「主な介護・介助者」については、「配偶者（夫・妻）」が39.0%と最も高く、「息子」の28.8%、「娘」の27.1%、「介護サービスのヘルパー」の20.3%が続きます。前回と比較し、「介護サービスのヘルパー」、「息子」が上昇しています。

① 介護・介助の必要性

問3 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか(回答は1つ)

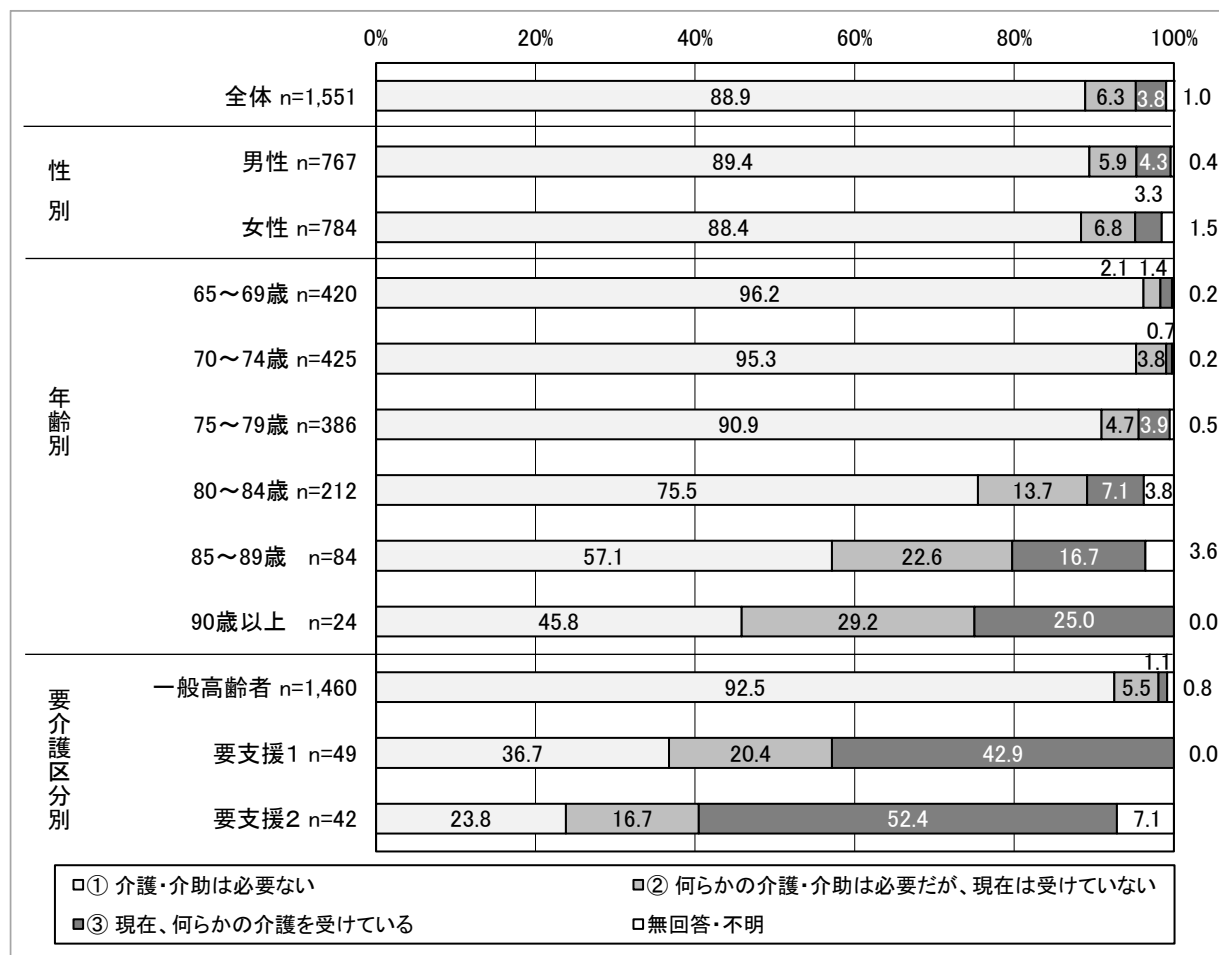
【全体集計】



選択肢の要約：

③の全文は、「現在、何らかの介護・介助を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」

【属性別クロス集計】

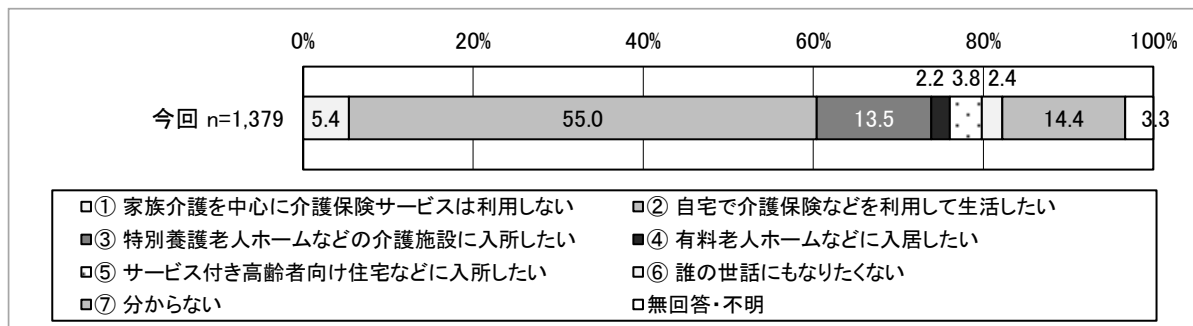


② 介護を受けることになった場合、どのようにしたいか

【問3において「①介護・介助は必要ない」の方のみ】

問3-① 今後、もしあなた自身が介護を受けることになった場合、どのようにしたいとおもいますか(回答は1つ)

【全体集計】



選択肢の要約：

①全文は、「自宅で家族介護を中心に介護保険などのサービスを利用しないで生活したい」

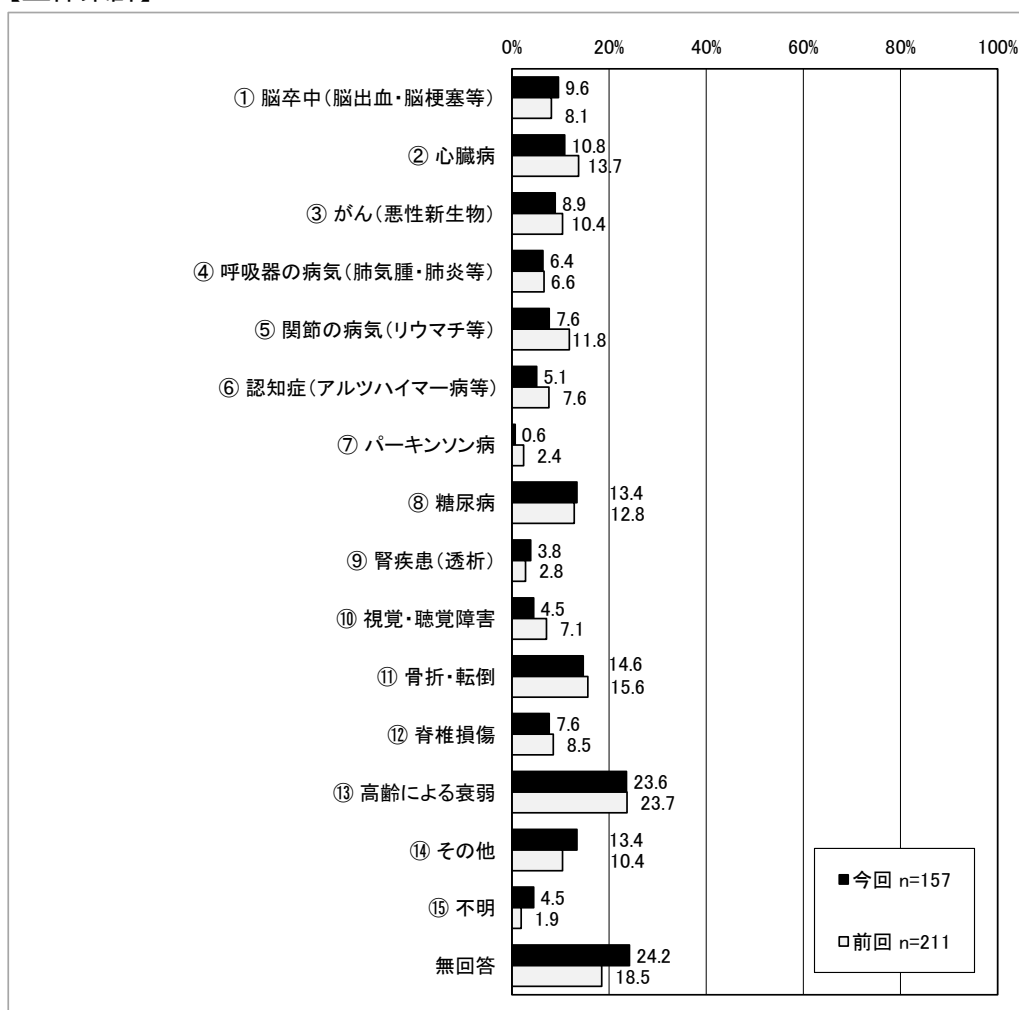
②全文は、「自宅で介護保険などの公的サービスも利用して生活したい」

③ 介護・介助が必要になった主な原因

【問3において「①介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

問3-② 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか(いくつでも)

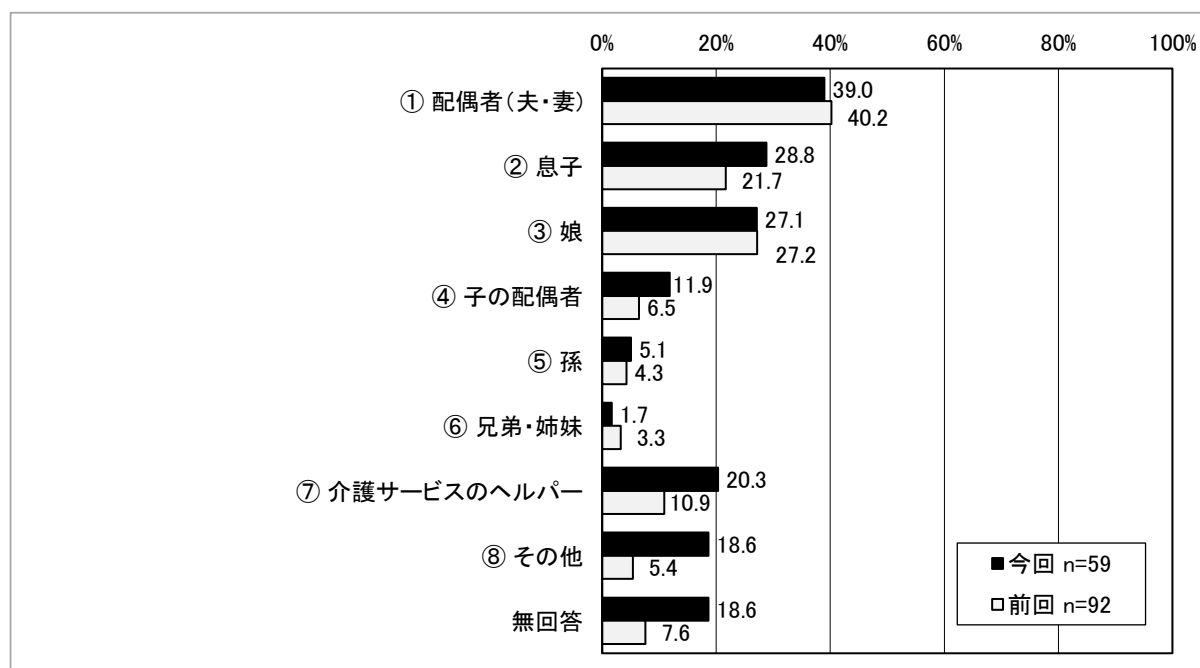
【全体集計】



④ 主な介護・介助者

【問3において「現在、何らかの介護・介助を受けている」の方のみ】
問3-③ 主にどなたの介護、介助を受けていますか(いくつでも)

【全体集計】



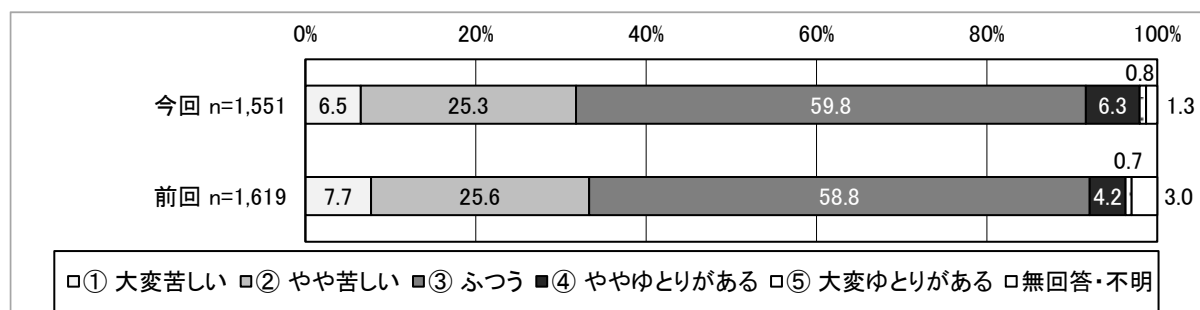
(4) 暮らしの経済的状況

問4 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか(回答は1つ)

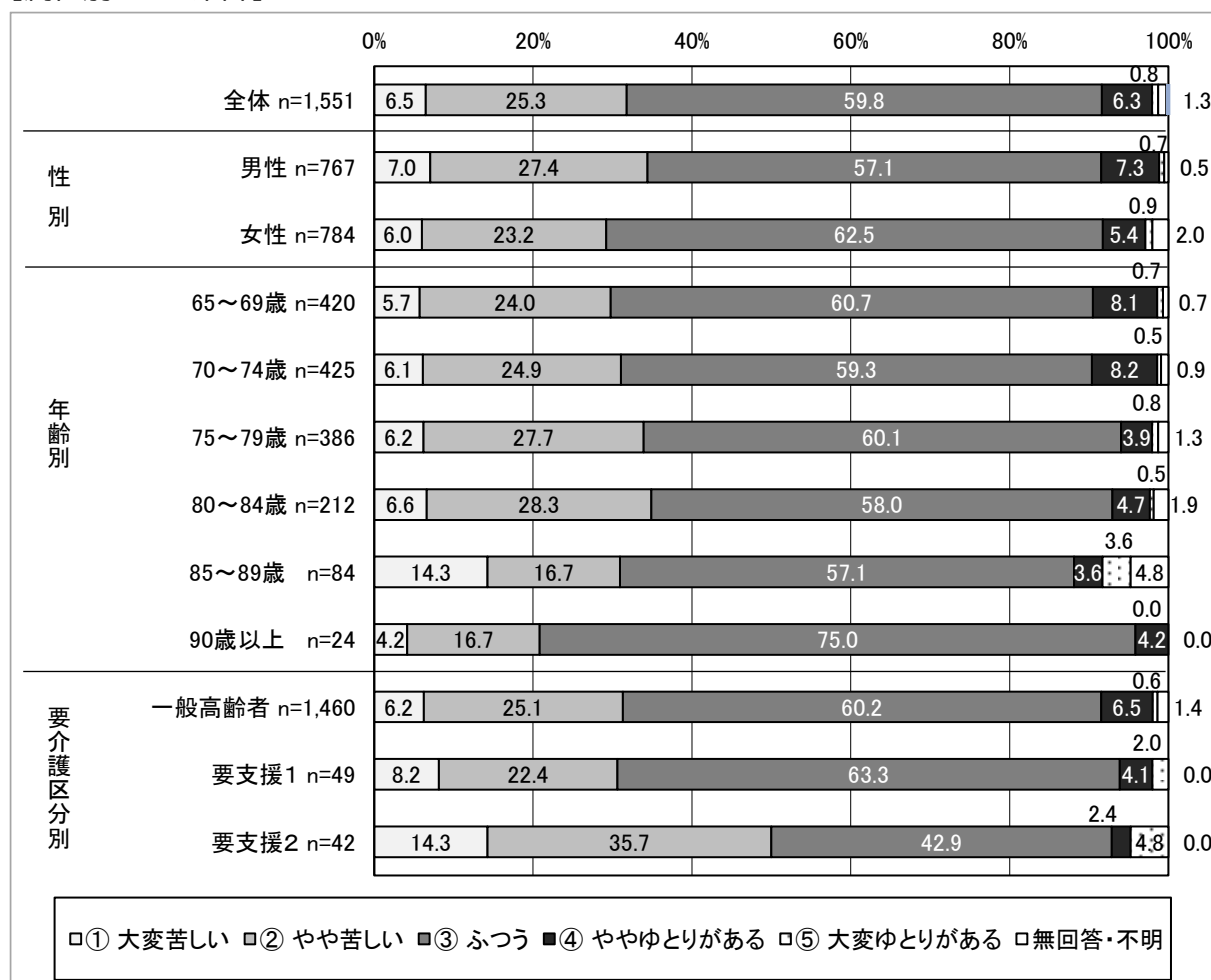
「ふつう」が59.8%と過半数を占め、「やや苦しい」の25.3%が続きます。前回と比較し、ほとんど差は見られません。

属性別にみると「苦しい」との回答が高いのが、性別では「男性」、年齢別では「75～79歳」「80～84歳」で比較的高く、要介護区分別では、「要支援2」が一段と高くなっています。

【全体集計】



【属性別クロス集計】



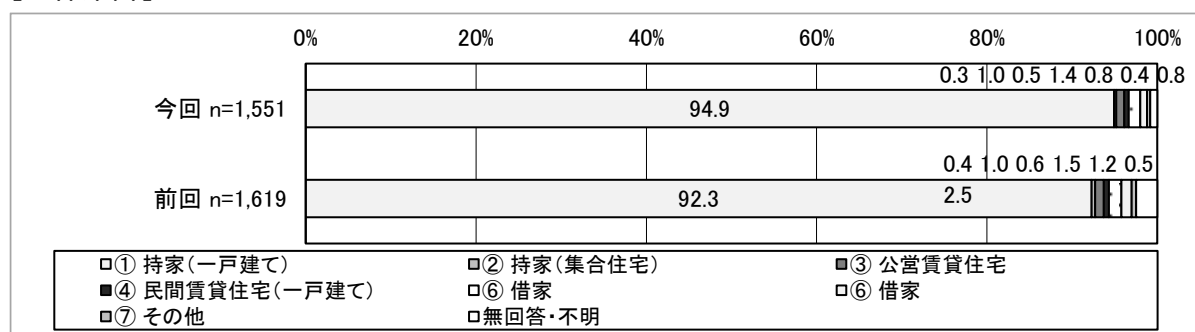
(5)お住まい

問5 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか(回答は1つ)

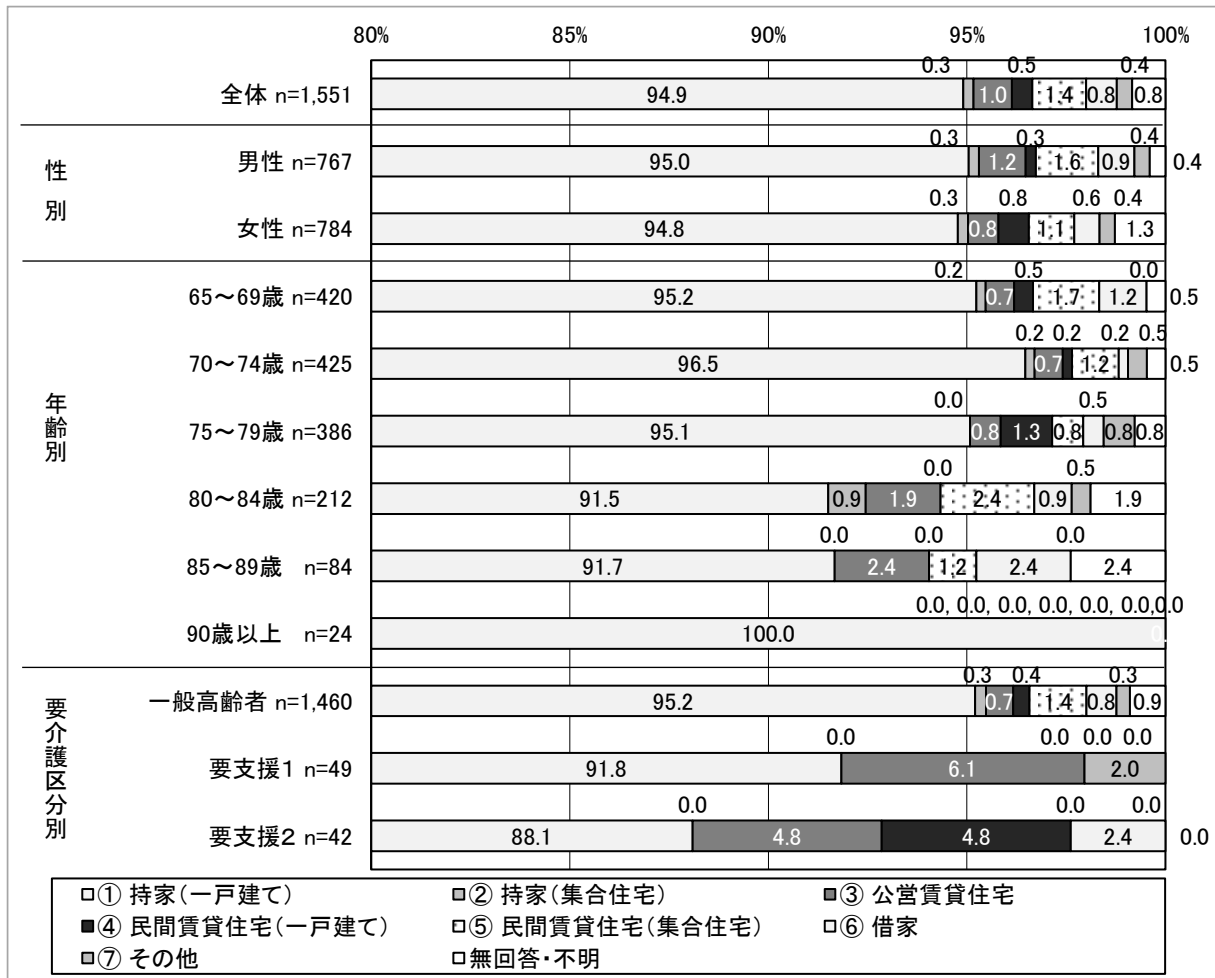
「持家（一戸建て）」が94.9%を占め、その他の項目はいずれもわずかです。前回と比較し、「持家（一戸建て）」が若干、さらに高くなっています。

属性別に「持家（一戸建て）」についてみると、性別では全く差はなく、年齢別では「80～84歳」「85～89歳」で若干低く、要介護区分別では「要支援」、特に「要支援2」で低くなっています。

【全体集計】



【属性別クロス集計】



2. からだを動かすことについて

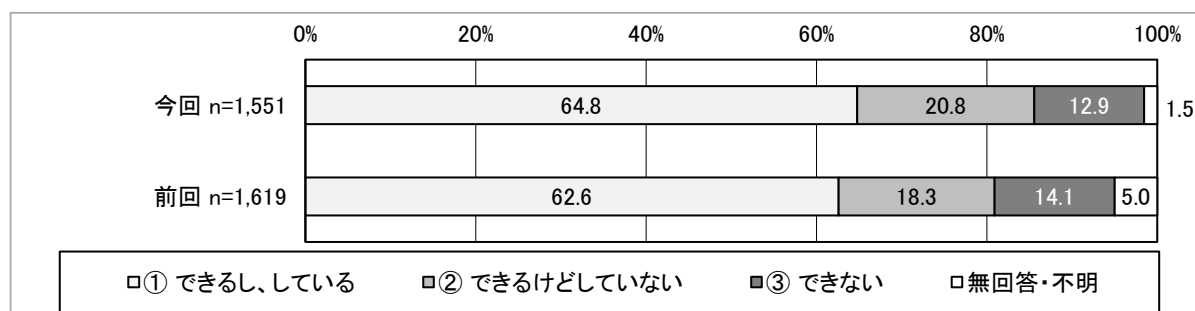
(1) 体を動かすこと

「階段の昇り」「椅子からの立ち上がり」「15分位の歩行」の「できるし、している」をみると、「椅子からの立ち上がり」が81.6%と最も高く、「15分位の歩行」の75.4%、「階段の昇り」の64.8%と続きます。前回と比較し、いずれも上昇しています。

① 階段の昇り

問6 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか(回答は1つ)

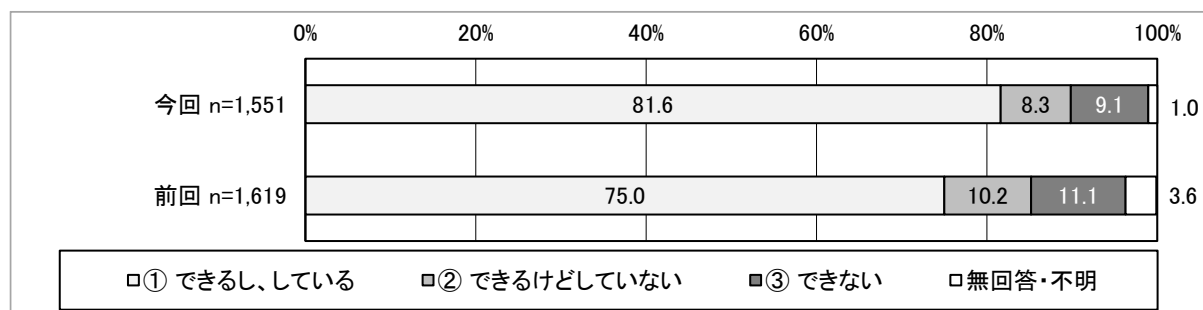
【全体集計】



② 椅子からの立ち上がり

問7 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか(回答は1つ)

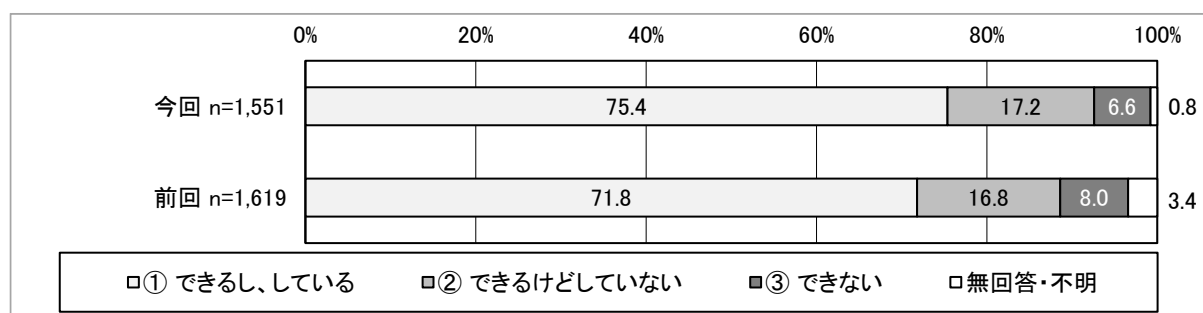
【全体集計】



③ 15分位の歩行

問8 15分位続けて歩いていますか(回答は1つ)

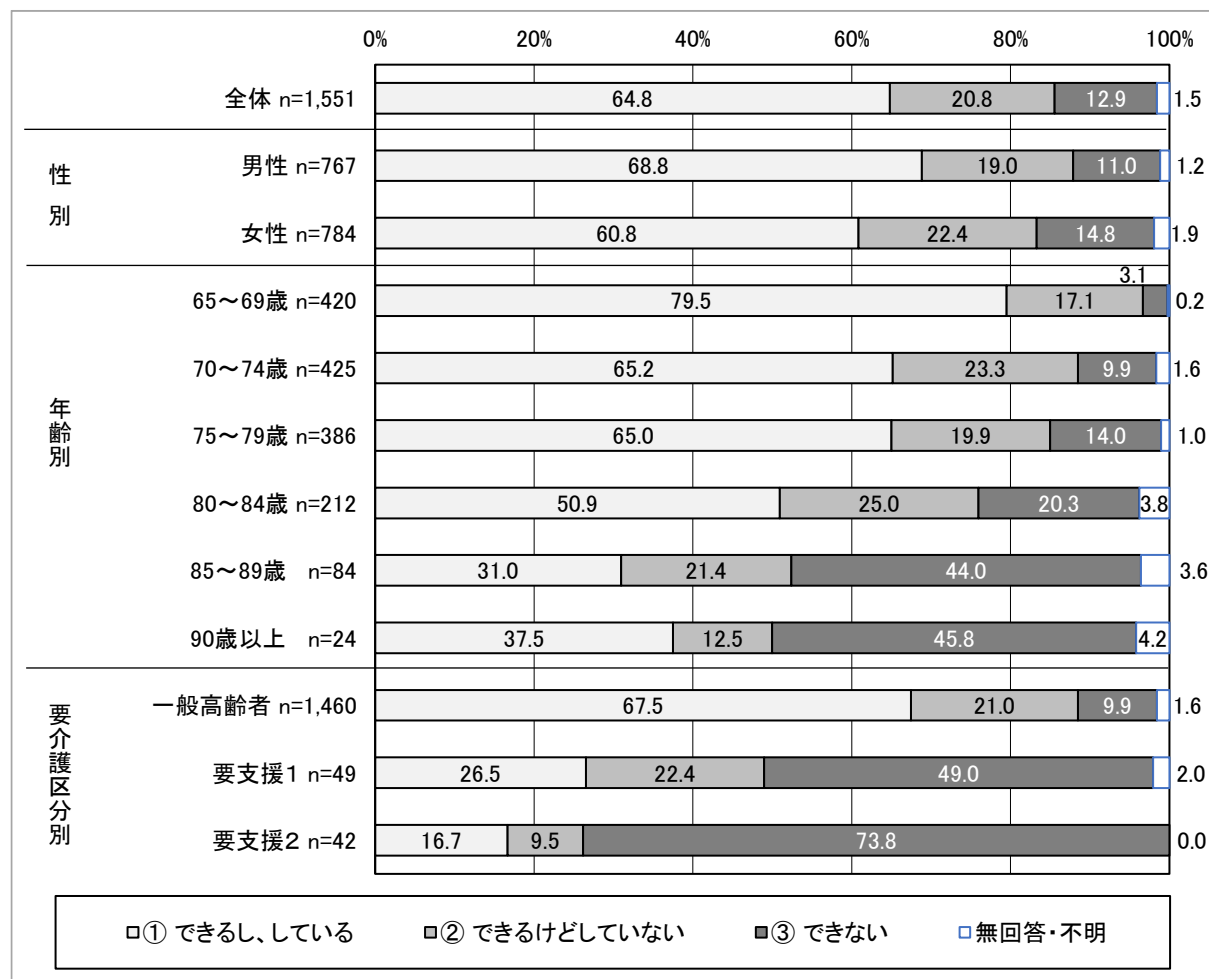
【全体集計】



【属性別クロス集計】

属性別に「階段の昇り」についてみると、性別では「女性」の「できるし、している」が低くなっています。年齢別では、年齢が高くなるほど「できるし、している」の割合は低下し、「85～89歳」で31.0%、「90歳以上」では37.5%になっています。また、要介護区分別では、「要支援1」が26.5%、「要支援2」が16.7%まで低下しています。

■「階段の昇り」のクロス集計



(2) 転倒

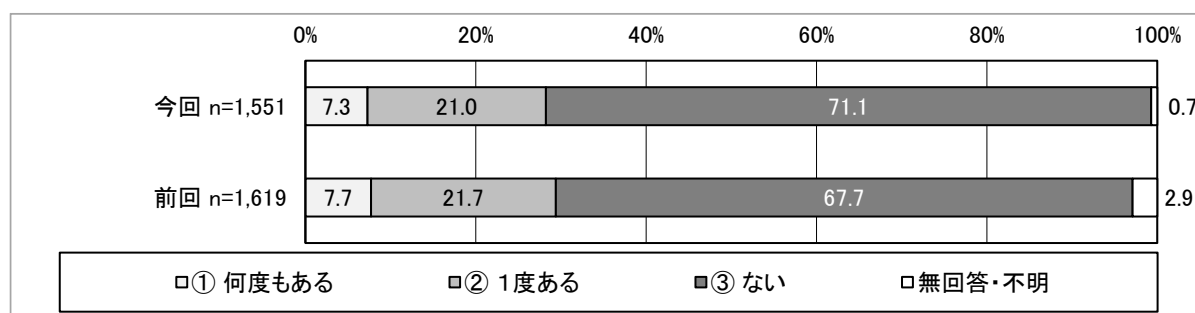
「過去1年間に転んだ経験の有無」については「ない」が71.1%を占め、「1度ある」の21.0%が続きます。前回と比較し、「ない」が若干、上昇しています。

「転倒に対する不安」については、「やや不安である」の46.3%が最も高く、「あまり不安でない」の23.8%が続きます。前回と比較し、「やや不安である」が上昇しています。

① 過去1年間に転んだ経験の有無

問9 過去1年間に転んだ経験がありますか(回答は1つ)

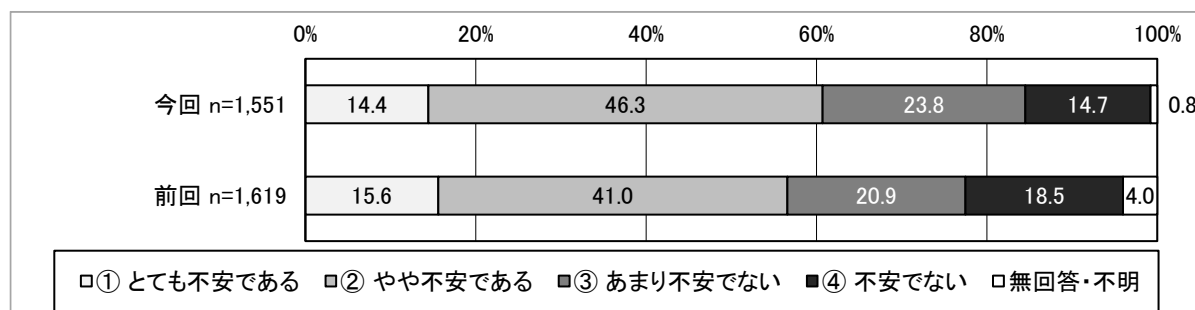
【全体集計】



② 転倒に対する不安

問10 転倒に対する不安は大きいですか(回答は1つ)

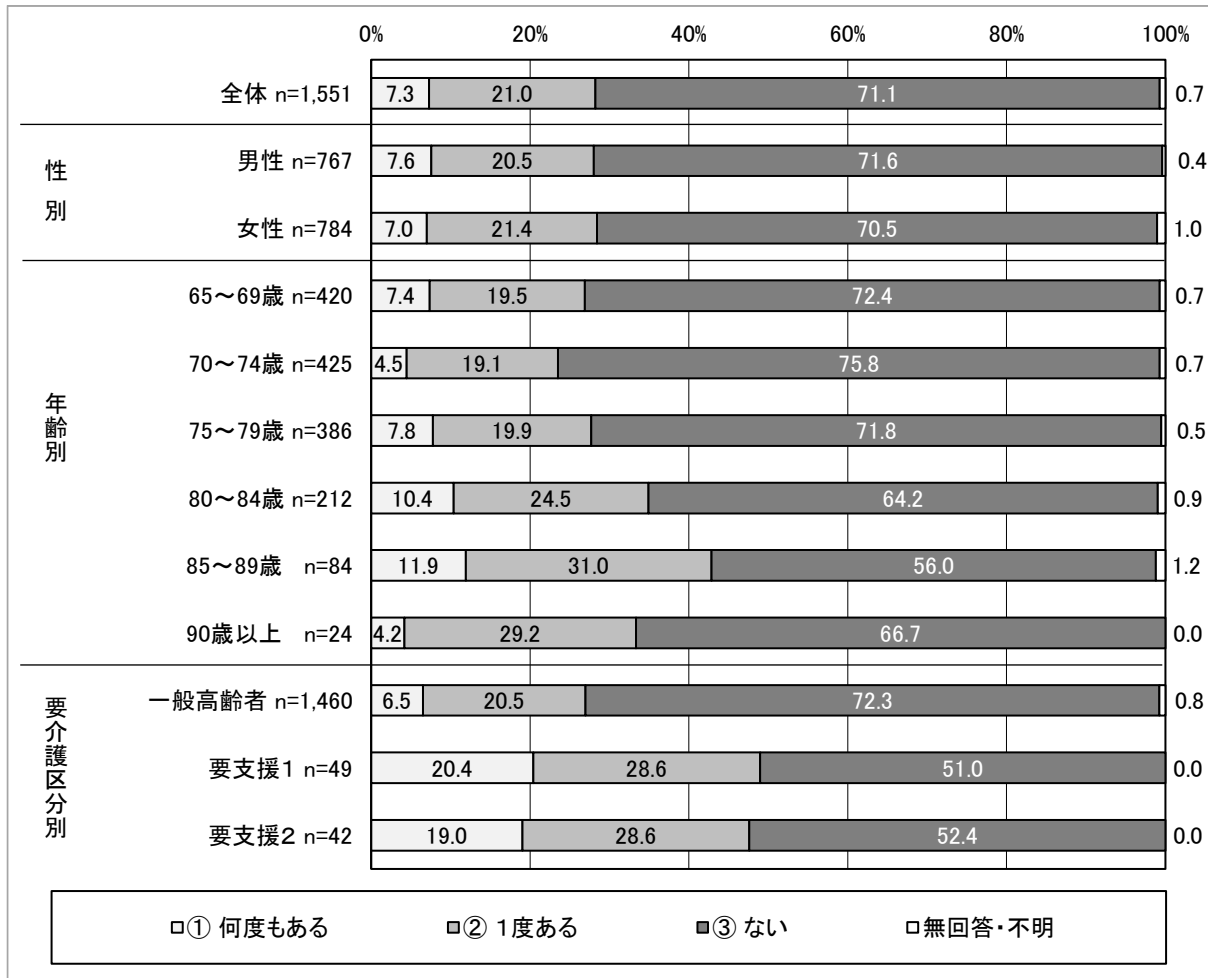
【全体集計】



【属性別クロス集計】

属性別に「過去1年間に転んだ経験の有無」についてみると、性別では差はありません。年齢別では、年齢が高くなるほど「ある」の割合が高くなり、最も高い「85～89歳」で「何度もある」が11.9%、「1度ある」が31.0%になっています。要介護区分別では、最も「ある」が高い「要支援1」で「何度もある」が20.4%、「1度ある」が28.6%になっています。

■「過去1年間に転んだ経験の有無」のクロス集計



(3)外出

「1週間の外出頻度」については、「週2～4回」の47.0%が最も高く、「週5回以上」の37.5%が続きます。「週2回以上」の回答は84.5%を占め、前回と比較し、上昇しています。

属性別にみると、性別では、「男性」の「週5回以上」が「女性」を上回っています。年齢別では、年齢が高くなるほど外出頻度の少ない回答が高くなり、「90歳以上」では「ほとんど外出しない」は33.3%、「週1回」は20.8%になっています。要介護区分別では、「要支援」の外出頻度が少なくなり、「要支援2」では「ほとんど外出しない」が14.3%、「週1回」が26.2%になっています。

「外出回数の減少」については、「減っていない」の42.1%が最も高く、「あまり減っていない」の32.9%が続きます。前回と比較し、「減っていない」が大きく上昇しています。

「外出を控えること」については、「いいえ」が82.1%を占め、前回と比較し、大きく上昇しています。

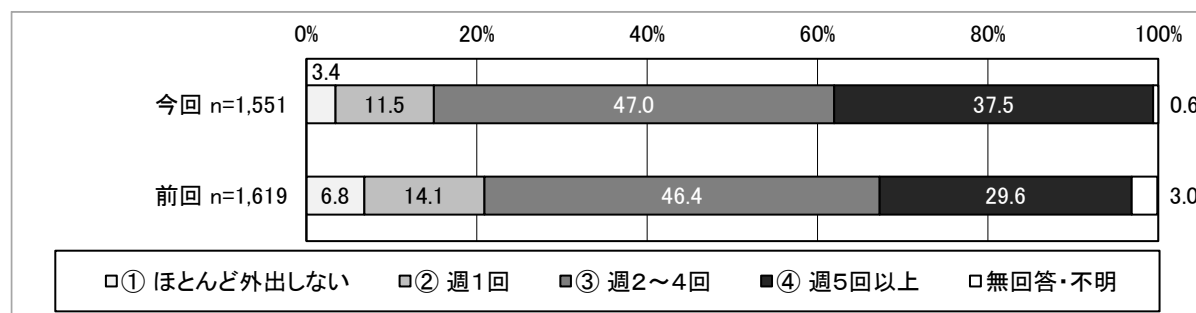
「控える理由」としては、「足腰などの痛み」の44.5%が突出して高く、「外での楽しみがない」の20.9%が続きます。前回と比較し、「足腰などの痛み」が大きく上昇しています。

「外出の移動手段」については、「自動車（自分で運転）」が70.8%と突出して高く、「徒歩」の42.7%が続きます。前回と比較し、「自動車（自分で運転）」「電車」の上昇が大きくなっています。

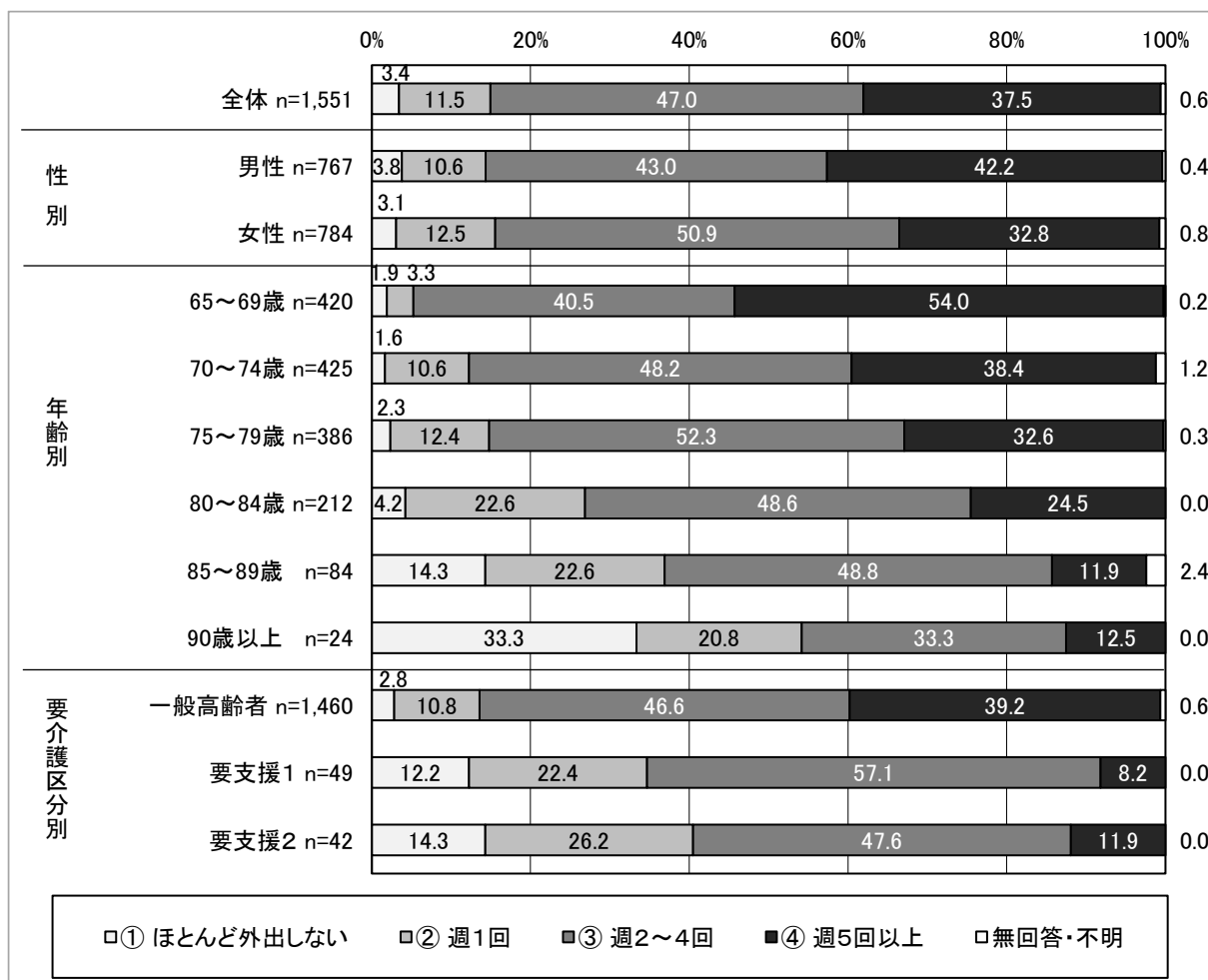
① 1週間の外出頻度

問11 週に1回以上は外出していますか(回答は1つ)

【全体集計】



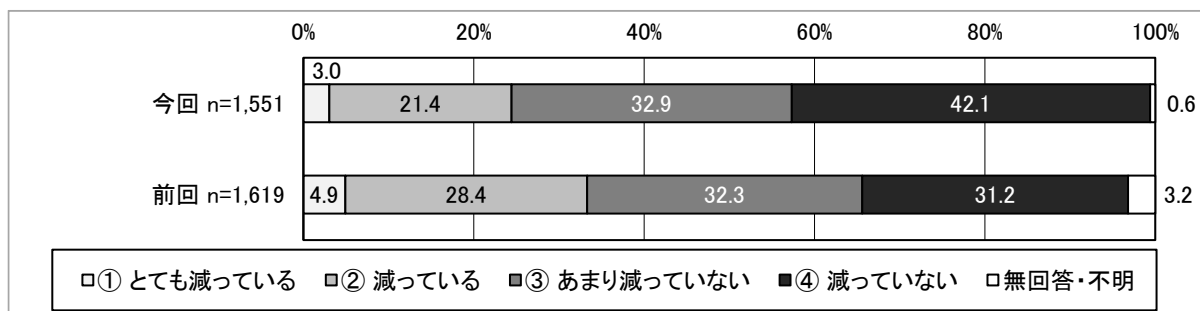
【属性別クロス集計】



② 外出回数の減少

問12 昨年と比べて外出の回数が減っていますか(回答は1つ)

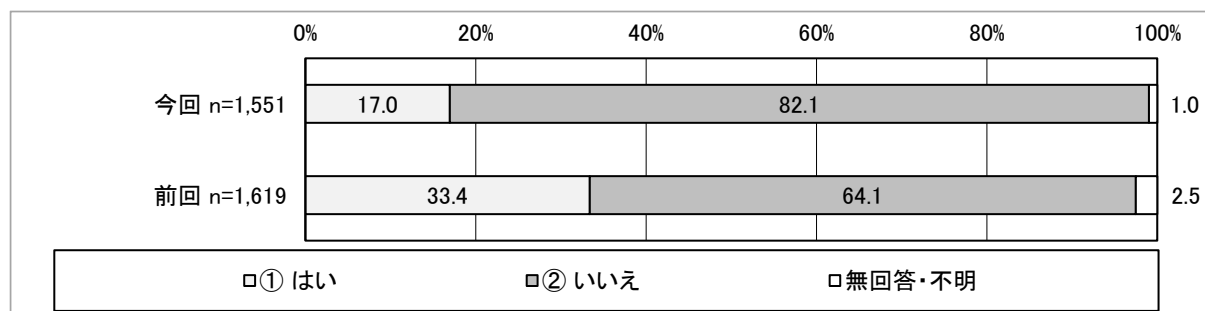
【全体集計】



③ 外出を控えること

問13 外出を控えていますか(回答は1つ)

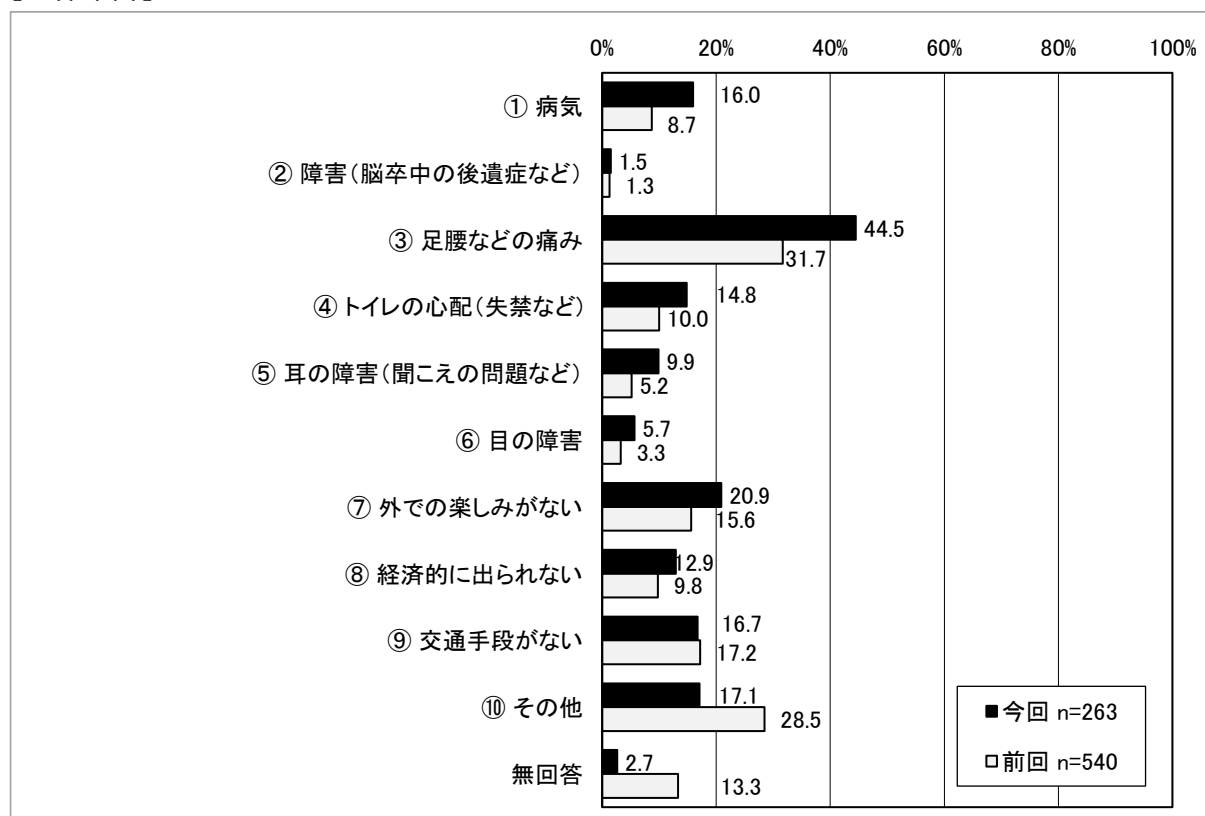
【全体集計】



④ 控える理由

【問13で「はい」(控えている)の方のみ】
問13-① 外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)

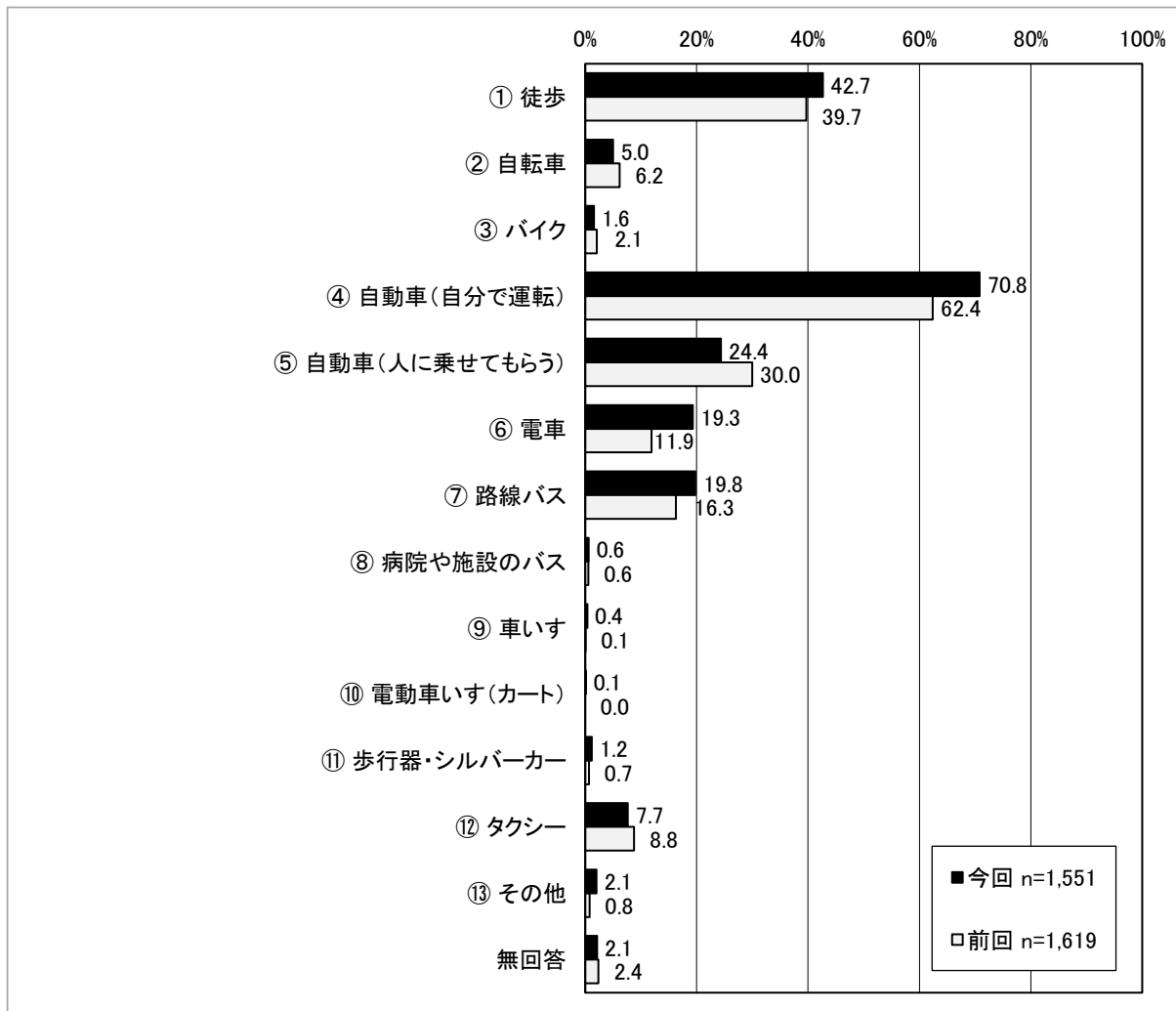
【全体集計】



⑤ 外出の移動手段

問14 外出する際の移動手段は何ですか(いくつでも)

【全体集計】



3. 食べることについて

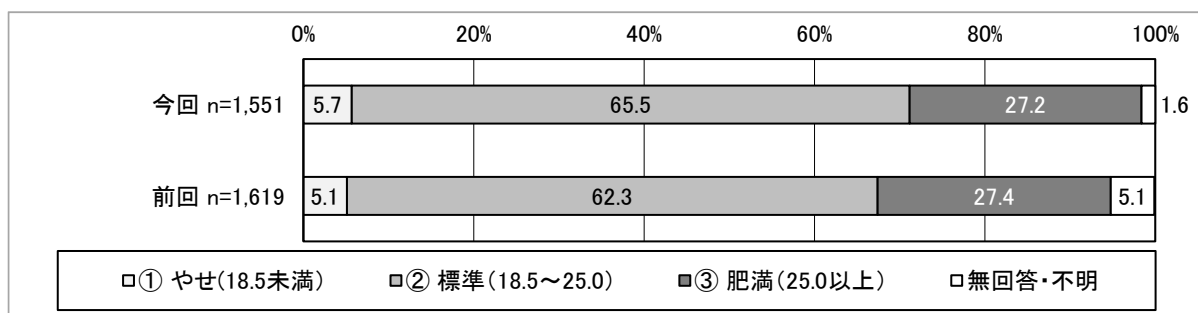
(1) 身長・体重(BMI)

問15 身長・体重

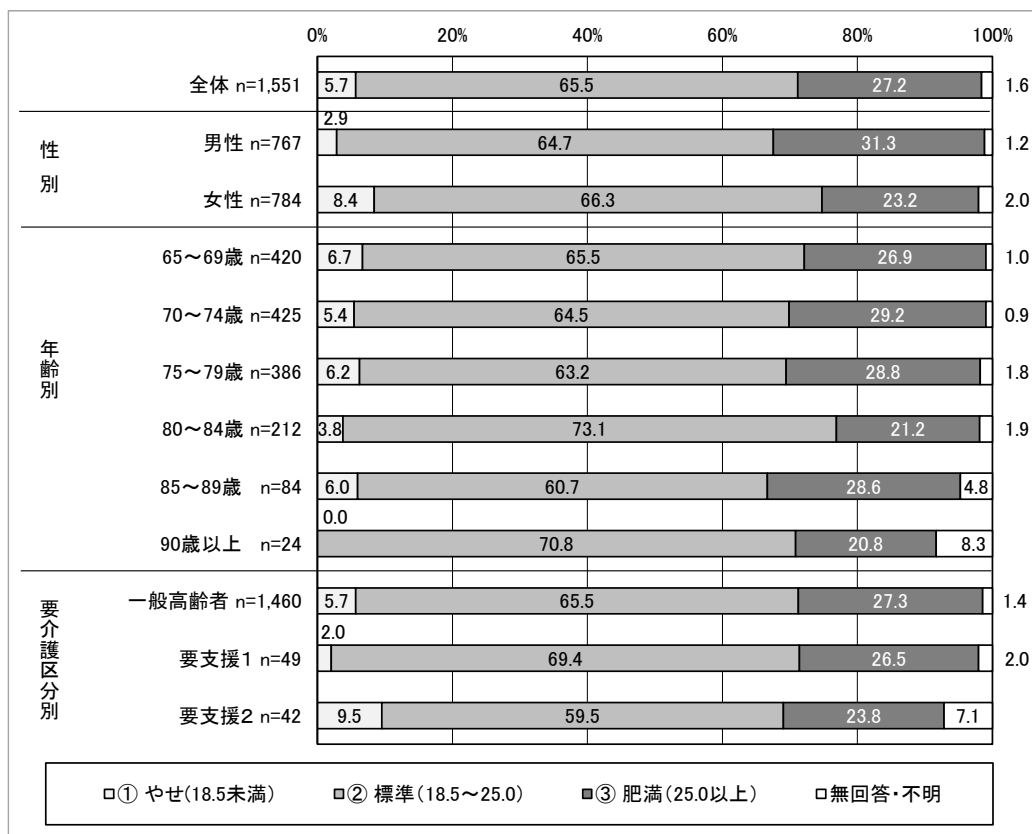
身長、体重よりBMIを算出しました。そのBMIについてみると、「標準（18.5～25.0）」が65.5%を占め、「肥満（25.0以上）」27.2%、「やせ（18.5未満）」5.7%の構成になっています。前回と比較し、「標準（18.5～25.0）」が若干上昇しています。

属性別にみると、性別では、「男性」の「肥満（25.0以上）」、「女性」の「やせ（18.5未満）」の割合が高くなっています。年齢別では、「70～74歳」「75～79歳」「85～89歳」で、「肥満（25.0以上）」が若干高くなっています。要介護区分別では、「要支援2」の「やせ（18.5未満）」が高くなっています。

【全体集計】



【属性別クロス集計】



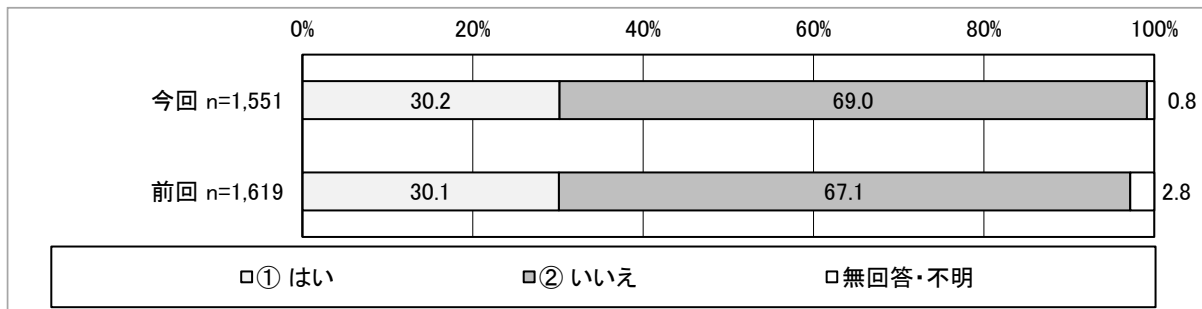
(2)口腔

「固いものの食べにくさ」「お茶や汁物等にむせること」「口の渇き」の「はい」についてみると、「固いものの食べにくさ」が30.2%と最も高く、「口の渇き」の28.4%、「お茶や汁物等にむせること」の28.1%と続きます。前回と比較し、ほとんど差はありません。

① 固いものの食べにくさ

問16 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか(回答は1つ)

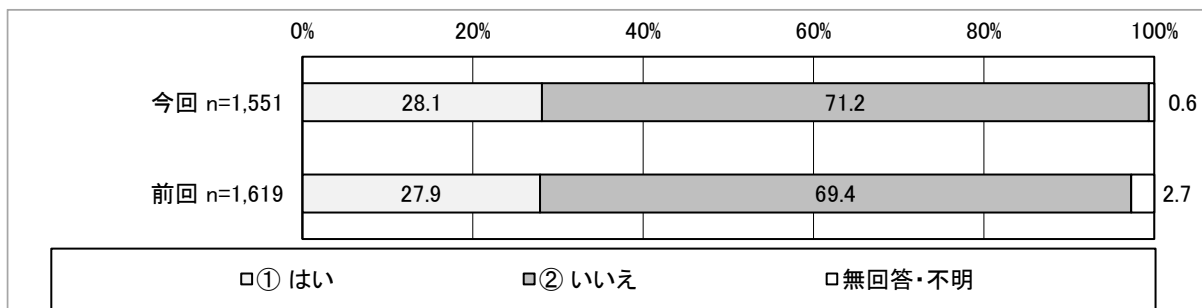
【全体集計】



② お茶や汁物等にむせること

問17 お茶や汁物等でむせることがありますか(回答は1つ)

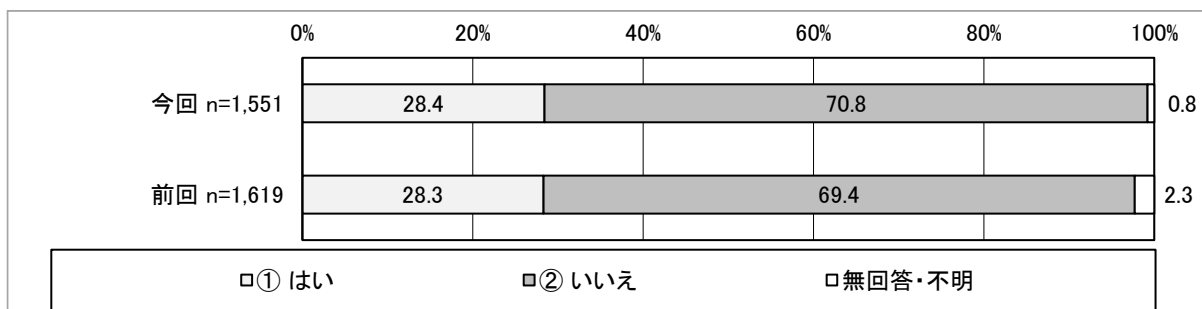
【全体集計】



③ 口の渇き

問18 口の渇きが気になりますか(回答は1つ)

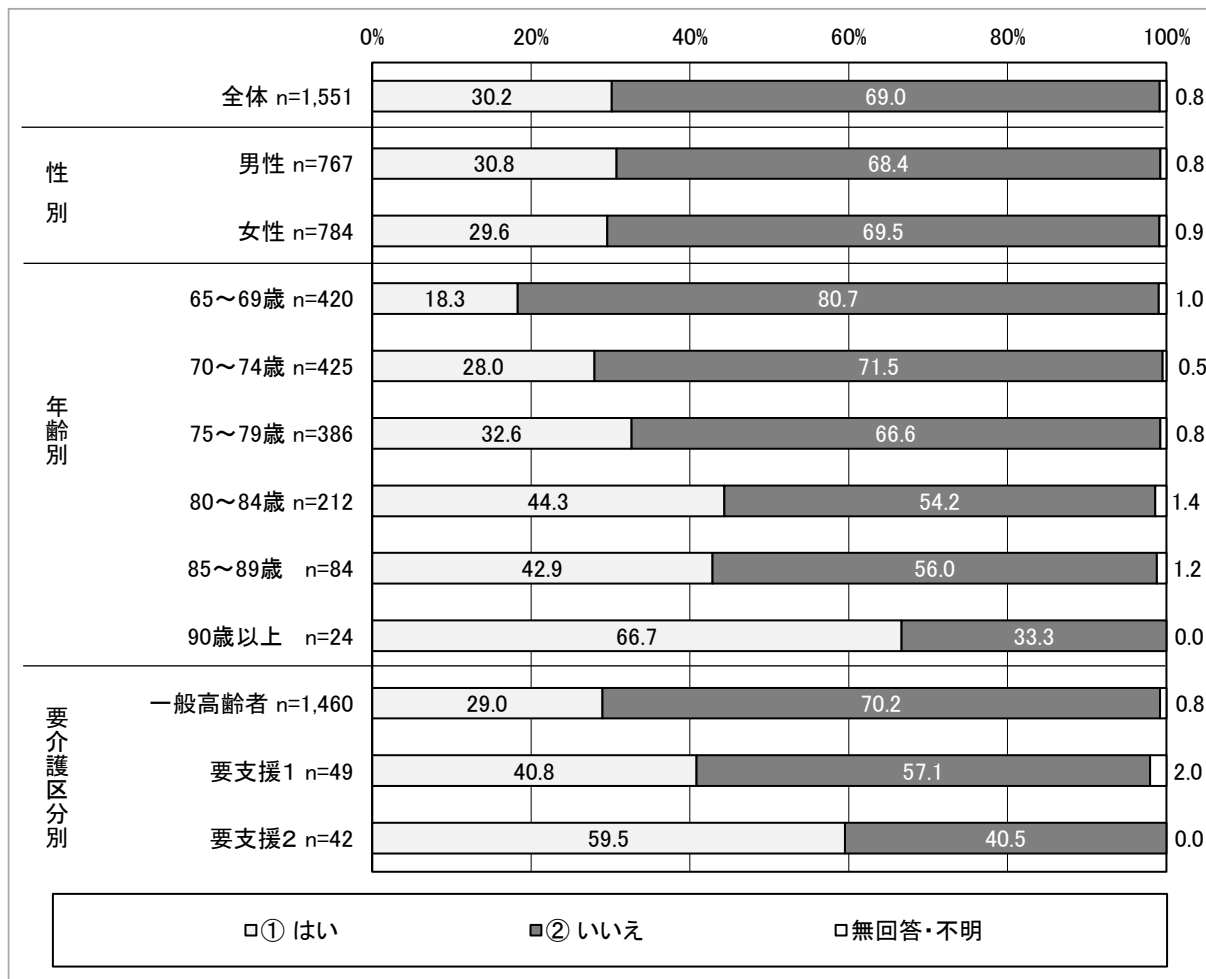
【全体集計】



【属性別クロス集計】

属性別に「固いものの食べにくさ」についてみると、性別ではほとんど差は見られません。年齢別では、年齢が高くなるほど「はい」の割合が高くなり、「90歳以上」では66.7%まで上昇しています。要介護区分別では、「はい」の割合が「要支援2」で最も高く59.5%になっています。。

■「固いものの食べにくさ」のクロス集計



(3) 歯の状況

「毎日の歯磨き」はしていますかの問いに、「はい」は89.3%を占め、前回と差はありません。

「歯の数と入れ歯の利用」については、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の40.2%が最も高く、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が29.8%と続きます。前回と比較し、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が上昇しています。

属性別にみると、性別では「女性」の「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が「男性」のそれを、若干上回っています。年齢別では、年齢が高くなるほど「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が上昇し、「90歳以上」で62.5%になっています。要介護区分別では、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が「要支援1」は38.8%、「要支援2」は38.1%とともに最も高くなっています。

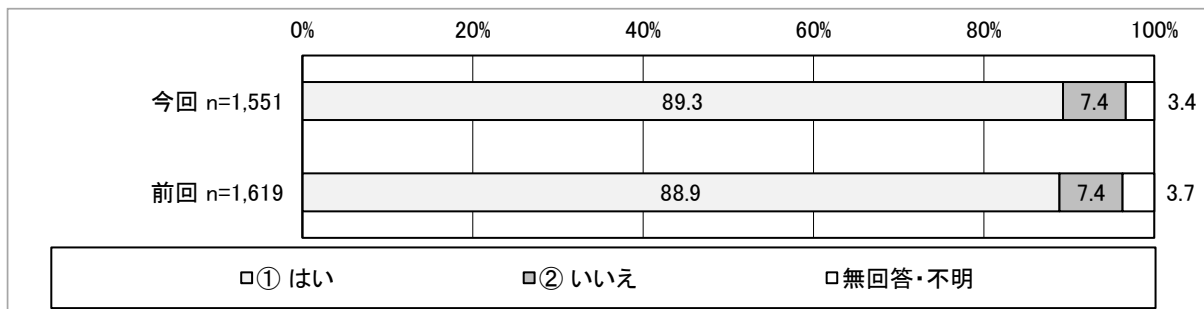
「噛み合わせ」は良いかの問いに、「はい」が77.6%を占めます。前回と比較し、ほとんど差はありません。

入れ歯を利用している方への質問で、「毎日の入れ歯の手入れ」はしていますかの問いに、「はい」は85.9%を占めています。前回と比較し、「はい」が若干、上昇しています。

① 毎日の歯磨き

問19 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか(回答は1つ)

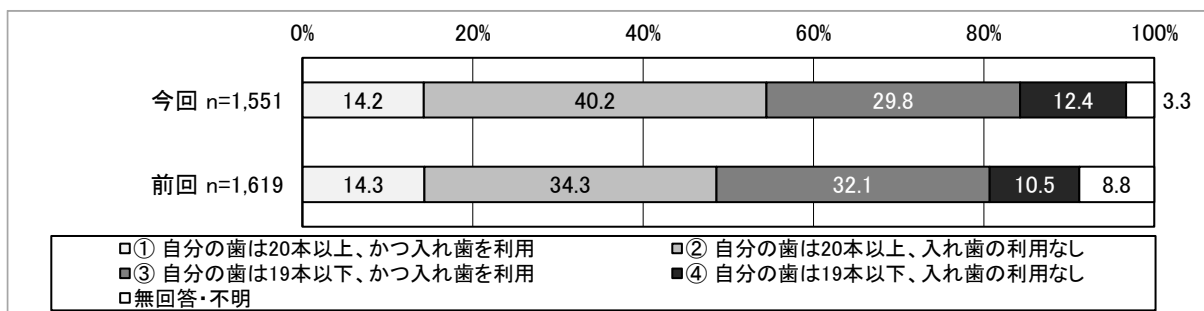
【全体集計】



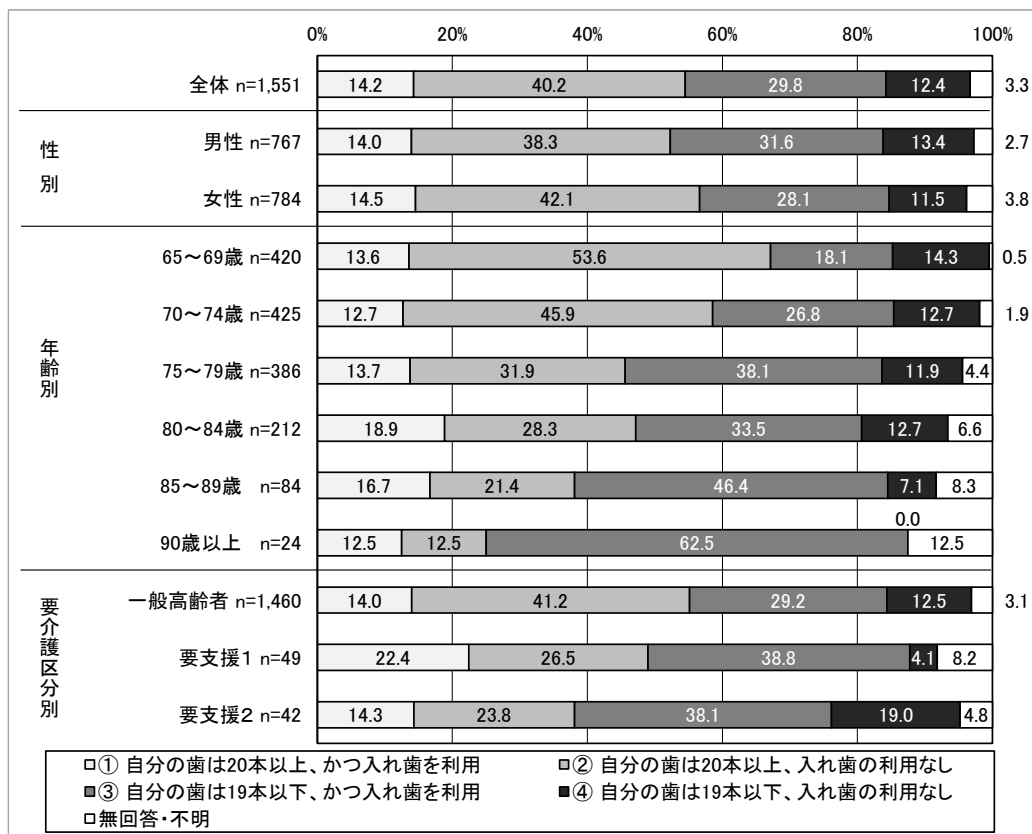
② 歯の数と入れ歯の利用

問20 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(回答は1つ)
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)

【全体集計】



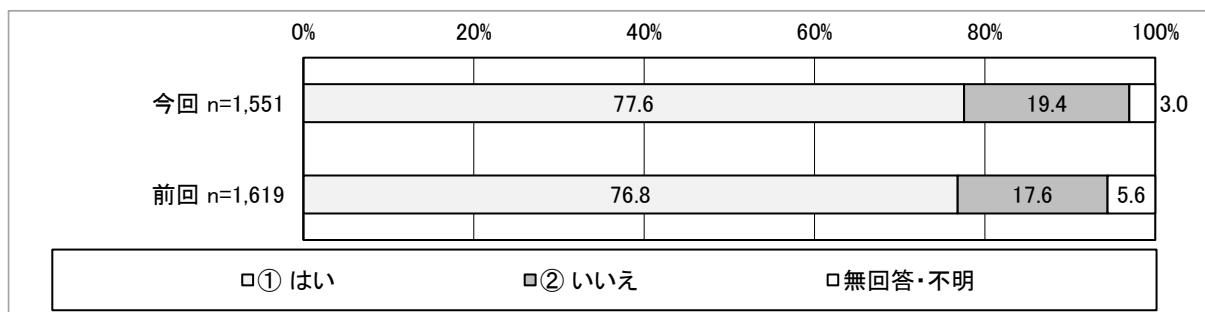
【属性別クロス集計】



③ 噛み合わせ

問20-① 噛み合わせは良いですか(回答は1つ)

【全体集計】

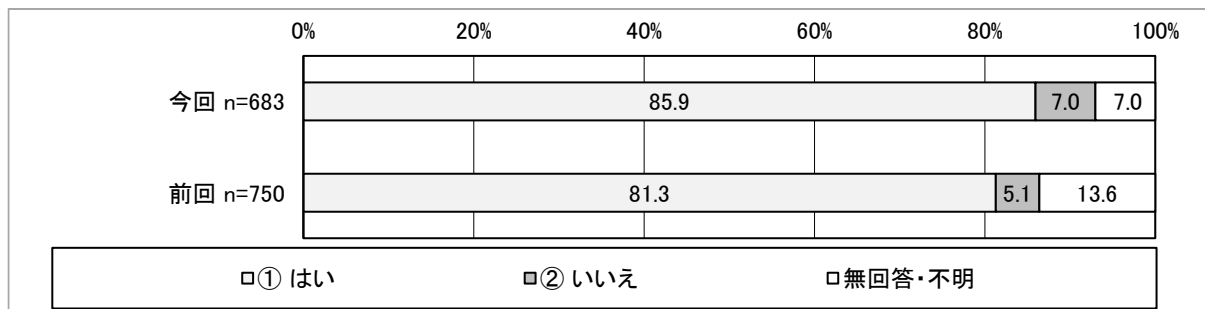


④ 毎日の入れ歯の手入れ

【問6で「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】

問20-② 毎日入れ歯の手入れをしていますか(回答は1つ)

【全体集計】



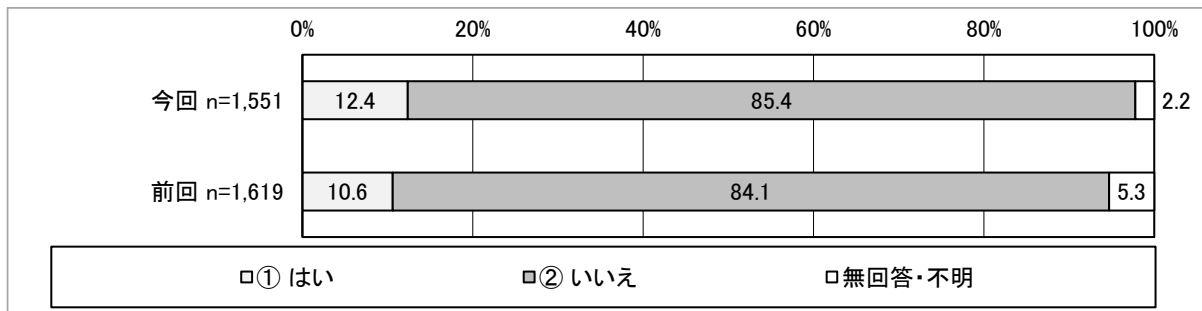
(4) 体重の減少

問21 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか(回答は1つ)

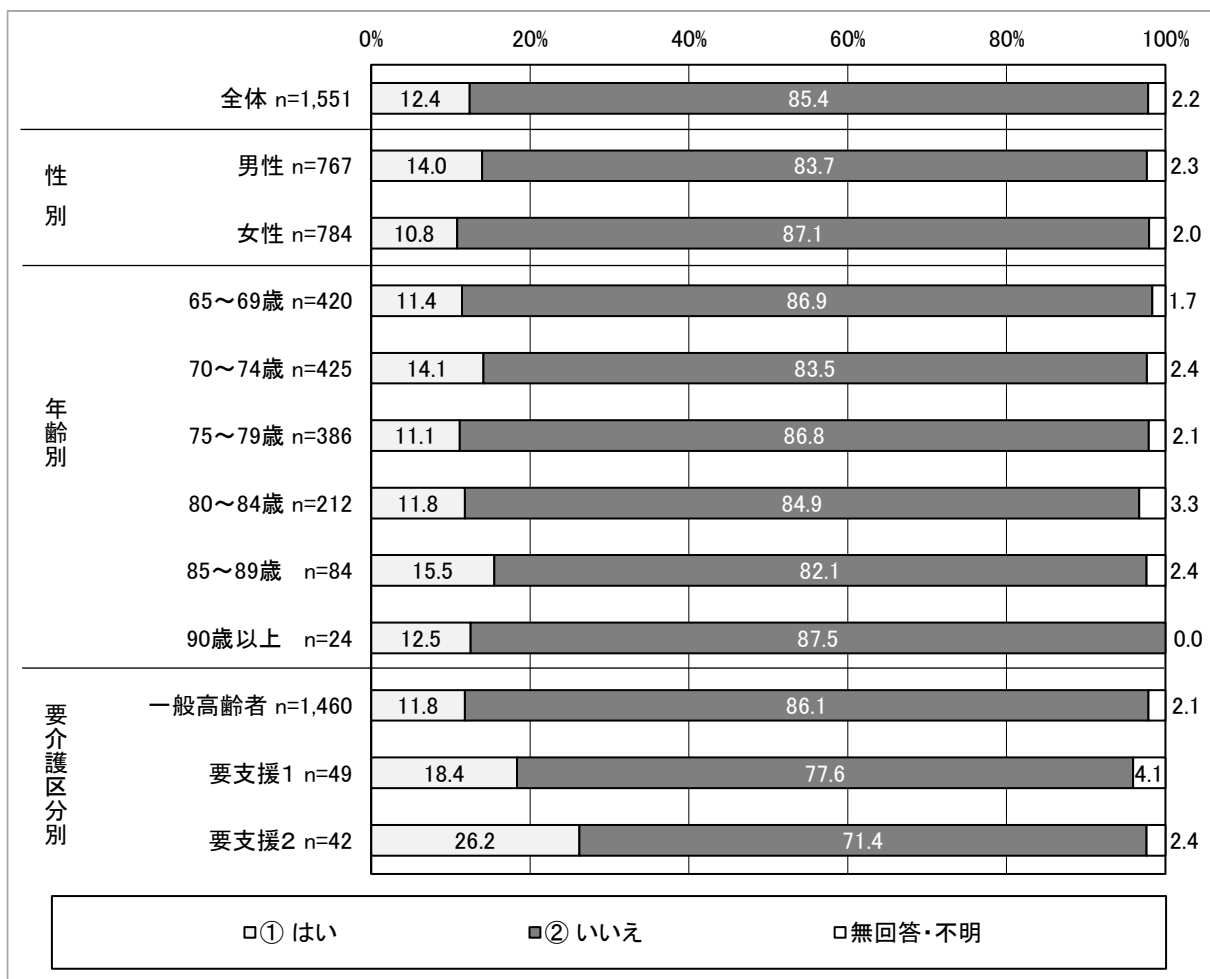
「はい」が12.4%、「いいえ」が85.4%で、前回と比較し、ほとんど差はありません。

属性別にみると、「はい」の回答が、性別で「男性」、年齢別で「70～74歳」「85～89歳」で若干高く、要介護区分別では、「要支援1」18.4%、「要支援2」26.2%と高くなっています。

【全体集計】



【属性別クロス集計】



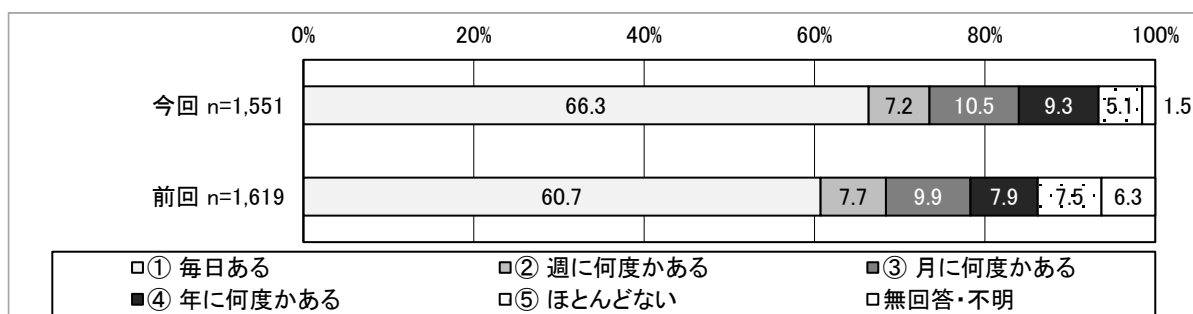
(5)食事をとにもする機会

問22 どなたかと食事をとにもする機会がありますか(回答は1つ)

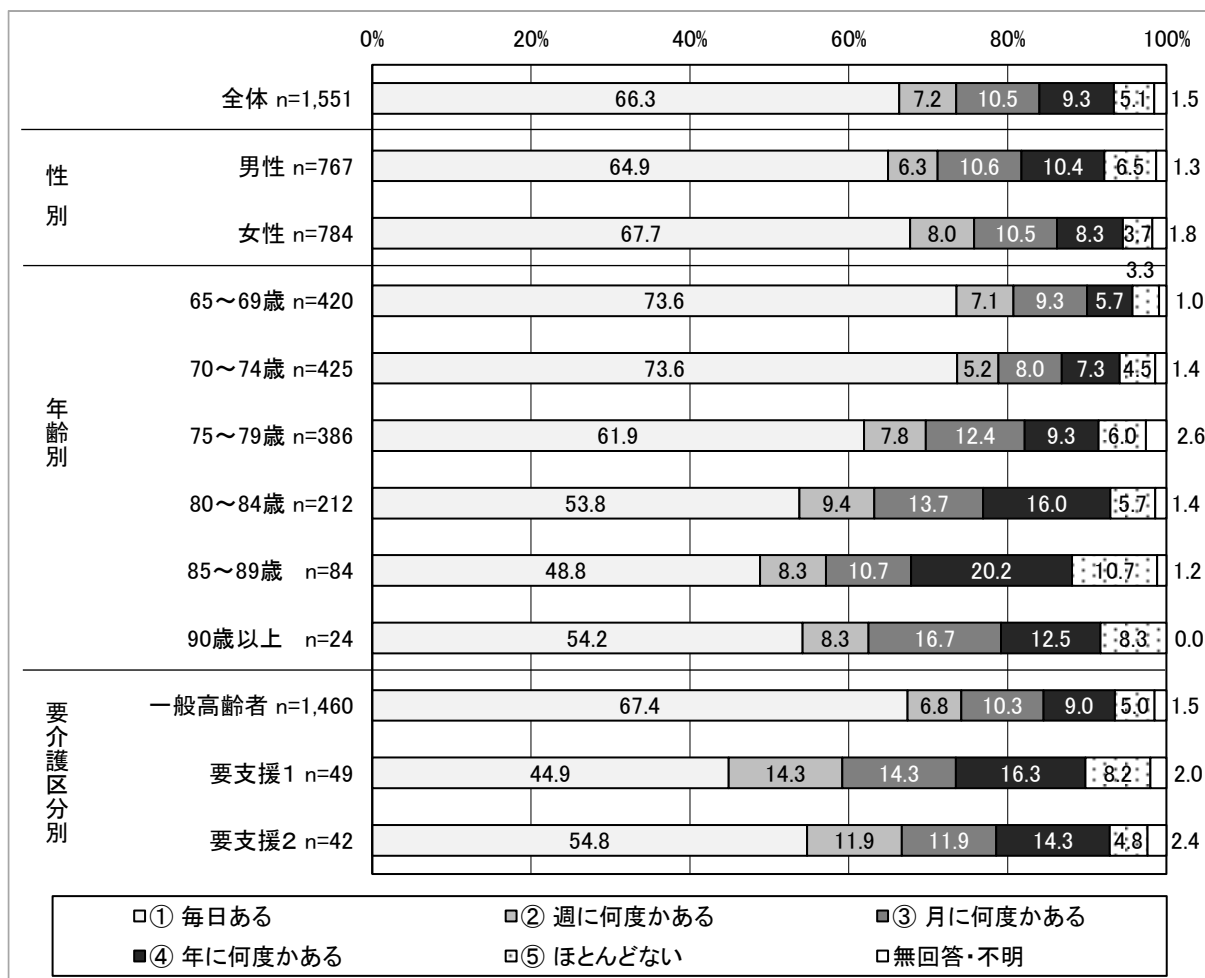
「毎日ある」が66.3%を占め、「月に何度かある」の10.5%が続きます。前回と比較し、「毎日ある」が上昇しています。

属性別にみると、性別ではほとんど差は見られません。年齢別では、年齢が高くなるほど「毎日ある」が低下していますが、「90歳以上」で反転しています。要介護区分別では「毎日ある」は、「要支援1」が44.9%、「要支援2」が54.8%と低くなっています。

【全体集計】



【属性別クロス集計】

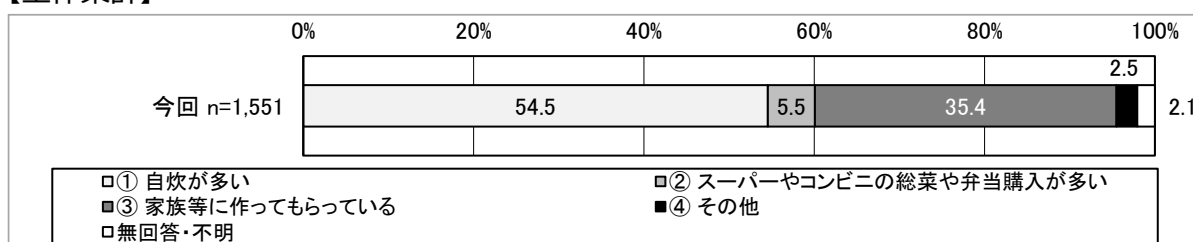


(6) 食事の内容

問23 どのような食事内容が多いですか(回答は1つ)

「自炊が多い」が54.5%と過半数を占め、「家族等に使ってもらっている」の35.4%が続きます。「スーパーやコンビニの総菜や弁当購入が多い」は5.5%に留まっています。前回は調査項目がありませんでした。

【全体集計】

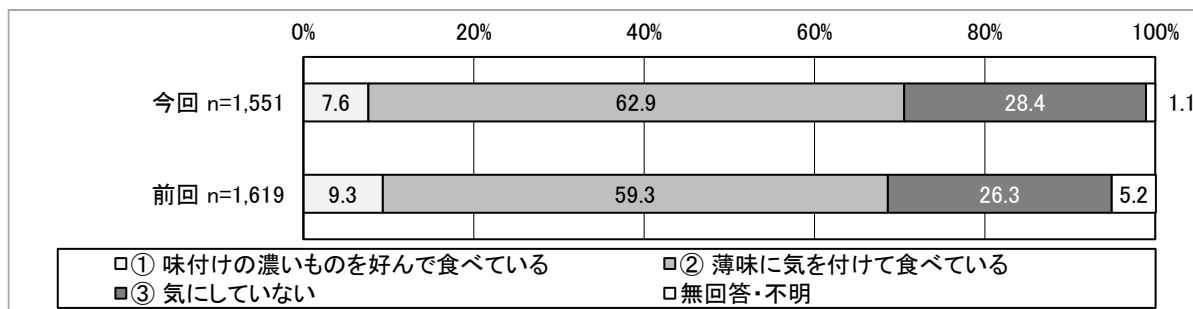


(7) 食事の味付け

問24 普段の食事の味付けはいかがですか(回答は1つ)

「薄味に気を付けて食べている」が62.9%と過半数を占め、「気にしていない」の28.4%が続きます。「味付けの濃いものを好んで食べている」は7.6%に留まっています。前回は調査項目がありませんでした。

【全体集計】



4. 毎日の生活について

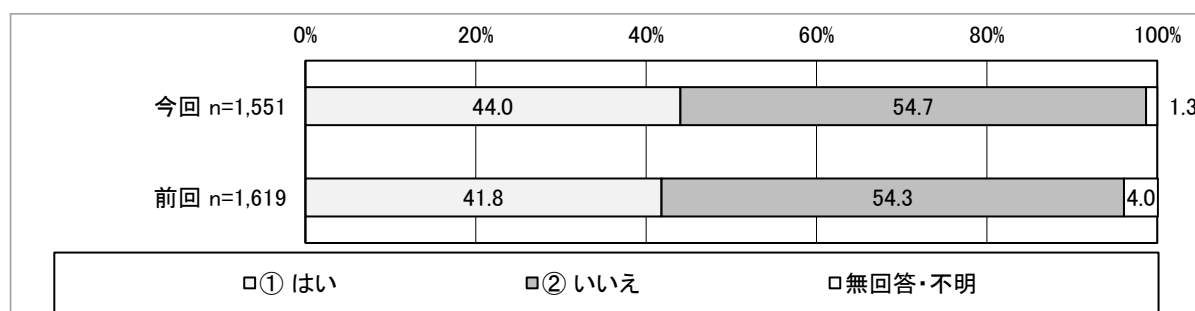
(1) 物忘れなど

「物忘れ」が多いと感じますかについては「はい」が44.0%、「電話をかけること」をしていますかについては「はい」が83.2%、「今日の日付がわからない時」がありますかについては「はい」が24.9%となっています。前回と比較し、いずれもほとんど差はありません。

① 物忘れ

問25 物忘れが多いと感じますか(回答は1つ)

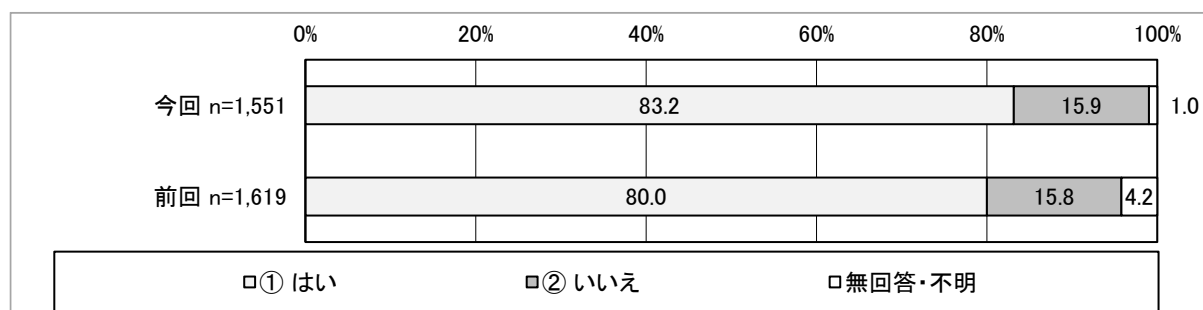
【全体集計】



② 電話をかけること

問26 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか(回答は1つ)

【全体集計】

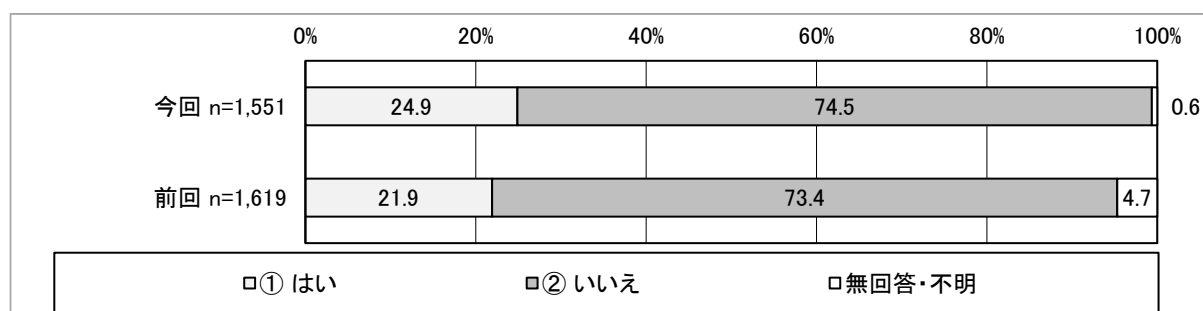


注：前回は調査項目なし

③ 今日の日付がわからない時

問27 今日が何月何日かわからない時がありますか(回答は1つ)

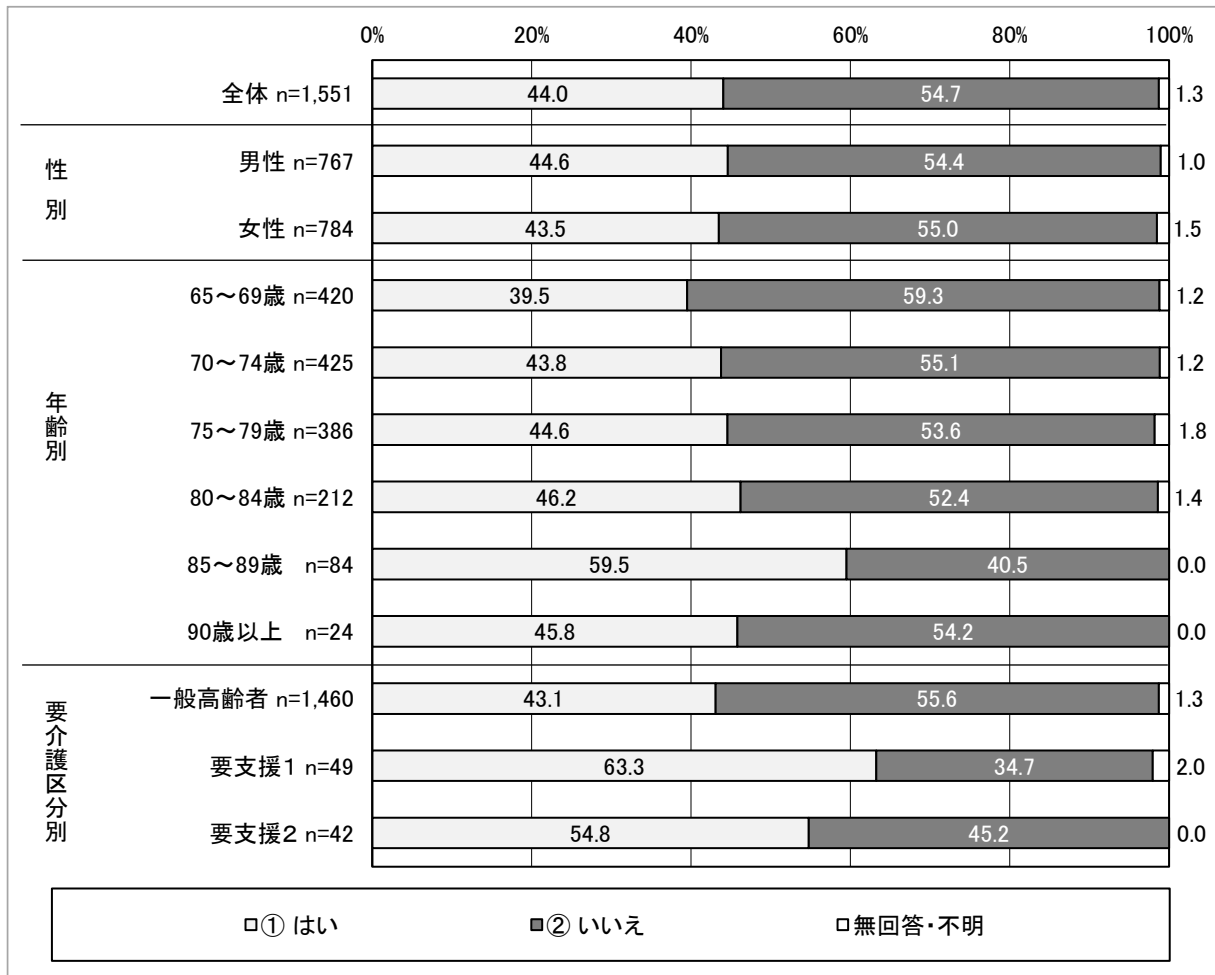
【全体集計】



【属性別クロス集計】

属性別に「物忘れ」についてみると、性別ではほとんど差はなく、年齢別では、「85～89歳」の「はい」が一段と高くなっています。要介護区分別では、「はい」は「要支援1」が63.3%、「要支援2」が54.8%と高くなっています。

■「物忘れ」のクロス集計



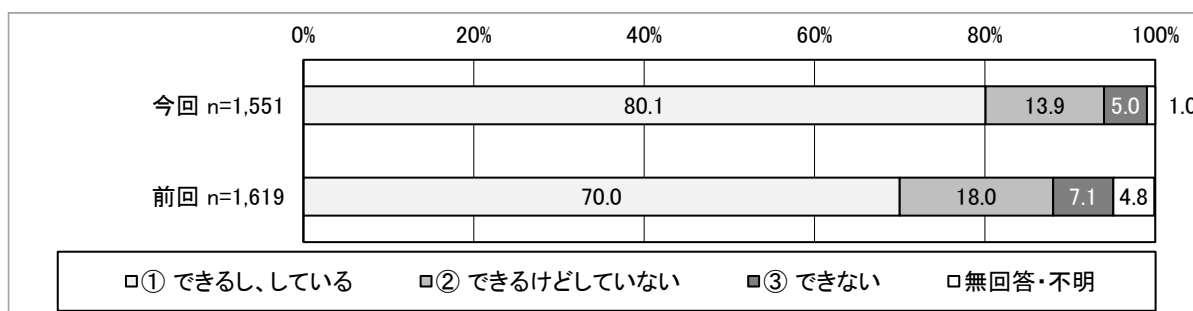
(2)自分でできる日常生活

「自分でできる日常生活」について、次の①～⑤の項目についてみると、「できるし、している」との回答が最も高いのは「食品・日用品の買物」の86.5%で、最も低いのは「食事の用意」の72.0%になっています。前回と比較し、「できるし、している」は各項目とも上昇しており、「1人で外出すること」が10.1%と最も上昇しています。

① 1人で外出すること

問28 バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)。(回答は1つ)

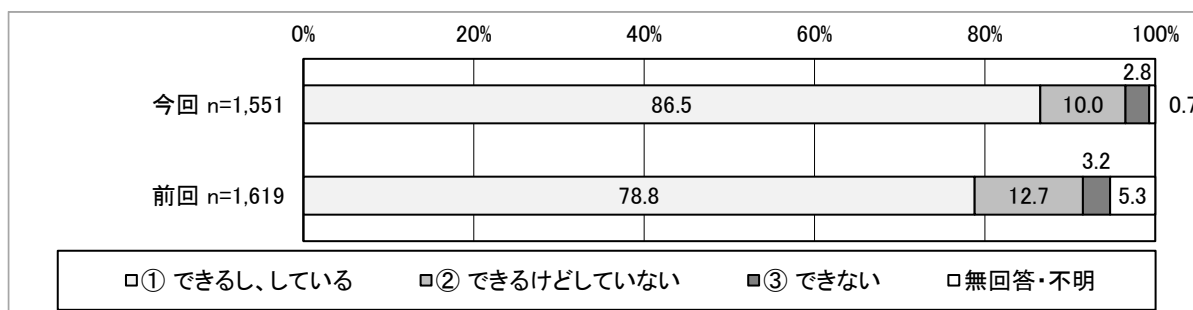
【全体集計】



② 食品・日用品の買物

問29 自分で食品・日用品の買物をしていますか(回答は1つ)

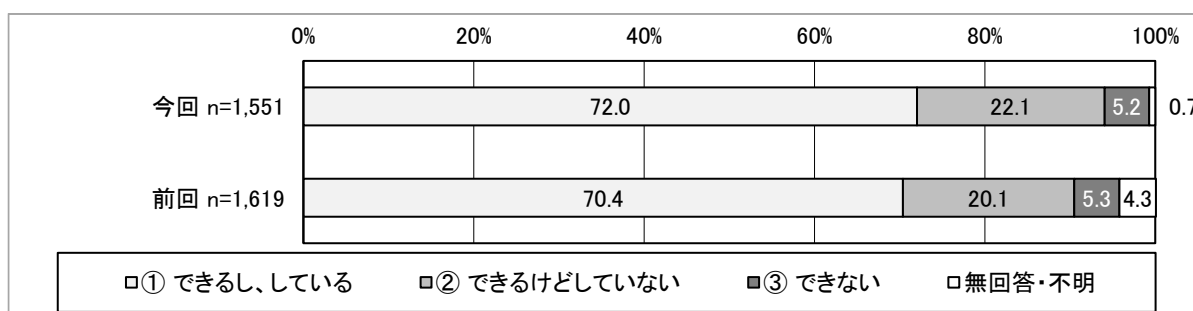
【全体集計】



③ 食事の用意

問30 自分で食事の用意をしていますか(回答は1つ)

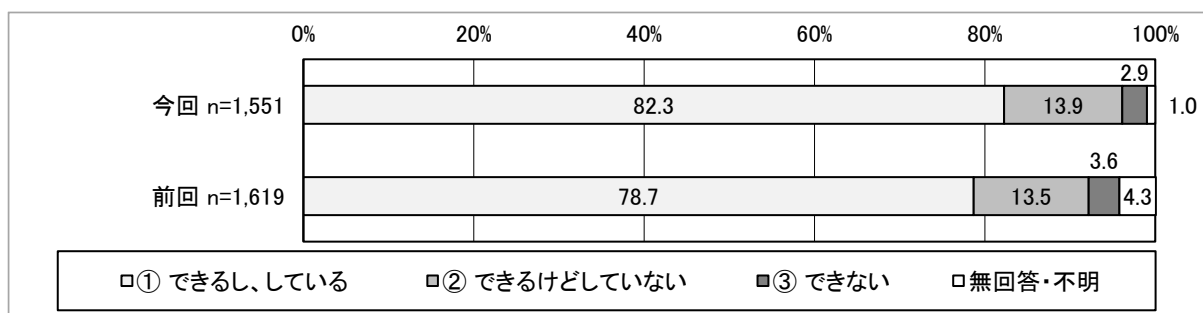
【全体集計】



④ 請求書の支払い

問31 自分で請求書の支払いをしていますか(回答は1つ)

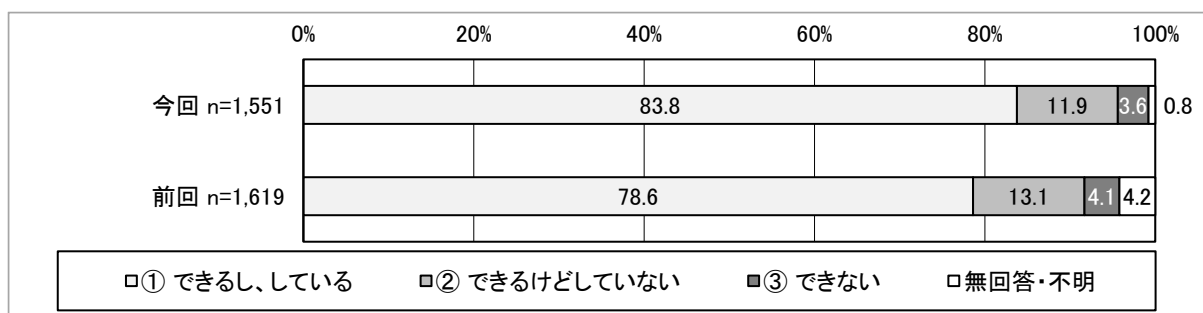
【全体集計】



⑤ 預貯金のおし入れ

問32 自分で預貯金のおし入れをしていますか(回答は1つ)

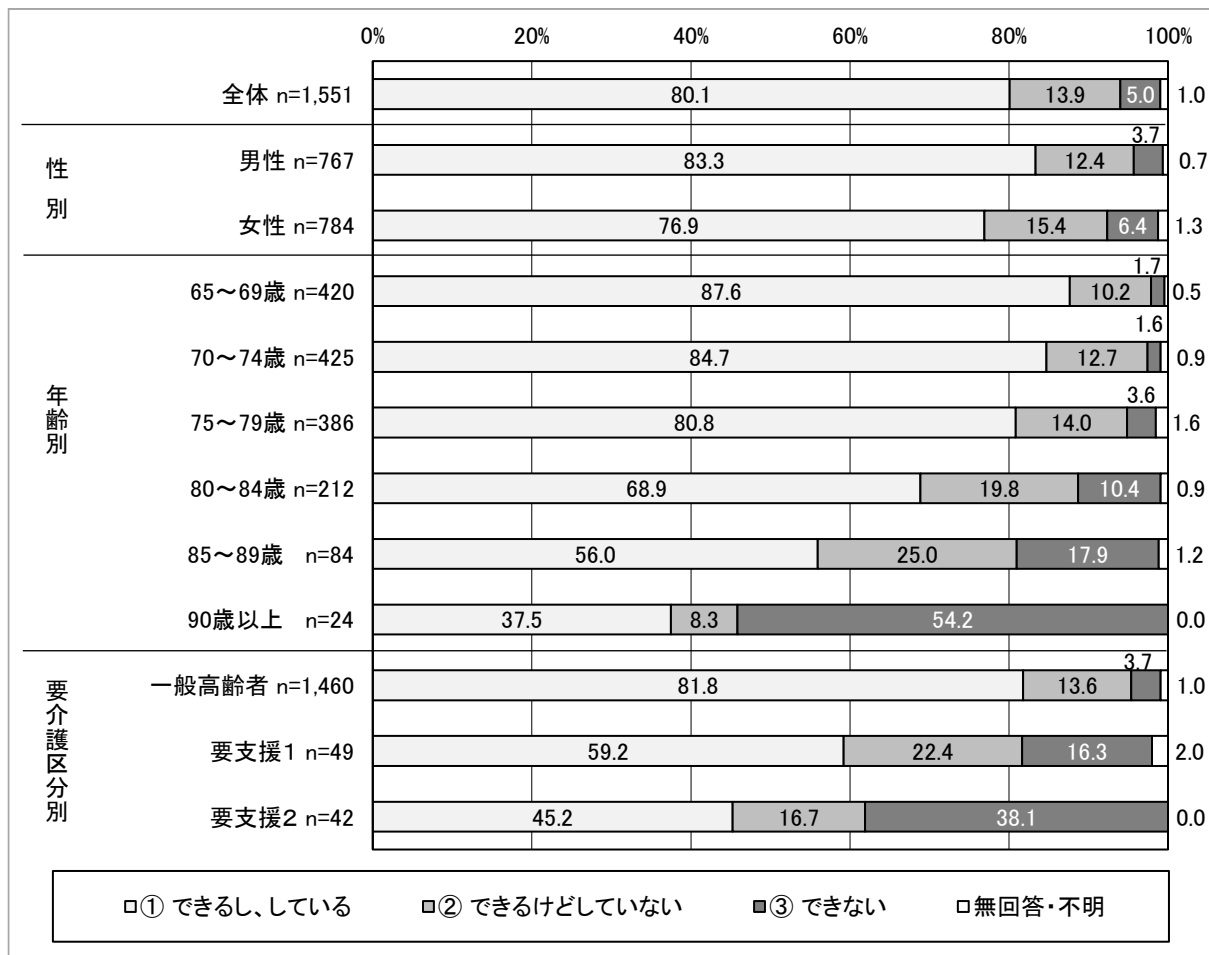
【全体集計】



【属性別クロス集計】

属性別に「1人で外出すること」についてみると、性別では「男性」の「できるし、している」が「女性」を上回る割合を示しています。年齢別では、年齢が高くなるほど「できるし、している」は低下し、「90歳以上」では37.5%まで減少しています。要介護区分別では、「要支援2」は「できるし、している」は45.2%に留まっています。

■「1人で外出すること」のクロス集計



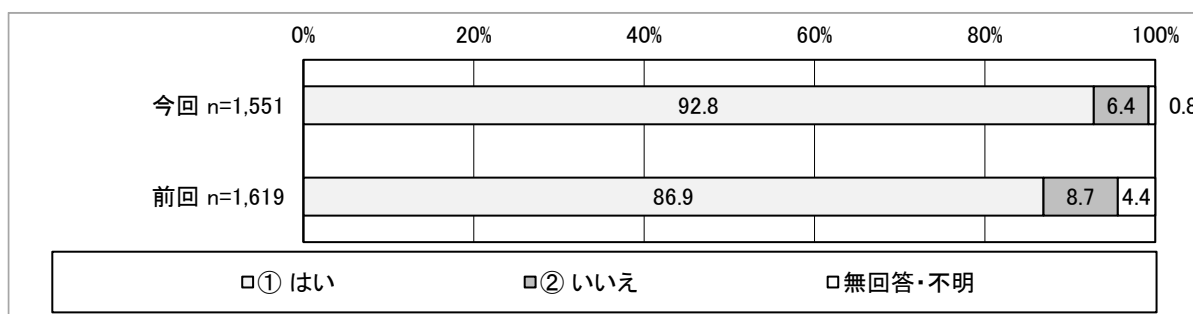
(3) 知的な生活行動

「知的な生活行動」の次の①～④の項目について、実施状況をみると、「はい」の回答が最も高いのは「年金などの書類を書くこと」の92.8%で、最も低いのは「本や雑誌を読むこと」の71.2%になっています。前回と比較し、「年金などの書類を書くこと」「健康の記事・番組への関心」は上昇していますが、「新聞を読むこと」は減少しています。

① 年金などの書類を書くこと

問33 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか(回答は1つ)

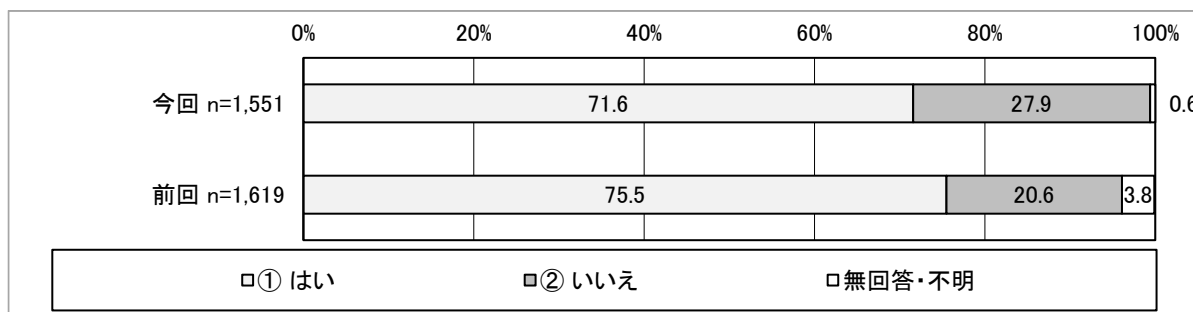
【全体集計】



② 新聞を読むこと

問34 新聞を読んでいますか(回答は1つ)

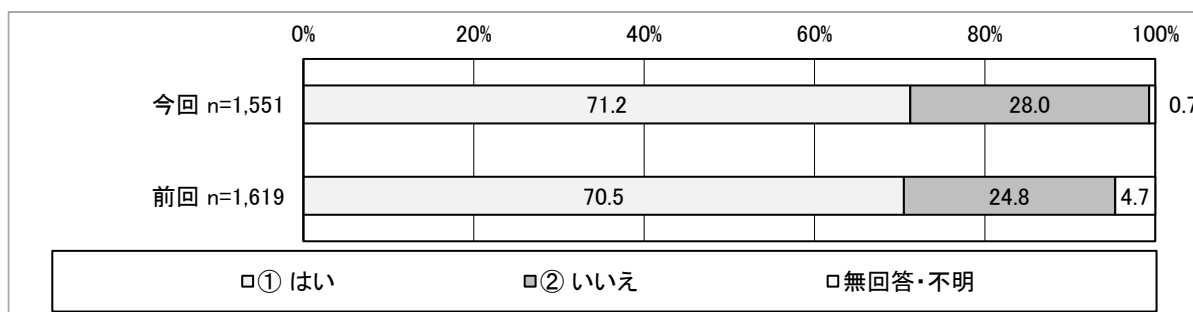
【全体集計】



③ 本や雑誌を読むこと

問35 本や雑誌を読んでいますか(回答は1つ)

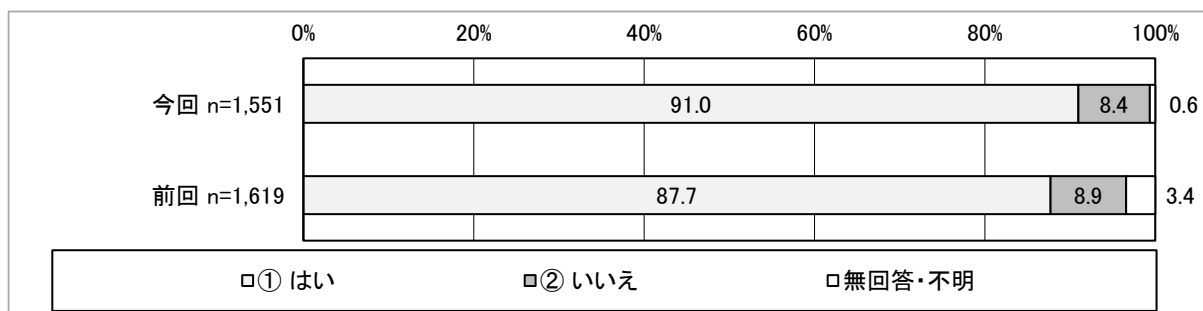
【全体集計】



④ 健康の記事・番組への関心

問36 健康についての記事や番組に関心がありますか(回答は1つ)

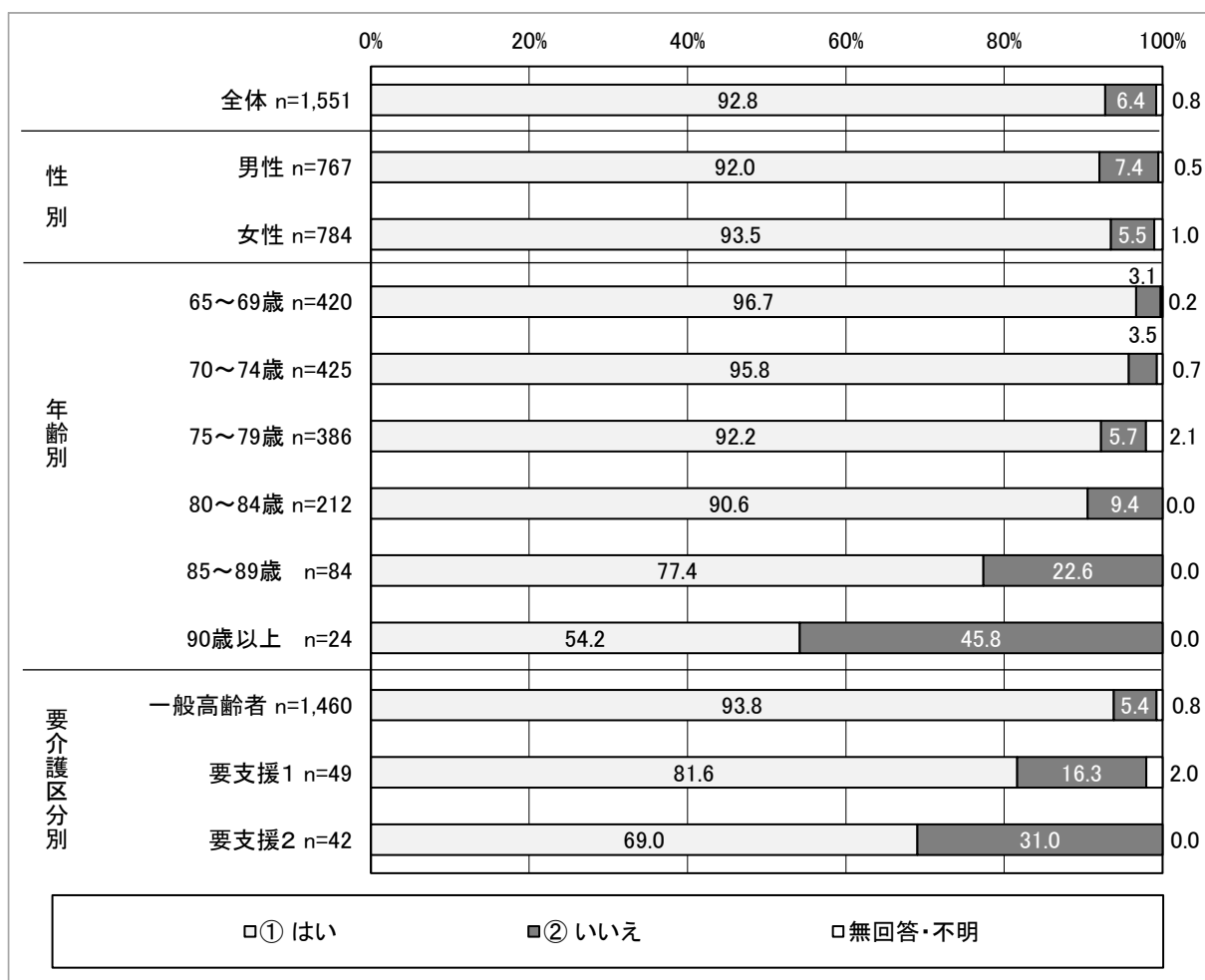
【全体集計】



【属性別クロス集計】

属性別に「年金などの書類を書くこと」についてみると、性別ではほとんど差はありません。年齢別では、年齢が高くなるほど「はい」の割合は低下し、「90歳以上」では54.2%まで減少しています。要介護区分別では、「要支援1」が81.6%、「要支援2」が69.0%になっています。

■「年金などの書類を書くこと」のクロス集計



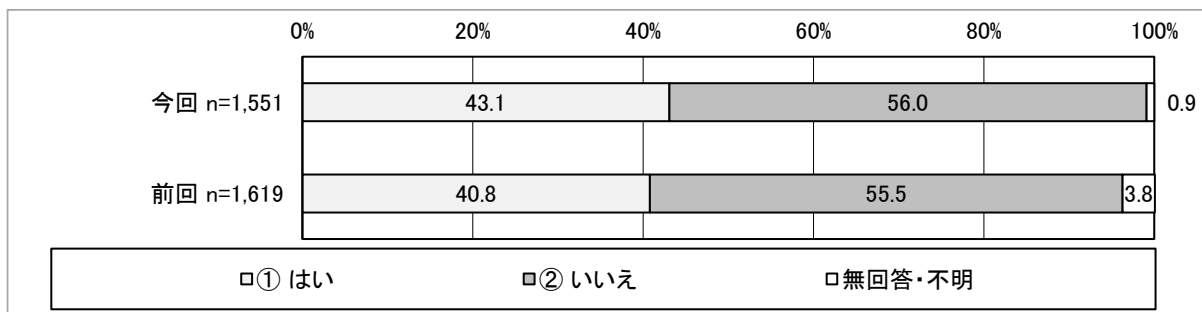
(4) 社会的な生活活動

「社会的な生活活動」の次の①～④の項目について、「していること」をみると、「はい」と回答した割合が最も高いのは「病人のお見舞い」の86.8%で、最も低いのは「友人の家の訪問」の43.1%になっています。前回と比較し、「病人のお見舞い」「家族や友人の相談」は上昇していますが、「友人の家の訪問」「若い人への話しかけ」はほとんど差はありません。

① 友人の家の訪問

問37 友人の家を訪ねていますか(回答は1つ)

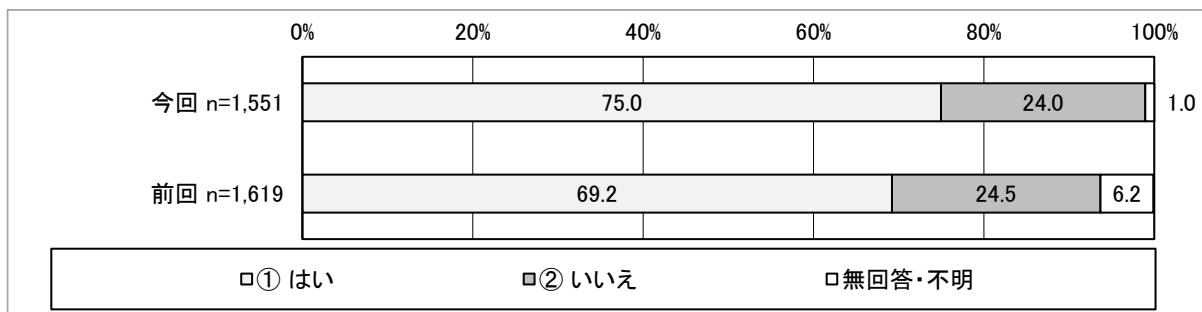
【全体集計】



② 家族や友人の相談

問38 家族や友人の相談にのっていますか(回答は1つ)

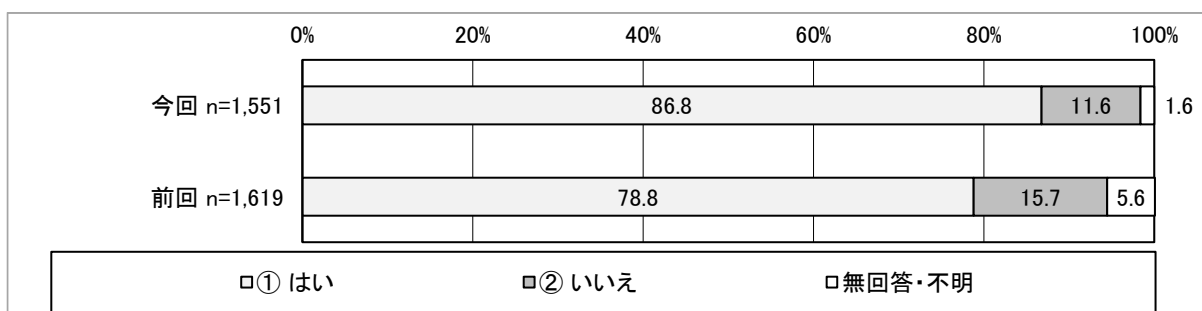
【全体集計】



③ 病人のお見舞い

問39 病人を見舞うことができますか(回答は1つ)

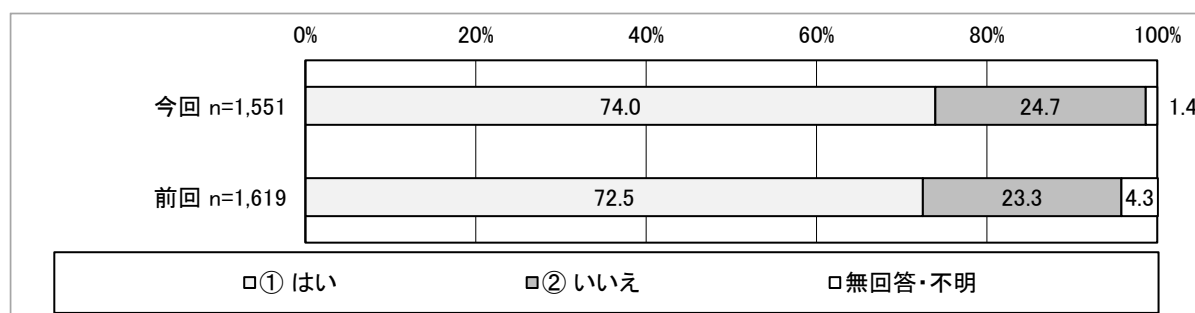
【全体集計】



④ 若い人への話しかけ

問40 若い人に自分から話しかけることがありますか(回答は1つ)

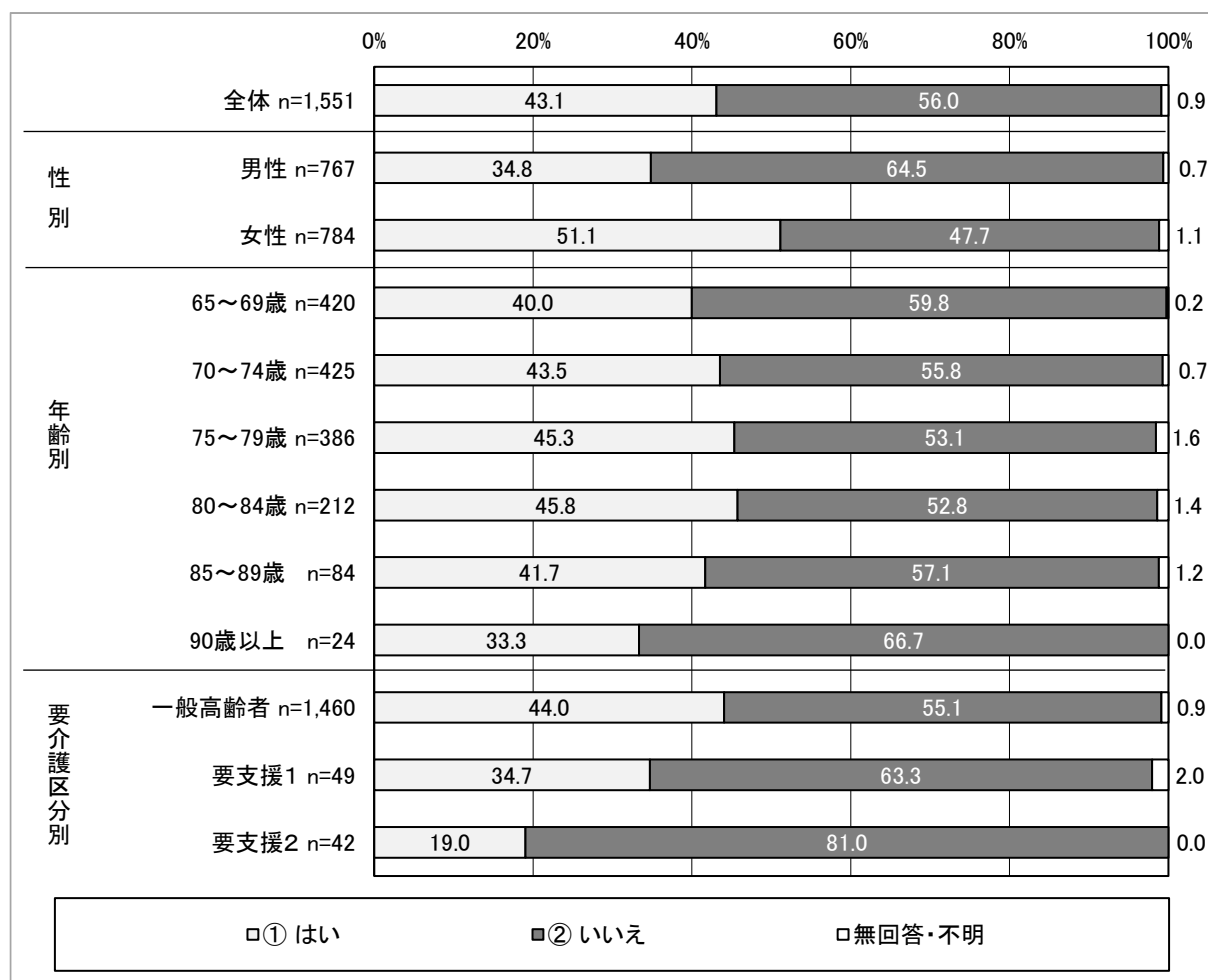
【全体集計】



【属性別クロス集計】

属性別に「友人の家の訪問」についてみると、性別では「女性」の「はい」の割合が「男性」を大きく上回っています。年齢別では、「75～79歳」「80～84歳」の「はい」が、若干高くなっています。要介護区分別では、「はい」は「要支援1」が34.7%、「要支援2」が19.0%と一段と低くなっています。

■「友人の家の訪問」のクロス集計



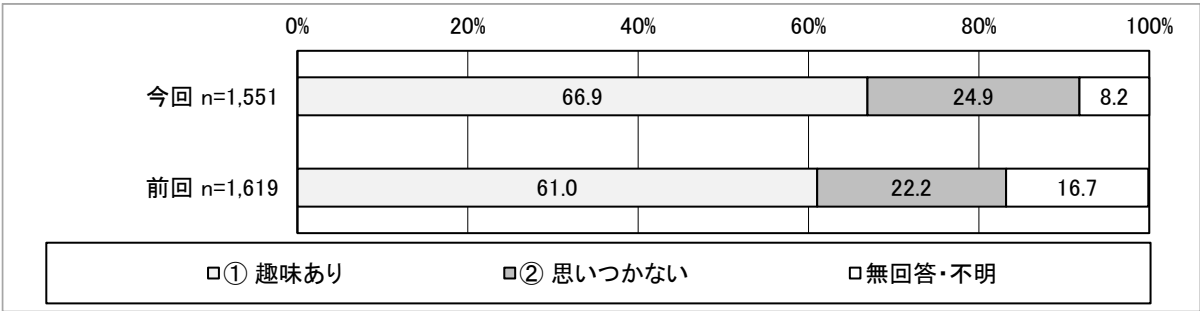
(5)趣味、生きがいの有無

「趣味や生きがいの有無」について「あり」の回答は、「趣味」は66.9%、「生きがい」は49.6%になっています。前回と比較し、「趣味」が若干上昇しています。

① 趣味の有無

問41 趣味はありますか(回答は1つ)
(趣味がある方は具体的にお書きください)

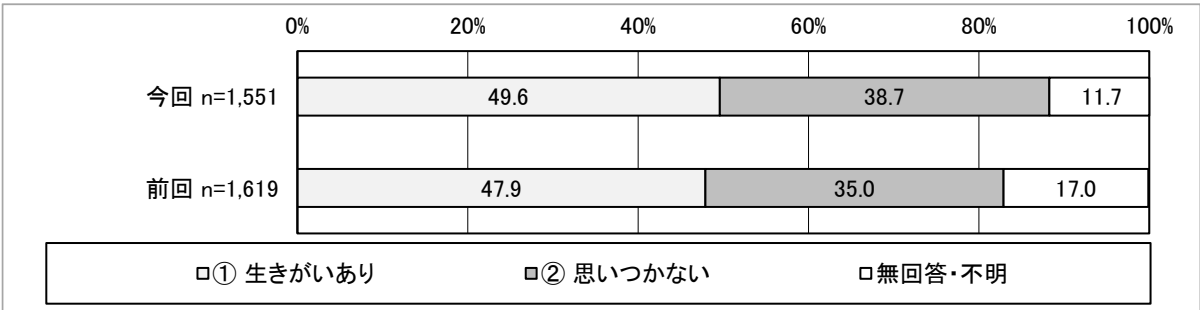
【全体集計】



② 生きがいの有無

問42 生きがいはありますか(回答は1つ)
(生きがいがある方は具体的にお書きください)

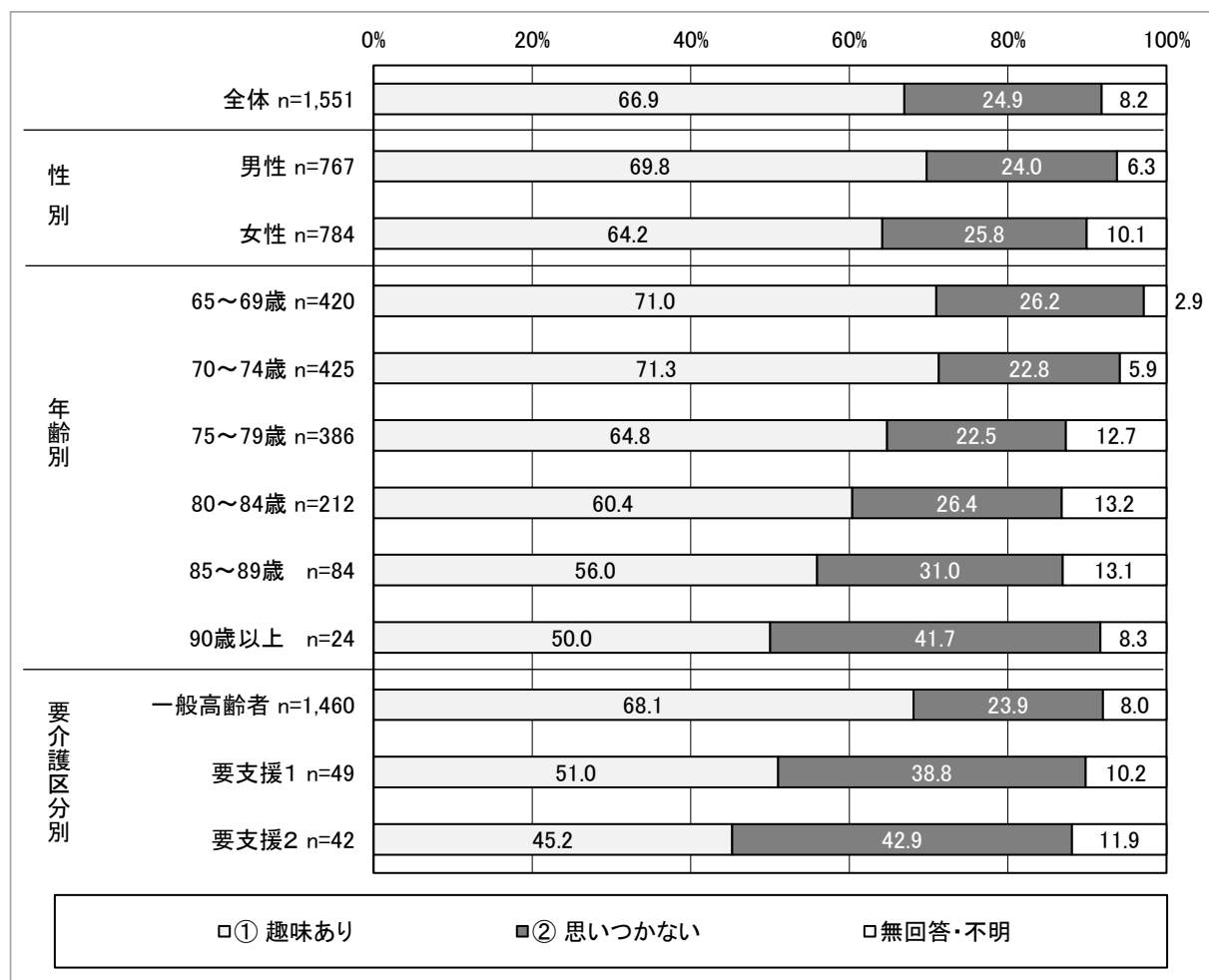
【全体集計】



【属性別クロス集計】

属性別に「趣味の有無」の「はい」についてみると、性別では「男性」が「女性」を若干上回っています。年齢別では、年齢が高くなるほど低下し、「90歳以上」では50.0%まで減少しています。要介護区分別では、「要支援1」は51.0%、「要支援2」は45.2%まで低下しています。

■「趣味の有無」のクロス集計



5. 地域での活動について

(1) 地域の活動への参加頻度

問43 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。
※①から⑧それぞれに回答してください。

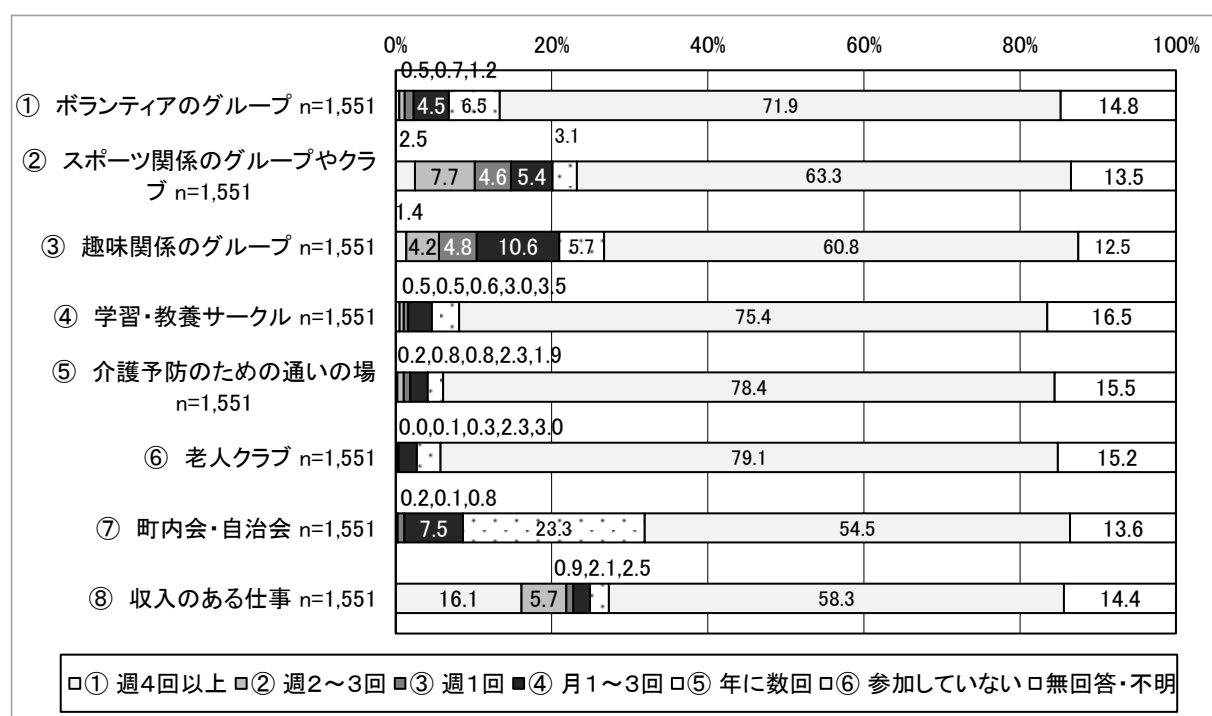
「地域での活動」の①～⑧の項目について、参加の頻度についてみると、全ての項目において「参加していない」が最も高くなっています。その中で最も高いのは「老人クラブ」の79.1%で、最も低いのは「町内会・自治会」の54.5%となっています。

前回と比較し、今回と同様、「参加していない」が最も高いのは「老人クラブ」の68.1%で、最も低いのは「町内会・自治会」の53.7%になっています。

参加回数についてみると、「町内会・自治会」の「年に数回」23.3%、「収入のある仕事」の「週4回以上」16.1%が高くなっています。

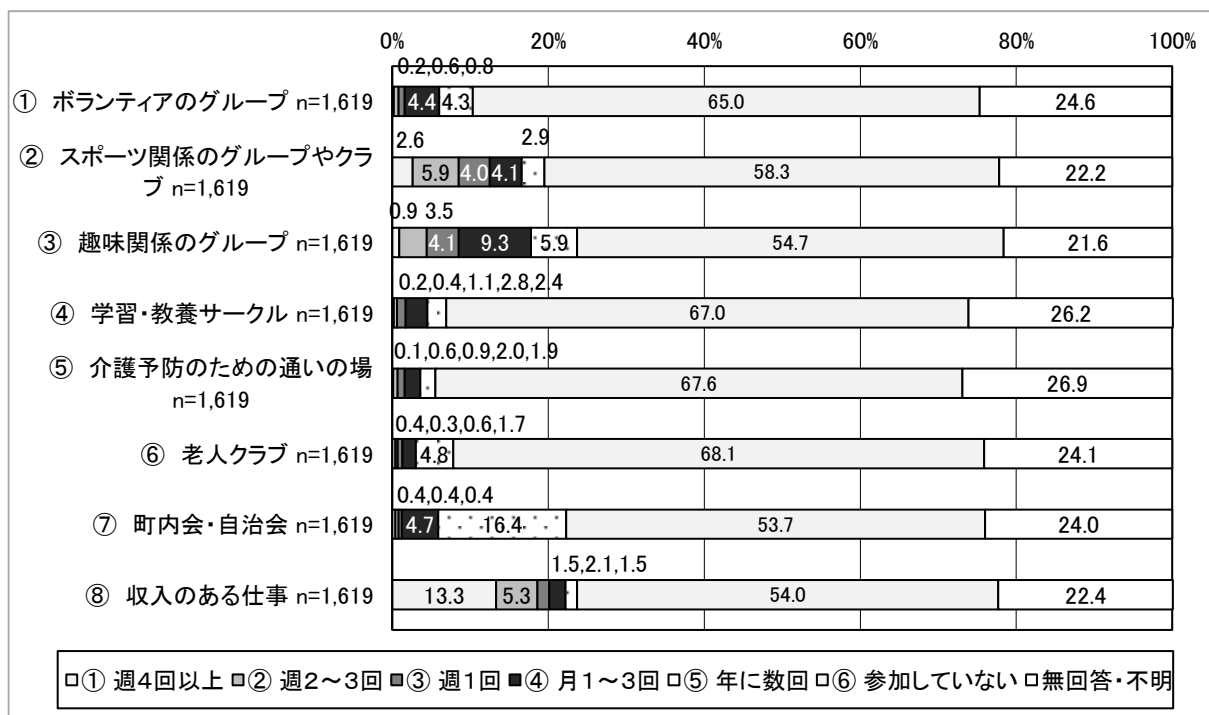
【全体集計】

■今回



項目の要約：

⑤の全文は、「介護予防のための通いの場（保健福祉センターや貯筋体操、認知症カフェなど）」



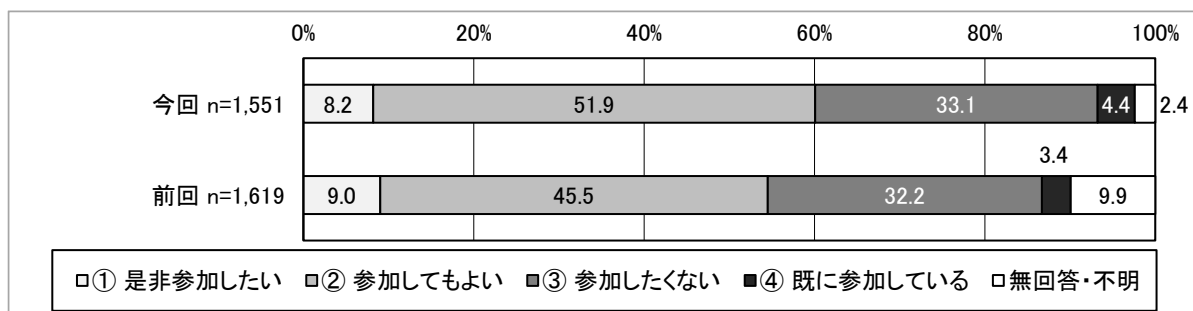
(2) 地域活動への参加意識、意向

地域活動への参加意識、意向について「参加者として」をみると、「参加してもよい」が51.9%と最も高く、「参加したくない」の33.1%が続きます。一方「企画・運営として」は、「参加したくない」が55.4%と最も高く、「参加してもよい」の35.5%と続きます。前回と比較し、「参加者として」「企画・運営として」ともに、「参加してもよい」が上昇しています。

① 地域活動への参加者としての参加意向

問44 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか(回答は1つ)

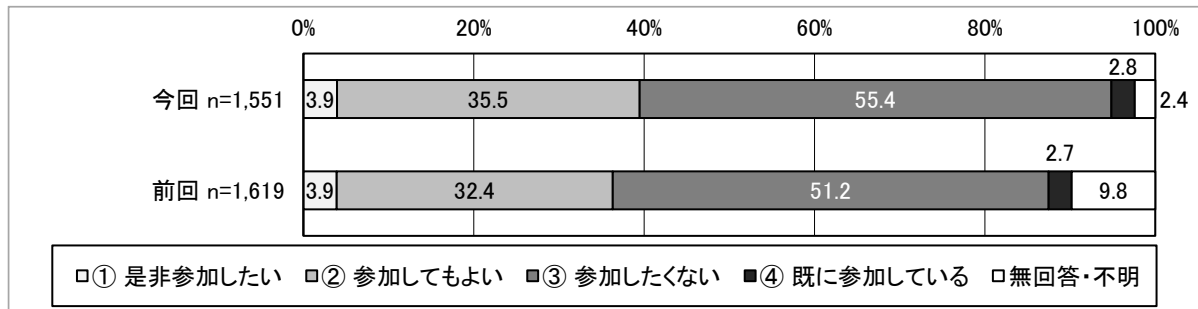
【全体集計】



② 地域活動への企画・運営としての参加意向

問45 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか(回答は1つ)

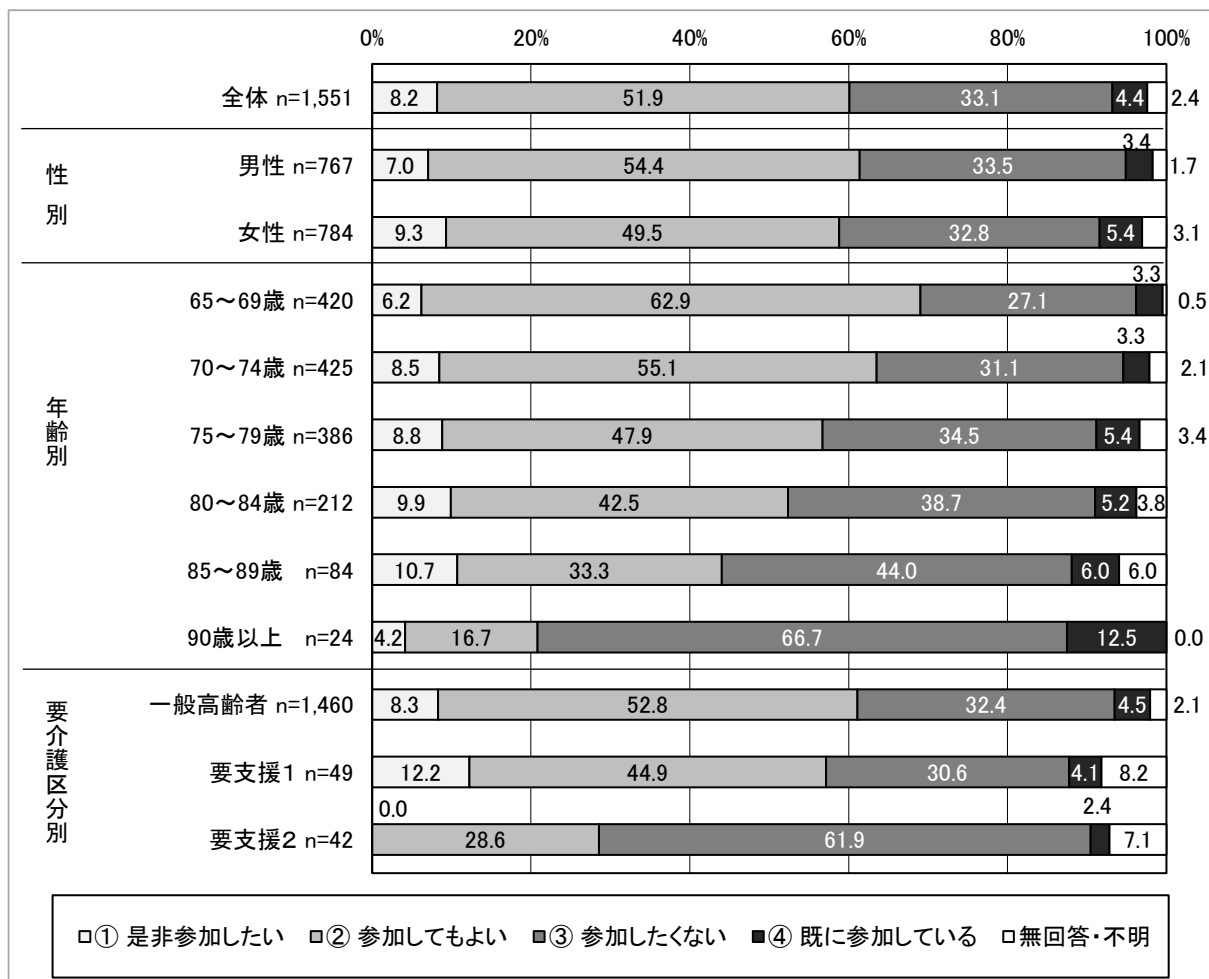
【全体集計】



【属性別クロス集計】

属性別に「地域活動への参加者としての参加意向」の「参加してもよい」についてみると、性別では「男性」が「女性」を若干、上回っています。年齢別では、年齢が高くなるほど割合は低くなり、「90歳以上」では16.7%まで低下しています。要介護区分別では、「要支援1」は44.9%、「要支援2」は28.6%と低くなっています。

■「地域活動への参加者としての参加意向」のクロス集計



6. 就労について

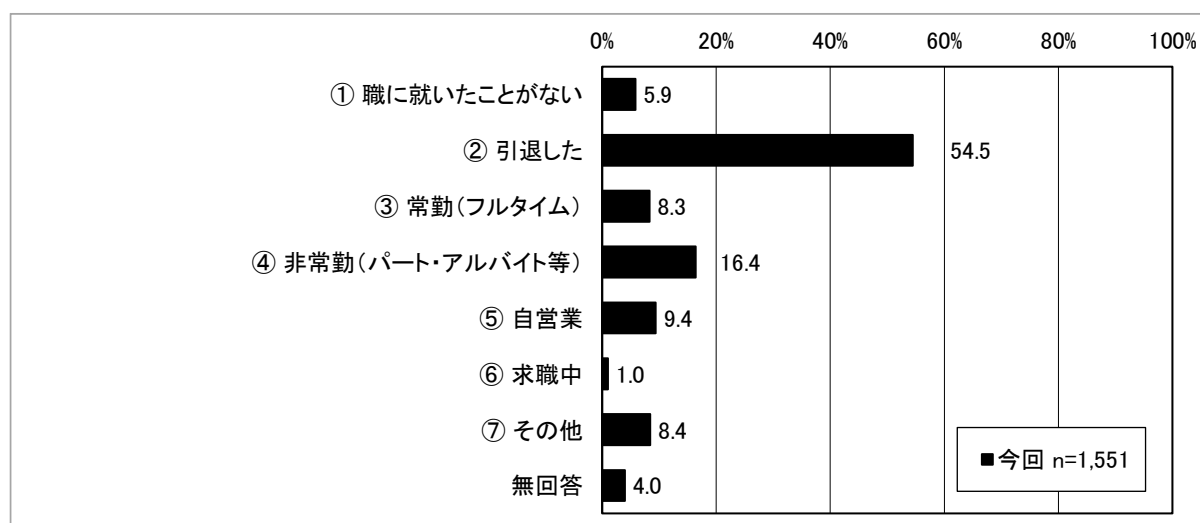
「引退した」の54.5%が最も高く、「非常勤（パート・アルバイト）」の16.4%、「自営業」の9.4%と続きます。前回は調査項目がありませんでした。

「引退した」と回答した方への設問で、その時期については「無回答・不明」が65.7%を占めます。参考値として「平成」が18.8%で最も高く、「令和」の14.0%が続きます。

(1) 現在の就労状態

問46 現在のあなたの就労状態はどれですか(いくつでも)

【全体集計】



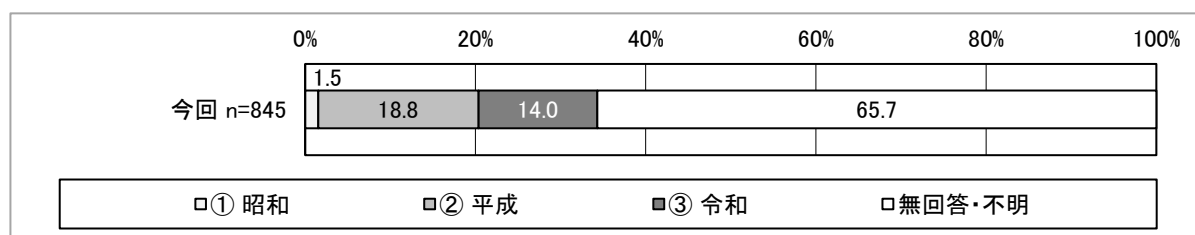
注：前回は調査項目なし

(2) 就労を引退した時期

【問46において「②引退した」の方のみ】

問46-① あなたはいつ引退しましたか。※引退した和暦をお答えください。(回答は1つ)

【全体集計】



注：前回は調査項目なし

【属性別クロス集計】

属性別に「現在就労している方」の回答についてみると、性別では「男性」の「常勤（フルタイム）」「自営業」の割合が高く、「女性」は「非常勤（パート・アルバイト等）」が高くなっています。年齢別では「65～69歳」の「常勤（フルタイム）」が18.6%、「非常勤（パート・アルバイト）」が28.1%で最も高くなっています。要介護区分別では、「要支援1」の「自営業」に6.1%、「要支援2」の「非常勤（パート・アルバイト等）」に4.8%、「自営業」に7.1%見られます。

■「現在の就労状況」のクロス集計

単位：上段・回答数(件)、下段・構成比(%)

		① な職 いに 就いた ことが	② 引 退した	③ ム常 勤 （フル タイ	④ アル 非常 勤 （パート ・	⑤ 自 営 業	⑥ 求 職 中	⑦ そ の 他	無 回 答	回 答 数 合 計	回 答 者 数 合 計
全体		91 5.9	845 54.5	129 8.3	255 16.4	146 9.4	16 1.0	131 8.4	62 4.0	1,770 114.1	1,551 100.0
性別	男性	32 4.2	442 57.6	91 11.9	112 14.6	85 11.1	10 1.3	40 5.2	12 1.6	802 104.6	767 100.0
	女性	59 7.5	403 51.4	38 4.8	143 18.2	61 7.8	6 0.8	91 11.6	50 6.4	968 123.5	784 100.0
年齢別	65～69歳	12 2.9	161 38.3	78 18.6	118 28.1	35 8.3	6 1.4	35 8.3	4 1.0	387 92.1	420 100.0
	70～74歳	12 2.8	238 56.0	31 7.3	78 18.4	42 9.9	8 1.9	44 10.4	9 2.1	451 106.1	425 100.0
	75～79歳	28 7.3	246 63.7	14 3.6	46 11.9	39 10.1	2 0.5	24 6.2	21 5.4	473 122.5	386 100.0
	80～84歳	20 9.4	137 64.6	5 2.4	9 4.2	16 7.5	0 0.0	23 10.8	16 7.5	385 181.6	212 100.0
	85～89歳	13 15.5	49 58.3	1 1.2	4 4.8	12 14.3	0 0.0	5 6.0	9 10.7	385 458.3	84 100.0
	90歳以上	6 25.0	14 58.3	0 0.0	0 0.0	2 8.3	0 0.0	0 0.0	3 12.5	74 308.3	24 100.0
要介護区分別	一般高齢者	79 5.4	781 53.5	129 8.8	253 17.3	140 9.6	16 1.1	122 8.4	55 3.8	1,651 113.1	1,460 100.0
	要支援1	5 10.2	35 71.4	0 0.0	0 0.0	3 6.1	0 0.0	5 10.2	5 10.2	26 53.1	49 100.0
	要支援2	7 16.7	29 69.0	0 0.0	2 4.8	3 7.1	0 0.0	4 9.5	2 4.8	39 92.9	42 100.0

7. たすけあいについて

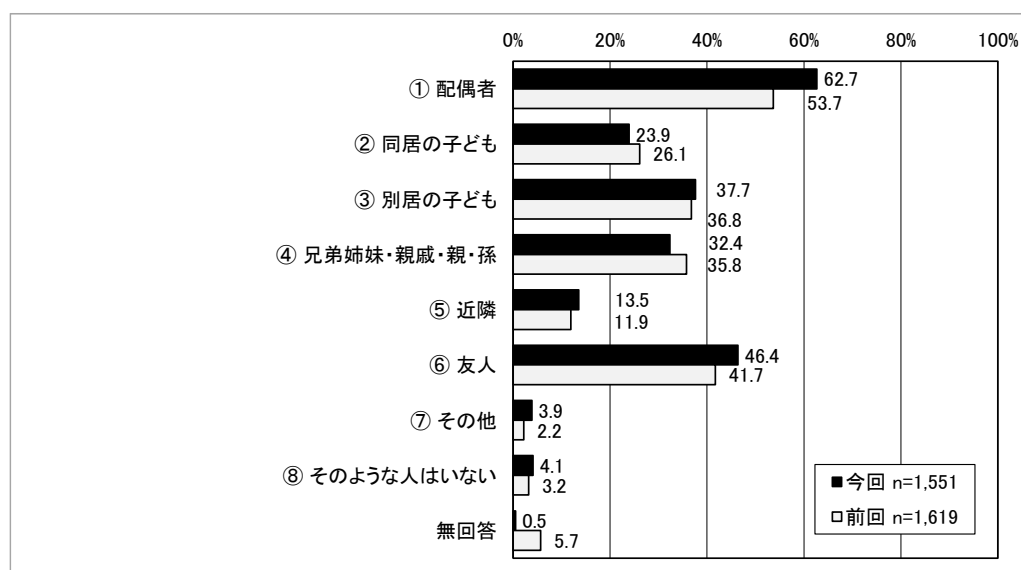
(1) 心配事や愚痴の話相手

「心配事や愚痴の話相手」について、あなたの話を「聞いてくれる人」については、「配偶者」の62.7%が最も高く、「友人」の46.4%が続きます。一方、あなたが話を「聞いてあげる人」についても、「配偶者」の59.9%が最も高く、「友人」の45.9%と続きます。前回と比較し、「聞いてくれる人」「聞いてあげる人」とともに、「配偶者」「友人」が上昇しています。

① 聞いてくれる人

問47 あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人。(いくつでも)

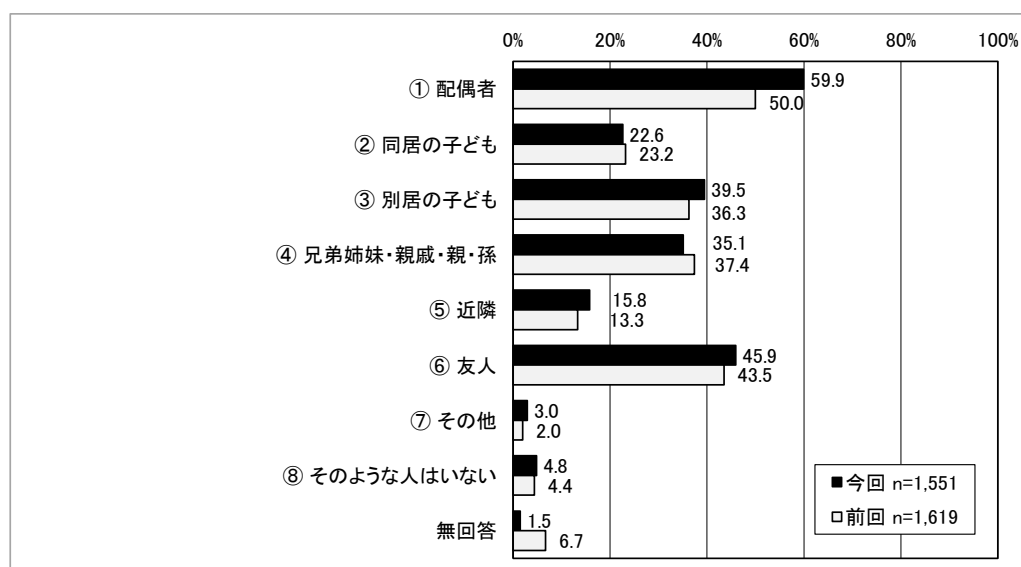
【全体集計】



② 聞いてあげる人

問48 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人。(いくつでも)

【全体集計】



【属性別クロス集計】

属性別に「あなたの話を聞いてくれる人」についてみると、最も割合が高い「配偶者」については性別では、「男性」が「女性」を大きく上回っています。年齢別では、年齢が高くなるに従って割合は低くなり、「90歳以上」では29.2%まで低下し、「同居の子ども」が50.0%で最も高くなっています。要介護区分別では、「要支援1」が36.7%、「要支援2」31.0%と低くなり、「別居の子ども」「友人」が高くなっています。

■「聞いてくれる人」のクロス集計

単位: 上段・回答数(件), 下段・構成比(%)

		① 配偶者	② 同居の子ども	③ 別居の子ども	④ 親兄弟・孫姉妹・親戚・	⑤ 近隣	⑥ 友人	⑦ その他	⑧ ない そのような人はいい	無回答	回答数合計	回答者数合計
全体		972 62.7	371 23.9	584 37.7	502 32.4	210 13.5	719 46.4	60 3.9	64 4.1	8 0.5	3,428 221.0	1,551 100.0
性別	男性	572 74.6	137 17.9	222 28.9	179 23.3	59 7.7	250 32.6	26 3.4	47 6.1	6 0.8	1,275 166.2	767 100.0
	女性	400 51.0	234 29.8	362 46.2	323 41.2	151 19.3	469 59.8	34 4.3	17 2.2	2 0.3	2,153 274.6	784 100.0
年齢別	65～69歳	280 66.7	87 20.7	168 40.0	130 31.0	52 12.4	212 50.5	27 6.4	19 4.5	0 0.0	767 182.6	420 100.0
	70～74歳	293 68.9	96 22.6	157 36.9	136 32.0	53 12.5	204 48.0	11 2.6	18 4.2	2 0.5	885 208.2	425 100.0
	75～79歳	249 64.5	90 23.3	151 39.1	131 33.9	58 15.0	181 46.9	11 2.8	9 2.3	4 1.0	946 245.1	386 100.0
	80～84歳	115 54.2	48 22.6	69 32.5	68 32.1	29 13.7	87 41.0	9 4.2	14 6.6	1 0.5	710 334.9	212 100.0
	85～89歳	28 33.3	38 45.2	30 35.7	27 32.1	16 19.0	29 34.5	2 2.4	4 4.8	0 0.0	710 845.2	84 100.0
	90歳以上	7 29.2	12 50.0	9 37.5	10 41.7	2 8.3	6 25.0	0 0.0	0 0.0	1 4.2	120 500.0	24 100.0
要介護区分別	一般高齢者	941 64.5	346 23.7	544 37.3	479 32.8	198 13.6	682 46.7	56 3.8	58 4.0	8 0.5	3,217 220.3	1,460 100.0
	要支援1	18 36.7	16 32.7	26 53.1	12 24.5	7 14.3	22 44.9	2 4.1	2 4.1	0 0.0	42 85.7	49 100.0
	要支援2	13 31.0	9 21.4	14 33.3	11 26.2	5 11.9	15 35.7	2 4.8	4 9.5	0 0.0	59 140.5	42 100.0

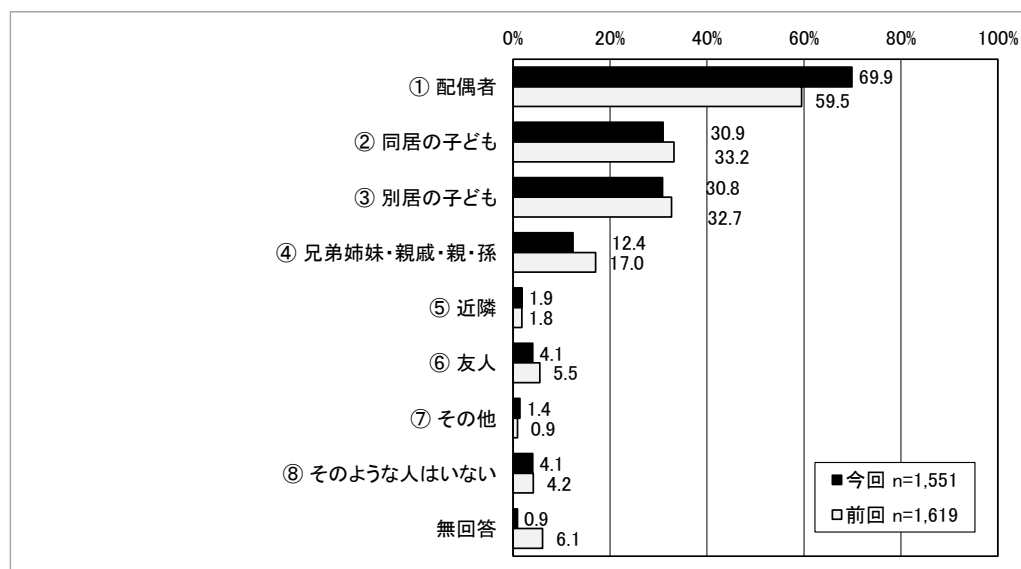
(2) 病気の時の看病や世話

「病気の時の看病や世話」について、あなたの看病や世話を「してくれる人」については、「配偶者」の69.9%が最も高く、「同居の子ども」の30.9%、「別居の子ども」の30.8%が続きます。一方、あなたが「してあげる人」についても、「配偶者」の70.3%が最も高く、「同居の子ども」の28.0%、「別居の子ども」の27.7%が続きます。前回と比較し、ともに「配偶者」が上昇しています。

① 看病や世話をしてくれる人

問49 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人。(いくつでも)

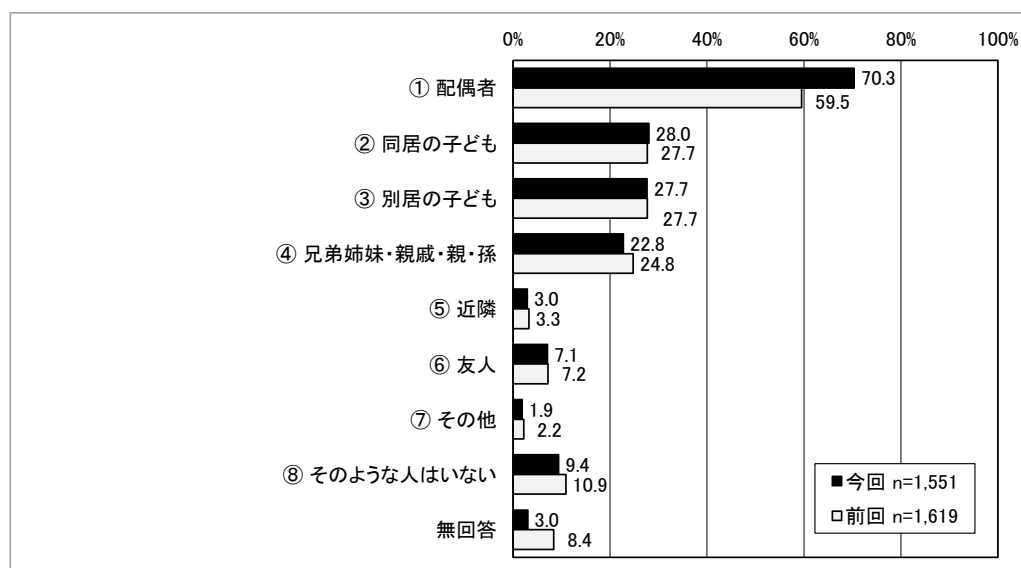
【全体集計】



② 看病や世話をしてあげる人

問50 反対に、看病や世話をしてあげる人。(いくつでも)

【全体集計】



【属性別クロス集計】

属性別に「看病や世話をしてくれる人」についてみると、最も割合が高い「配偶者」については、「あなたの話を聞いてくれる人」と同じ傾向を示しています。性別では「男性」が「女性」を大きく上回り、年齢別では、年齢が高くなるほど割合は低くなり、「同居の子ども」が高くなっています。要介護区分別では、「要支援」の「配偶者」の割合は低くなり、「同居の子ども」「別居の子ども」が高くなっています。

■「看病や世話をしてくれる人」のクロス集計

単位: 上段・回答数(件), 下段・構成比(%)

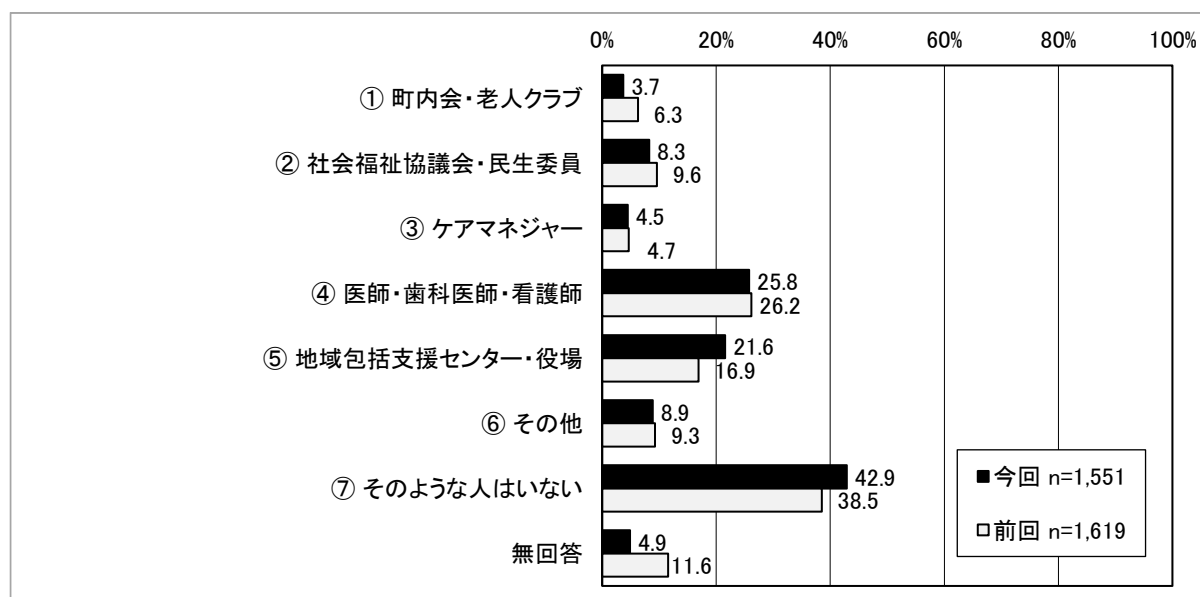
		① 配偶者	② 同居の子ども	③ 別居の子ども	④ 親・兄弟・姉妹・孫・親戚・	⑤ 近隣	⑥ 友人	⑦ その他	⑧ ない そのような人は いい	無回答	回答数合計	回答者数合計
全体		1,084 69.9	480 30.9	478 30.8	192 12.4	29 1.9	63 4.1	22 1.4	63 4.1	14 0.9	2,510 161.8	1,551 100.0
性別	男性	622 81.1	175 22.8	178 23.2	70 9.1	12 1.6	18 2.3	7 0.9	35 4.6	5 0.7	1,074 140.0	767 100.0
	女性	462 58.9	305 38.9	300 38.3	122 15.6	17 2.2	45 5.7	15 1.9	28 3.6	9 1.1	1,436 183.2	784 100.0
年齢別	65～69歳	315 75.0	106 25.2	121 28.8	53 12.6	5 1.2	12 2.9	2 0.5	26 6.2	1 0.2	539 128.3	420 100.0
	70～74歳	326 76.7	133 31.3	114 26.8	40 9.4	9 2.1	22 5.2	3 0.7	12 2.8	3 0.7	627 147.5	425 100.0
	75～79歳	279 72.3	114 29.5	134 34.7	46 11.9	5 1.3	13 3.4	7 1.8	11 2.8	3 0.8	688 178.2	386 100.0
	80～84歳	128 60.4	69 32.5	70 33.0	32 15.1	5 2.4	12 5.7	7 3.3	8 3.8	5 2.4	555 261.8	212 100.0
	85～89歳	30 35.7	44 52.4	30 35.7	14 16.7	4 4.8	3 3.6	1 1.2	6 7.1	2 2.4	555 660.7	84 100.0
	90歳以上	6 25.0	14 58.3	9 37.5	7 29.2	1 4.2	1 4.2	2 8.3	0 0.0	0 0.0	101 420.8	24 100.0
要介護区分別	一般高齢者	1,047 71.7	442 30.3	442 30.3	181 12.4	27 1.8	60 4.1	16 1.1	56 3.8	13 0.9	2,349 160.9	1,460 100.0
	要支援1	22 44.9	24 49.0	23 46.9	5 10.2	1 2.0	2 4.1	4 8.2	0 0.0	0 0.0	35 71.4	49 100.0
	要支援2	15 35.7	14 33.3	13 31.0	6 14.3	1 2.4	1 2.4	2 4.8	7 16.7	1 2.4	49 116.7	42 100.0

(3) 家族や友人・知人以外の相談相手

問51 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(いくつでも)

「そのような人はいない」の42.9%が最も高くなっています。家族や友人・知人以外の相談相手としては、「医師・歯科医師・看護師」の25.8%が最も高く、「地域包括支援センター・役場」の21.6%が続きます。前回と比較して、「そのような人はいない」「地域包括支援センター・役場」が上昇しています。

【全体集計】



(4) 友人・知人との関係

「友人・知人との関係」についての設問で、「会う頻度」については、「月に何度かある」の28.3%が最も高く、「年に何度かある」の23.4%、「週に何度かある」の22.8%が続きます。前回と比較し、「年に何度かある」「ほとんどない」が、若干上昇しています。

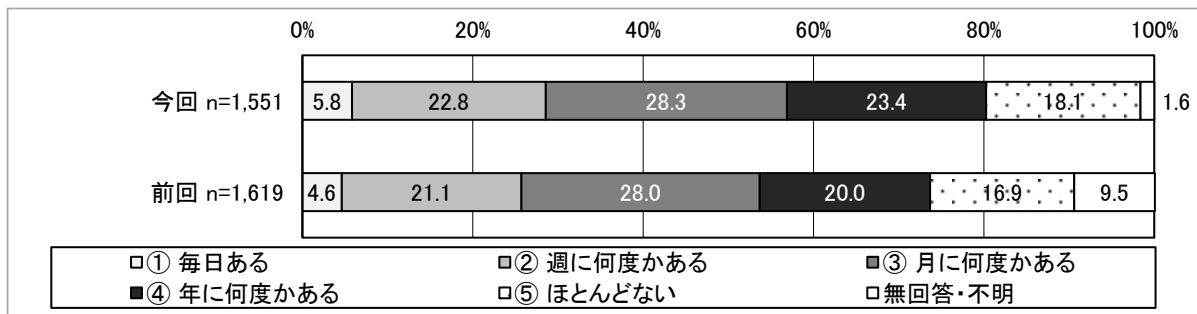
「この1か月間に会った人数」については、「1～2人」の25.9%が最も高く、「3～5人」の22.5%が続きます。前回と比較し、「10人以上」が上昇しています。

「よく会う人との関係」については、「近所・同じ地域の人」の40.4%が最も高く、「仕事での同僚・元同僚」の36.0%、「趣味や関心が同じ友人」の35.8%が続きます。前回と比較し、「仕事での同僚・元同僚」「学生時代の友人」が若干上昇し、「近所・同じ地域の人」が低下しています。

① 友人・知人に会う頻度

問52 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか(回答は1つ)

【全体集計】

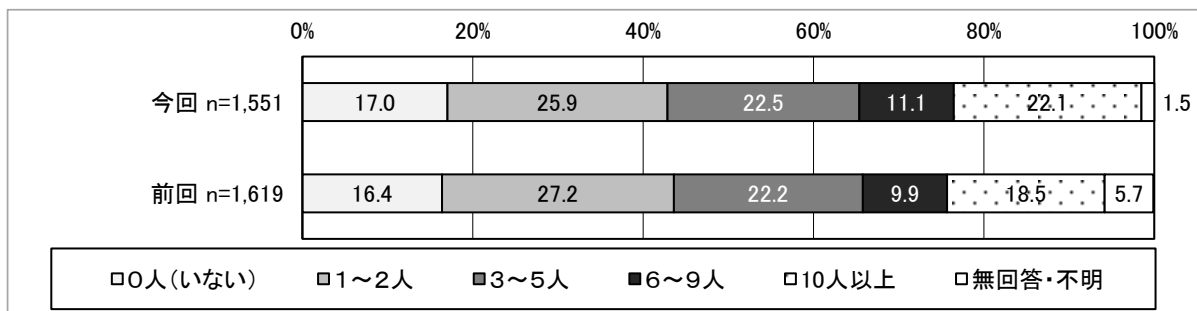


② この1か月間に会った人数

問53 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか(回答は1つ)

同じ人には何度会っても1人と数えることとします。

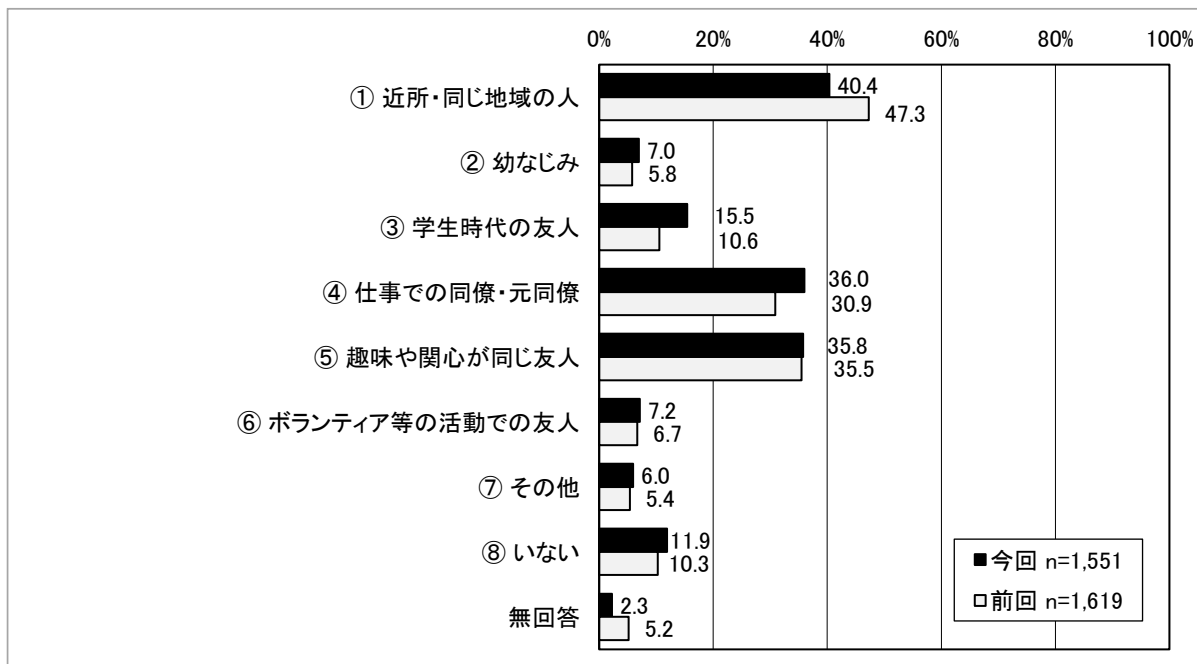
【全体集計】



③ よく会う人との関係

問54 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか(いくつでも)

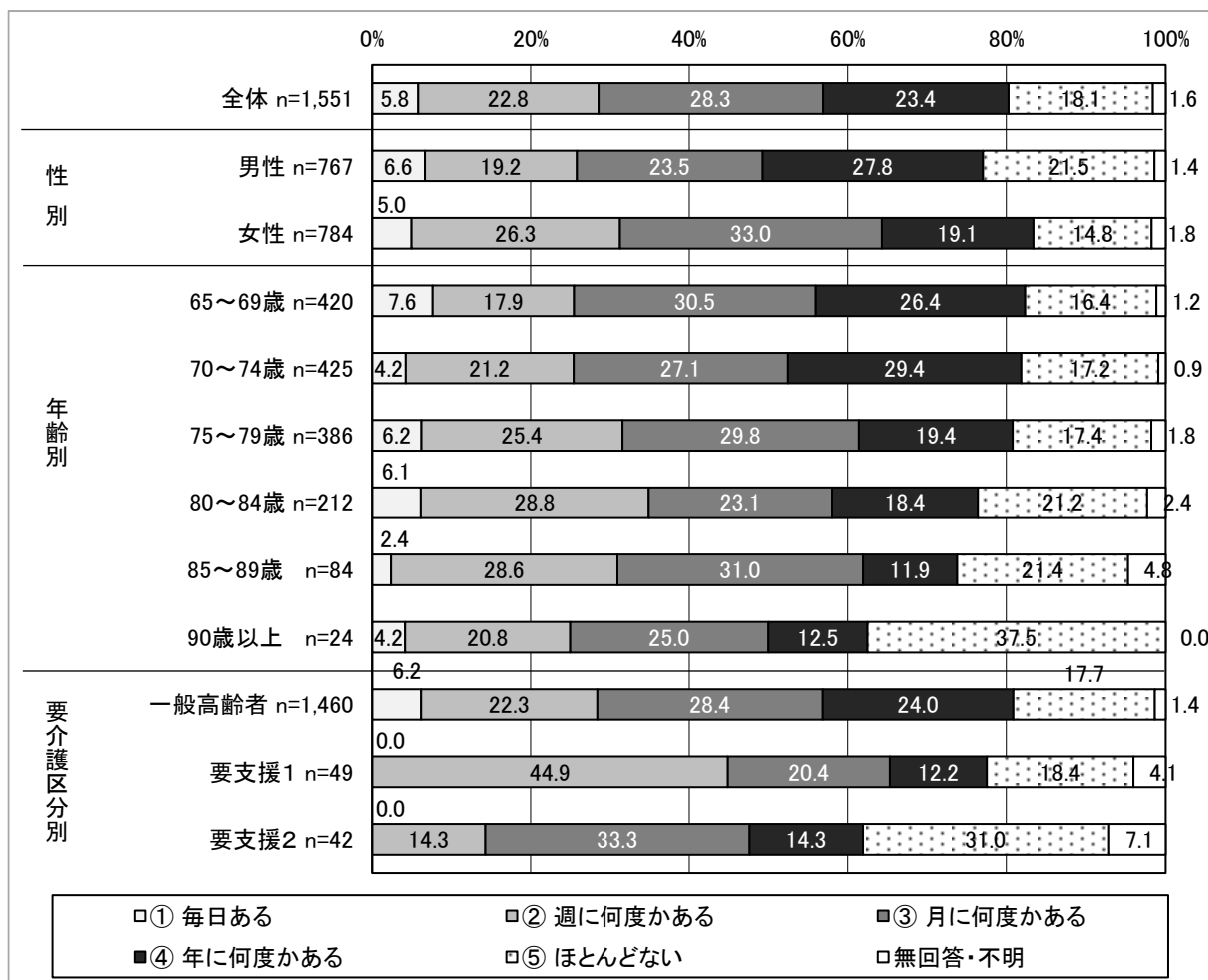
【全体集計】



【属性別クロス集計】

属性別に「友人・知人に会う頻度」についてみると、性別では、「男性」は頻度の少ない「年に何度かある」「ほとんどない」の回答割合が高く、「女性」は頻度の多い「週に何度かある」「月に何度かある」が高くなっています。年齢別にみると、年齢が高くなるほど頻度の少ない回答割合が高くなり、「90歳以上」の「ほとんどない」が37.5%まで上昇しています。要介護区分別では、「要支援2」は頻度の少ない回答が大きくなり、「ほとんどない」は31.0%になっています。

■「友人・知人に会う頻度」のクロス集計



8. 健康について

(1) 現在の健康状態と幸せの程度

現在の健康状態と幸せの程度について評価しています。

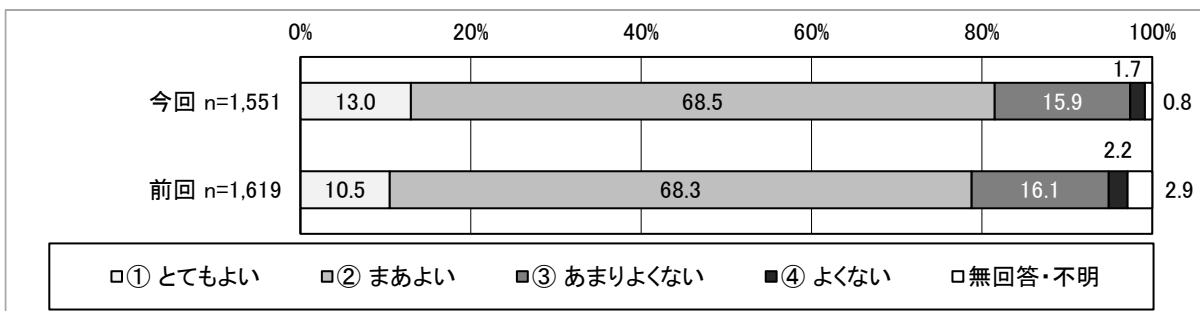
現在の健康状態について4段階で評価をしており、「まあよい」が68.5%を占め、「あまりよくない」の15.9%が続きます。前回と比較し、「とてもよい」が若干上昇しています。

現在の幸せの程度については11段階で評価をしており、「8点」の25.7%が最も高く、「7点」の18.4%、「5点」の17.6%と続きます。前回と比較すると、「8点」「7点」が若干上昇しています。

① 現在の健康状態

問55 現在のあなたの健康状態はいかがですか(回答は1つ)

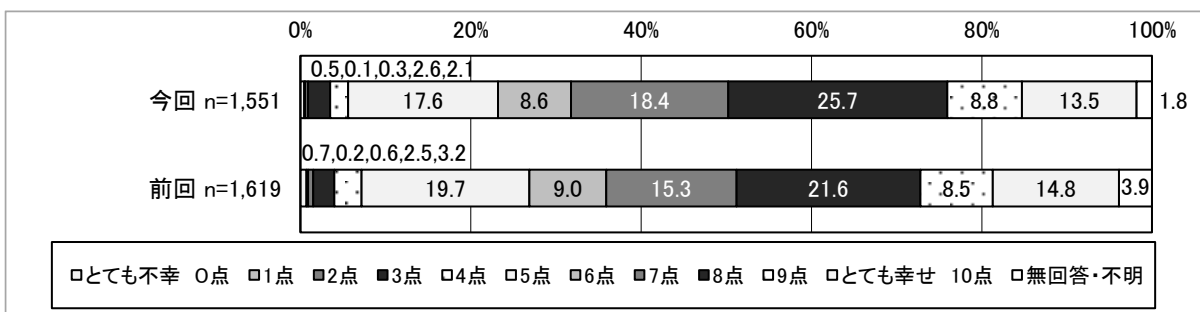
【全体集計】



② 現在の幸せの程度

問56 あなたは、現在どの程度幸せですか(回答は1つ)
 (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

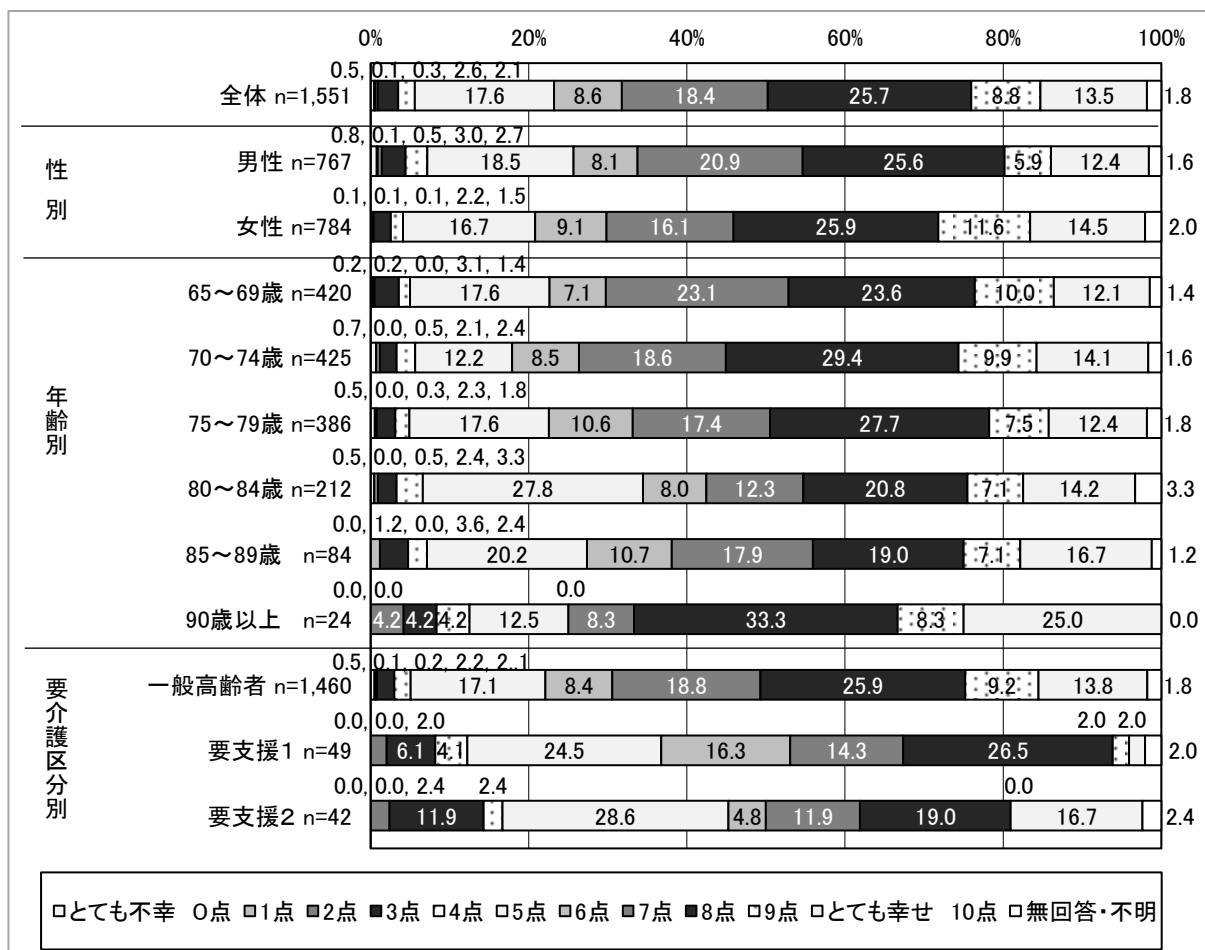
【全体集計】



【属性別クロス集計】

属性別に「現在の幸せの程度」についてみると、性別では、「女性」の幸せ評点の高い回答の割合が高くなっています。年齢別では、「80～84歳」「85～89歳」で中間地の「5点」の回答割合が高く、「90歳以上」「85～89歳」で満点の「とても幸せ 10点」の回答割合が高くなっています。要介護区分別では、「要支援1」「要支援2」で「5点」の回答割合が高く、「要支援2」で「とても幸せ 10点」が高くなっています。

■「現在の幸せの程度」のクロス集計



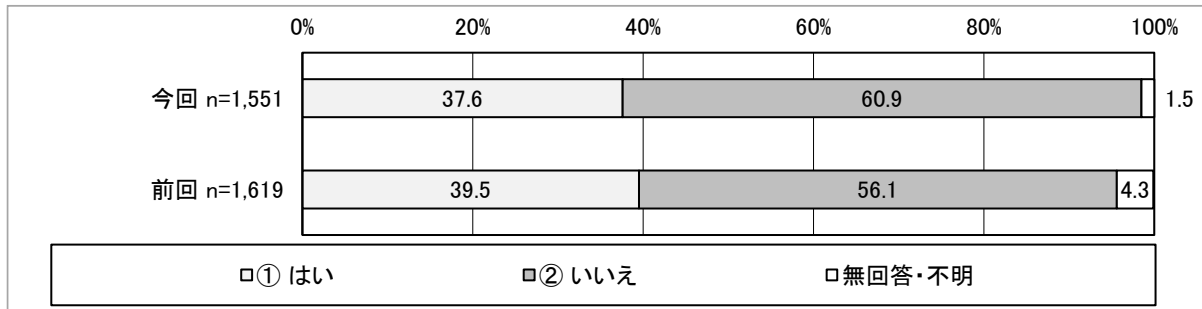
(2)この1か月間のこころの状況

「気分が沈んだりした状況の有無」については、「はい（ある）」が37.6%になっています。
「物事に興味がわからない状況の有無」については、「はい（ある）」は23.2%になっています。
前回と比較し、どちらも「はい」が、若干低下しています。

① 気分が沈んだりした状況の有無

問57 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか(回答は1つ)

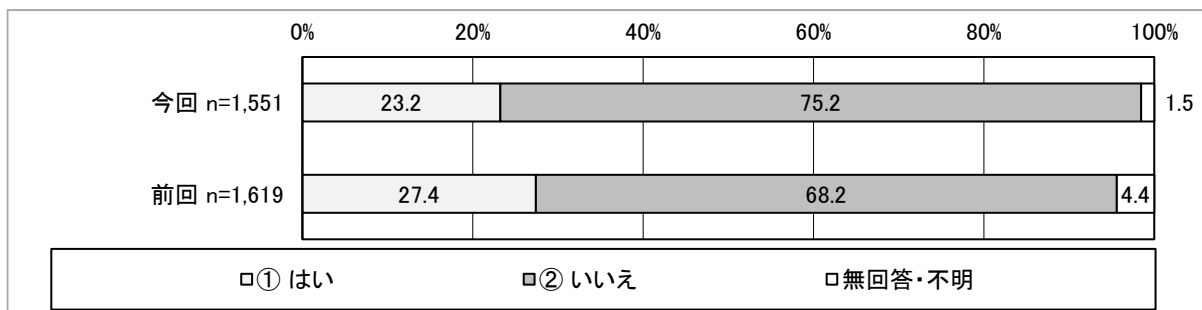
【全体集計】



② 物事に興味がわからない状況の有無

問58 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか(回答は1つ)

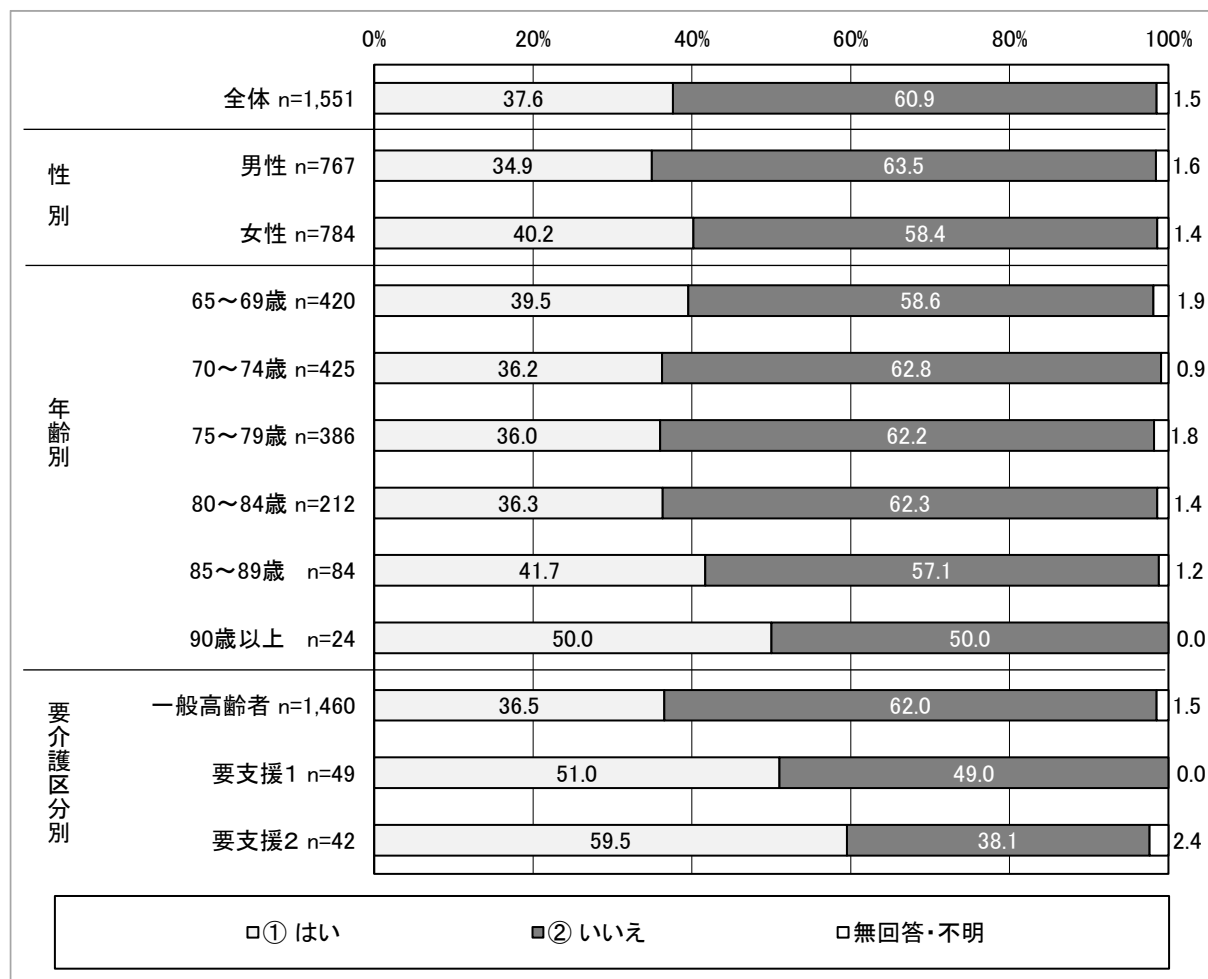
【全体集計】



【属性別クロス集計】

属性別に「気分が沈んだりした状況の有無」についてみると、性別では「女性」の「はい（ある）」の割合が若干高く、年齢別では、年齢が高くなるほど「はい（ある）」の回答が高くなり、「90歳以上」では50.0%までになっています。要介護区分別では、要介護度が高いほど「はい（ある）」が高く「要支援2」で59.5%になっています。

■「気分が沈んだりした状況の有無」のクロス集計



(3) 飲酒、喫煙の習慣

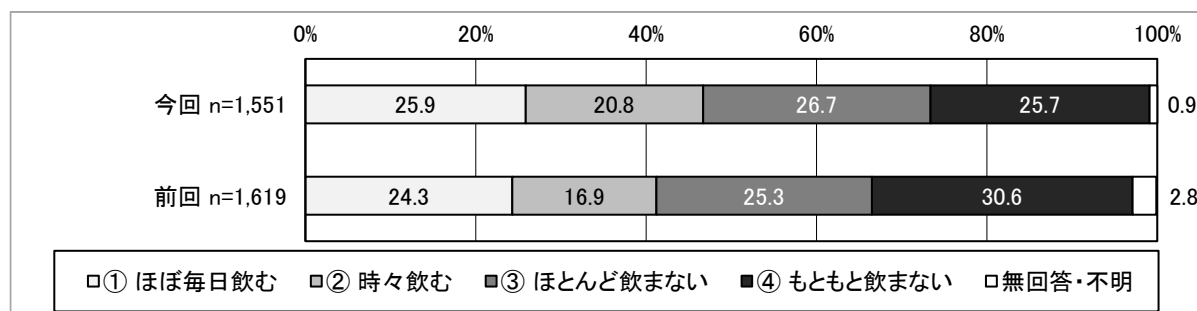
「飲酒」については、「ほとんど飲まない」の26.7%が最も高く、「ほぼ毎日飲む」の25.9%、「もともと飲まない」の25.7%と続きます。前回と比較し、「時々飲む」が若干上昇し、「もともと飲まない」が若干低下しています。

「喫煙」については、「もともと吸っていない」が55.4%を占め、「吸っていたがやめた」の34.1%が続きます。前回と比較し、「吸っていたがやめた」が若干上昇しています。

① 飲酒の習慣

問59 お酒は飲みますか(回答は1つ)

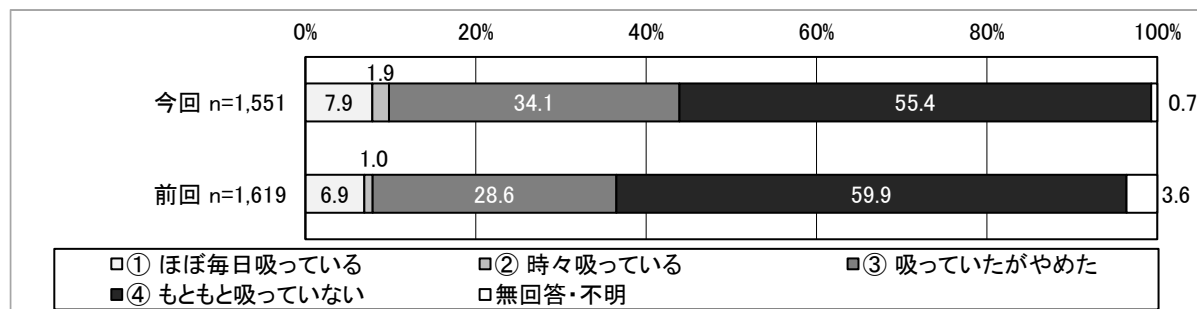
【全体集計】



② 喫煙の習慣

問60 タバコは吸っていますか(回答は1つ)

【全体集計】

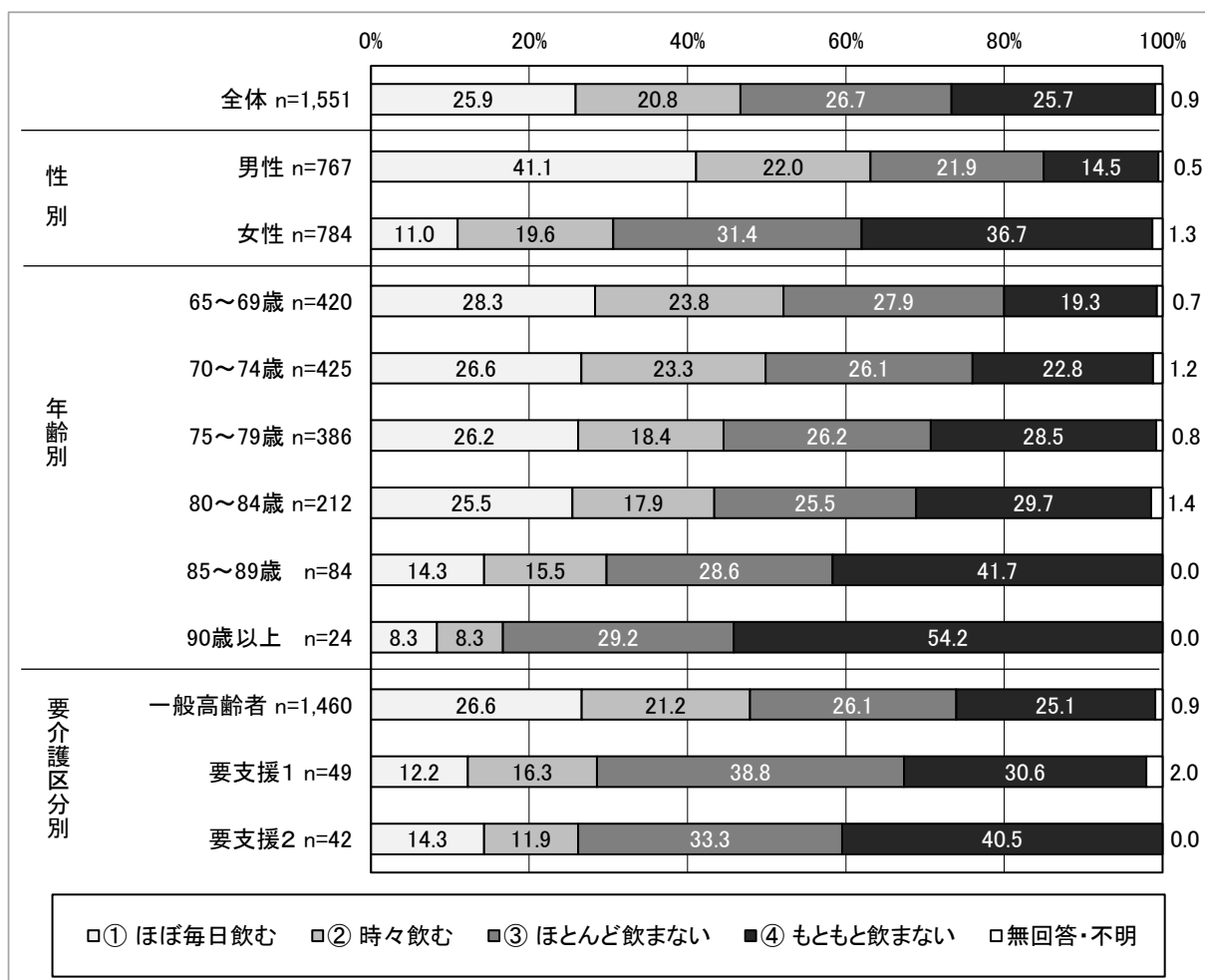


【属性別クロス集計】

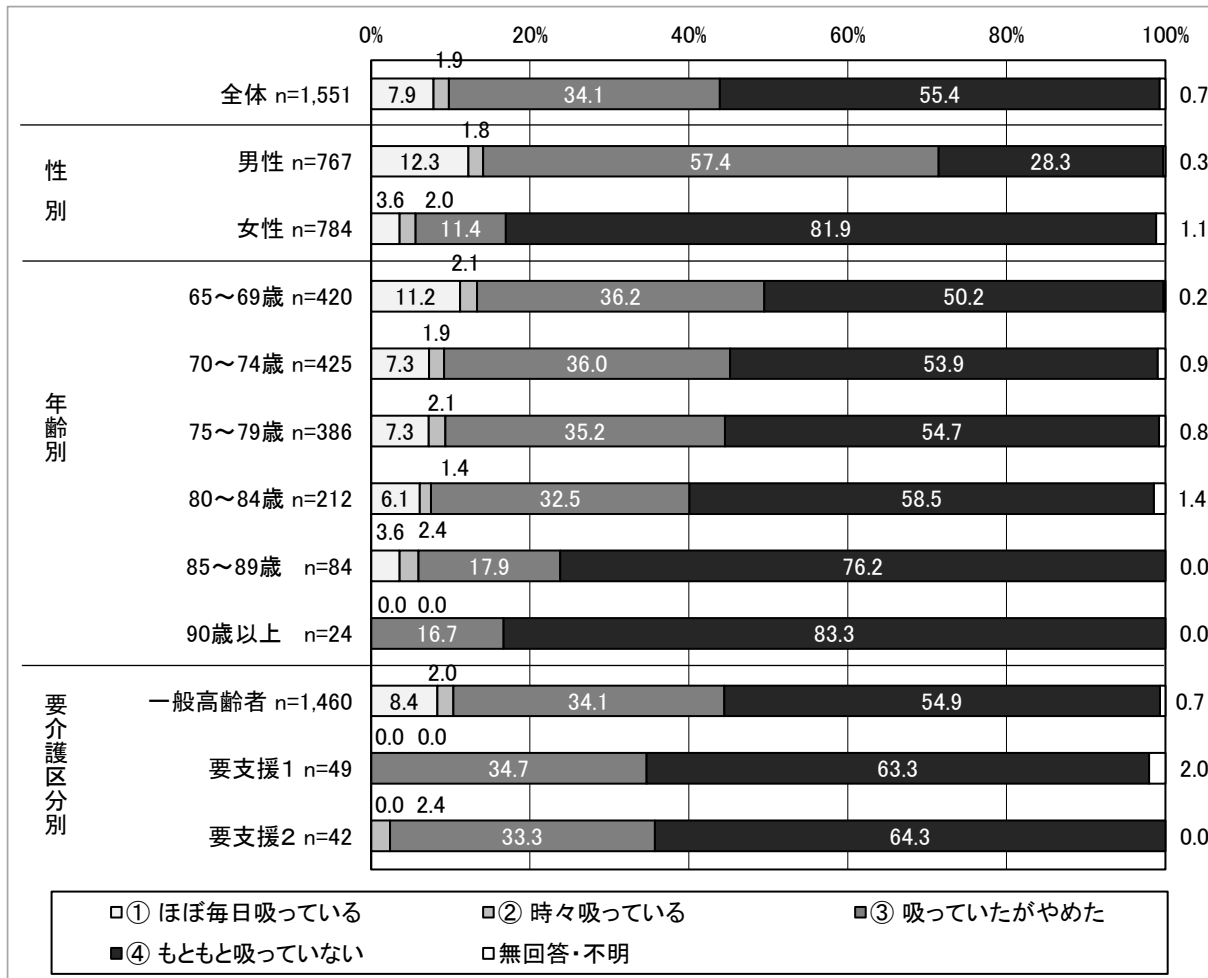
属性別に「飲酒の習慣」についてみると、性別による明確な差が見られ、「男性」の「ほぼ毎日飲む」が41.1%と「女性」を大きく上回っています。年齢別では、「ほぼ毎日飲む」の割合は「85～89歳」で14.3%と一段と低くなり、「90歳以上」は8.3%になっています。要介護区分別では、「ほぼ毎日飲む」は「要支援1」が12.2%、「要支援2」が14.3%と低くなっています。

「喫煙の習慣」については、性別では、「男性」の「ほぼ毎日吸っている」が12.3%となっており、「女性」は3.6%とごくわずかになっています。年齢別では年齢が高くなるほど「ほぼ毎日吸っている」は低下し、「90歳以上」では0.0%となっています。

■「飲酒の習慣」のクロス集計



■「喫煙の習慣」のクロス集計

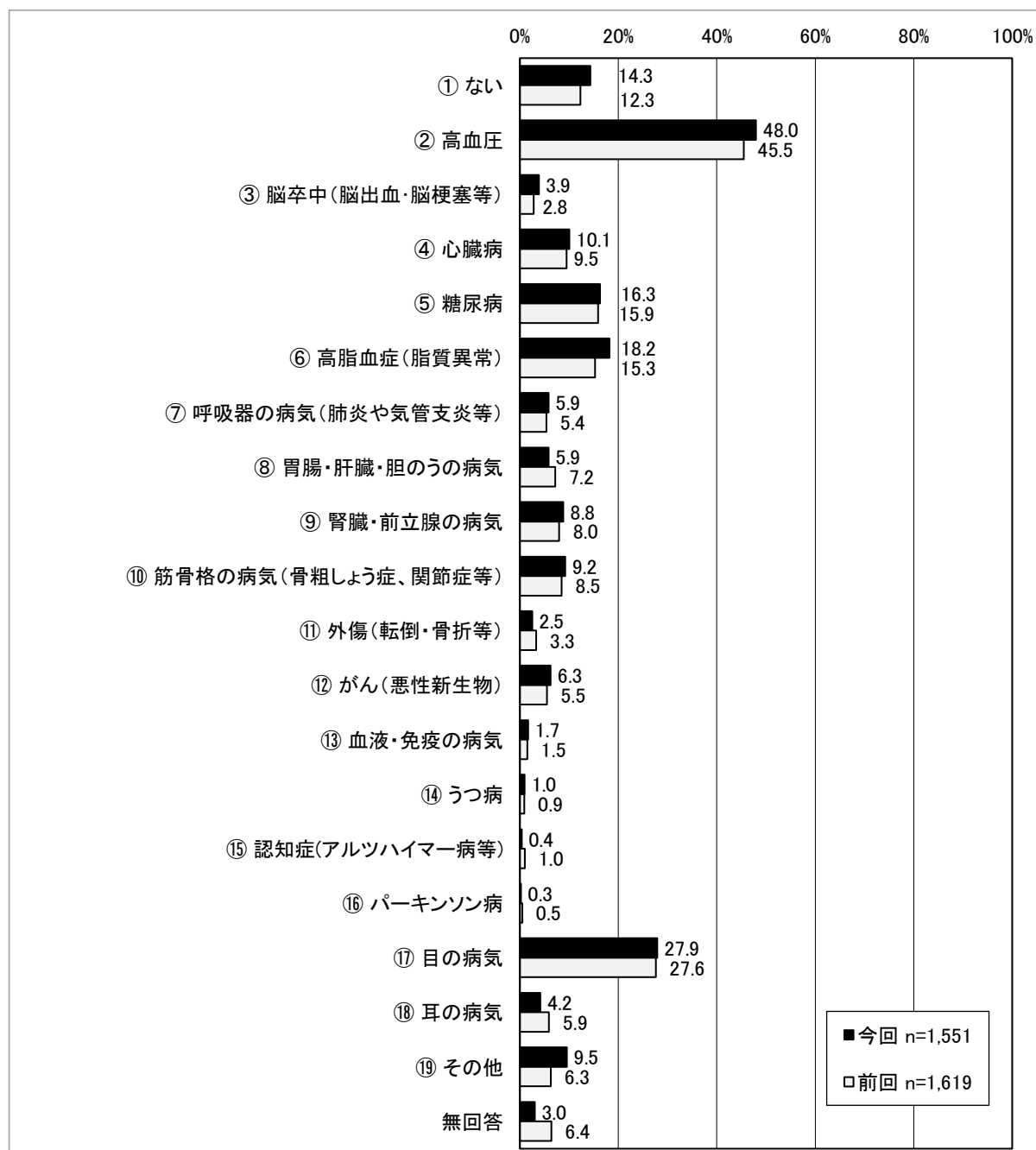


(4) 治療中、または後遺症のある病気の有無

問61 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか(いくつでも)

「高血圧」の48.0%が突出して高く、「目の病気」の27.9%、「高脂血症(脂質異常)」の18.2%、「糖尿病」の16.3%が続きます。前回と比較し、ほとんど差はありません。

【全体集計】



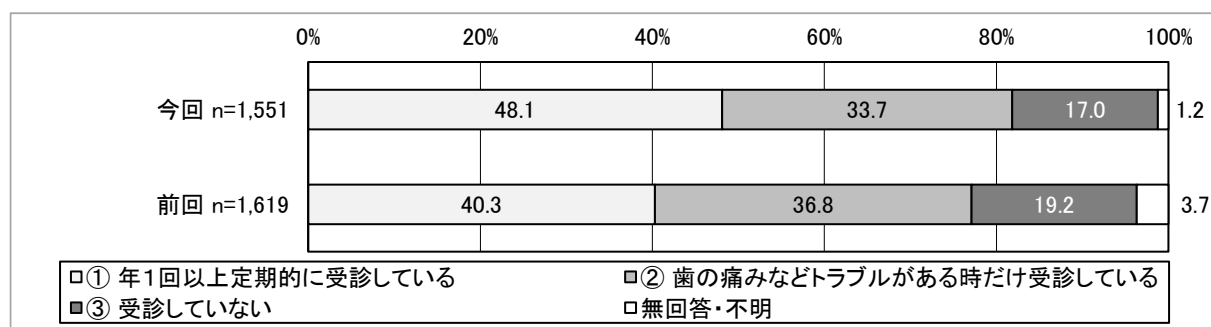
(5) 歯科診療の受診

問62 歯科検診を受診していますか(回答は1つ)

「年1回以上定期的に受診している」の48.1%が最も高く、「歯の痛みなどトラブルがある時だけ受診している」の33.7%、「受診していない」の17.0%と続きます。前回と比較し、「年1回以上定期的に受診している」が上昇しています。

属性別にみると、性別では「女性」の「年1回以上定期的に受診している」の割合が「男性」を上回っており、年齢別では、年齢が高くなるほど「年1回以上定期的に受診している」の回答が低くなり、「90歳以上」では29.2%まで低下しています。要介護区分別では、「要支援2」の「年1回以上定期的に受診している」が21.4%と大幅に低くなっています。

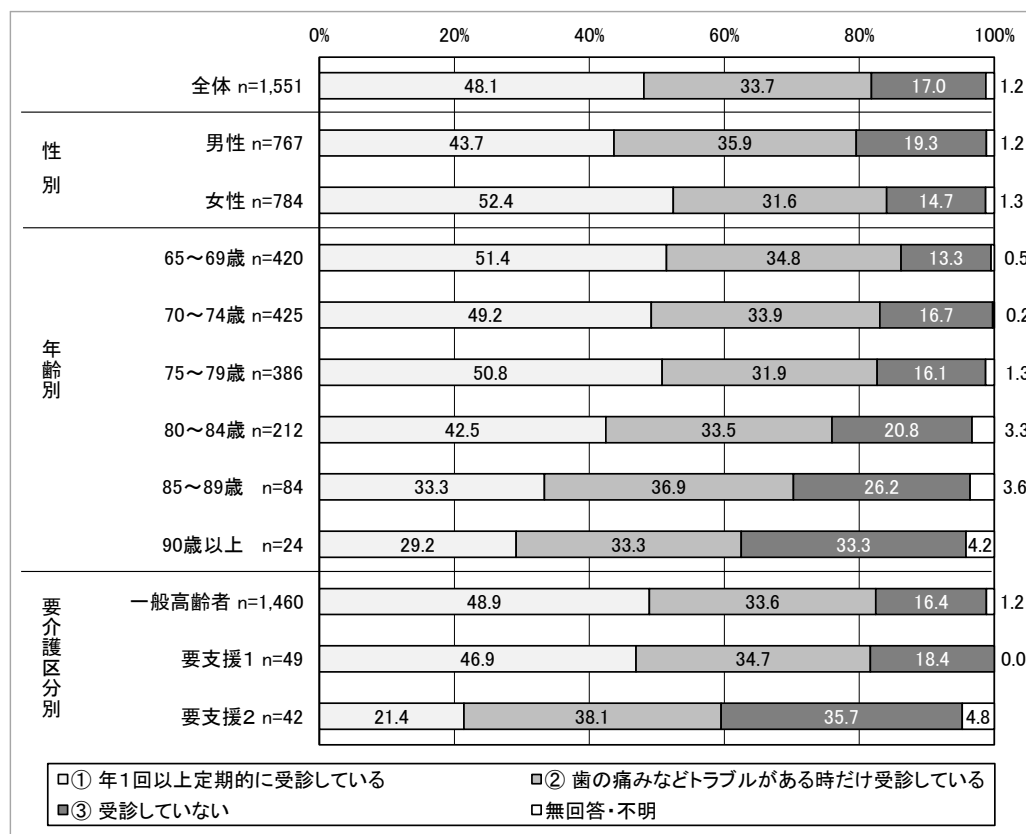
【全体集計】



選択肢の要約：

②の全文は、「歯の痛みや口腔内にトラブルがある時だけ受診している」

【属性別クロス集計】



(6) 耳の状態

耳の聞こえの状態については、「全く生活に支障はない」が52.7%と過半数を占め、「聞こえづらくなったが、生活に支障はない」の36.8%が続きます。なお、今回は調査項目がありませんでした。

属性別にみると、性別では「全く生活に支障はない」は、「女性」が「男性」を上回り、年齢別では、年齢が高くなるほど低下し、「90歳以上」では20.8%まで低下しています。要介護区分別では、「全く生活に支障はない」は、「要支援1」が38.8%、「要支援2」38.1%とほぼ同じ割合を示しています。

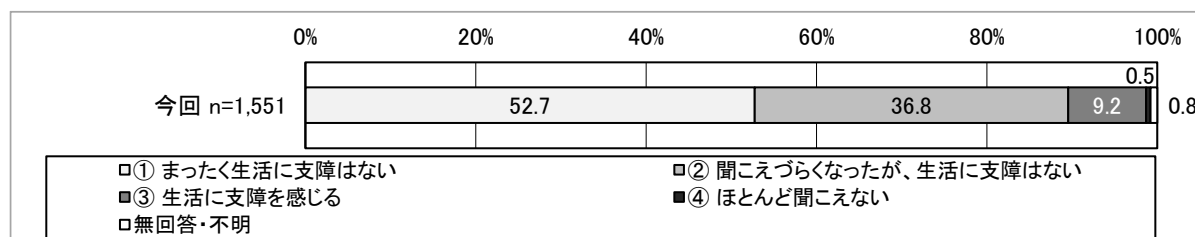
「全く生活に支障がない」以外に回答した方への設問で、医療機関の受診の有無については、「ある」は30.1%となっています。

同様に「全く生活に支障がない」以外に回答した方への設問で、補聴器の使用については、「使用している」が9.4%で、「使用していない（使用しているが使用していないを含む）」は78.1%を占めます。また、「使用していない」方への質問で、補聴器を使用していない理由については、「煩わしいから」の21.3%が最も高く、「高額だから（金銭的負担が大きい）」の19.2%が続きます。また「その他」が41.4%と理由の回答を大幅に上回っています。

① 耳の聞こえの状態

問63 現在、あなたの耳の聞こえの状態はいかがですか(回答は1つ)

【全体集計】

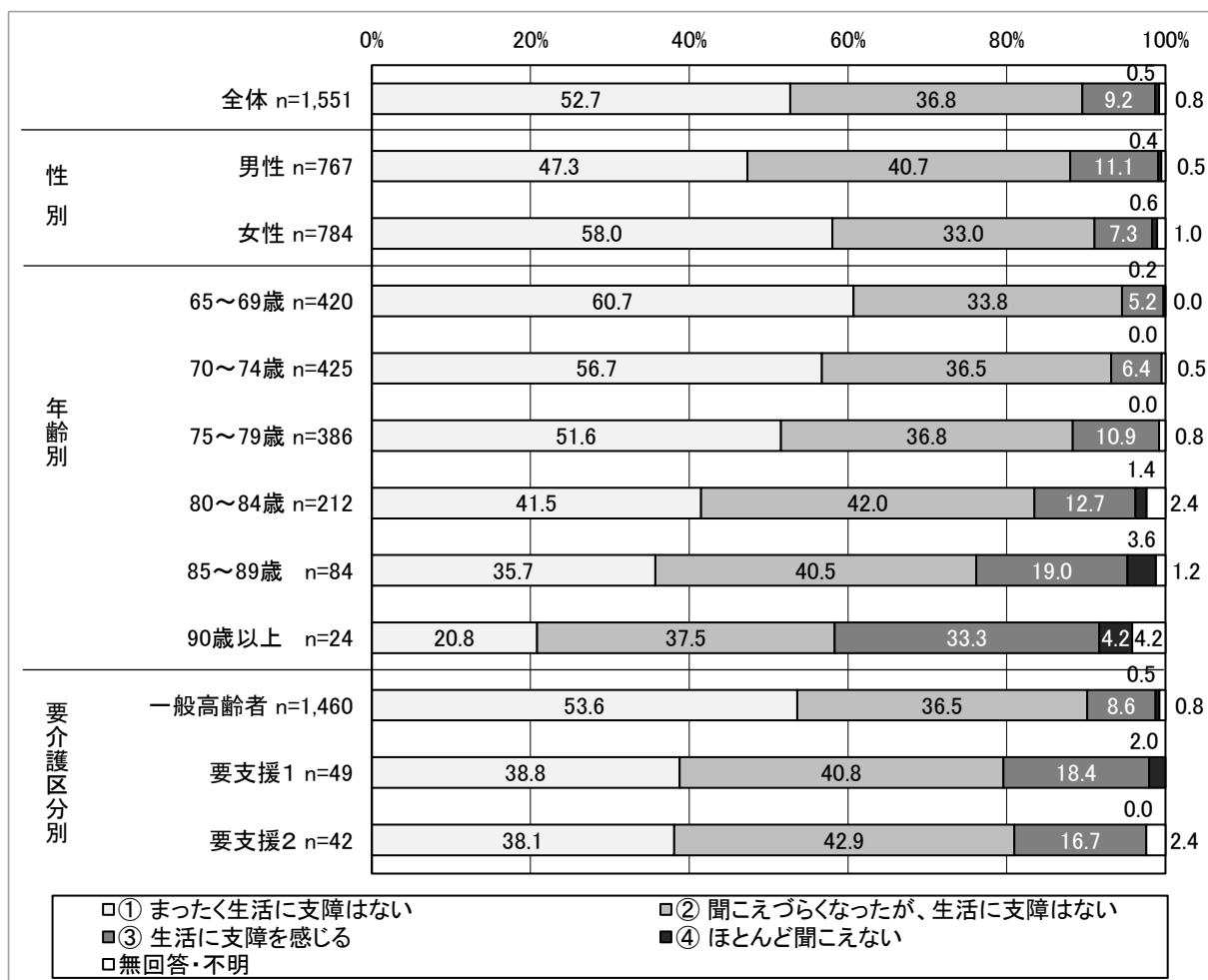


注：今回は調査項目なし

選択肢の要約：

③の全文は、「生活に支障を感じる（会話やテレビ、電話の音などが聞こえにくい）」

【属性別クロス集計】

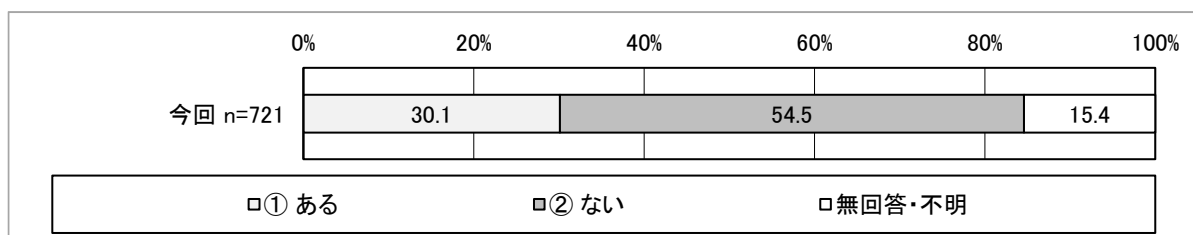


② 医療機関の受診の有無

【問63で「①まったく生活に支障はない」以外の方のみ】

問63-① 聞こえにくさで医療機関を受診したことはありますか(回答は1つ)

【全体集計】

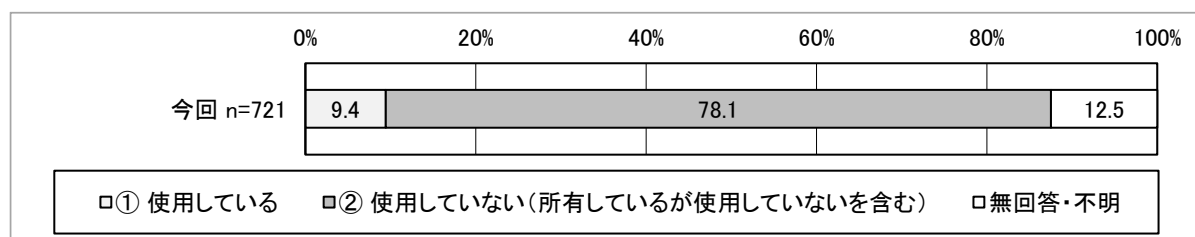


注：前回は調査項目なし

③ 補聴器の使用

【問63で「①まったく生活に支障はない」以外の方のみ】
問63-② 現在、補聴器を使用していますか(回答は1つ)

【全体集計】

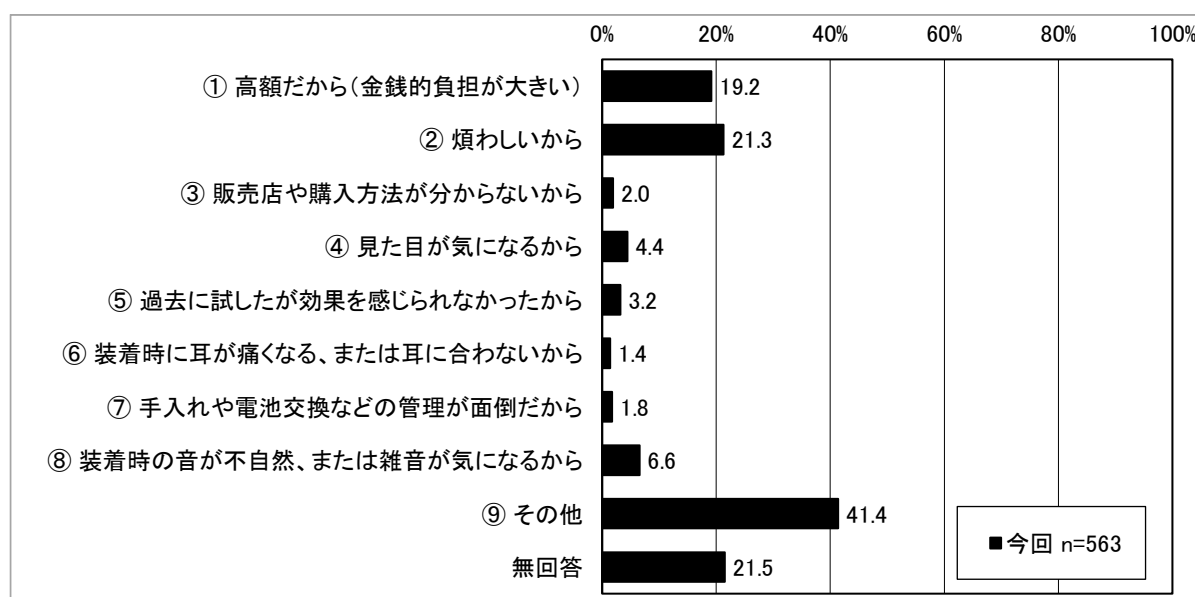


注：前回は調査項目なし

④ 補聴器を使用していない理由

【問63-②で「②使用していない(所有しているが使用していないを含む)」の方のみ】
問63-③ 補聴器を使用していない理由は次のどれですか(いくつでも)

【全体集計】



注：前回は調査項目なし

(7) 新型コロナウイルス感染症

「感染の有無」については、「ある」が28.9%、「ない」が70.5%の構成になっています。前回は調査項目がありませんでした。

属性別にみると、性別では差はありません。年齢別では、年齢が高くなるほど「ある」の回答は低くなり、「85～89歳」が15.5%、「90歳」が16.7%になっています。要介護区分別では、要介護度が高いほど「ある」の回答は低く、「要支援1」は24.5%、「要支援2」は16.7%となっています。

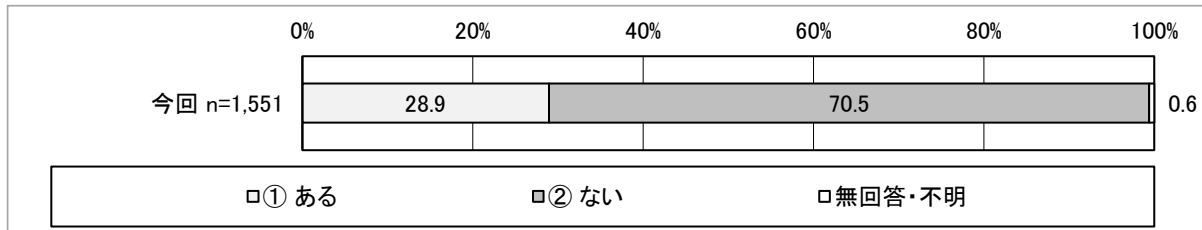
「コロナになった後の症状の有無」については、「疲労感」の14.7%が最も高く、その他の回答は10%未満となっています。なお、無回答が77.3%となっています。

「その症状で医療機関の受診の有無」については、「ある」が36.4%、「ない」が63.6%の構成になっています。

① 感染の有無

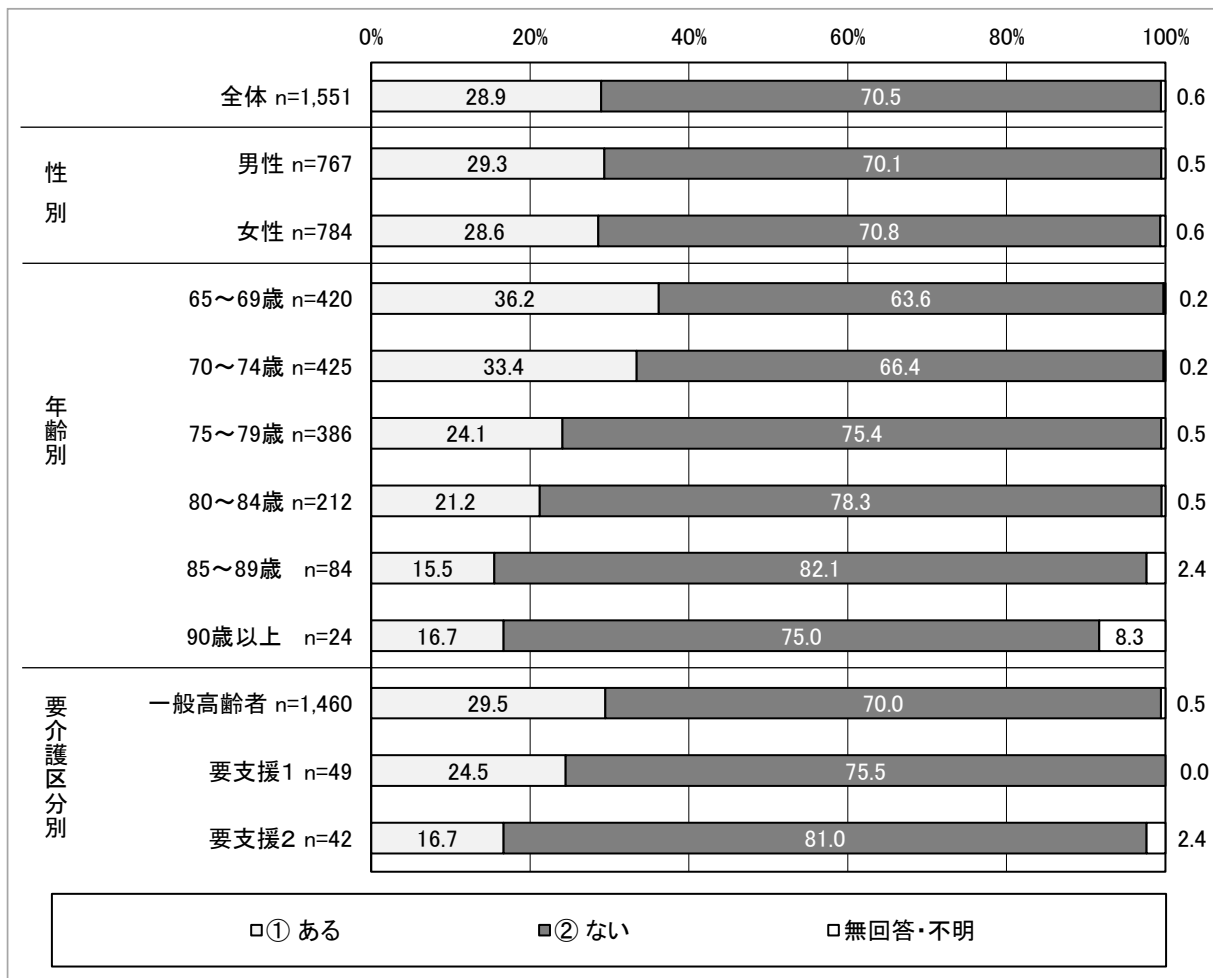
問64 あなたは、新型コロナウイルス感染症にかかったことはありますか(回答は1つ)

【全体集計】



注：前回は調査項目なし

【属性別クロス集計】

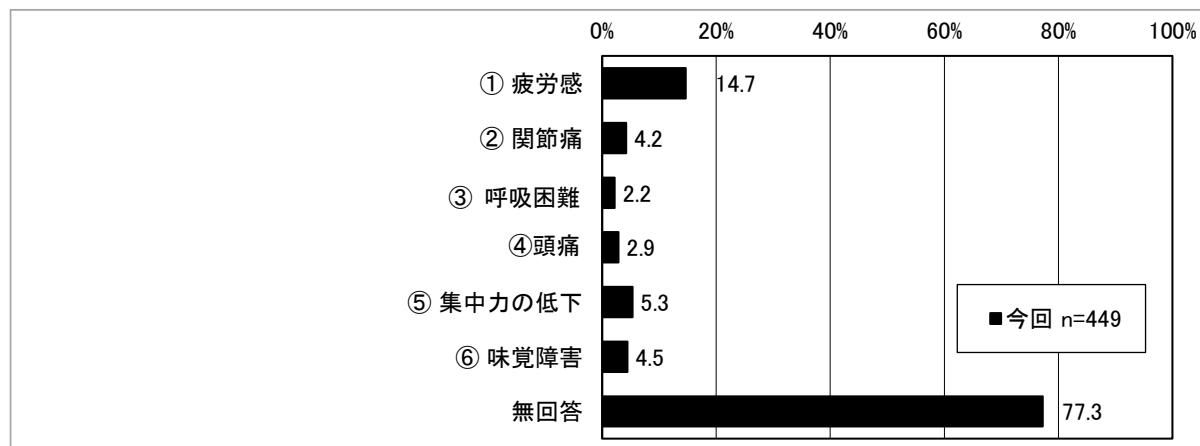


② コロナになった後の症状の有無

【問64で「①ある」の方のみ】

問64-① 新型コロナウイルス感染症になった後、3カ月以内に現れて、2カ月以上続いている症状はありますか(いくつでも)

【全体集計】



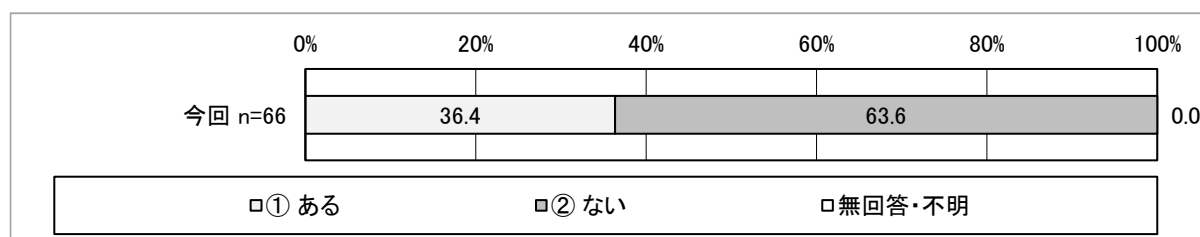
注：前回は調査項目なし

③ その症状で医療機関の受診の有無

【問64-①の各症状に当てはまった方のみ】

問64-② その症状で医療機関を受診したことはありますか(回答は1つ)

【全体集計】



注：前回は調査項目なし

9. 認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 認知症の方の有無

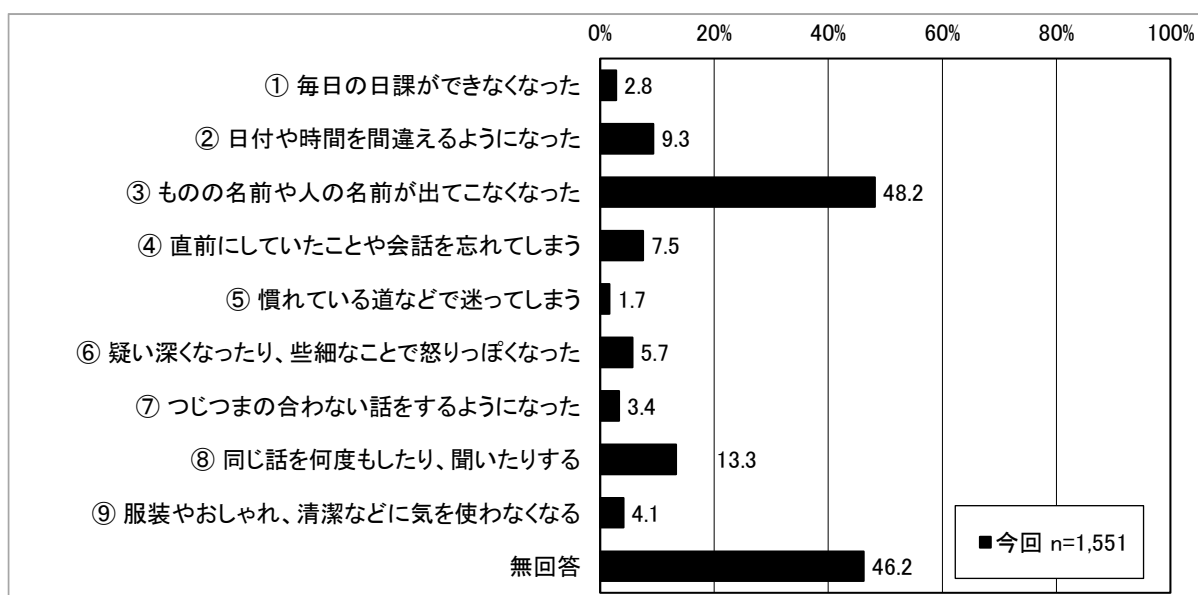
あなた自身又は家族の「認知症の症状の有無」については、「ものの名前や人の名前が出てこなくなった」の48.2%が最も高く、他は一段と低くなり、「同じ話を何度もしたり、聞いたりする」の13.3%、「日付や時間を間違えるようになった」の9.3%が続きます。

「認知症家族の有無」については、「はい」が7.8%となっています。属性別に「はい」をみると、性別では「男性」が若干上回っています。年齢別では年齢による相関は見られません。要介護区分別では、「要支援2」が高くなっています。

① 認知症の症状の有無

問65 あなた自身又は家族で、次の項目に当てはまる人はいますか(いくつでも)

【全体集計】



注：前回は調査項目なし

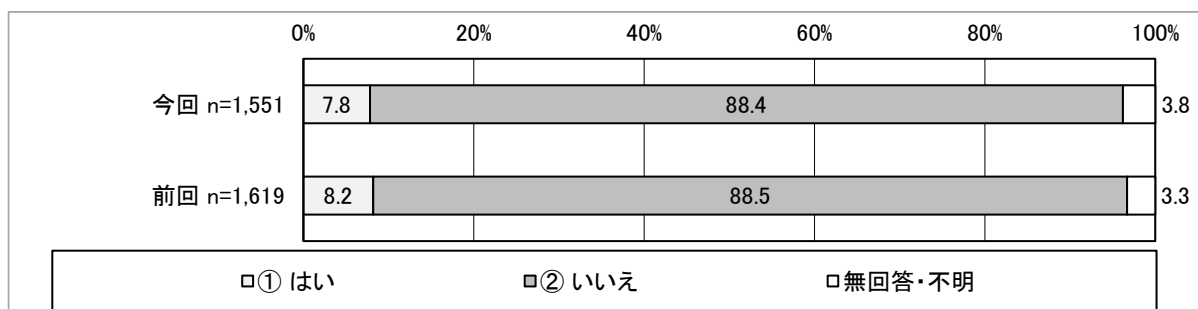
選択肢の要約：

⑨の全文は、「服装がだらしなくなる、おしゃれや清潔などに気を使わなくなる」

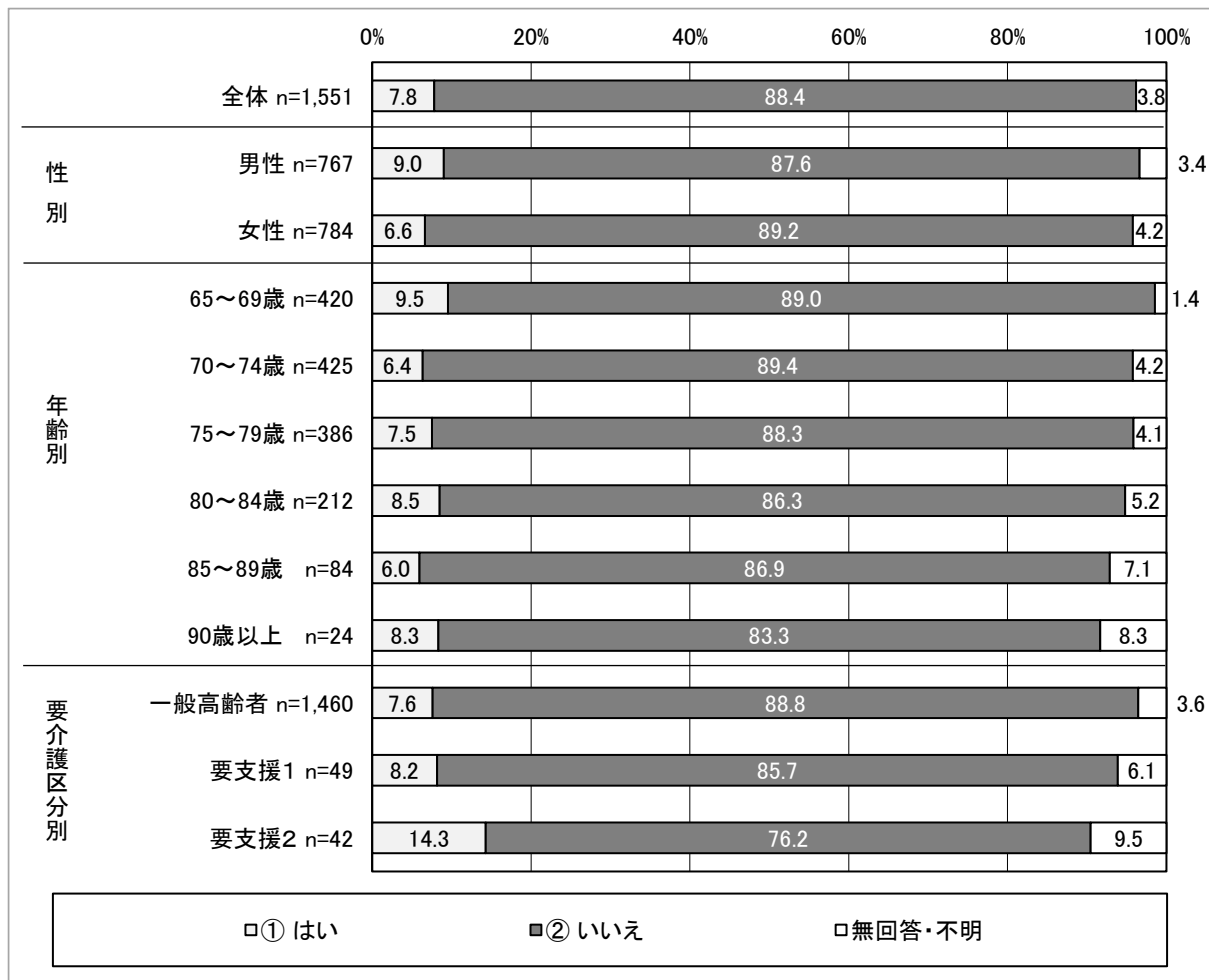
② 認知症家族の有無

問66 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか(回答は1つ)

【全体集計】



【属性別クロス集計】

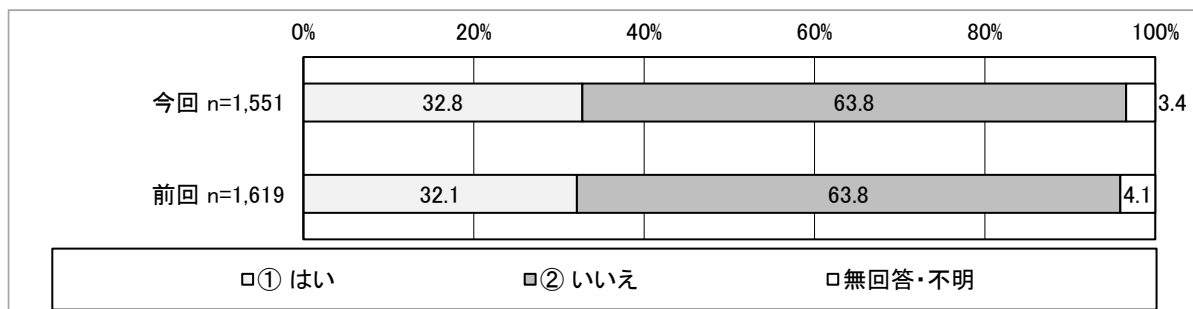


(2) 認知症の相談窓口の認知

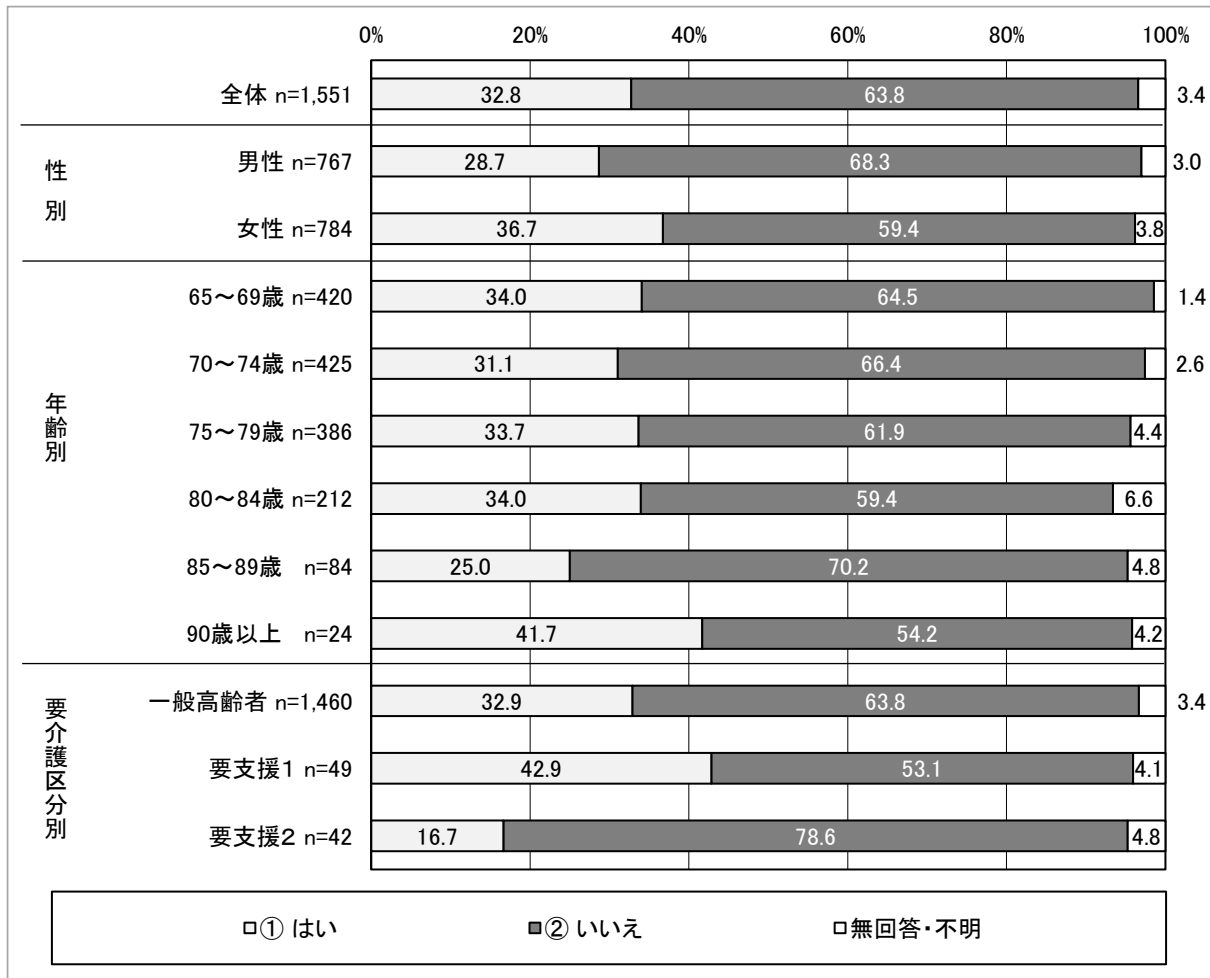
問67 認知症に関する相談窓口を知っていますか(回答は1つ)

「はい（知っている）」が32.8%であり、前回と比較し、ほとんど差はありません。属性別に「はい」をみると、性別では「女性」が上回り、年齢別では「85～89歳」が低くなっています。要介護区分別では、「要支援2」が低くなっています。

【全体集計】



【属性別クロス集計】

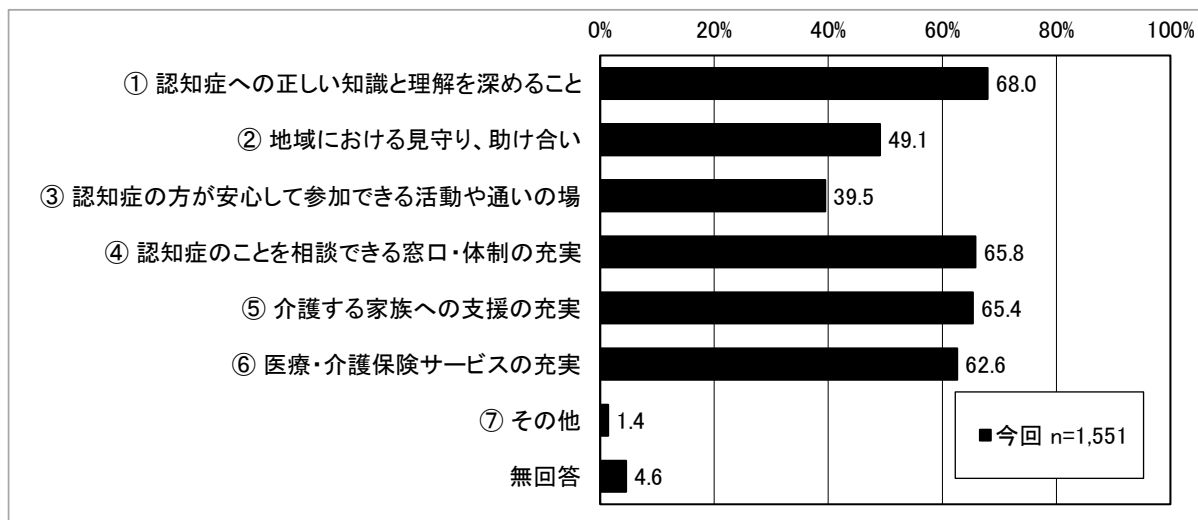


(3) 地域で生活していくための必要な取り組み

問68 認知症になっても、地域で生活していくための取り組みで必要なことは何だと思いますか(いくつでも)

「認知症への正しい知識と理解を深めること」が68.0%と最も高く、「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」の65.9%、「介護する家族への支援の充実」の65.4%、「医療・介護保険サービスの充実」の62.6%が続きます。

【全体集計】



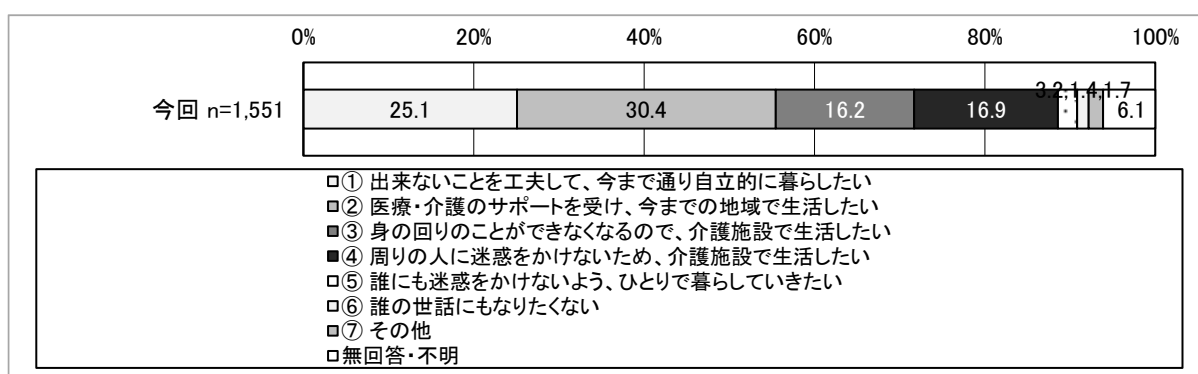
注：前回は調査項目なし

(4) 認知症になったら、自分にとって一番望ましい生き方

問69 あなた自身が認知症になったら、自分にとって1番望ましい生き方は次のどれですか(回答は1つ)

同様に、新しい設問です。「医療・介護のサポートを受け、今までの地域で生活したい」が30.4%と最も高く、「出来ないことを工夫して、今まで通り自立的に暮らしたい」の25.1%が続きます。

【全体集計】



注：前回は調査項目なし

選択肢の要約：

- ①の全文は、「出来ないことを工夫して補いながら、今まで通り自立的に暮らしていきたい」
- ②の全文は、「医療・介護のサポートを受けながら、今まで生活してきた地域で生活したい」
- ③の全文は、「身の回りのことが出来なくなるので、介護施設でサポートを受けながら安心して生活したい」
- ④の全文は、「周りの人に迷惑をかけてしまうので、介護施設でサポートを受けながら生活したい」

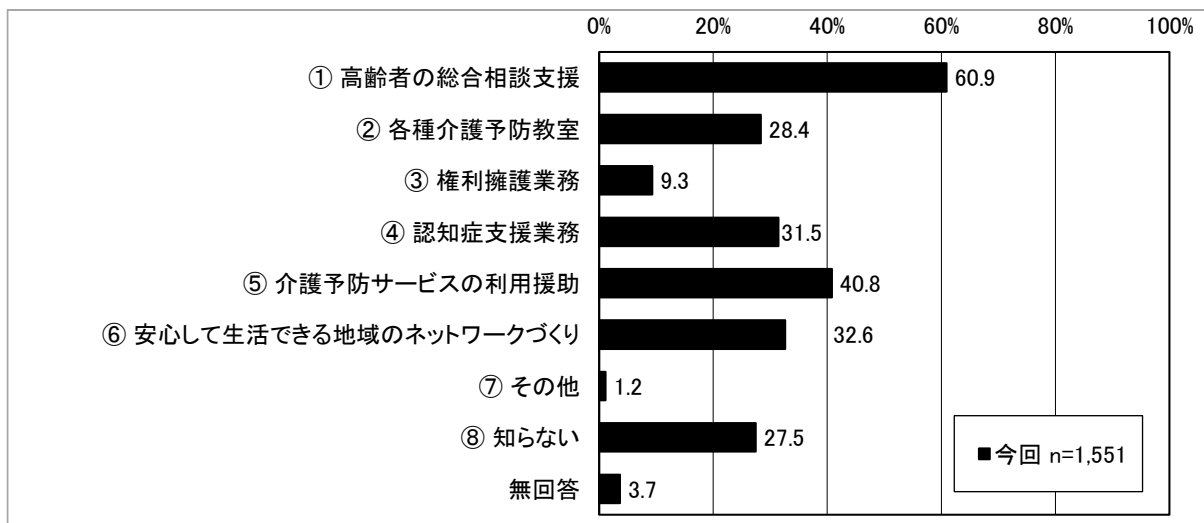
10. 地域包括支援センターについて

(1) 包括支援センターの役割の認知

問70 地域包括支援センターの役割を知っていますか(いくつでも)

知っている項目で最も回答割合が高いのは「高齢者の総合相談支援」の61.0%で過半数を占め、「介護予防サービスの利用援助」の40.8%が続きます。属性別にみると、性別では全体的に「女性」の回答割合が高くなっています。年齢別では、年齢による大きな差は見られません。要介護区分別では、全体的に「要支援」の回答割合が高くなっています。特に「要支援2」の「各種介護予防教室」「介護予防サービスの利用援助」に高い回答割合が見られます。

【全体集計】



注：前回は調査項目なし

【属性別クロス集計】

単位: 上段・回答数(件), 下段・構成比(%)

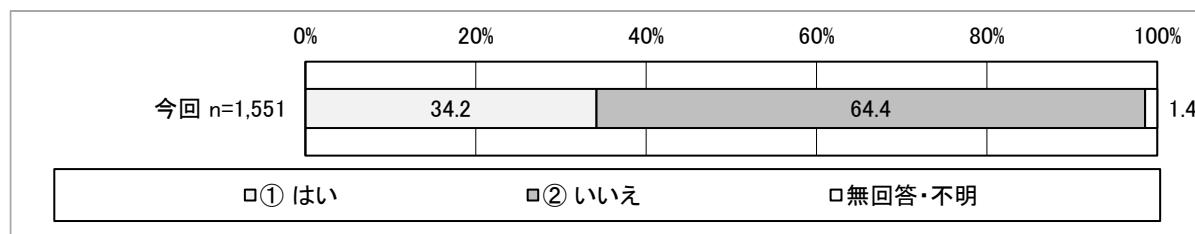
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧			
		支援高齢者の総合相談	各種介護予防教室	権利擁護業務	認知症支援業務	介護予防サービスの利用援助	安心して生活できる地域のネットワークづくり	その他	知らない	無回答	回答数合計	回答者数合計
全体		945 60.9	440 28.4	145 9.3	488 31.5	633 40.8	506 32.6	18 1.2	426 27.5	57 3.7	3,362 216.8	1,551 100.0
性別	男性	419 54.6	182 23.7	69 9.0	204 26.6	265 34.6	206 26.9	9 1.2	268 34.9	21 2.7	1,413 184.2	767 100.0
	女性	526 67.1	258 32.9	76 9.7	284 36.2	368 46.9	300 38.3	9 1.1	158 20.2	36 4.6	1,949 248.6	784 100.0
年齢別	65～69歳	261 62.1	118 28.1	36 8.6	130 31.0	187 44.5	137 32.6	1 0.2	119 28.3	8 1.9	732 174.3	420 100.0
	70～74歳	265 62.4	119 28.0	41 9.6	144 33.9	164 38.6	138 32.5	6 1.4	118 27.8	10 2.4	889 209.2	425 100.0
	75～79歳	235 60.9	114 29.5	36 9.3	128 33.2	165 42.7	125 32.4	6 1.6	98 25.4	20 5.2	954 247.2	386 100.0
	80～84歳	121 57.1	59 27.8	23 10.8	56 26.4	83 39.2	72 34.0	5 2.4	59 27.8	12 5.7	673 317.5	212 100.0
	85～89歳	47 56.0	24 28.6	5 6.0	23 27.4	27 32.1	27 32.1	0 0.0	25 29.8	6 7.1	673 801.2	84 100.0
	90歳以上	16 66.7	6 25.0	4 16.7	7 29.2	7 29.2	7 29.2	0 0.0	7 29.2	1 4.2	114 475.0	24 100.0
要介護区分別	一般高齢者	877 60.1	408 27.9	138 9.5	458 31.4	589 40.3	470 32.2	15 1.0	414 28.4	55 3.8	3,180 217.8	1,460 100.0
	要支援1	38 77.6	14 28.6	3 6.1	17 34.7	21 42.9	20 40.8	1 2.0	7 14.3	2 4.1	34 69.4	49 100.0
	要支援2	30 71.4	18 42.9	4 9.5	13 31.0	23 54.8	16 38.1	2 4.8	5 11.9	0 0.0	50 119.0	42 100.0

(2) 包括支援センター職員等と相談した経験の有無

問71 地域包括支援センターの職員とお話したり、相談したりしたことがありますか(回答は1つ)

「いいえ」が64.4%を占め、「はい」は34.2%に留まっています。

【全体集計】

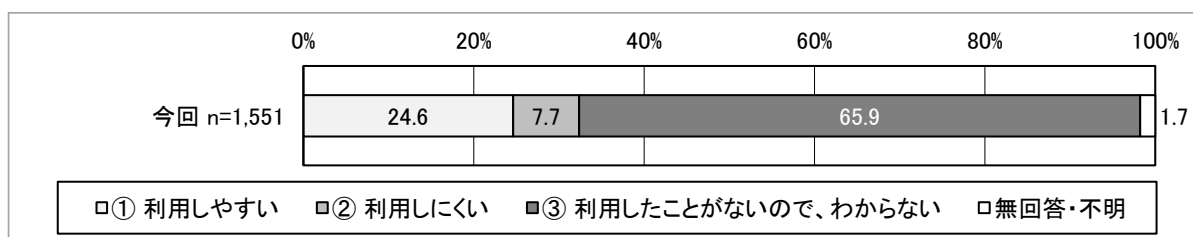


(3) 包括支援センターの位置の評価

問72 地域包括支援センターは利用しやすい場所に設置されていますか(回答は1つ)

「利用したことがないので、わからない」が65.9%を占め、「利用しやすい」は24.6%、「利用しにくい」が7.7%になっています。「利用しにくい」の理由としては、「遠い」の45.0%が最も高く、「その他」の30.8%、「交通手段がない」の20.8%となっています。

【全体集計】

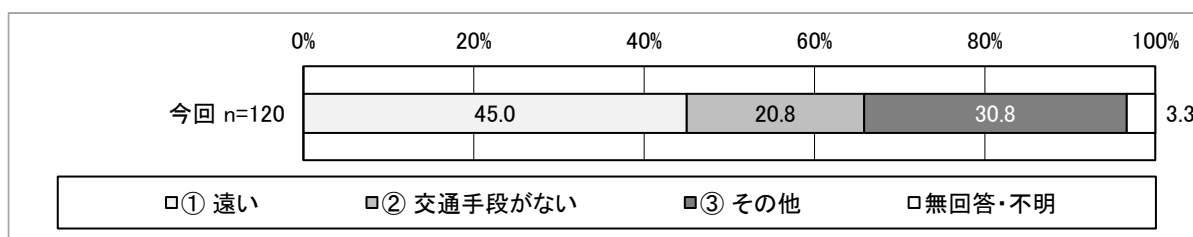


① 利用しにくいと感じる理由

【問72で「②利用しにくい」の方のみ】

問72-① 利用しにくいと感じる理由は何ですか(回答は1つ)

【全体集計】



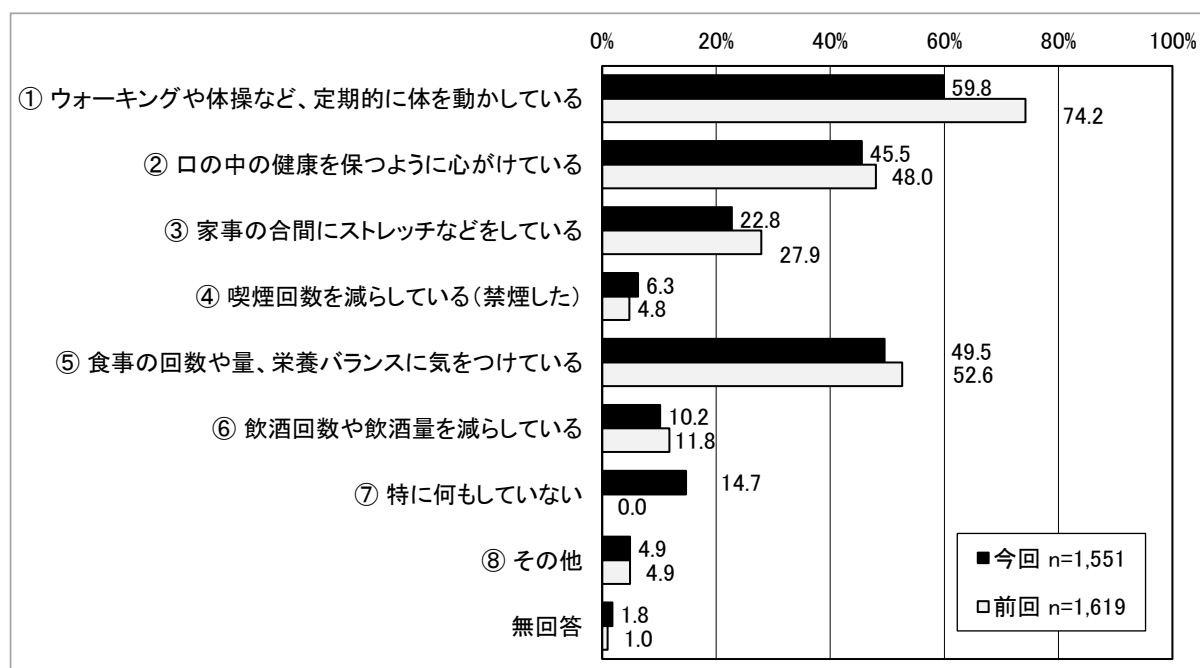
11. 介護予防について

(1) 介護予防の取り組みの有無

問73 寝たきりや認知症など、介護が必要とならないよう、健康を維持するために何か取り組んでいますか(いくつでも)

「ウォーキングや体操など、定期的に体を動かしている」が59.8%と最も高く、「食事の回数や量、栄養バランスに気をつけている」の49.5%が続きます。前回と比較し、全体的に回答割合が低下しており、なかでも「ウォーキングや体操など、定期的に体を動かしている」が大きく低下しています。属性別に上位2項目についてみると、「ウォーキングや体操など、定期的に体を動かしている」については、性別では「男性」、年齢別では若い年齢層、要介護区分別では「要支援1」が比較的高い回答割合を示しています。「食事の回数や量、栄養バランスに気をつけている」については、性別では「女性」、年齢では「75～79歳」、要介護区分別では「要支援1」が比較的高い回答割合を示しています。

【全体集計】



【属性別クロス集計】

単位: 上段・回答数(件), 下段・構成比(%)

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	無回答	回答数合計	回答者数合計
		ウォーキングなどの定期的な運動をしている	口の中の健康を保持している	家事の合間にストレッチをしている	喫煙回数(禁煙)を減らしている	食事の回数や量、栄養バランスに気を付けている	飲酒回数や飲酒量を減らしている	特に何もしていない	その他			
全体		928 59.8	706 45.5	353 22.8	98 6.3	768 49.5	158 10.2	228 14.7	76 4.9	28 1.8	3,362 216.8	1,551 100.0
性別	男性	476 62.1	282 36.8	104 13.6	85 11.1	325 42.4	129 16.8	136 17.7	42 5.5	11 1.4	1,413 184.2	767 100.0
	女性	452 57.7	424 54.1	249 31.8	13 1.7	443 56.5	29 3.7	92 11.7	34 4.3	17 2.2	1,949 248.6	784 100.0
年齢別	65～69歳	263 62.6	194 46.2	89 21.2	32 7.6	198 47.1	53 12.6	73 17.4	18 4.3	1 0.2	732 174.3	420 100.0
	70～74歳	257 60.5	204 48.0	99 23.3	27 6.4	204 48.0	43 10.1	58 13.6	20 4.7	7 1.6	889 209.2	425 100.0
	75～79歳	237 61.4	179 46.4	95 24.6	27 7.0	206 53.4	40 10.4	49 12.7	22 5.7	8 2.1	954 247.2	386 100.0
	80～84歳	122 57.5	86 40.6	46 21.7	9 4.2	108 50.9	17 8.0	26 12.3	5 2.4	7 3.3	673 317.5	212 100.0
	85～89歳	39 46.4	34 40.5	20 23.8	3 3.6	40 47.6	4 4.8	14 16.7	11 13.1	5 6.0	673 801.2	84 100.0
	90歳以上	10 41.7	9 37.5	4 16.7	0 0.0	12 50.0	1 4.2	8 33.3	0 0.0	0 0.0	114 475.0	24 100.0
要介護区分別	一般高齢者	882 60.4	678 46.4	333 22.8	94 6.4	723 49.5	152 10.4	209 14.3	68 4.7	27 1.8	3,180 217.8	1,460 100.0
	要支援1	32 65.3	20 40.8	13 26.5	2 4.1	27 55.1	4 8.2	6 12.2	5 10.2	0 0.0	34 69.4	49 100.0
	要支援2	14 33.3	8 19.0	7 16.7	2 4.8	18 42.9	2 4.8	13 31.0	3 7.1	1 2.4	50 119.0	42 100.0

(2) 町や地域包括支援センターが実施している介護予防の取り組みの認知

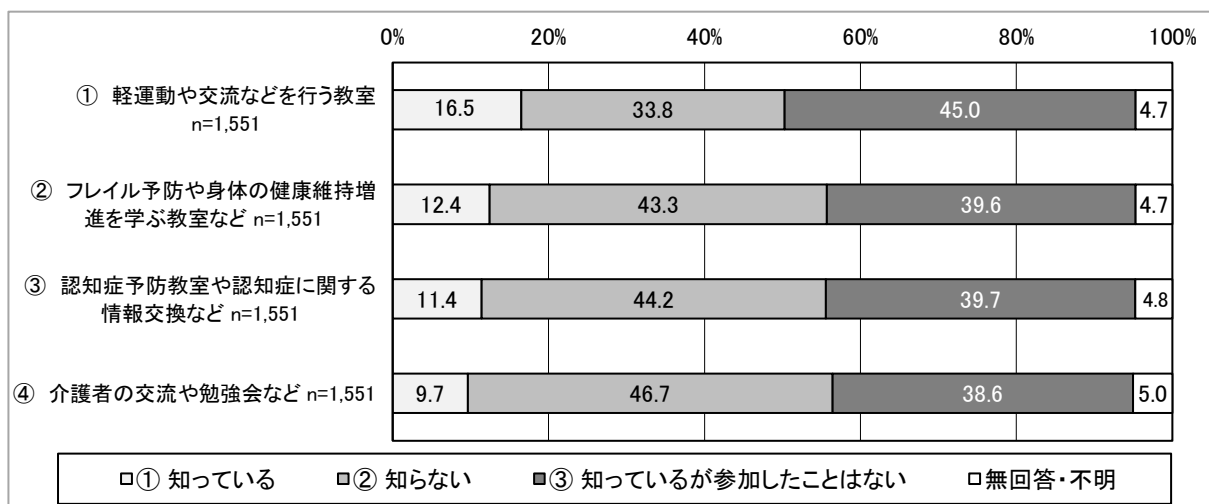
問74 以下のような町や地域包括支援センターが実施している介護予防の取り組みを知っていますか ※① - ④それぞれに回答してください

実施している介護予防事業の4項目についての認知状況を聞いた設問で、各項目とも「知っている」の回答は最も少なくなっています。その中で回答が最も高いのは「軽運動や交流などを行う教室」の16.6%で、「フレイル予防や身体健康維持増進を学ぶ教室など」の12.4%が続きます。

「知らない」の回答が最も高い項目は、「介護者の交流や勉強会など」の46.7%で、「認知症予防教室や認知症に関する情報交換など」の44.2%が続いています。「知っているが参加したことはない」の回答が最も高いのは「軽運動や交流などを行う教室」の45.0%で、「認知症予防教室や認知症に関する情報交換など」の39.7%が続いています。

「参加したことがない理由」については、「特に理由はない、なんとなく参加していない」が69.4%と最も高く、「自分なりにとりくんでいることがあるから」の19.8%、「趣味などが忙しく時間がないから」の16.0%が続きます。前回と比較して、「特に理由はない、なんとなく参加していない」の回答が大きく上昇しています。

【全体集計】



項目の要約：

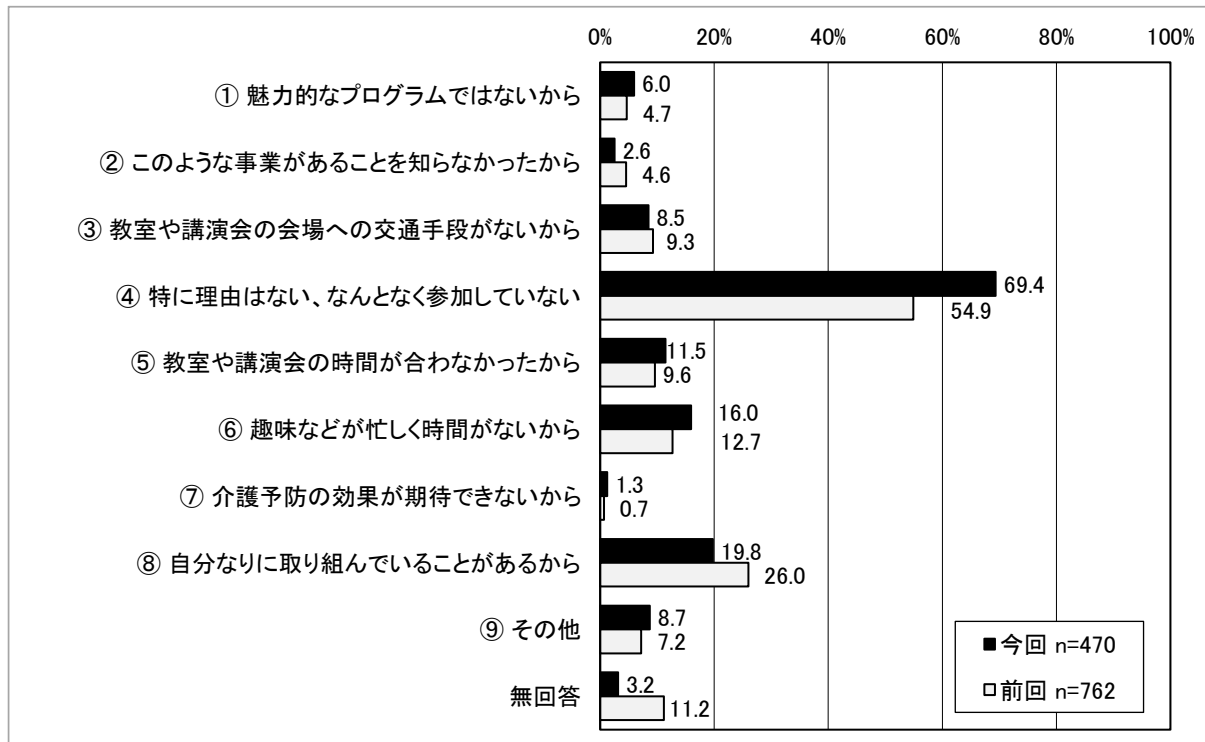
- ①全文は、「軽運動や交流などを行う教室（ちょこっと貯筋体操、元気アップ教室、お元気サロンなど）」
- ②の全文は、「フレイル予防や身体健康維持増進を学ぶ教室など（筋力トレーニング教室、利府レッシュ体操、フレイル予防教室など）」
- ③の全文は、「認知症予防教室や認知症に関する情報交換など（脳力アップ教室、健康麻雀教室、認知症カフェなど）」
- ④の全文は、「介護者の交流や勉強会など（介護者のつどい、介護予防講演会など）」

① 参加したことがない理由

【問74で「③知っているが参加したことがない」と答えた項目について】

問74-① 参加したことがない理由を教えてください(いくつでも)

【全体集計】

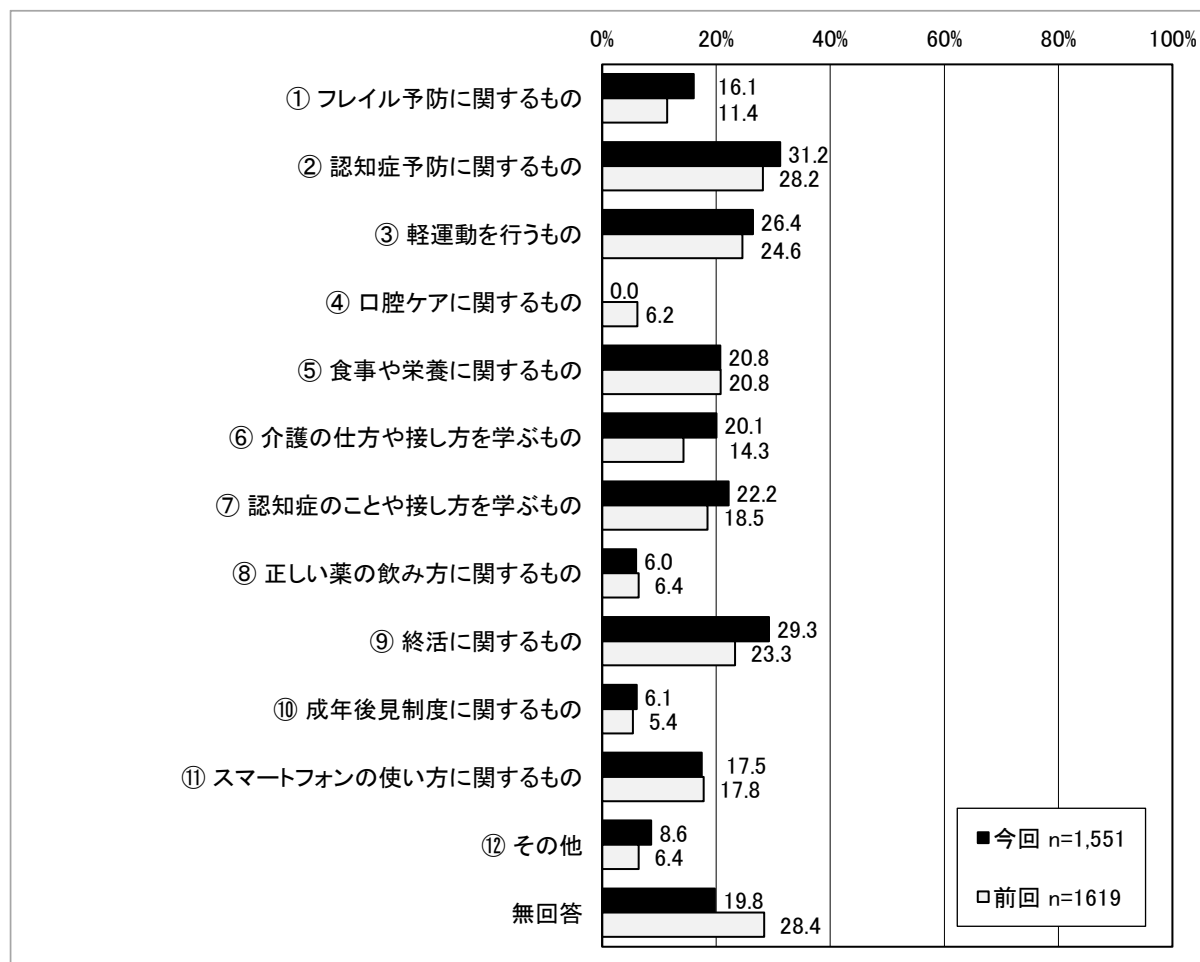


(3) 参加したい介護予防の事業や教室

問75 今後、どのような介護予防の事業や教室があれば参加したいですか(いくつでも)

「認知症予防に関するもの」が31.2%と最も高く、「終活に関するもの」の29.3%、「軽運動を行うもの」の26.4%が続きます。前回と比較し、「終活に関するもの」の回答が上昇しています。

【全体集計】



12. 地域での生活について

(1)「隣近所や町内会などのつながり」について

「隣近所や町内会などのつながり」を感じる程度については、「たまに感じる」が43.5%と最も高く、「あまり感じない」の24.4%、「よく感じる」の23.7%と続きます。前回と比較し、「たまに感じる」が上昇しています。属性別にみると、性別ではほとんど差がありません。年齢別では、年齢が高くなるほど「よく感じる」の回答が高くなり、「90歳以上」では50.0%まで上昇しています。要介護区分別では、「要支援1」の「よく感じる」、「要支援2」の「あまり感じない」がそれぞれ高くなっています。

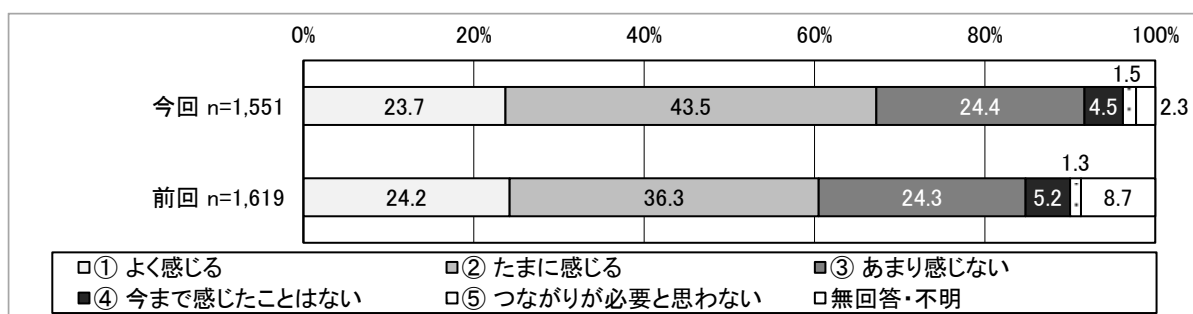
「隣近所や町内会などのつながりがなく困ったことの有無」については、「いいえ」が87.8%とほとんどを占めます。前回と比較し、「いいえ」が上昇しています。

「隣近所や町内会などのつながりを感じる時」については、「挨拶をしたとき」の72.5%が最も高く、「地域の行事に参加しているとき」の62.8%、「回覧板を回した時」の54.2%、「おすそわけをいただいたとき（したとき）」の47.5%と続きます。前回と比較し、上位項目は概して上昇しています。

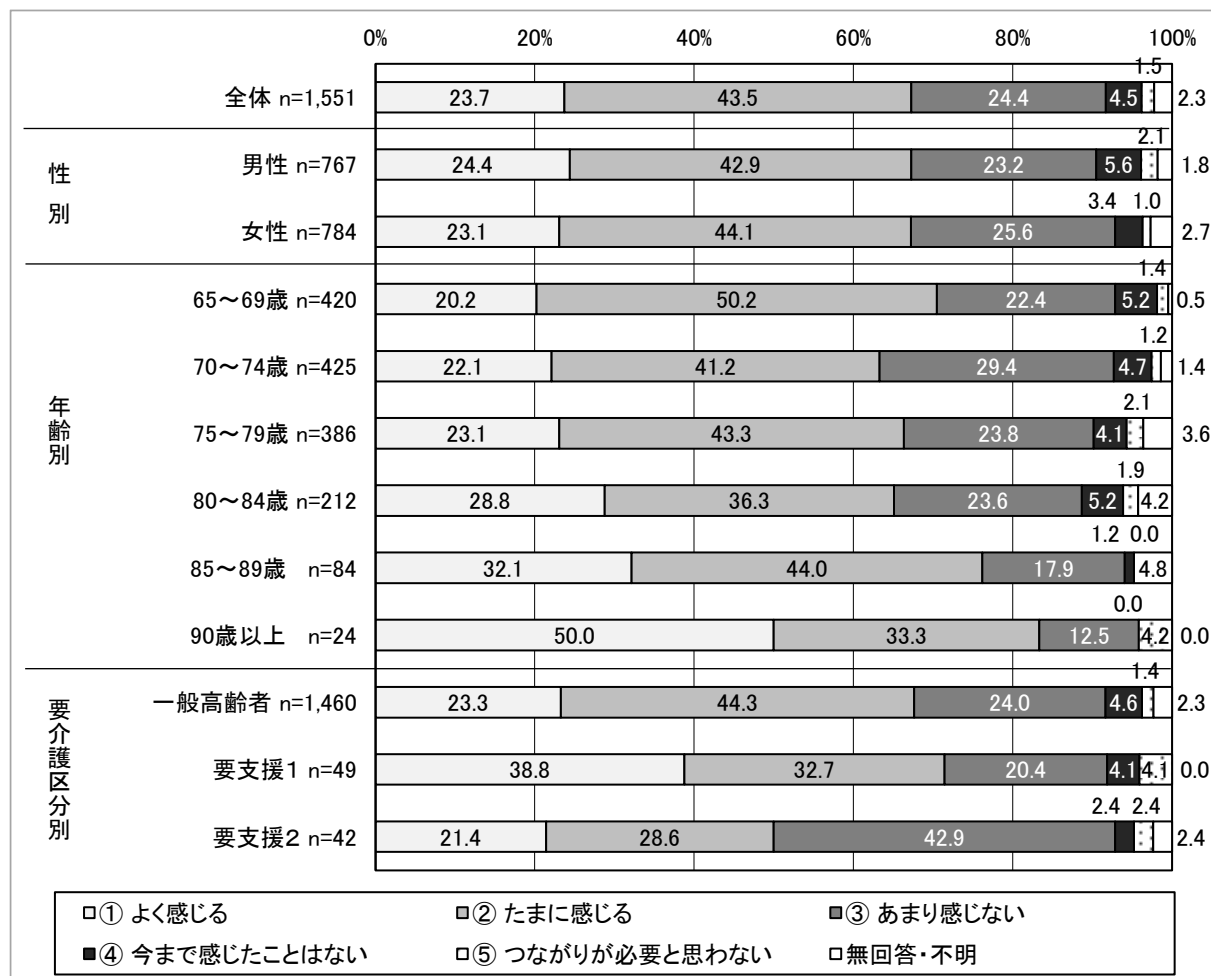
①「隣近所や町内会などのつながり」を感じる程度

問76 あなたは今住んでいる地域で、「隣近所や町内会などとのつながり」を感じますか(回答は1つ)

【全体集計】



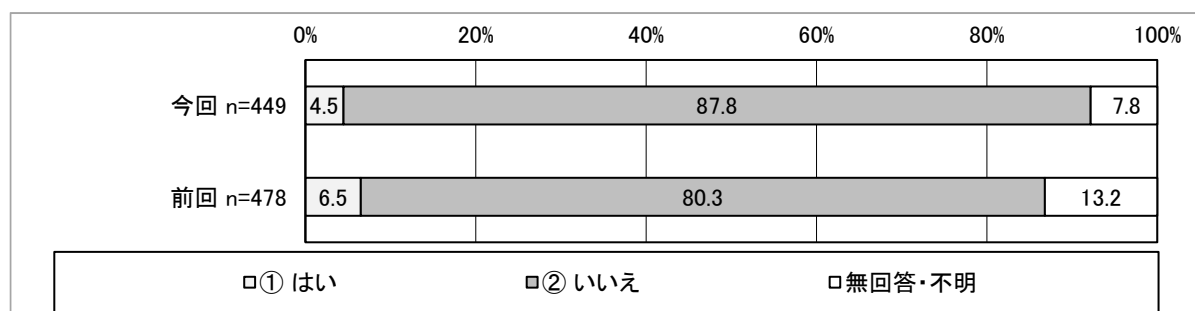
【属性別クロス集計】



② 「隣近所や町内会などのつながり」がなく困ったことの有無

【問76で「③あまり感じない」「④今まで感じたことはない」の方のみ】
問76-① 「隣近所や町内会などとのつながり」がなく困ったことはありますか(回答は1つ)

【全体集計】

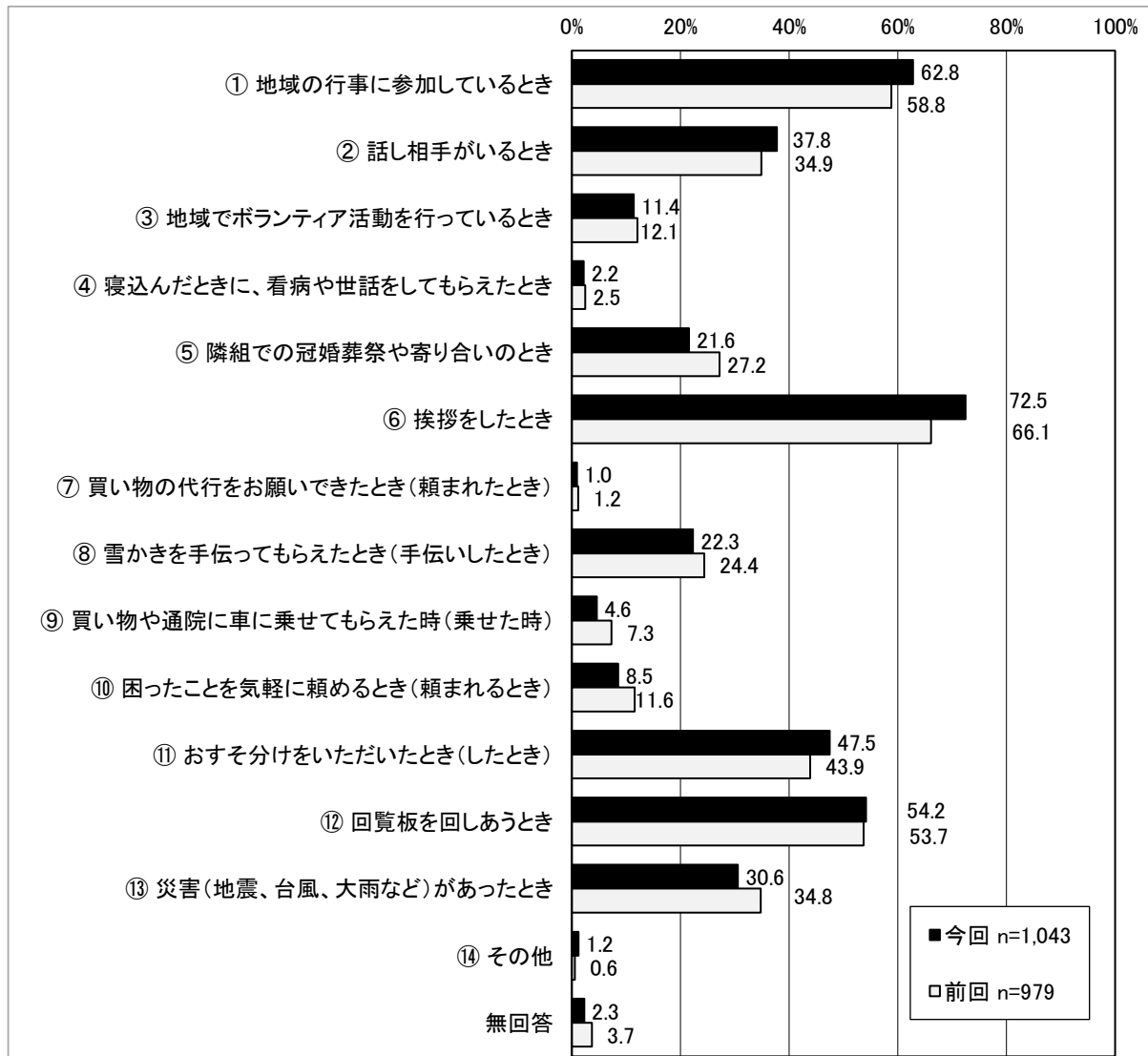


③「隣近所や町内会などのつながり」を感じる時

【問76で「①よく感じる」「②たまに感じる」の方のみ】

問76-②あなたは「隣近所や町内会などとのつながり」をどのようなときに感じますか(いくつでも)

【全体集計】



選択肢の要約：

③全文は、「地域でボランティア活動を行っているとき（支援されているとき）」

④の全文は、「体調が悪く寝込んだときに、看病や世話をしてもらえたとき（したとき）」

⑨の全文は、「買い物や通院に車で乗せて行ってもらえたとき（乗せて行ったとき）」

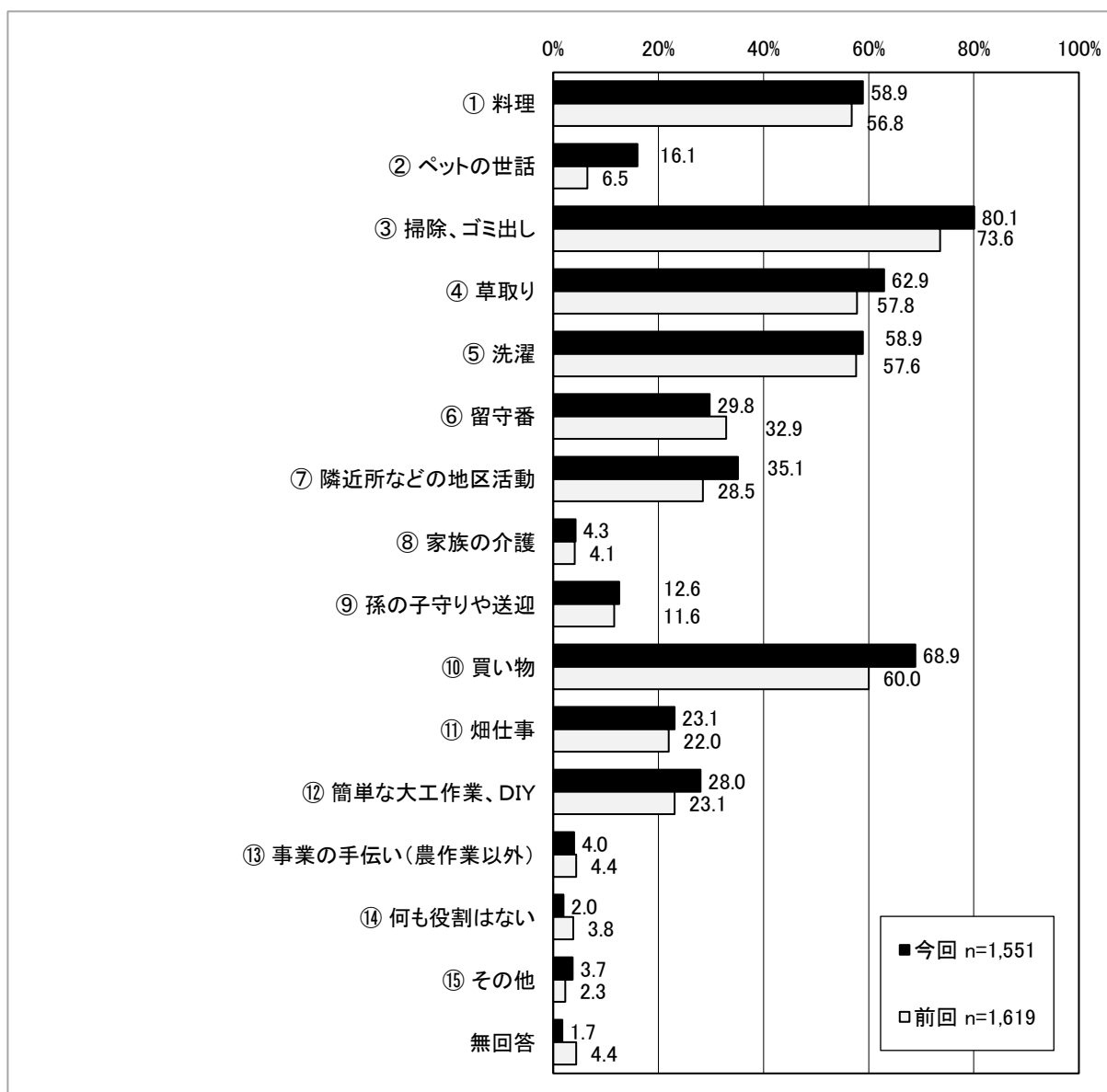
(2) あなたの家庭での役割

問77 あなたの、家庭での役割は何ですか(いくつでも)

「掃除、ゴミ出し」が80.1%と最も高く、「買い物」の68.9%、「草取り」の63.0%、「料理」「洗濯」の58.9%と続きます。

属性別にみると、性別では大きな差が見られます。「男性」は、「掃除・ゴミ出し」の74.6%が最も高く、「草取り」の62.9%、「買い物」の55.1%、「簡単な大工作業、DIY」の46.8%と続きます。「女性」は「料理」の90.4%が最も高く、「洗濯」の87.2%、「掃除・ゴミ出し」の85.5%、「買い物」の82.3%と続きます。年齢別では、年齢が高くなるほど、各項目の回答割合は低下していき、「90歳以上」の全体で上位3項目の回答割合は、「掃除、ゴミ出し」は29.2%、「買い物」は25.0%、「草取り」は45.8%、「料理」は29.2%、「洗濯」20.8%となっています。一方、年齢が高くなるほど回答割合が高くなるのが「留守番」で、「90歳以上」で45.8%となっています。要介護区分別では、全体的に「要支援」の回答率は低下していますが、「要支援1」と「要支援2」との差は、全体的にみて大きな差にはなっていません。

【全体集計】



【属性別クロス集計】

単位：上段・回答数(件)、下段・構成比(%)

		① 料理	② ペットの世話	③ 掃除、ゴミ出し	④ 草取り	⑤ 洗濯	⑥ 留守番	⑦ 活動近所などの地区	⑧ 家族の介護	回答数合計	回答者数合計
全体		914 58.9	249 16.1	1,242 80.1	976 62.9	914 58.9	462 29.8	545 35.1	66 4.3	2,448 157.8	1,551 100.0
性別	男性	205 26.7	107 14.0	572 74.6	480 62.6	230 30.0	180 23.5	235 30.6	22 2.9	1,106 144.2	767 100.0
	女性	709 90.4	142 18.1	670 85.5	496 63.3	684 87.2	282 36.0	310 39.5	44 5.6	1,342 171.2	784 100.0
年齢別	65～69歳	281 66.9	100 23.8	347 82.6	265 63.1	267 63.6	113 26.9	172 41.0	25 6.0	513 122.1	420 100.0
	70～74歳	258 60.7	67 15.8	349 82.1	280 65.9	258 60.7	121 28.5	161 37.9	17 4.0	636 149.6	425 100.0
	75～79歳	221 57.3	54 14.0	309 80.1	239 61.9	217 56.2	115 29.8	138 35.8	8 2.1	640 165.8	386 100.0
	80～84歳	105 49.5	23 10.8	173 81.6	132 62.3	119 56.1	67 31.6	54 25.5	11 5.2	550 259.4	212 100.0
	85～89歳	42 50.0	4 4.8	57 67.9	49 58.3	48 57.1	35 41.7	16 19.0	5 6.0	550 654.8	84 100.0
	90歳以上	7 29.2	1 4.2	7 29.2	11 45.8	5 20.8	11 45.8	4 16.7	0 0.0	109 454.2	24 100.0
	要介護区分別	872 59.7	243 16.6	1,187 81.3	944 64.7	867 59.4	431 29.5	534 36.6	62 4.2	2,259 154.7	1,460 100.0
要介護区分別	一般高齢者	22 44.9	4 8.2	34 69.4	19 38.8	28 57.1	21 42.9	9 18.4	2 4.1	39 79.6	49 100.0
	要支援1	20 47.6	2 4.8	21 50.0	13 31.0	19 45.2	10 23.8	2 4.8	2 4.8	52 123.8	42 100.0
	要支援2										

単位：上段・回答数(件)、下段・構成比(%)

		⑨ 孫の子守りや送迎	⑩ 買い物	⑪ 畑仕事	⑫ DIY 簡単な大作業、	⑬ 作業の手伝い（農作業以外）	⑭ 何も役割はない	⑮ その他	無回答	回答数合計	回答者数合計
全体		195 12.6	1,068 68.9	358 23.1	435 28.0	62 4.0	31 2.0	58 3.7	27 1.7	2,448 157.8	1,551 100.0
性別	男性	73 9.5	423 55.1	211 27.5	359 46.8	34 4.4	27 3.5	39 5.1	12 1.6	1,106 144.2	767 100.0
	女性	122 15.6	645 82.3	147 18.8	76 9.7	28 3.6	4 0.5	19 2.4	15 1.9	1,342 171.2	784 100.0
年齢別	65～69歳	64 15.2	315 75.0	88 21.0	137 32.6	23 5.5	11 2.6	16 3.8	1 0.2	513 122.1	420 100.0
	70～74歳	72 16.9	314 73.9	88 20.7	122 28.7	19 4.5	6 1.4	17 4.0	4 0.9	636 149.6	425 100.0
	75～79歳	46 11.9	258 66.8	96 24.9	106 27.5	13 3.4	6 1.6	12 3.1	12 3.1	640 165.8	386 100.0
	80～84歳	11 5.2	131 61.8	57 26.9	56 26.4	5 2.4	1 0.5	6 2.8	6 2.8	550 259.4	212 100.0
	85～89歳	2 2.4	44 52.4	23 27.4	13 15.5	2 2.4	2 2.4	7 8.3	4 4.8	550 654.8	84 100.0
	90歳以上	0 0.0	6 25.0	6 25.0	1 4.2	0 0.0	5 20.8	0 0.0	0 0.0	109 454.2	24 100.0
	要介護区分別	194 13.3	1,023 70.1	348 23.8	423 29.0	59 4.0	23 1.6	53 3.6	27 1.8	2,259 154.7	1,460 100.0
要介護区分別	一般高齢者	1 2.0	28 57.1	7 14.3	7 14.3	0 0.0	3 6.1	3 6.1	0 0.0	39 79.6	49 100.0
	要支援1	0 0.0	17 40.5	3 7.1	5 11.9	3 7.1	5 11.9	2 4.8	0 0.0	52 123.8	42 100.0
	要支援2										

(3)ふだんの生活の外出手段

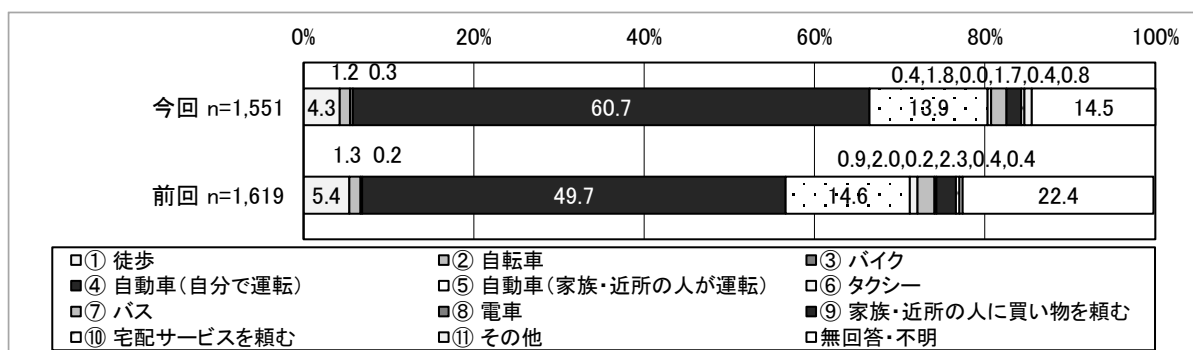
「食料品や日用品の買い物に行くとき」は、「自動車（自分で運転する）」が60.7%と最も高く、「自動車（家族・近所の人が運転）」の13.9%が続きます。前回と比較し、「自動車（自分で運転する）」が大きく上昇しています。

「医療機関に行くとき」についても、「食料品や日用品の買い物に行くとき」と同様、「自動車（自分で運転）」が61.6%と最も高く、「自動車（家族・近所の人が運転）」の14.9%が続きます。前回と比較し、同様に「自動車（自分で運転）」が大きく上昇しています。

① 食料品や日用品の買い物に行くとき

問78 食料品や日用品の買い物に行くとき、どのような手段で外出等していますか。
もっとも当てはまるものひとつに ☒ をしてください(回答は1つ)

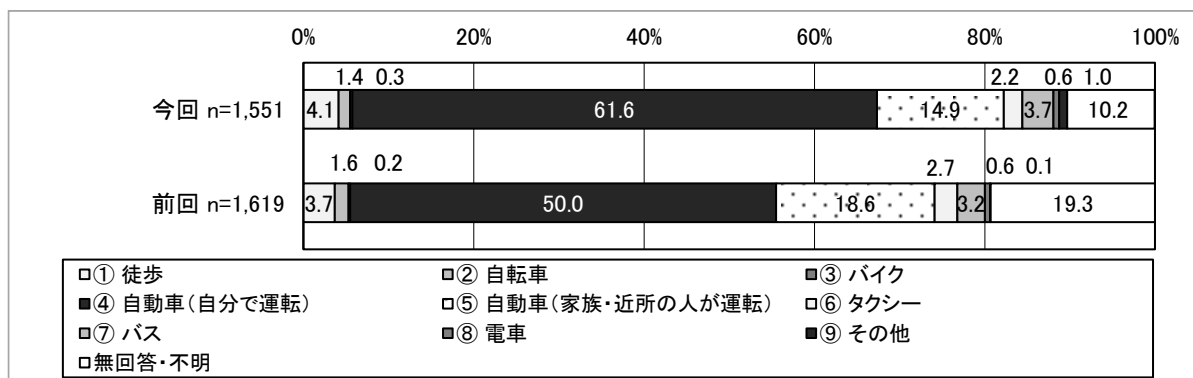
【全体集計】



② 医療機関に行くとき

問79 医療機関に行くとき、どのような手段で外出していますか。現在通院していない場合でも、通院するときのことを想定してお答えください。もっとも当てはまるものひとつに ☒ をしてください(回答は1つ)

【全体集計】

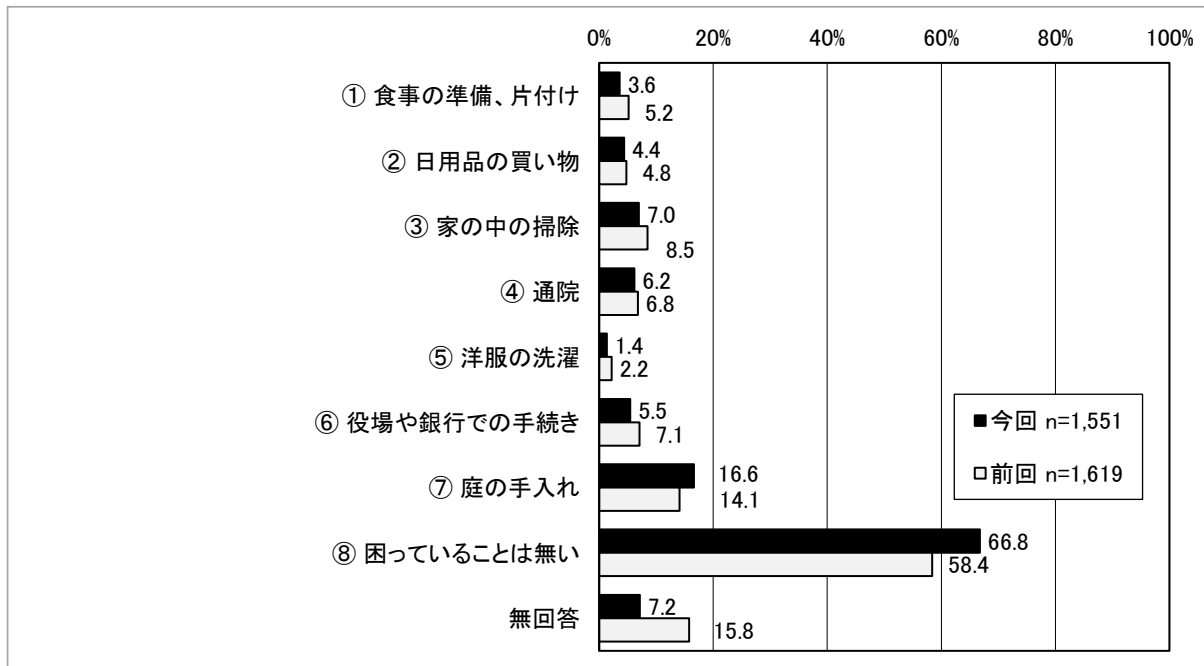


(4)ふだんの生活で困っていること

問80 普段の生活で、困っていることはありますか(いくつでも)

「困っていることは無い」が66.8%を占めます。困っていることとして「庭の手入れ」の16.6%が最も高くなっています。その他の回答は10%未満となっています。

【全体集計】



第3章 リスク分析

1. リスク分析の概要

調査票には、生活機能を判定するための調査項目が組み込まれており、国が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き」に基づき、生活機能、その他の機能のリスク判定を行いました。判定の項目及び判定のための設問項目は以下の通りです。

■リスク分析の項目と設問項目

項目	判定内容	設問項目
運動器	運動器機能の低下	問6、問7、問8、問9、問10
転倒	転倒のリスク	問9
閉じこもり	閉じこもりの傾向	問11
低栄養	低栄養の状態	問15、問21
口腔機能	口腔機能の低下	問16、問17、問18
認知機能	認知機能の低下	問25
うつ傾向	うつ傾向の状態	問57、問58
手段的日常生活動作（IADL）	老研式活動能力指標をもとに、手段的日常生活動作（活動的な日常生活をおくるための動作能力）を判断する	問28、問29、問30、問31、問32
知的能動性	老研式活動能力指標をもとに、知的能動性（自ら知識を得て、学習、創造しようとする知的な活動能力）を判断する。	問33、問34、問35、問36
社会的役割	老研式活動能力指標をもとに、社会的役割（地域で社会的な役割を果たす能力）について判断する。	問37、問38、問39、問40
生活機能総合評価	老研式活動能力指標をもとに、生活機能総合評価（手段的日常生活動作、知的能動性、社会的役割）の13項目による総合評価について判断する。	問28、問29、問30、問31 問32、問33、問34、問35 問36、問37、問38、問39 問40

注：老研式活動能力指標（TMIG-IC）は、地域在宅の高齢者が「手段的自立（IADL）」「知的能動性」「社会的役割」をどこまで自立的に行えるかを13の質問で評価する指標です。高次生活機能（より高度な日常生活動作）の低下を早期に発見し、介護予防や健康維持の度合いを測定するために広く利用されています。

2. 評価項目別の結果

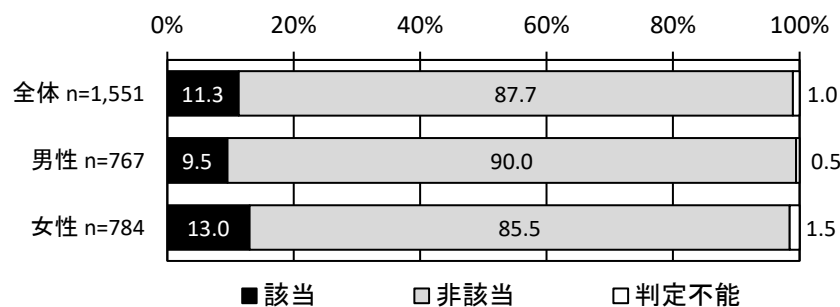
(1) 運動器

全体では、運動器機能低下の該当者割合は11.3%になっています。

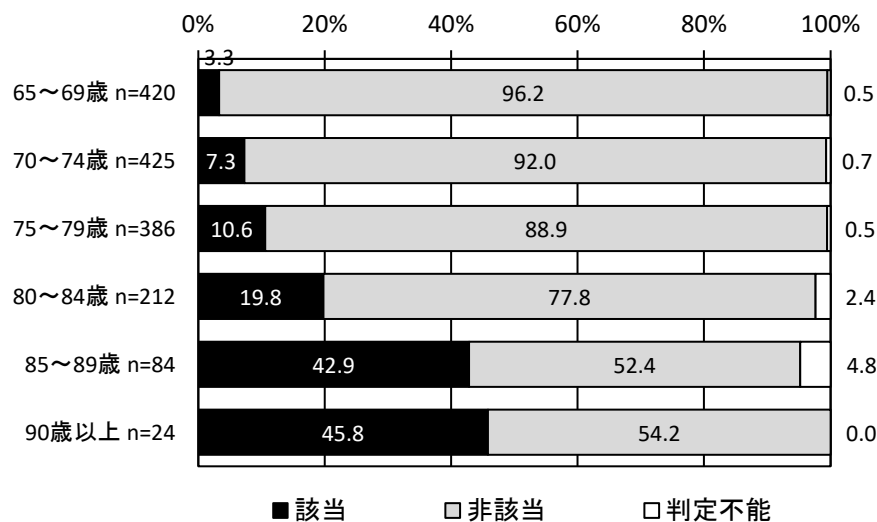
性別では、「女性」が13.0%で「男性」を上回っています。年齢別では、年齢が高くなるほど該当者の割合が高くなり、「90歳以上」で45.8%になっています。要介護区分別では、要介護状態により該当者の割合は高くなり、「要支援2」で71.4%になっています。

■運動器機能の低下の状況

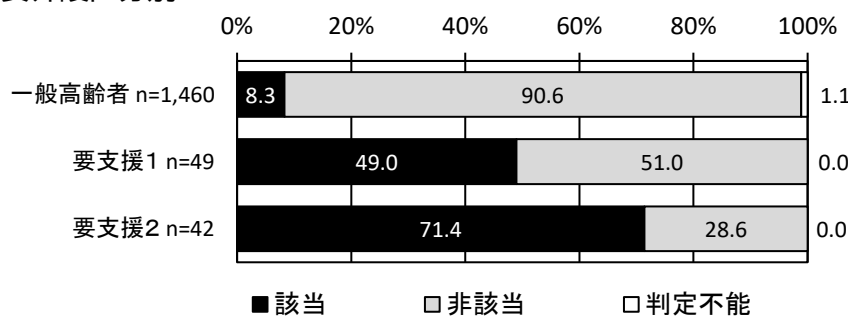
□全体、性別



□年齢別



□要介護区分別



■判定方法

下記5問のうち3問以上該当する選択肢を回答した場合、運動器機能の低下している高齢者と判定する。

設 問	該当する選択肢
問6 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	③できない
問7 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	③できない
問8 15分位続けて歩いていますか	③できない
問9 過去1年間に転んだ経験がありますか	①何度もある ②1度ある
問10 転倒に対する不安は大きいですか	①とても不安である ②やや不安である

※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

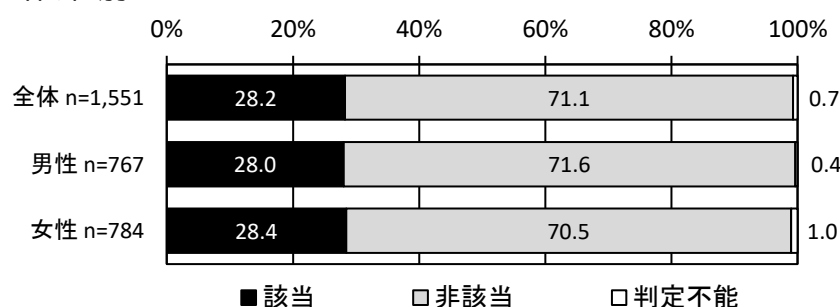
(2)転倒

全体では、転倒リスクのある該当者の割合は28.8%になっています。

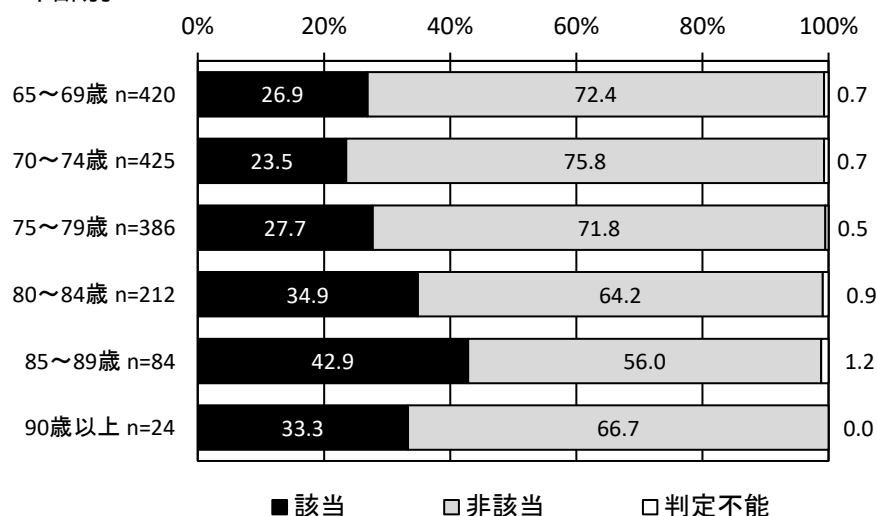
性別では、差は見られません。年齢別では、年齢が高くなるほど該当者割合が高くなり、「85～89歳」の42.9%が最も高くなっています。要介護区分別では、「要支援1」の49.0%が最も高く、「要支援2」との差はほとんどありません。

■転倒リスクの状況

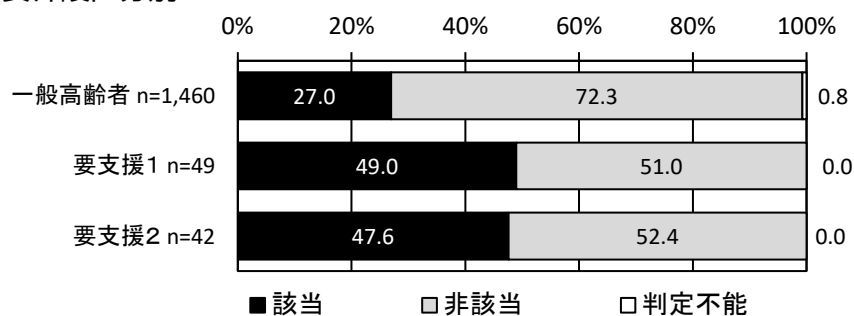
□全体、性別



□年齢別



□要介護区分別



■判定方法

下記の設問において該当する選択肢を回答した場合、転倒リスクのある高齢者と判定する。

設 問	該当する選択肢
問9 過去1年間に転んだ経験がありますか	①何度もある ②1度ある

※上記設問の回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

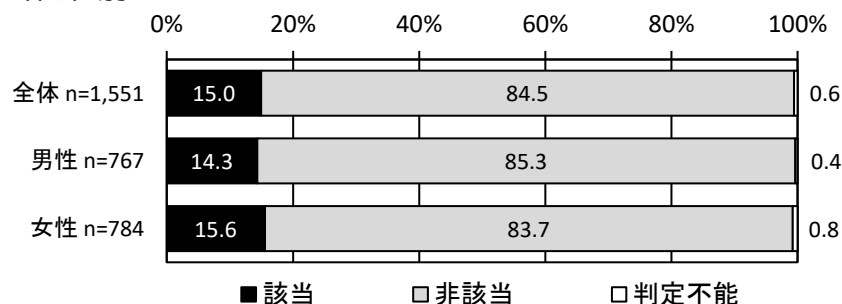
(3)閉じこもり

全体では、閉じこもりの該当者の割合は15.0%になっています。性別では、ほとんど差はありません。年齢別では、年齢が高くなるほど高くなり「90歳以上」で54.2%となっています。

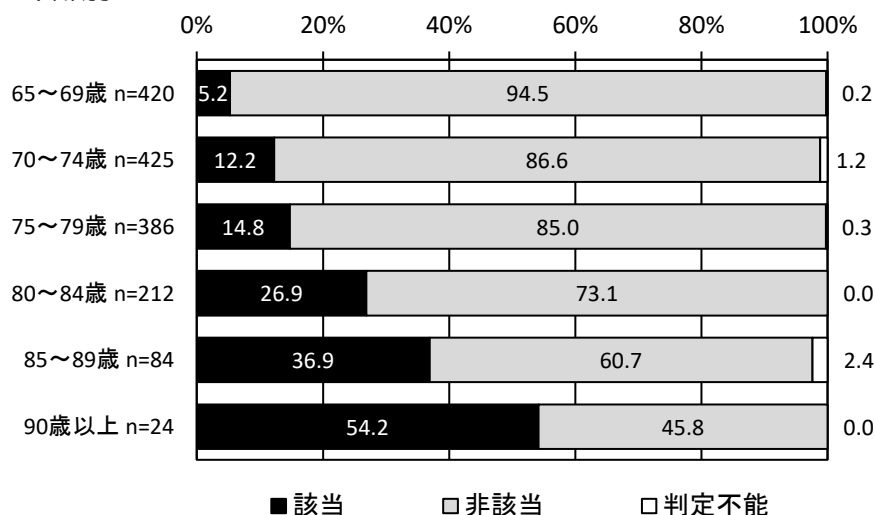
要介護区分別では、「要支援2」が40.5%と「要支援1」を上回っています。

■閉じこもりの状況

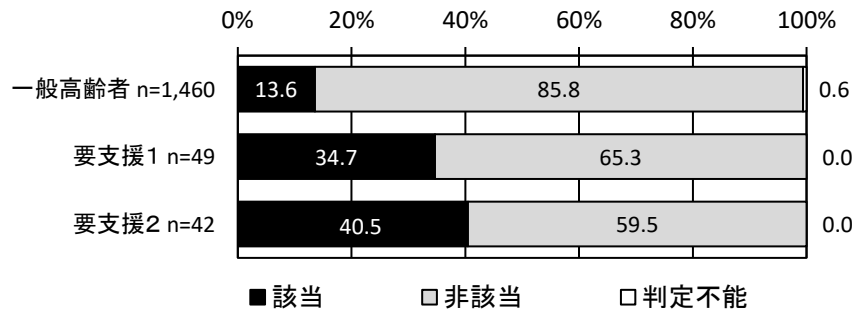
□全体、性別



□年齢別



□要介護区分別



■判定方法

下記の設問において該当する選択肢を回答した場合、閉じこもり傾向のある高齢者と判定する。

設 問	該当する選択肢
問 11 週に1回以上は外出していますか	①ほとんど外出しない ②週1回

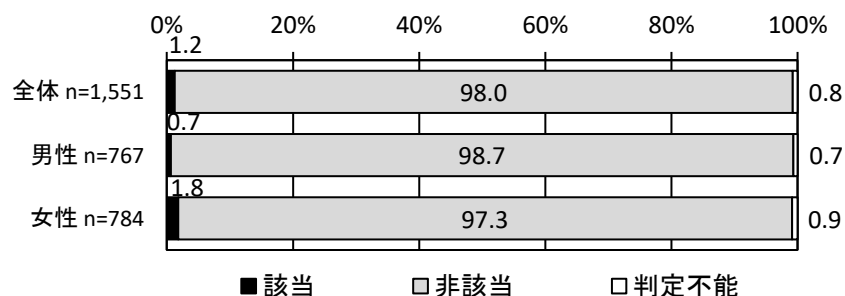
※上記設問の回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

(4) 低栄養

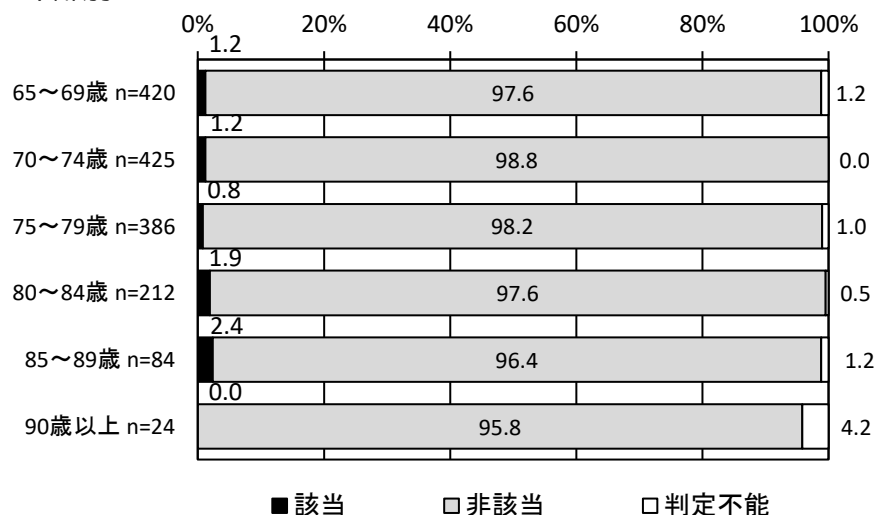
全体では、低栄養の該当者の割合は1.2%とわずかになっています。属性別にみても、ほとんど差は見られません。要介護区分別の「要支援2」が4.8%とわずかに高くなっています。

■低栄養の状況

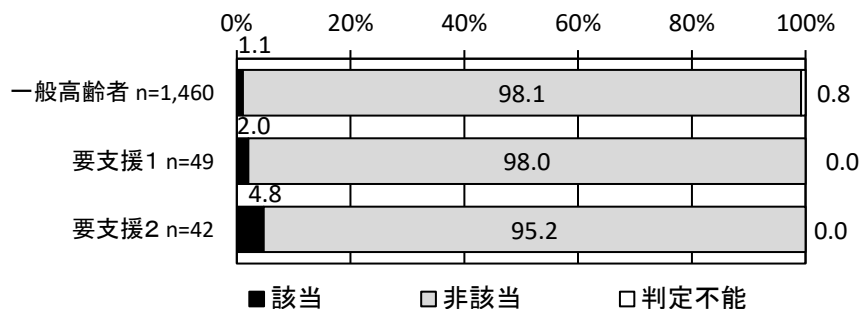
□全体、性別



□年齢別



□要介護区分別



■判定方法

下記2問のうち2問とも該当する選択肢を回答した場合、低栄養状態にある高齢者と判定する。

設 問	該当する選択肢
問 15 身長・体重を教えてください	BMIが18.5未満 ※BMI=体重(kg)÷(身長(m)×身長(m))
問 21 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	①はい

※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

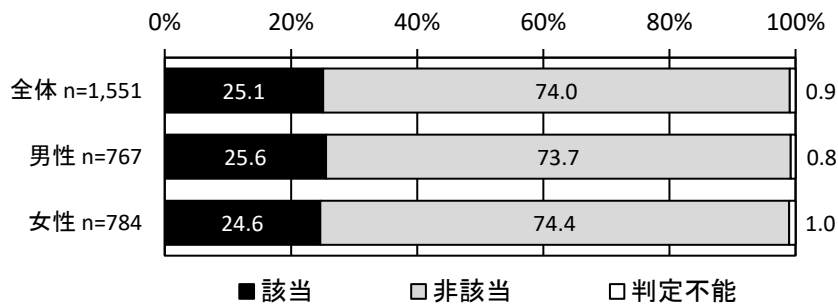
(5) 口腔機能

全体では、口腔機能低下の該当者の割合は25.1%となっています。性別では、ほとんど差は見られません。年齢別では年齢が高くなるほど高くなり、「90歳以上」で66.7%と一段と高くなっています。

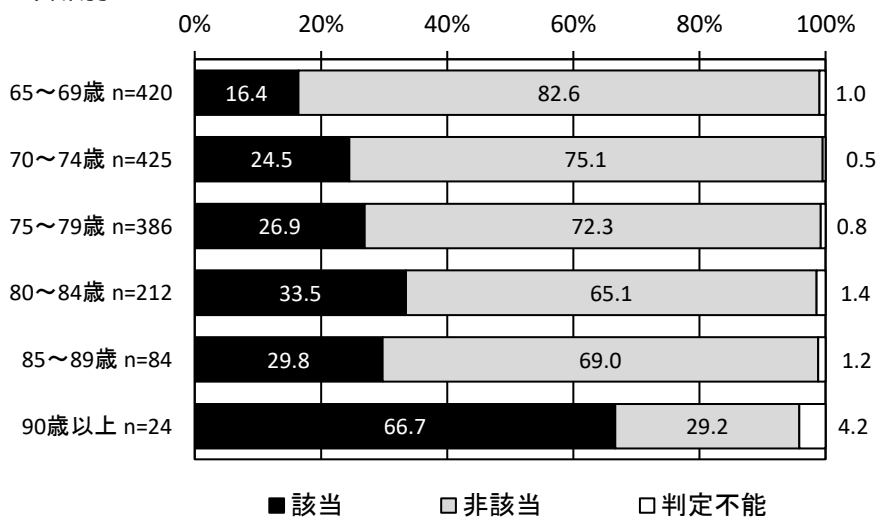
要介護区分別では、「要支援2」の61.9%が最も高くなっています。

■ 口腔機能の低下の状況

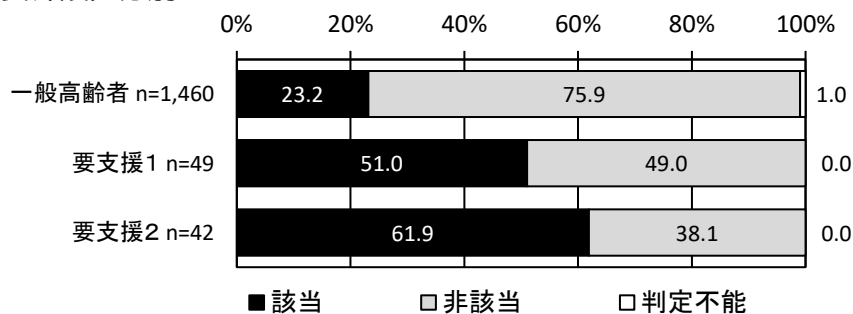
□ 全体、性別



□ 年齢別



□ 要介護区分別



■判定方法

下記3問のうち2問以上該当する選択肢を回答した場合、口腔機能の低下している高齢者と判定する。

設 問	該当する選択肢
問 16 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	①はい
問 17 お茶や汁物等でむせることがありますか	①はい
問 18 口の渇きが気になりますか	①はい

※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

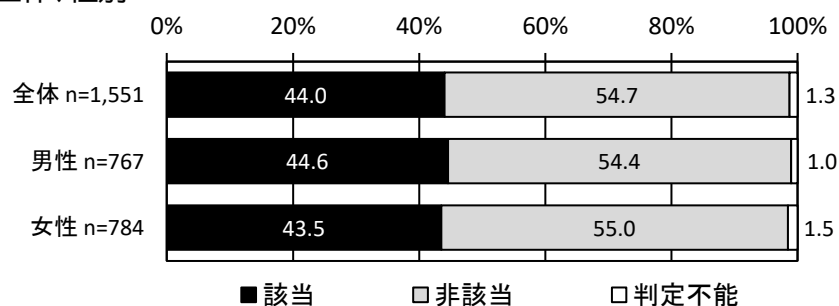
(6) 認知機能

全体では、認知機能低下の該当者の割合は44.0%となっています。分析項目の中で該当者割合が最も高い項目になっています。性別では、ほとんど差はありません。年齢別では、年齢が高くなるほど緩やかに割合が高くなり、「85～89歳」で59.5%と最も高くなっています。

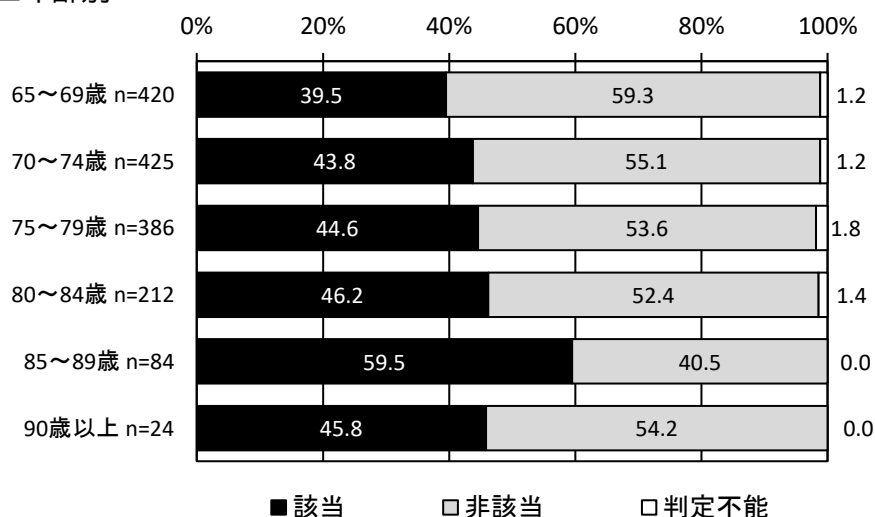
要介護区分別では、「要支援1」の63.3%が最も高くなっています。家族構成別では、ほとんど差はありません。

■認知機能の低下の状況

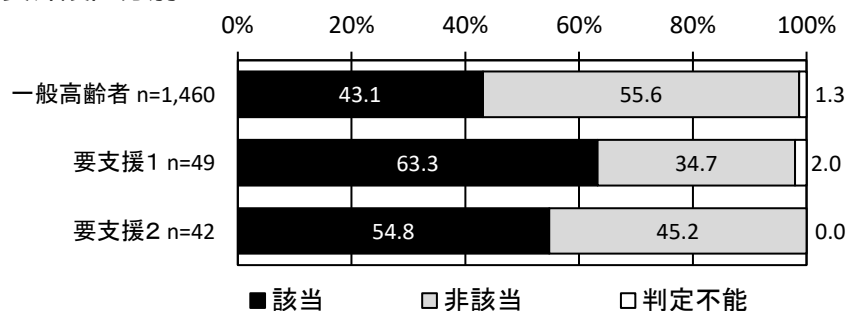
□全体、性別



□年齢別



□要介護区分別



■判定方法

下記設問で該当する選択肢を回答した場合、認知機能の低下している高齢者と判定する。

設 問	該当する選択肢
問 25 物忘れが多いと感じますか	①はい

※上記設問に回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

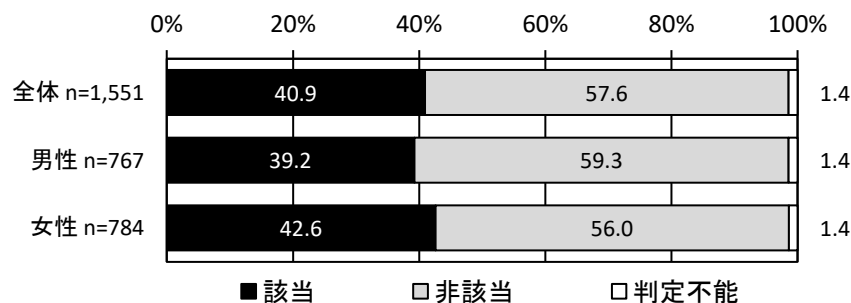
(7)うつ傾向

全体では、うつ傾向の該当者の割合は40.9%で、分析項目の中で、2番目に高い項目となっています。性別ではほとんど差はありません。年齢別では、「90歳以上」の50.0%、「85～89歳」の48.8%が高くなっています。

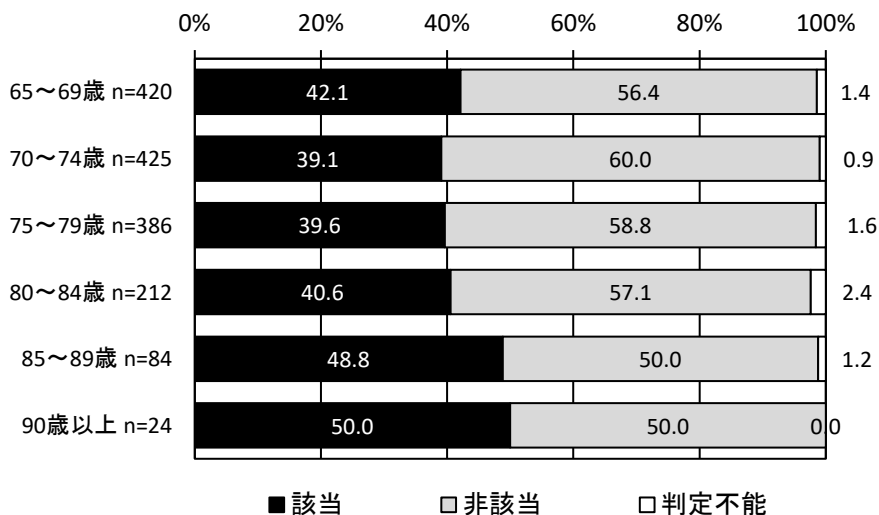
要介護区分別では、「要支援2」が66.7%と最も高くなっています。

■うつ傾向の状況

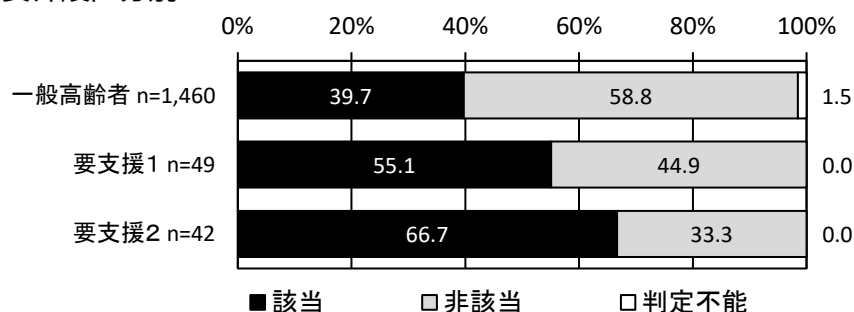
□全体、性別



□年齢別



□要介護区分別



■判定方法

下記2問のうち、いずれか1問でも該当する選択肢を回答した場合、うつ傾向の高齢者と判定する。

設 問	該当する選択肢
問 57 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	①はい
問 58 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	①はい

※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

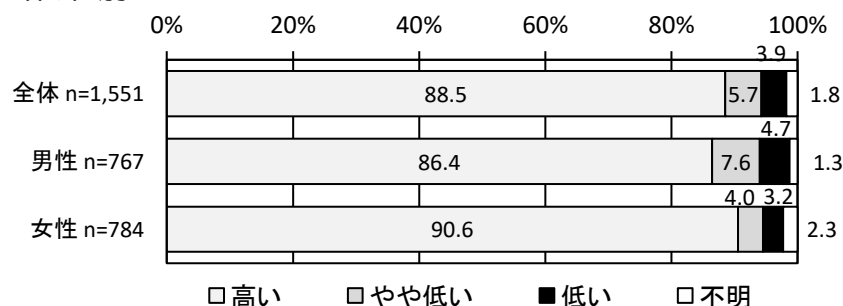
(8)手段的日常生活動作(IADL)

全体では、手段的日常生活動作低下の該当者（「低い」の該当者）の割合は3.9%となっています。性別ではほとんど差は見られません。年齢別では、85歳以降急激に高くなり、「85～89歳」が15.5%、「90歳以上」が45.8%になっています。

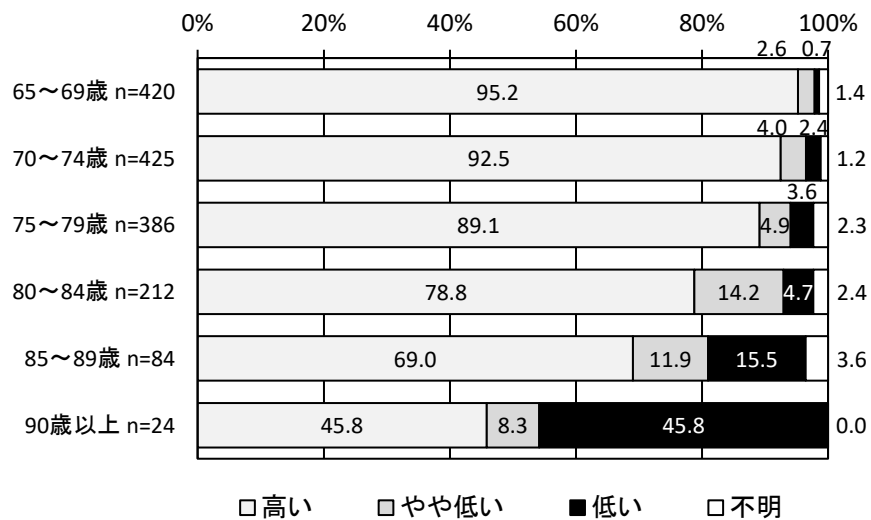
要介護区分別では、要介護度が高いほど該当者の割合は高く、「要支援2」は26.2%になっています。

■手段的日常生活動作(IADL)の低下の状況

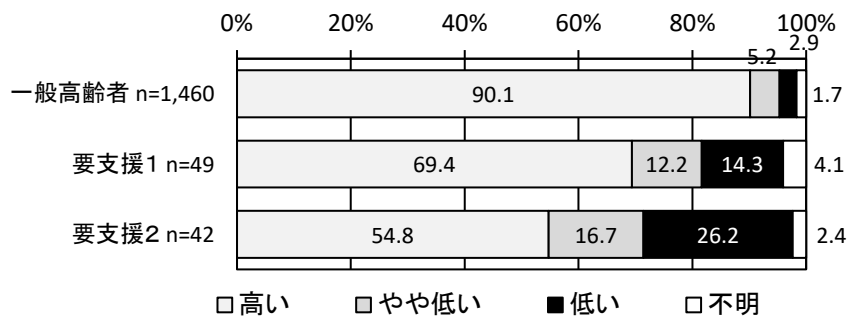
□全体、性別



□年齢別



□要介護区分別



■判定方法

下記5問で、5点=高い、4点：やや低い、0～3点：低いと判定する。

設 問	該当する選択肢
問 28 バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	「①できるし、している」 または 「②できるけどしていない」 ：1点
問 29 自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問 30 自分で食事の用意をしていますか	
問 31 自分で請求書の支払いをしていますか	
問 32 自分で預貯金のおし入れをしていますか	

※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

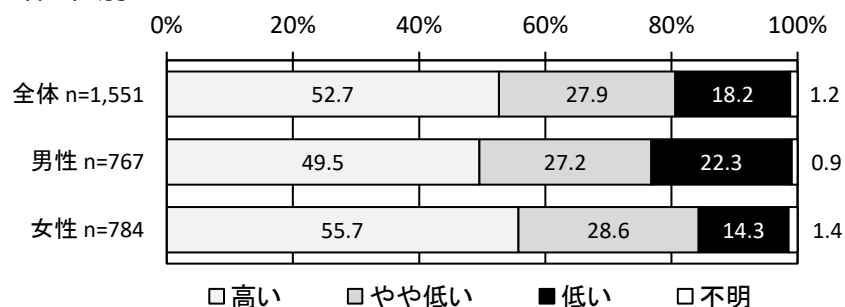
(9) 知的能動性

全体では、知的能動性低下の該当者（「低い」の該当者）の割合は18.2%となっています。性別では、「男性」が22.3%と若干高くなっています。年齢別では、80歳以降、年齢が高くなるほど該当者の割合は高くなり、「90歳以上」では41.7%になっています。

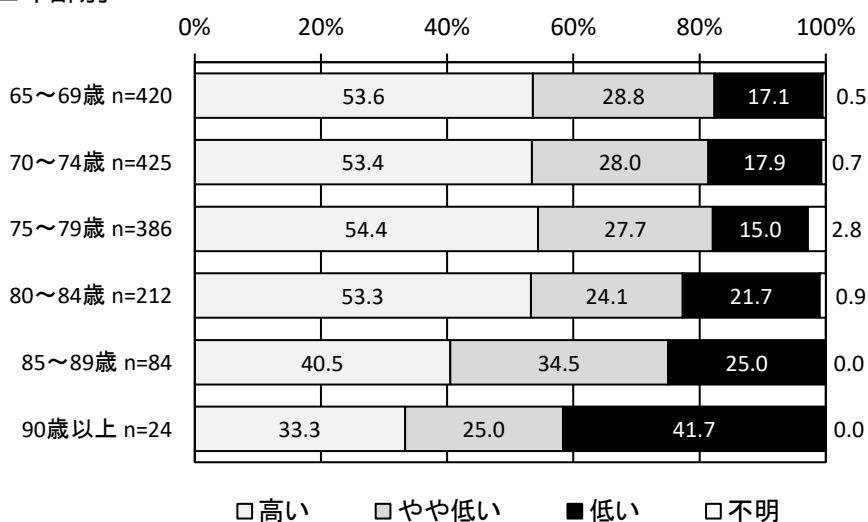
要介護区分別では、要介護度が高いほど該当者割合が高く、「要支援2」は45.2%になっています。

■知的能動性の低下の状況

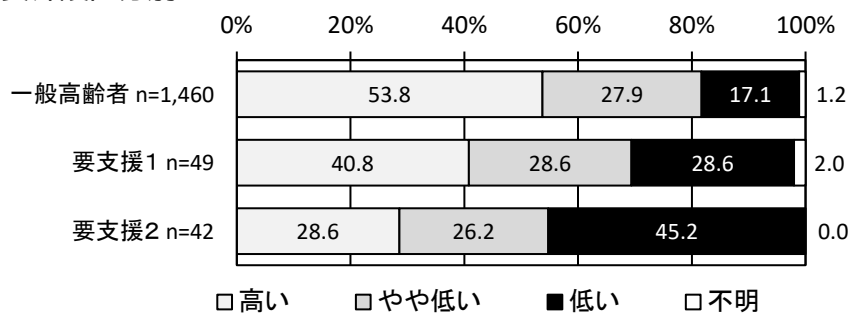
□全体、性別



□年齢別



□要介護区分別



■判定方法

下記4問で、4点=高い、3点：やや低い、0～2点：低いと判定する。

設 問	該当する選択肢
問 33 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「①はい」：1点
問 34 新聞を読んでいますか	
問 35 本や雑誌を読んでいますか	
問 36 健康についての記事や番組に関心がありますか	

※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

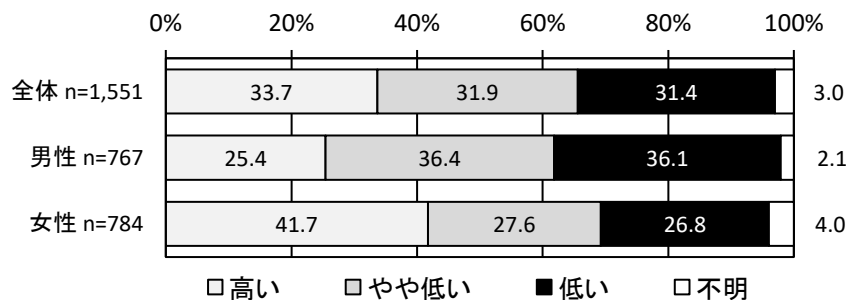
(10) 社会的役割

全体では、社会的役割低下の該当者（「低い」の該当者）の割合は31.4%となっています。性別では、「男性」が36.1%と「女性」を上回っています。年齢別では、年齢が高くなるほど高くなりますが、「90歳以上」が58.3%と、さらに一段と高くなっています。

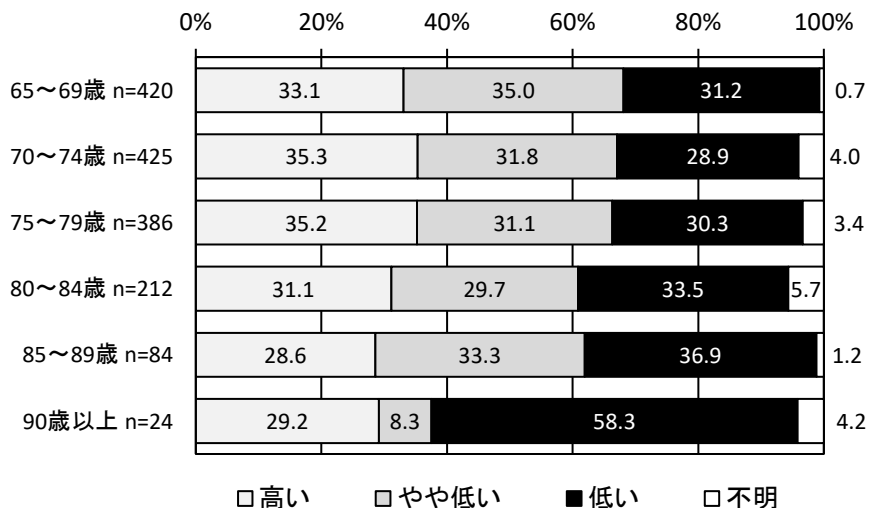
要介護区分別では、要介護度が高いほど高く、「要支援2」が73.8%となっています。

■社会的役割の低下の状況

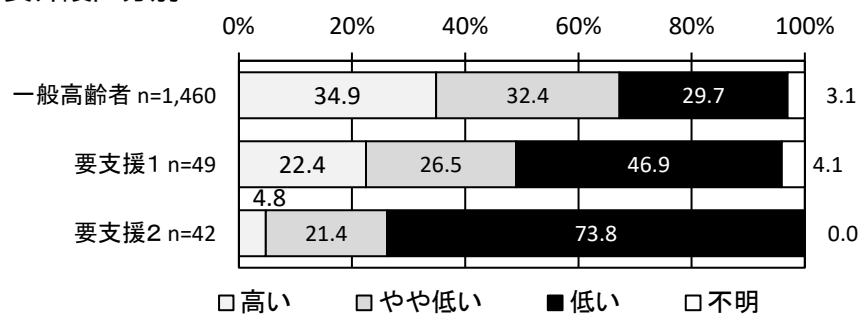
□全体、性別



□年齢別



□要介護区分別



■判定方法

下記4問で、4点：高い、3点：やや低い、2点以下：低いと判定する。

設 問	該当する選択肢
問 37 友人の家を訪ねていますか	「①はい」：1点
問 38 家族や友人の相談にのっていますか	
問 39 病人を見舞うことができますか	
問 40 若い人に自分から話しかけることがありますか	

※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

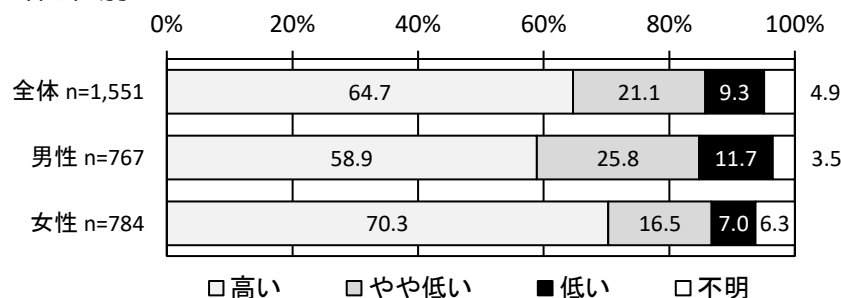
(11) 生活機能総合評価

全体では、生活機能総合評価低下の該当者（「低い」の該当者）の割合は9.3%となっています。性別では、「男性」の「低い」「やや低い」の回答割合が、若干高くなっています。年齢別では、該当者の割合は、85歳以降急激に高くなり、「90歳以上」で45.8%となっています。

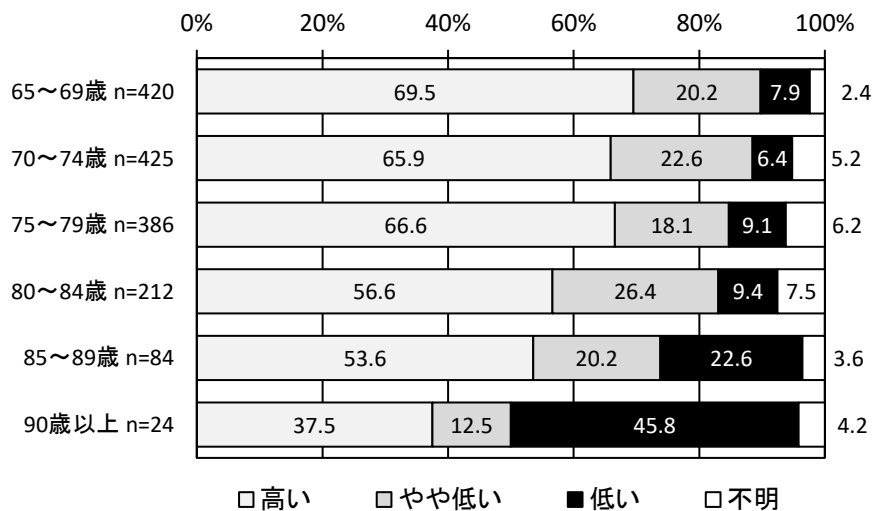
要介護区分別では、要介護度が高いほど高くなり、「要支援2」は42.9%となっています。

■生活機能総合評価の低下の状況

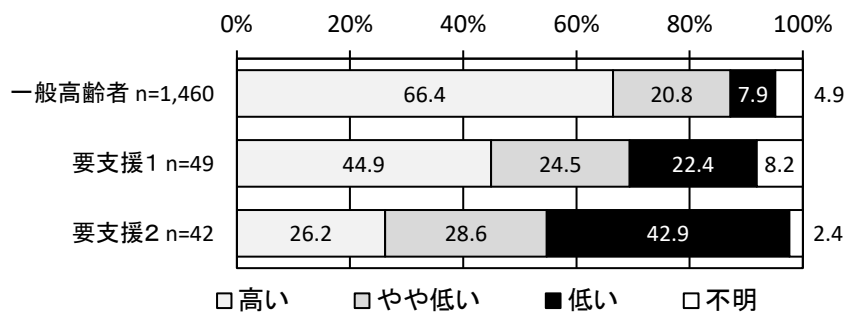
□全体、性別



□年齢別



□要介護区分別



■判定方法

手段的日常生活動作（5項目）、知的能動性（4項目）、社会的役割（4項目）の設問で、11点以上：高い、9～10点：やや低い、8点以下：低いと判定する。

※上記設問のうち1問でも回答が無い場合は判定できないことから対象から除外する。

(12) 判定結果のまとめ

各項目のリスク判定結果より、属性別に該当者割合の最大値、最小値、またその差は以下のよう
に整理されます。

■判定結果の性別、年齢別、要介護区分別のリスク該当者の割合の最大値と最小値及びその差

項目	全体 (%)	性別			年齢別			要介護区分別		
		最大値 (%)	最小値 (%)	最大値 (%)	最大値 (%)	最大値 (%)	差 (ポイント)	最大値 (%)	最小値 (%)	最大値 (%)
運動器	11.3	女性 13.0	男性 9.5	3.5	90歳 以上 45.8	65～69 歳 3.3	42.5	要支援 2 71.4	一般 高齢者 8.3	63.1
転倒	28.2	女性 28.4	男性 28.0	0.4	85～89 歳 42.9	65～69 歳 26.9	16.0	要支援 1 49.0	一般 高齢者 27.0	22.0
閉じこもり	15.0	女性 15.6	男性 14.3	1.3	90歳 以上 54.2	65～69 歳 5.2	49.0	要支援 2 40.5	一般 高齢者 13.6	26.9
低栄養	1.2	女性 1.8	男性 0.7	1.1	85～89 歳 2.4	90歳 以上 0.0	2.4	要支援 2 4.8	一般 高齢者 1.1	3.7
口腔機能	25.1	男性 25.6	女性 24.6	1.0	90歳 以上 66.7	65～69 歳 16.4	50.3	要支援 2 61.9	一般 高齢者 23.2	38.7
認知機能	44.0	男性 44.6	女性 43.5	1.1	85～89 歳 59.5	65～69 歳 39.5	20.0	要支援 1 63.3	一般 高齢者 43.1	20.2
うつ傾向	40.9	女性 42.6	男性 39.2	3.4	90歳 以上 50.0	70～74 歳 39.1	10.9	要支援 2 66.7	一般 高齢者 39.7	27.0
手段的日常生活 動作 (IADL)	3.9	男性 4.7	女性 3.2	1.5	90歳 以上 45.8	65～69 歳 0.7	45.1	要支援 2 26.2	一般 高齢者 2.9	23.3
知的能動性	18.2	男性 22.3	女性 14.3	8.0	90歳 以上 41.7	65～69 歳 17.1	24.6	要支援 2 45.2	一般 高齢者 17.1	28.1
社会的役割	31.4	男性 36.1	女性 26.8	9.3	90歳 以上 58.3	70～74 歳 28.9	29.4	要支援 2 73.8	一般 高齢者 29.7	44.1
生活機能 総合評価	9.3	男性 11.7	女性 7.0	4.7	90歳 以上 45.8	70～74 歳 6.4	39.4	要支援 2 42.9	一般 高齢者 7.9	35.0

第4章 在宅介護実態調査

1. 調査対象者の属性

調査対象者属性データの出典は介護保険台帳（令和7年12月5日現在）です。

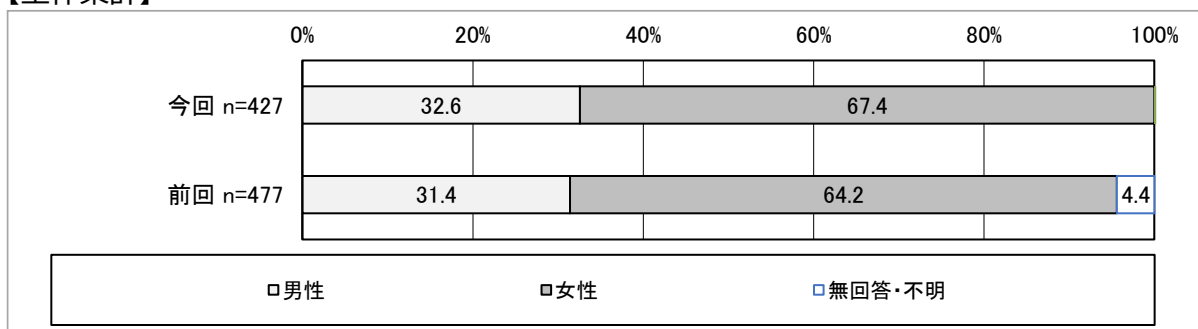
性別は「男性」が32.6%、「女性」が67.4%の構成になっています。前回と比較し、若干「女性」の割合が高くなっています。年齢別は、「90歳以上」が25.3%と最も高く、「85～89歳」の24.6%、「80～84歳」の23.0%と続きます。前回と比較し、ほとんど差はありません。

要介護度別では、「要支援1」が30.4%と最も高く、「要介護4」の21.5%、「要支援2」の16.4%、「要介護5」の14.1%と続きます。前回と比較し、「要支援1、2」「要介護4、5」の割合が高くなっています。回答結果については、前回との差を考慮してみる必要があると考えられます。

なお、年齢、要介護度について、クロス集計の属性分析のため分類をまとめた集計を行っています。

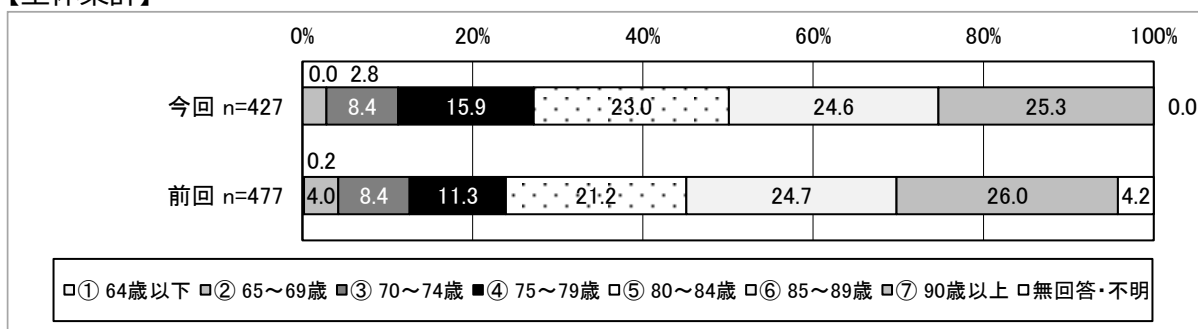
① 性別

【全体集計】

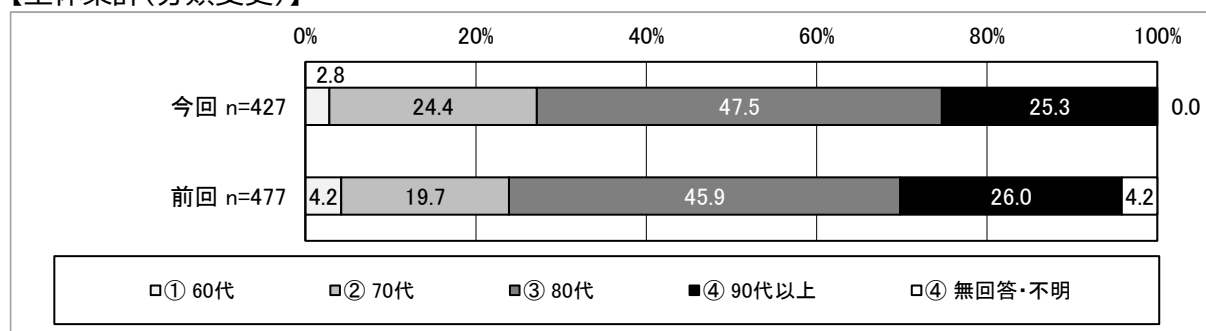


② 年齢

【全体集計】

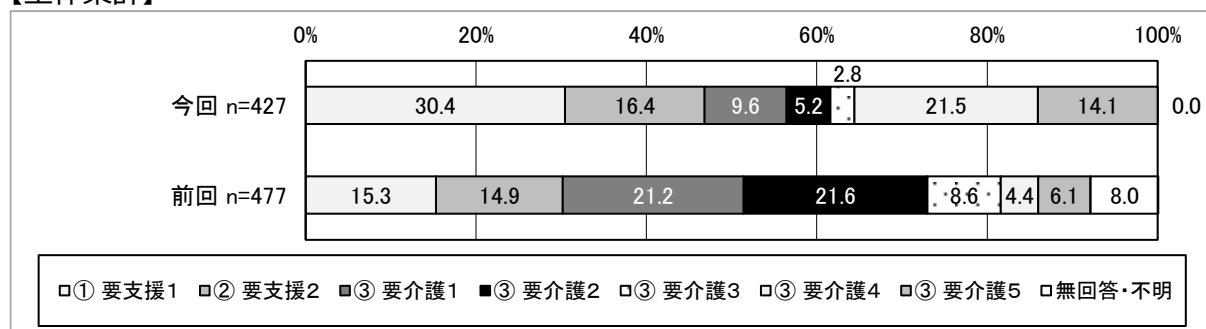


【全体集計(分類変更)】

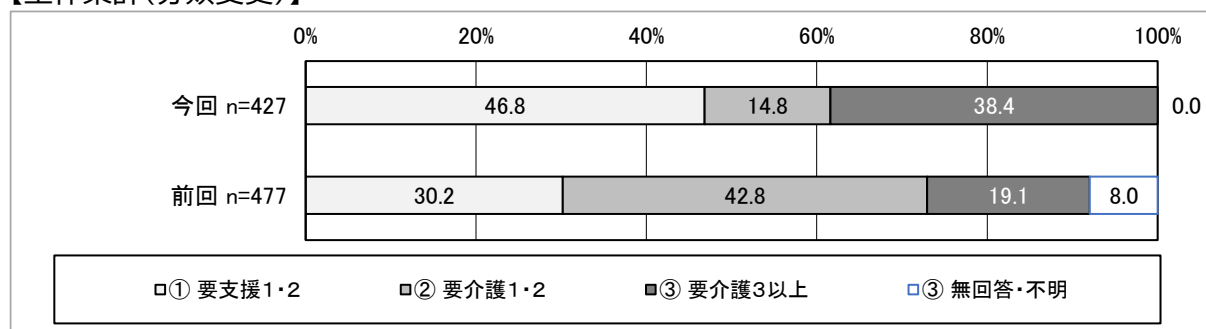


③ 要介護度

【全体集計】



【全体集計(分類変更)】



2. A票 調査対象者ご本人について

(1) 調査票の回答者、家族類型

「調査票の回答者」については、「主な介護者となっている家族・親族」が63.7%を占め、「調査対象者本人」の45.0%が続きます。前回と比較し、「調査対象者本人」が若干上昇しています。

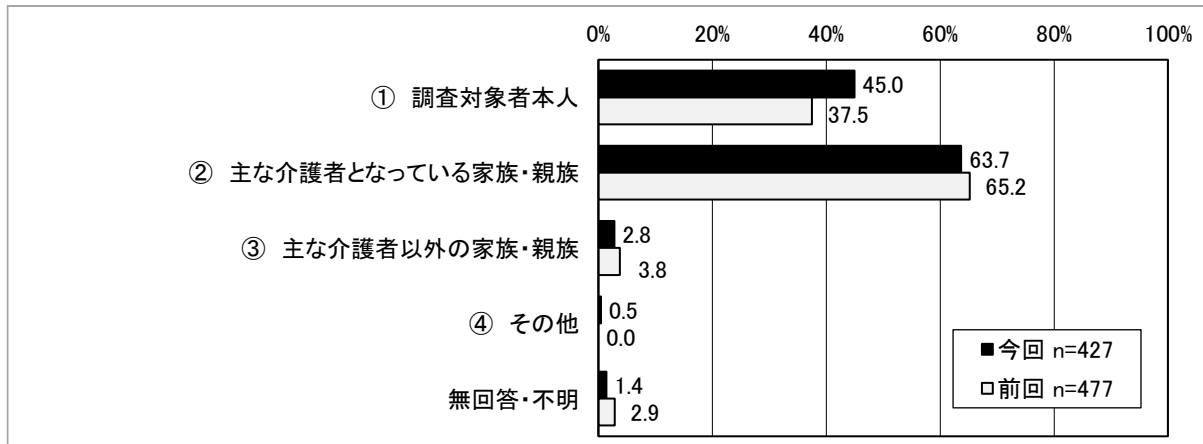
「世帯類型」については、「その他」が53.4%を占め、「夫婦のみ世帯」は25.3%、「単身世帯」は19.9%の構成になっています。前回と比較し、「夫婦のみ世帯」が若干上昇しています。

「現在抱えている傷病」については、「認知症」の31.8%が最も高く、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」の24.8%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」の22.6%と続きます。前回と比較し、大きな差はありません。

① 調査票の回答者

問0. 現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか(いくつでも)

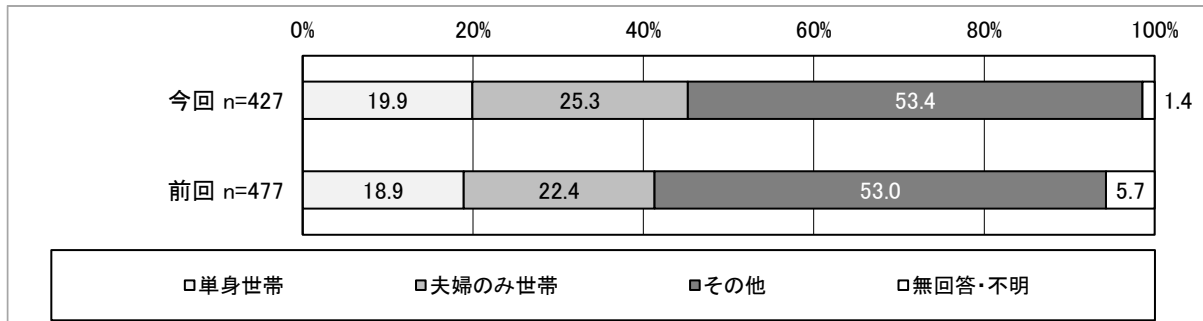
【全体集計】



② 世帯類型

問1. 世帯類型について、ご回答ください。(回答は1つ)

【全体集計】



(2) ご家族・親族からの介護の頻度

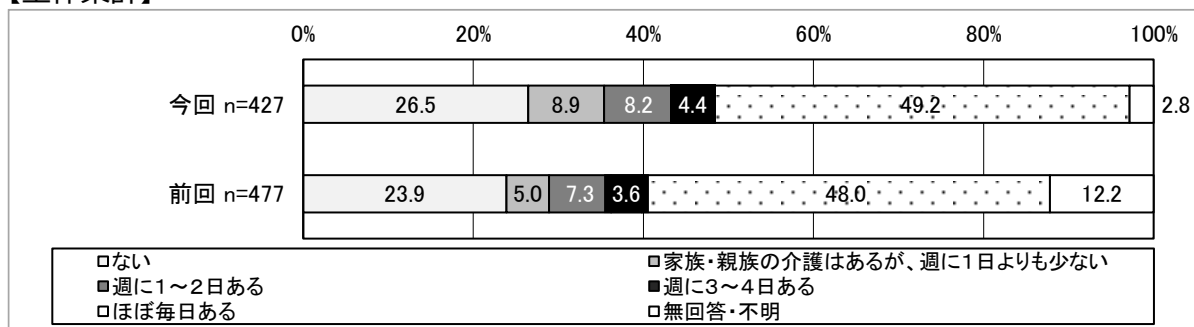
問2. ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(1つを選択)

「ほぼ毎日ある」が49.2%を占め、「ない」の26.5%が続きます。前回と比較し、「ない」が若

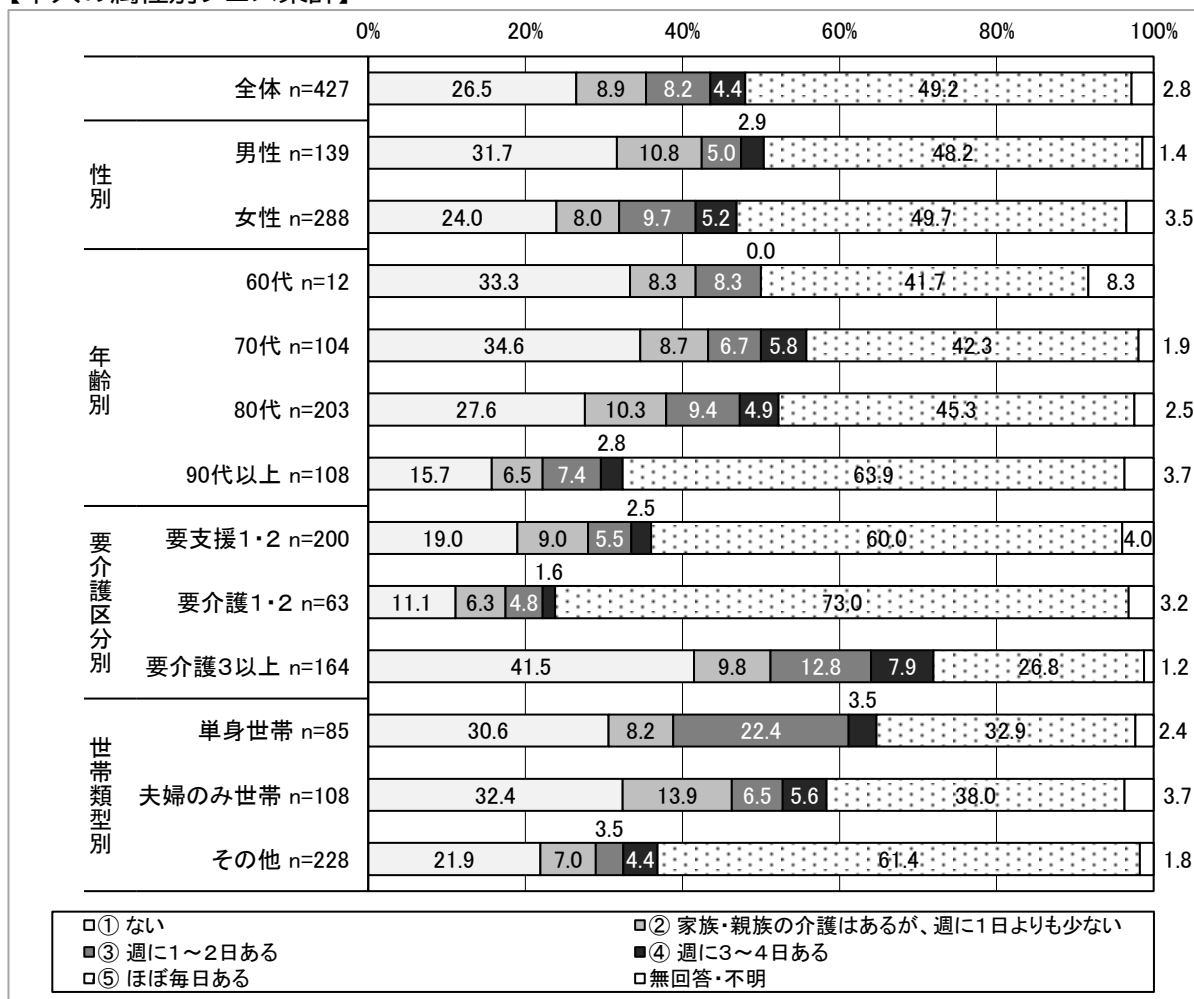
干上昇しています。

本人の属性別にみると、性別では、「男性」の「ない」が若干高くなっています。年齢別では、年齢が高くなるほど「ほぼ毎日ある」が高くなり、「90代以上」は63.9%まで上昇しています。要介護区分別では、「要介護1・2」の「ほぼ毎日ある」が73.0%と上昇していますが、「要介護3以上」では、「ほぼ毎日ある」が26.8%まで低下し、「ない」が41.5%と大幅に上昇しています。要介護度別では、「単身世帯」「夫婦のみ世帯」とも、全体と比較し「ない」が若干高く、「ほぼ毎日ある」が低くなっています。

【全体集計】



【本人の属性別クロス集計】



(3) 主な介護者の属性

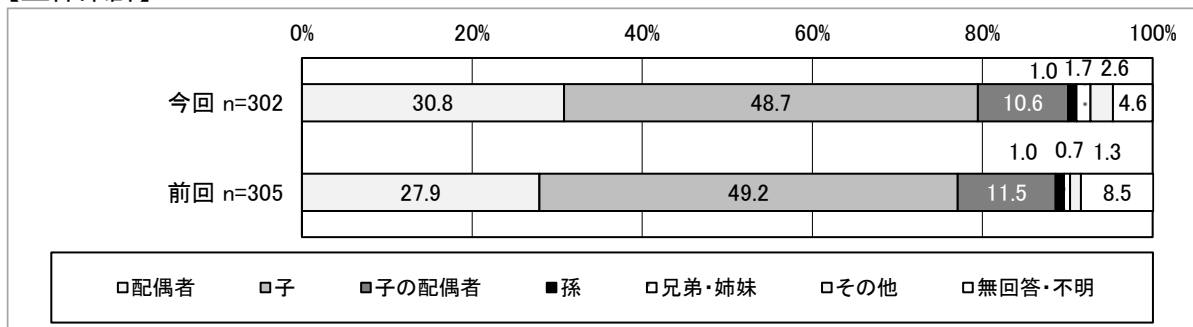
「主な介護者の続柄」については、「子」の48.7%が最も高く、「配偶者」の30.8%、「子の配偶者」の10.6%が続きます。前回と比較し、「配偶者」が若干上昇しています。

「性別」については、「女性」が68.2%を占め、「男性」は28.8%となっています。前回と比較し、ほとんど差はありません。「年齢」については、「60代」の32.8%が最も高く、「70代」の22.2%、「50代」「80代」の19.9%と続きます。

① 主な介護者の続柄

問3. 主な介護者の方は、どなたですか(1つを選択)

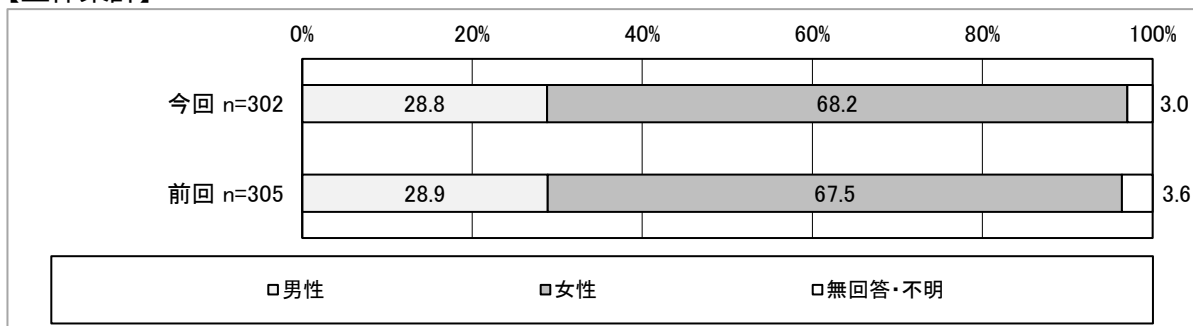
【全体集計】



② 性別

問4. 主な介護者の方の性別について、ご回答ください(1つを選択)

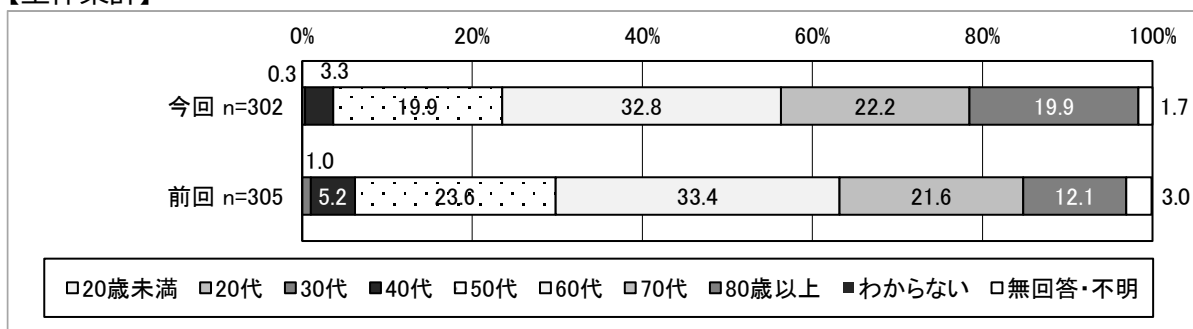
【全体集計】



③ 年齢

問5. 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください(1つを選択)

【全体集計】



(4) 介護の内容

問6. 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください(複数選択可)

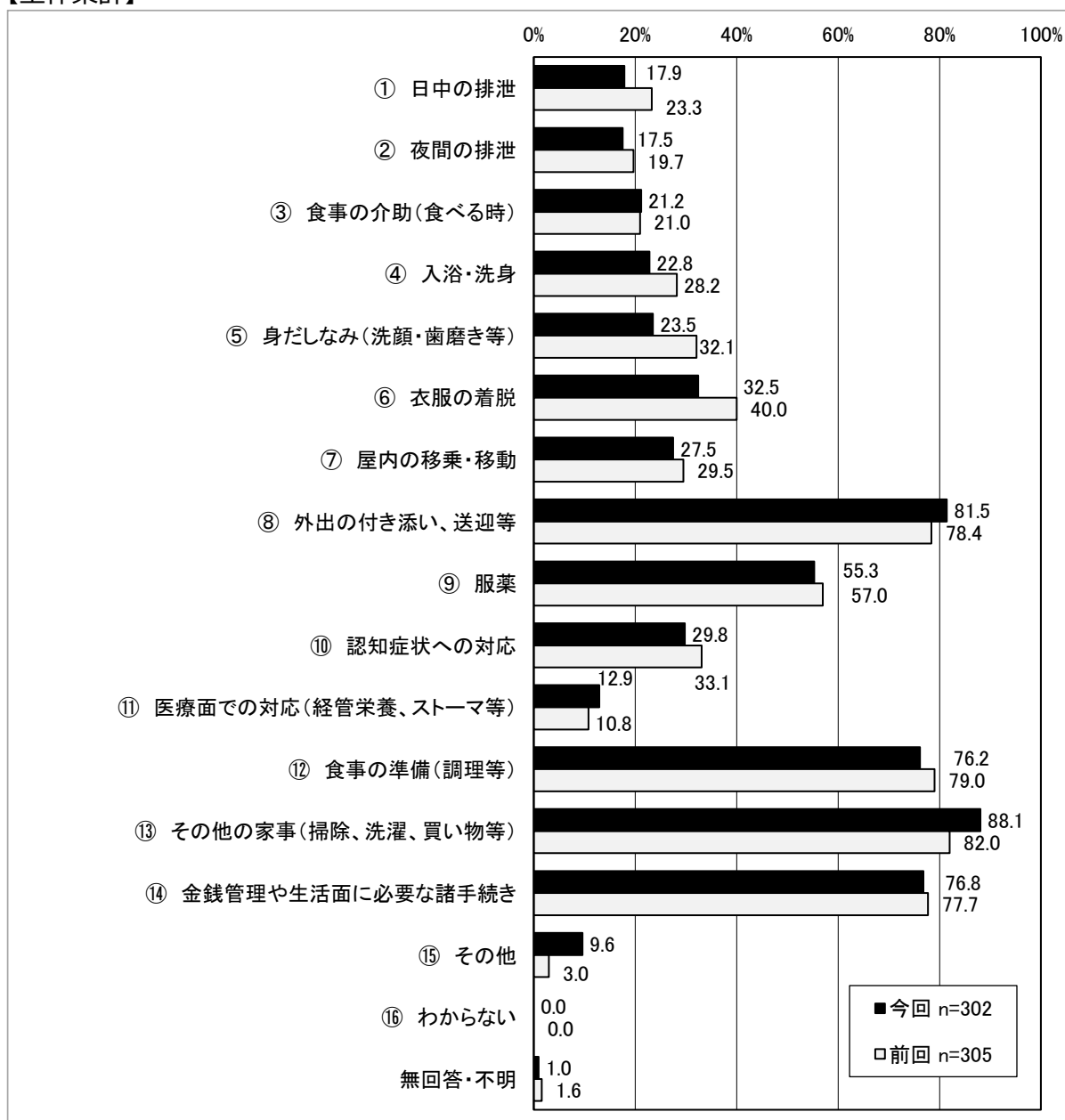
主な介護者が行っている「介護の内容」については、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の88.1%が最も高く、「外出の付き添い、送迎等」の81.5%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の76.8%、「食事の準備（調理等）」の76.2%と続きます。前回と比較し、上位4項目は変わらず、全体として大きな差はありません。

主な介護者の属性別にみると、「性別」では、「女性」の回答が高いのは「入浴・洗身」「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」「外出の付き添い、送迎等」「食事の準備」であり、「男性」が高いのは「食事の介助（食べる時）」「屋内の移乗・移動」「認知症状への対応」です。

「年齢別」では、全体的に「60代」「70代以上」の回答が高く、「60代」が高いのは「外出の付き添い、送迎等」「服薬」「認知症状への対応」「食事の準備（調理等）」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」で、「70代以上」が高いのが、「夜間の排泄」「食事の介助（食べる時）」「入浴・洗身」「衣服の着脱」「屋内の移乗・移動」です。

「続柄別」では、全体的に「配偶者」の回答が高く、「子」「その他」を上回っているのは、「日中の排泄」「夜間の排泄」「入浴・洗身」「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」「衣類の着脱」「屋内の移乗・移動」「医療面での対応（経管栄養・ストーマ等）」「食事の準備（調理等）」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」です。「子」が上回っている項目は、「外出の付き添い、送迎等」「認知症状への対応」です。

【全体集計】



【主な介護者の属性別クロス集計】

単位: 上段・回答数(件), 下段・構成比(%)

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助(食べる)	入浴・洗身	身だしなみ(洗顔・歯磨き等)	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等	服薬	認知症状への対応
全体		54 17.9	53 17.5	64 21.2	69 22.8	71 23.5	98 32.5	83 27.5	246 81.5	167 55.3	90 29.8
性別	男性	17 19.5	15 17.2	24 27.6	17 19.5	14 16.1	29 33.3	27 31.0	66 75.9	48 55.2	30 34.5
	女性	35 17.0	36 17.5	38 18.4	49 23.8	54 26.2	66 32.0	54 26.2	174 84.5	114 55.3	57 27.7
年齢別	30～50代	6 8.5	9 12.7	16 22.5	16 22.5	12 16.9	13 18.3	11 15.5	60 84.5	30 42.3	19 26.8
	60代	21 21.2	16 16.2	18 18.2	19 19.2	24 24.2	33 33.3	27 27.3	87 87.9	63 63.6	40 40.4
	70代以上	27 21.3	27 21.3	30 23.6	33 26.0	34 26.8	51 40.2	45 35.4	98 77.2	72 56.7	31 24.4
続柄別	配偶者	27 29.0	21 22.6	22 23.7	28 30.1	25 26.9	38 40.9	34 36.6	74 79.6	56 60.2	21 22.6
	子	18 12.2	21 14.3	33 22.4	28 19.0	30 20.4	39 26.5	36 24.5	123 83.7	77 52.4	50 34.0
	その他	8 16.7	10 20.8	9 18.8	8 16.7	14 29.2	17 35.4	11 22.9	38 79.2	29 60.4	16 33.3

単位: 上段・回答数(件), 下段・構成比(%)

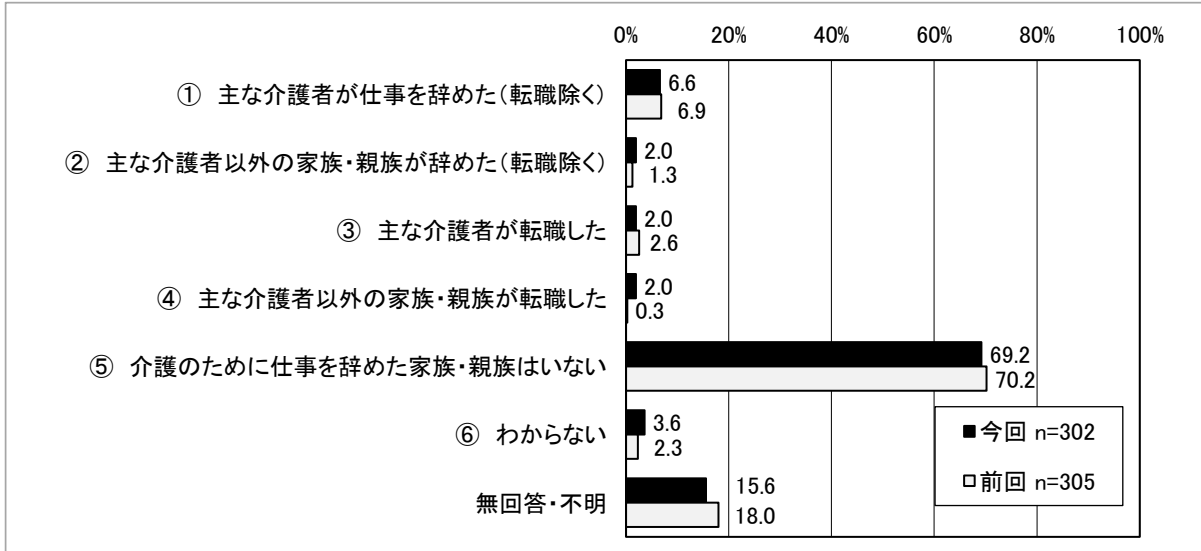
		⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	無回答・不明	回答数合計	回答者数合計
		等管医 栄療 養面 での スト ー マ 経	等食 事の 準備 (調理)	等除 その 他の 洗濯 、家 事 買 い 物 掃	必金 要銭 な管 理 手 続 き 生 活 面 に	そ の 他	わ か ら な い			
全体		39 12.9	230 76.2	266 88.1	232 76.8	29 9.6	0 0.0	3 1.0	1,794 594.0	302 100.0
性別	男性	14 16.1	60 69.0	77 88.5	65 74.7	8 9.2	0 0.0	0 0.0	511 587.4	87 100.0
	女性	24 11.7	165 80.1	183 88.8	161 78.2	21 10.2	0 0.0	1 0.5	1,232 598.1	206 100.0
年齢別	30～50代	4 5.6	45 63.4	58 81.7	54 76.1	9 12.7	0 0.0	0 0.0	362 509.9	71 100.0
	60代	16 16.2	83 83.8	91 91.9	81 81.8	12 12.1	0 0.0	0 0.0	631 637.4	99 100.0
	70代以上	18 14.2	100 78.7	114 89.8	96 75.6	8 6.3	0 0.0	1 0.8	785 618.1	127 100.0
続柄別	配偶者	15 16.1	77 82.8	85 91.4	72 77.4	5 5.4	0 0.0	0 0.0	600 645.2	93 100.0
	子	16 10.9	108 73.5	126 85.7	115 78.2	18 12.2	0 0.0	1 0.7	839 570.7	147 100.0
	その他	4 8.3	37 77.1	44 91.7	39 81.3	4 8.3	0 0.0	0 0.0	288 600.0	48 100.0

(5) 仕事を辞めた方の有無

問7. ご家族やご親族の中で、ご本人(認定調査対象者)の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)(複数選択可)

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が69.2%を占めます。「辞めた」回答で最も高いのは「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」の6.6%です。

【全体集計】



選択肢の要約：

②の全文は、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)」

(6) 介護保険サービス以外のサービスの利用について

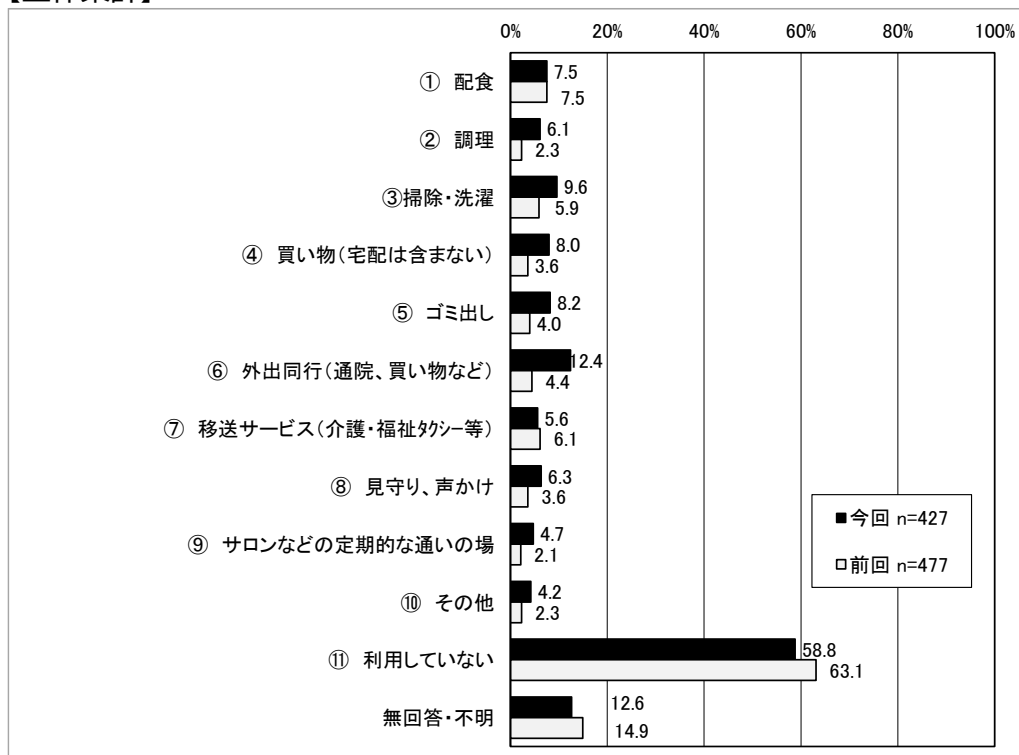
介護保険サービス以外の「利用しているサービスの内容」については、「利用していない」が58.8%を占めます。利用している内容では、「外出同行(通院、買い物など)」の12.4%が最も高く、「掃除・洗濯」の9.6%、「ゴミ出し」の8.2%、「買い物(宅配は含まない)」の8.0%が続きます。前回と比較し、上位4項目全て上昇しています。

「今後、必要と感じる支援・サービスの内容」については、「特になし」の36.1%が最も高くなっています。必要と感じる内容については、「外出同行(通院、買い物など)」の26.0%が最も高く、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」の24.6%、「見守り、声かけ」の16.6%と続きます。前回と比較し、上位2項目の「外出同行(通院、買い物など)」「移送」サービス(介護・福祉タクシー等)」が上昇しています。

① 利用しているサービスの内容

問8. 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください(複数選択可)
※総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。

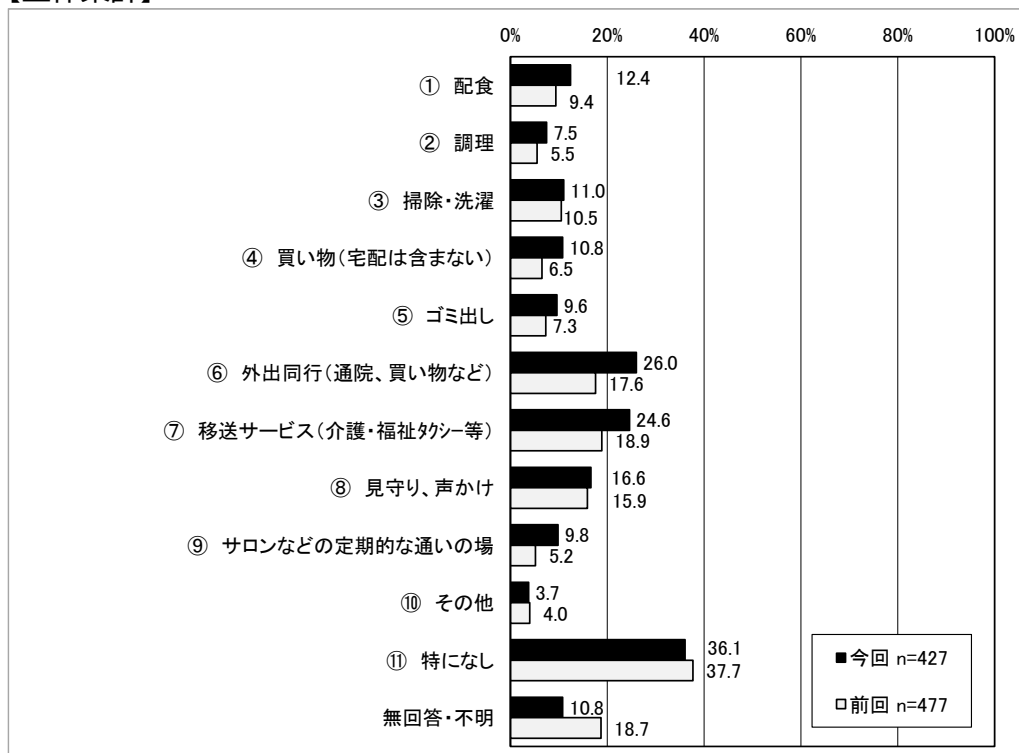
【全体集計】



② 今後、必要と感じる支援・サービスの内容

問9. 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください(複数選択可)

【全体集計】



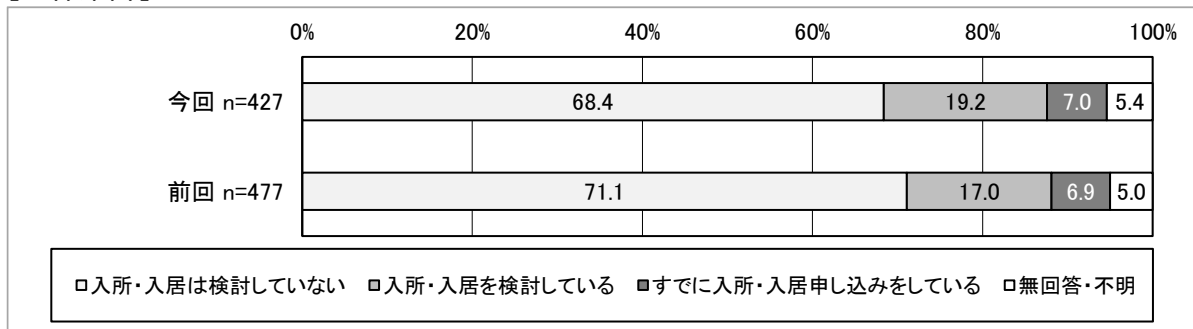
(7)施設等への入所・入居の検討状況

問10. 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください(複数選択可)

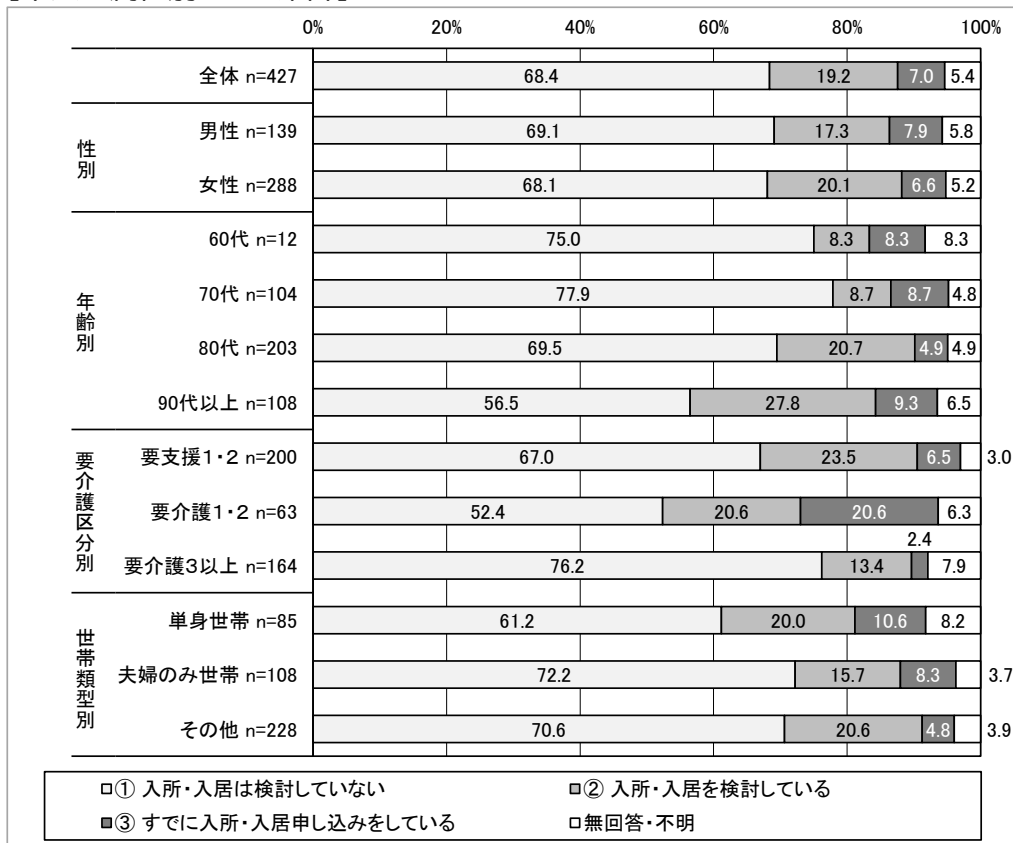
「入所・入居は検討していない」が68.4%を占め、「入所・入居を検討している」は19.2%、「すでに入所・入居申し込みをしている」は7.0%となっています。前回と比較し、ほとんど差はありません。

本人の属性別にみると、「性別」では、ほとんど差はありません。「年齢別」では、年齢が高くなるほど、「入所・入居を検討している」が高くなり、「90代以上」は27.8%まで上昇しています。「要介護区分別」では、「要介護1・2」の「すでに入所・入居申し込みをしている」が20.6%、「要支援1・2」の「入所・入居を検討している」が23.5%と、高くなっています。「世帯類型別」では、「単身世帯」の「すでに入所・入居申し込みをしている」が、若干高くなっています。

【全体集計】



【本人の属性別クロス集計】

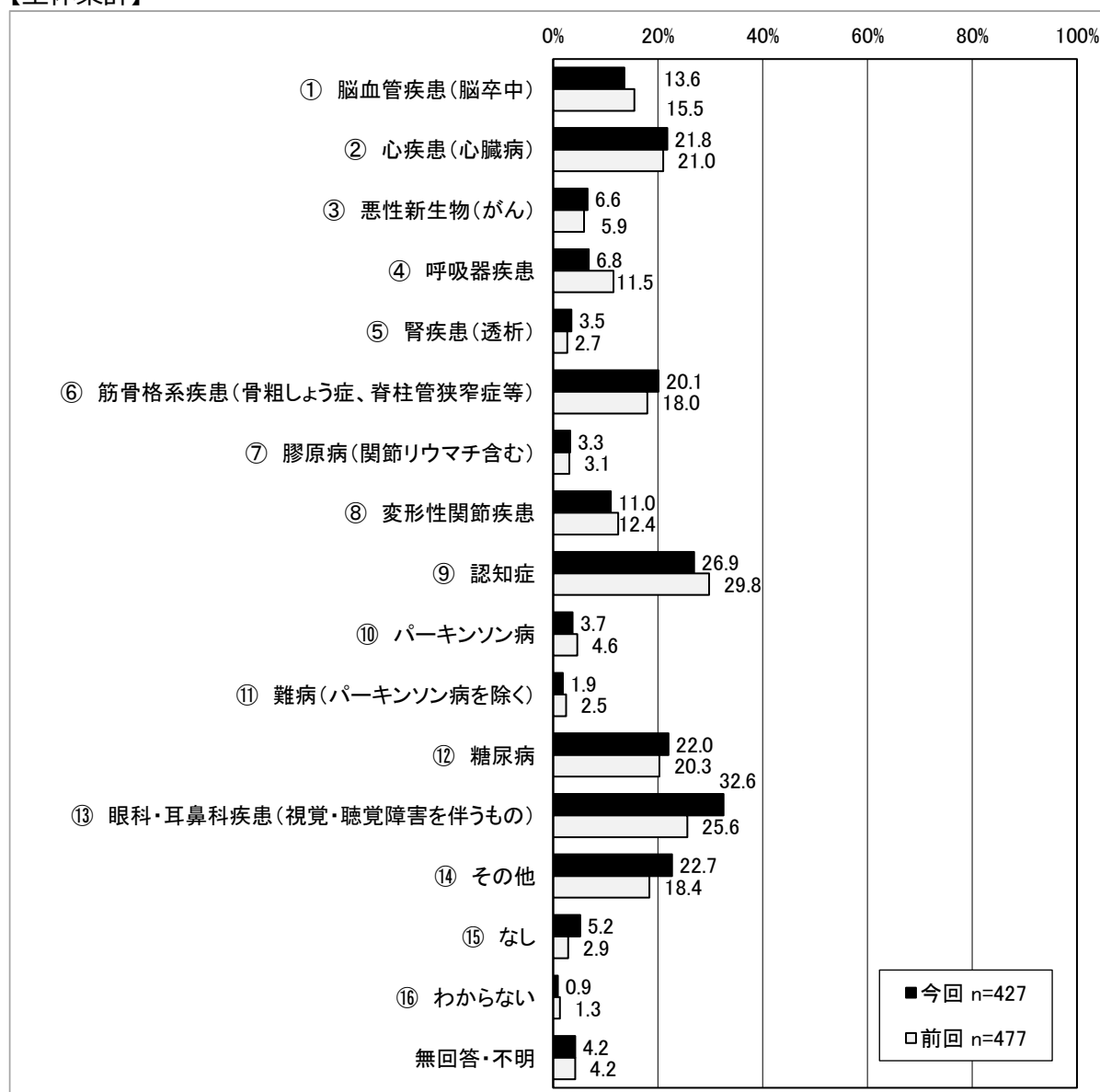


(8)現在抱えている傷病

問11. ご本人(認定調査対象者)が、現在抱えている傷病について、ご回答ください(複数選択可)

「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」の32.6%が最も高く、「認知症」の26.9%、「糖尿病」の22.0%、「心疾患(心臓病)」の21.8%、「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」の20.1%と続きます。前回と比較し、「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」が上昇しています。

【全体集計】

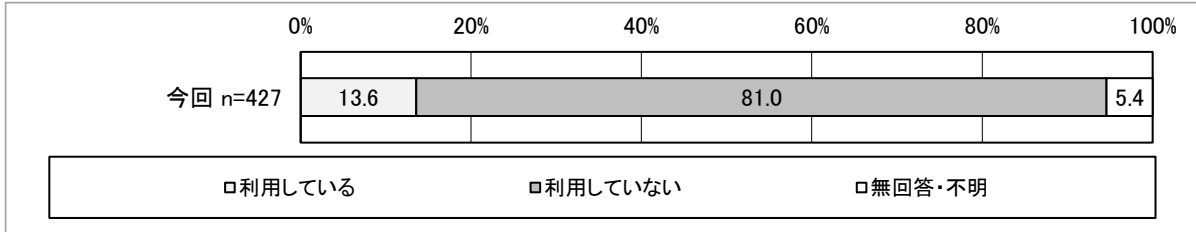


(9) 訪問診療利用の有無

問12. ご本人(認定調査対象者)は、現在、訪問診療を利用していますか(1つを選択)
 ※訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません。

「利用していない」が81.0%を占め、「利用している」は13.6%となっています。

【全体集計】



(10) 介護保険サービスの利用について

「利用の有無」については、「利用している」が60.9%を占め、「利用していない」の35.6%となっています。前回と比較し、「利用している」が低下しています。

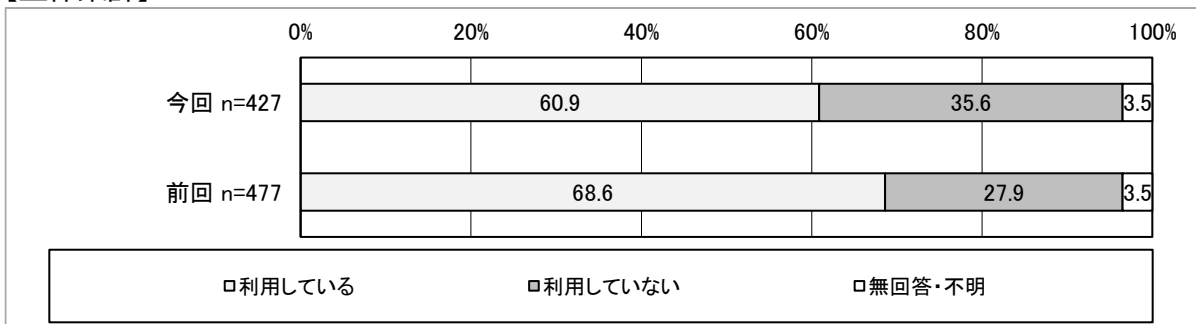
本人の属性別でみると、「性別」では、「女性」が「男性」を若干上回っています。「年齢別」に「利用している」をみると、「90代以上」の73.1%が最も高く、要介護「70代」の64.4%が続きます。「要介護区分別」に「利用している」をみると、「要介護1・2」の84.1%が最も高く、「要支援1・2」の64.0%、「要介護3以上」の48.2%となっています。「世帯類型別」では、ほとんど差は見られません。

利用していない方に「利用していない理由」について質問した結果、最も高かったのが「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の58.6%で、「本人にサービス利用の希望がない」「家族が介護をするため必要ない」の23.7%が続きます。前回と比較し、「現状では、サービスを利用するほどの状態でない」が上昇し、「本人にサービス利用の希望がない」が低下しています。

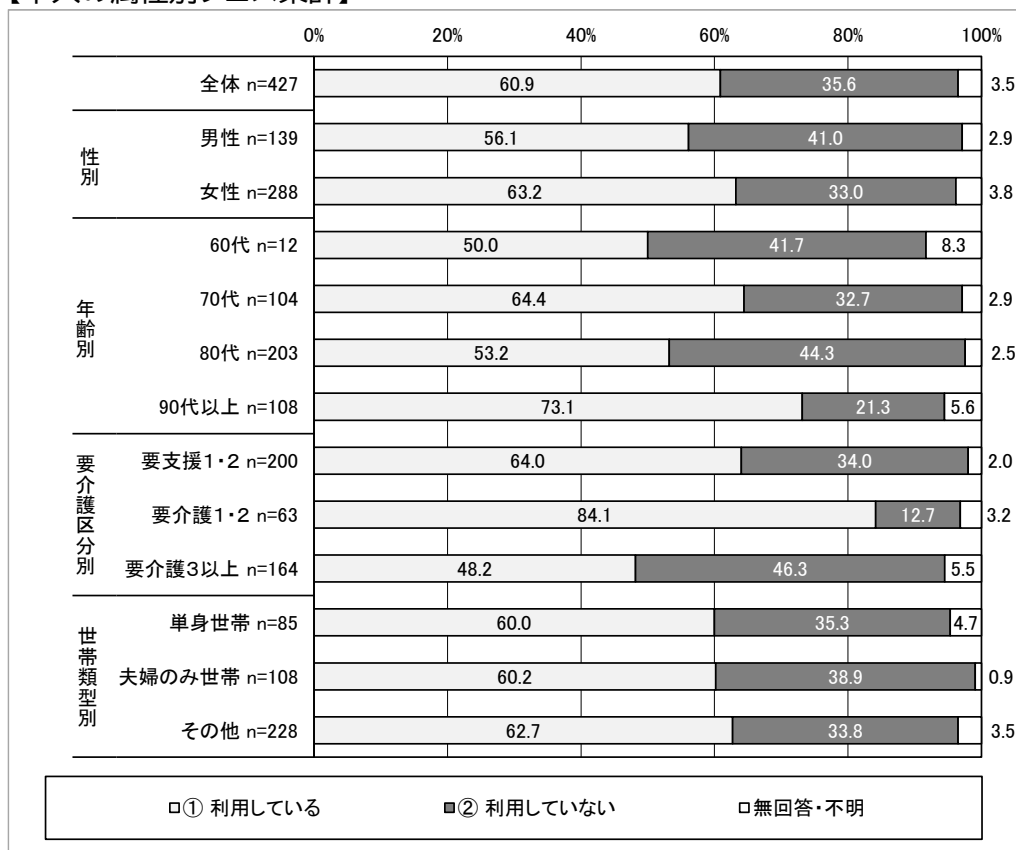
① 利用の有無

問13. 現在、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用していますか(1つを選択)

【全体集計】



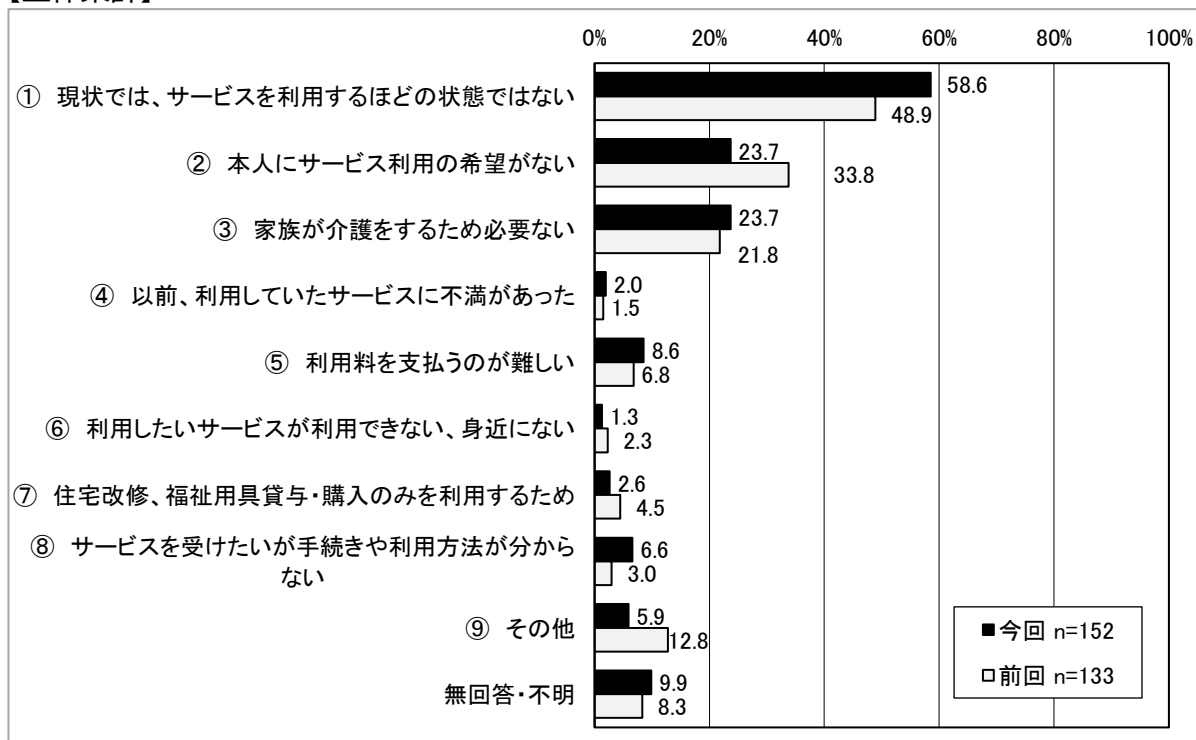
【本人の属性別クロス集計】



② 利用していない理由

問13で「②利用していない」とお答えの方にお伺いします
 問14. 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか(複数選択可)

【全体集計】



3. B票 主な介護者の方について

B票では、主な介護者の就労関係について、質問しています。

(1) 介護者の勤務について

主な介護者の「勤務形態」については、「働いていない」の47.4%が最も高く、「フルタイムで働いている」が22.2%、「パートタイムで働いている」が20.2%となっています。

主な介護者の属性別にみると、「性別」では、「男性」は「フルタイムで働いている」が28.7%で、「女性」を上回り、「女性」は「パートタイムで働いている」が25.2%で、「男性」を上回っています。「年齢別」の「30～50代」では、「フルタイムで働いている」が42.3%、「パートタイムで働いている」が31.0%に対し、「70代以上」では、それぞれ10.2%、11.0%まで低下しています。続柄別では、「子」は「フルタイムで働いている」が34.0%、「パートタイムで働いている」が25.9%と、60%弱が就労しています。

フルタイム、パートタイムで働いている方へ「働き方の調整等」について聞いたところ、「介護のために、労働時間を調整しながら働いている」が37.5%と最も高い回答となっており、「介護のために、休暇を取りながら、働いている」の23.4%、「時間調整、休暇、在宅勤務以外の調整をしながら働いている」の22.7%と続いています。また、「特に行っていない」も23.4%の回答となっています。

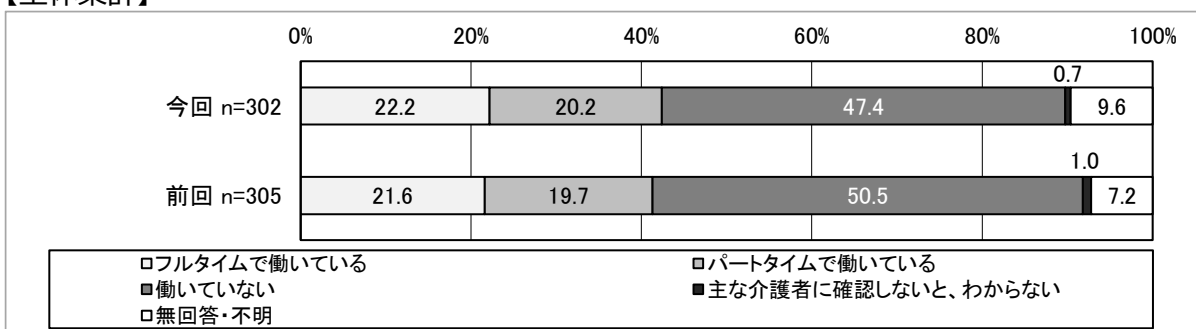
さらに、フルタイム、パートタイムで働いている方へ「仕事と介護の両立に効果のある勤め先からの支援」について聞いたところ、「制度を利用しやすい職場づくり」の32.8%が最も高い回答で、「介護休業、介護休暇等の制度の充実」の31.3%、「介護をしている従業員への経済的な支援」の28.9%と続きます。

① 勤務形態

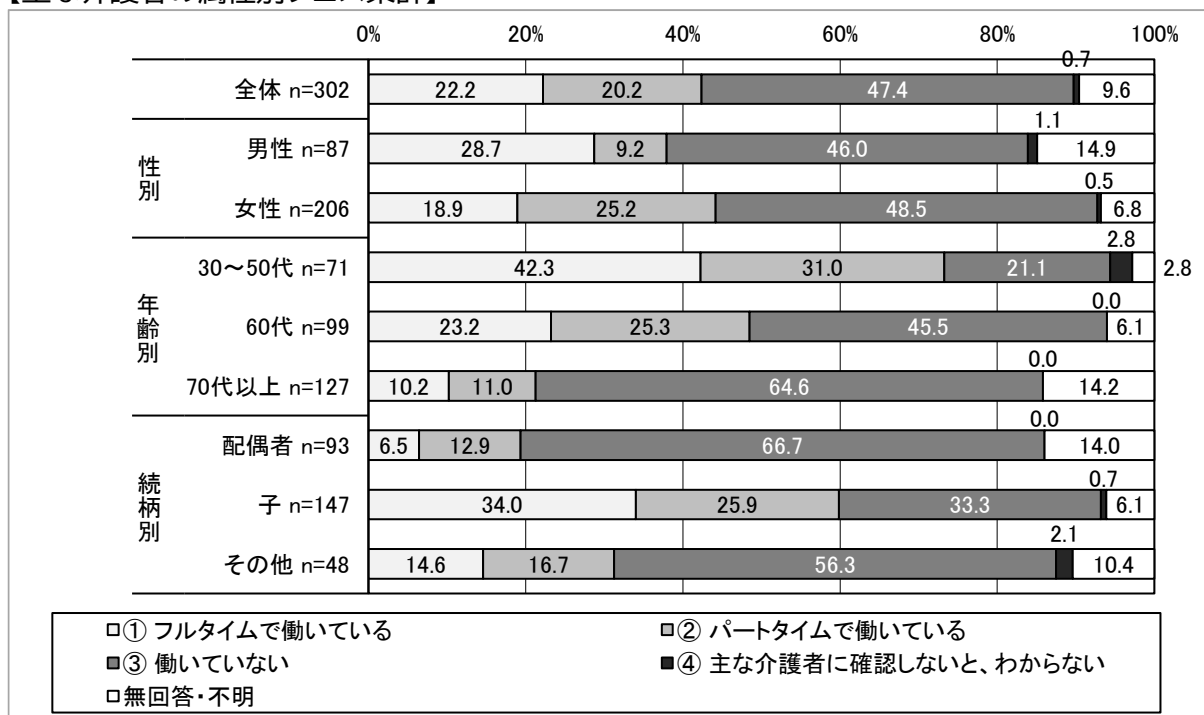
問1. 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください(1つを選択)

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

【全体集計】



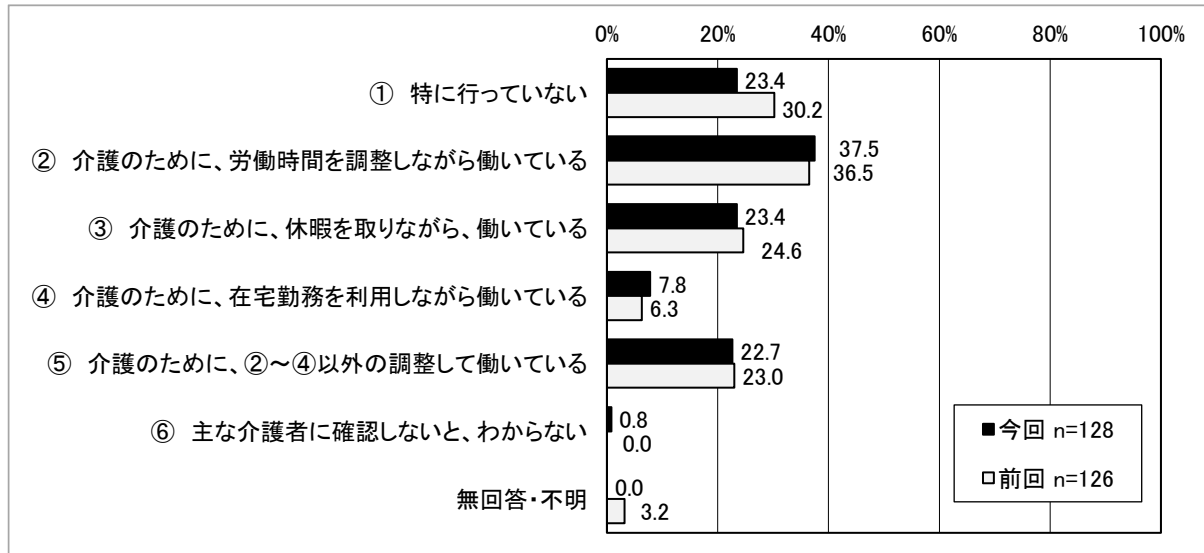
【主な介護者の属性別クロス集計】



② 働き方の調整等

問1で「①フルタイムで働いている」「②パートタイムで働いている」とお答えの方にお伺いします
 問2 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(複数選択可)

【全体集計】



選択肢の要約：

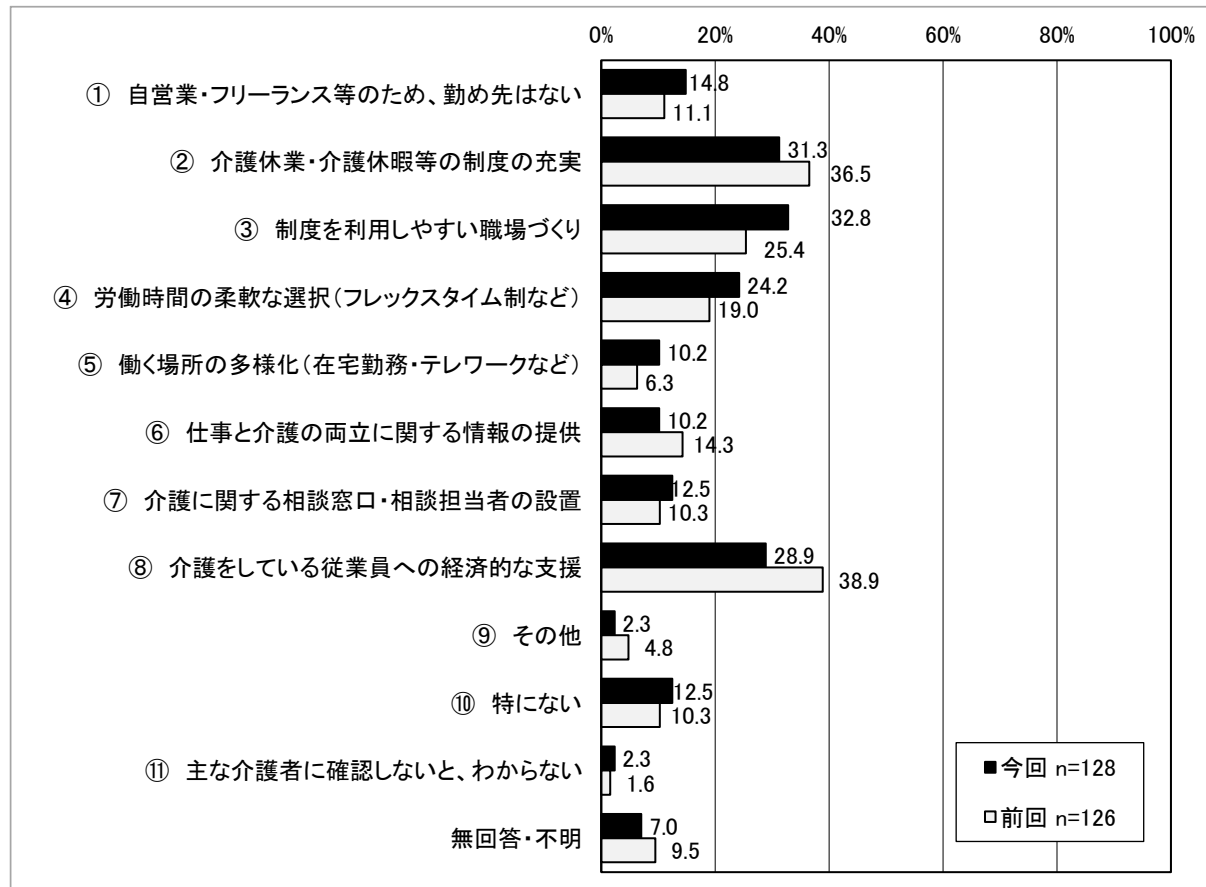
- ②の全文は、「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」
- ③の全文は、「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」
- ④の全文は、「介護のために、『在宅勤務』を利用しながら、働いている」

③ 仕事と介護の両立に効果のある勤め先からの支援

問1で「①フルタイムで働いている」「②パートタイムで働いている」とお答えの方にお伺いします

問3 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか(3つまで選択可)

【全体集計】



(2)介護の継続、不安について

フルタイム、パートタイムで働いている方への質問で、「今後の介護継続の難しさ」について聞いたところ、「問題はあるが、何とか続けていける」が60.2%を占め、「問題なく、続けていける」の14.8%が続きます。前回と比較し、「続けていける」が若干上昇しています。

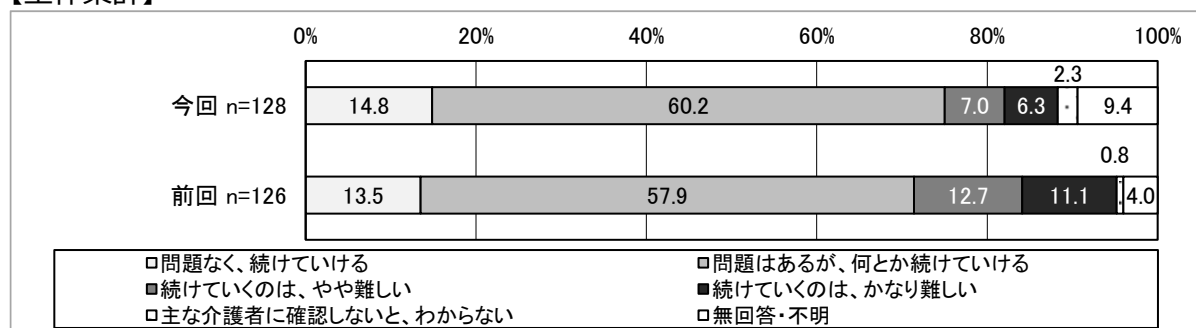
主な介護者全員への質問で、「不安に感じる介護」について聞いたところ、「認知症への対応」の35.4%が最も高い回答で、「外出の付き添い、送迎等」の33.8%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」の26.8%と続きます。前回と比較し、各項目の回答割合は上昇しており、特に「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」は17.3%、「外出の付き添い、送迎等」は17.1%上昇しています。

① 今後の介護継続の難しさ

問1で「①フルタイムで働いている」「②パートタイムで働いている」とお答えの方にお伺いします

問4 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか(1つを選択)

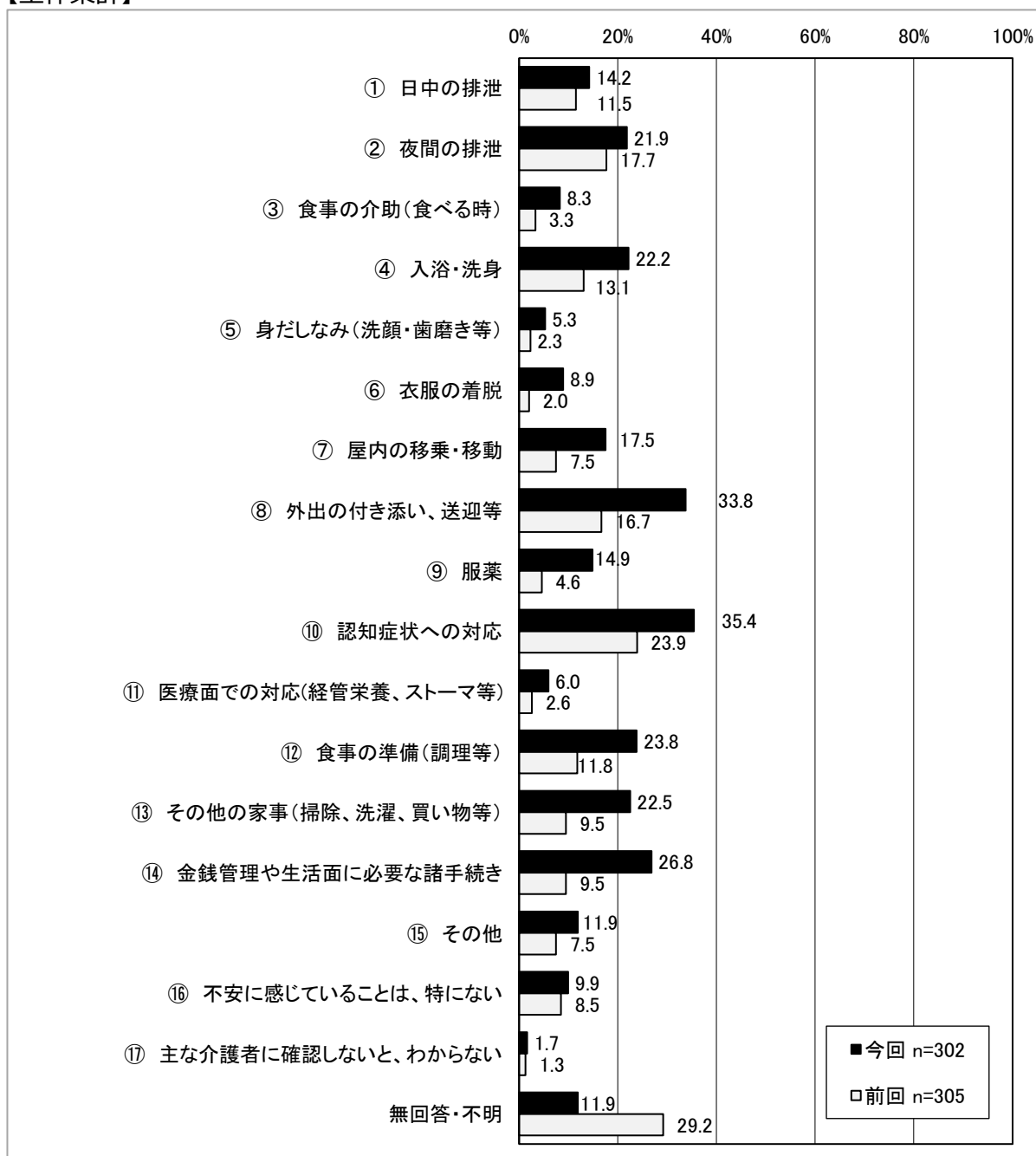
【全体集計】



② 不安に感じる介護

問5. 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください(3つまで選択可)

【全体集計】



第5章 介護サービス事業者調査

1. 在宅生活改善調査

(1) 自宅等から居所を変更した利用者の行先別の人数

過去1年間に自宅等から居所を変更した利用者は118人で、行先別の人数をみると、「介護老人保健施設」の43人（36.4%）が最も多く、「病院・診療所」の26人（22.0%）、「特別養護老人ホーム」の25人（21.2%）が続きます。

過去1年間の実績

過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数

行先	市区町村内	市区町村外	合計
兄弟・子ども・親戚等の家	0人 0.0%	2人 1.7%	2人 1.7%
住宅型有料老人ホーム	2人 1.7%	8人 6.8%	10人 8.5%
軽費老人ホーム	0人 0.0%	2人 1.7%	2人 1.7%
サービス付き高齢者向け住宅	0人 0.0%	4人 3.4%	4人 3.4%
グループホーム	3人 2.5%	2人 1.7%	5人 4.2%
特定施設	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
地域密着型特定施設	0人 0.0%	1人 0.8%	1人 0.8%
介護老人保健施設	24人 20.3%	19人 16.1%	43人 36.4%
介護医療院	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特別養護老人ホーム	15人 12.7%	10人 8.5%	25人 21.2%
地域密着型特別養護老人ホーム	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	15人 12.7%	11人 9.3%	26人 22.0%
その他	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
行先を把握していない			0人 0.0%
合計	59人 50.0%	59人 50.0%	118人 100.0%

（注1）「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。

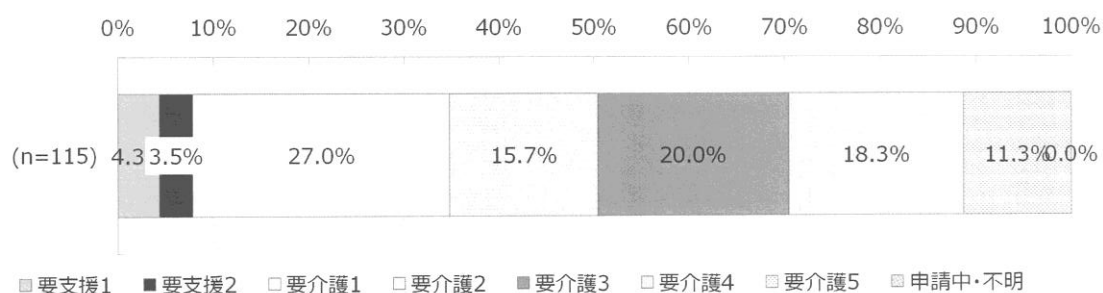
（注2）表の上段の数値は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

(2) 自宅等から居所を変更した利用者の要介護度の内訳

過去1年間に自宅等から居宅を変更した利用者のうち、死亡を除いて要介護度の内訳をみると、要介護1の27.0%が最も高く、要介護3（20.0%）、要介護4（18.3%）と続きます。

過去1年間の実績

過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度の内訳



(注)「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。また、死亡した方は集計から除いています。

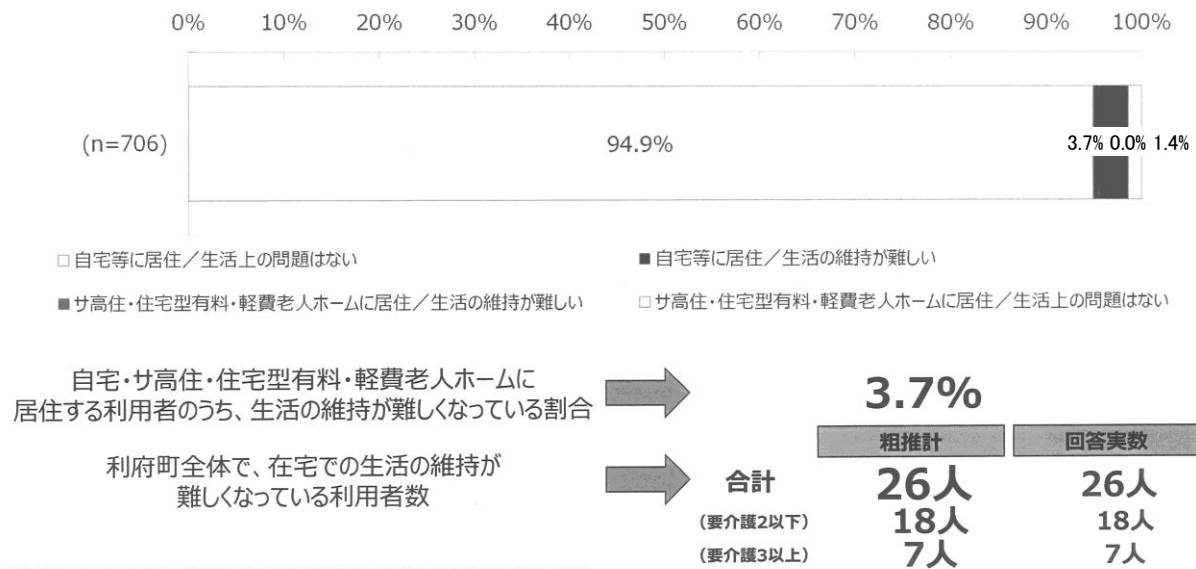
(3)現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者

以下の図は、ケアマネジャーの方に、担当する利用者で、自宅等で生活されている方のうち、「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている利用者」についてご回答いただいたものです。

現在、自宅などで生活している要支援・要介護者のうち、「生活の維持が困難になり始めている人」を量的に知ることができます。該当者は26人で生活の維持が難しくなっている利用者が3.7%と推計されます。

現在の利用者の状況

現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者



(4) 現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者の属性

現在、自宅等で生活している要支援・要介護者のうち、「生活の維持が困難になり始めている人」を属性別にみると、「単身の子どもの同居世帯で、自宅等（持ち家）に住む、要介護2以下」の割合が34.6%と最も高くなっています。居所が自宅等（持ち家）の利用者が全体の約8割強を占めています。

現在の利用者の状況

現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者の属性

順位 (上位10類型)	回答実数	粗推計	割合	世帯類型				居所			要介護度	
				独居	夫婦のみ世帯	単身の子どもの同居	その他世帯	自宅等（持ち家）	自宅等（借家）	サ高住・住宅型有料・経費	介2以下	介3以上
1	9人	9人	34.6%	★				★			★	
2	4人	4人	15.4%				★	★			★	
3	3人	3人	11.5%				★	★				★
3	3人	3人	11.5%			★		★				★
5	1人	1人	3.8%			★			★		★	
5	1人	1人	3.8%			★		★			★	
5	1人	1人	3.8%		★				★		★	
5	1人	1人	3.8%		★			★			★	
5	1人	1人	3.8%	★					★		★	
5	1人	1人	3.8%	★				★				★
上記以外	1人	1人	3.8%									
合計	26人	26人	100.0%									

(注) 「粗推計」は、回答数に回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。また、「上記以外」には、要介護度が「新規申請中」の方や属性が不明な方を含めています。

(5)生活の維持が難しくなっている理由

以下の図は、在宅での生活の維持が難しくなっている理由を「本人の状態」、「本人の意向」、「家族等介護者の意向・負担等」の3つの視点から整理しています。

「本人の状態」に属する理由では、全体で「認知症の症状の悪化」が最も高く、要介護2以下は「認知症の症状の悪化」が、要介護3以上は「必要な身体介護の増大」がそれぞれ高くなっています。

「本人の意向」に属する理由では、全体で「その他、本人の意向等があるから」が最も高く、要介護2以下は「その他、本人の意向等があるから」が、要介護3以上は「該当なし」がそれぞれ高くなっています。

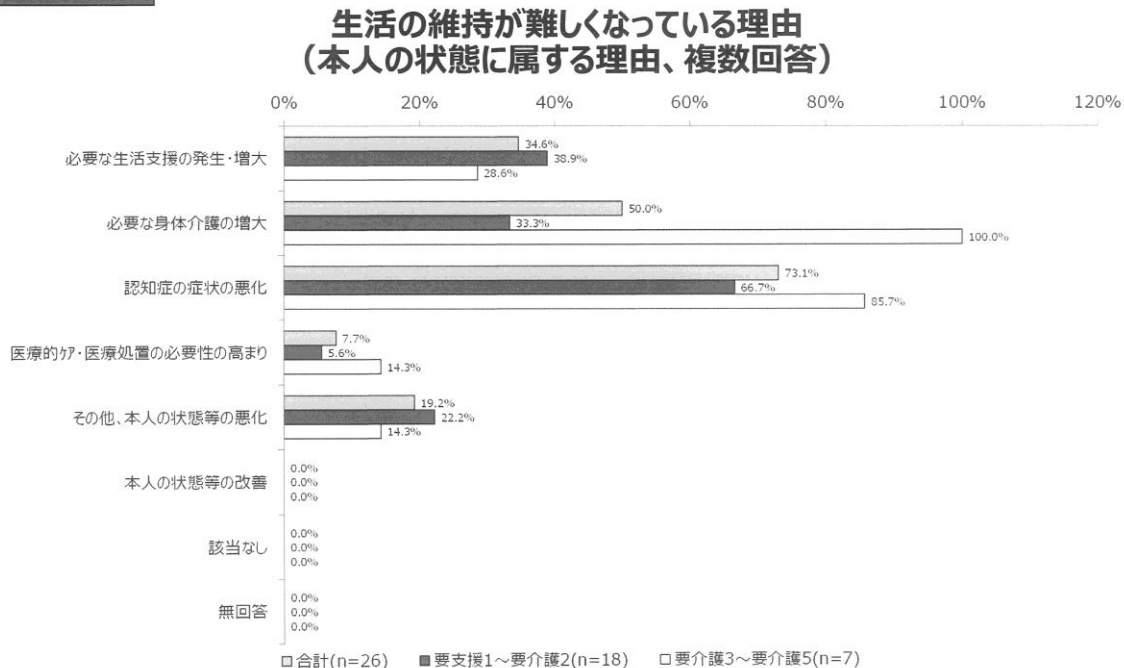
「家族等介護者の意向・負担等」に属する理由では、全体で「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」が最も高く、要介護2以下は「家族等の介護等技術では対応が困難」が、要介護3以上は「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」がそれぞれ高くなっています。

「必要な身体介護の増大」が理由の人の具体的な内容については、要介護2以下は「入浴」が、要介護3以上は「排泄（日中、夜間）」がそれぞれ高くなっています。

「認知症の症状の悪化」が理由の人の具体的な内容については、要介護2以下は「薬の飲み忘れ」「金銭管理が困難」が、要介護3以上は「家事に支障がある」「深夜の対応」がそれぞれ高くなっています。

「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」が理由の人の具体的な内容については、「カテーテル」が高くなっています。

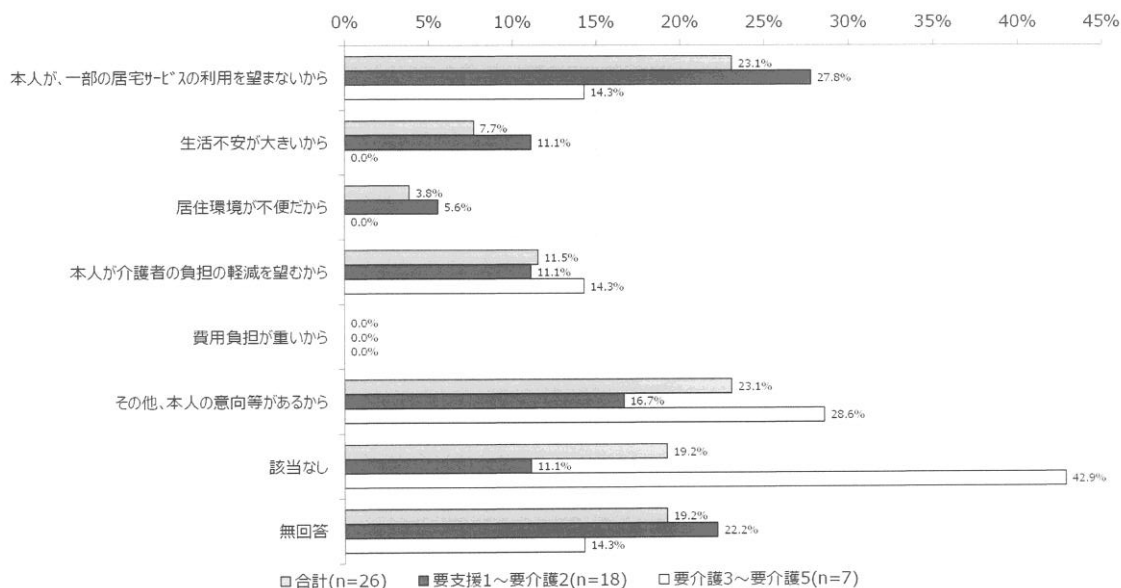
現在の利用者の状況



(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

現在の利用者の状況

生活の維持が難しくなっている理由
(本人の意向に属する理由、複数回答)

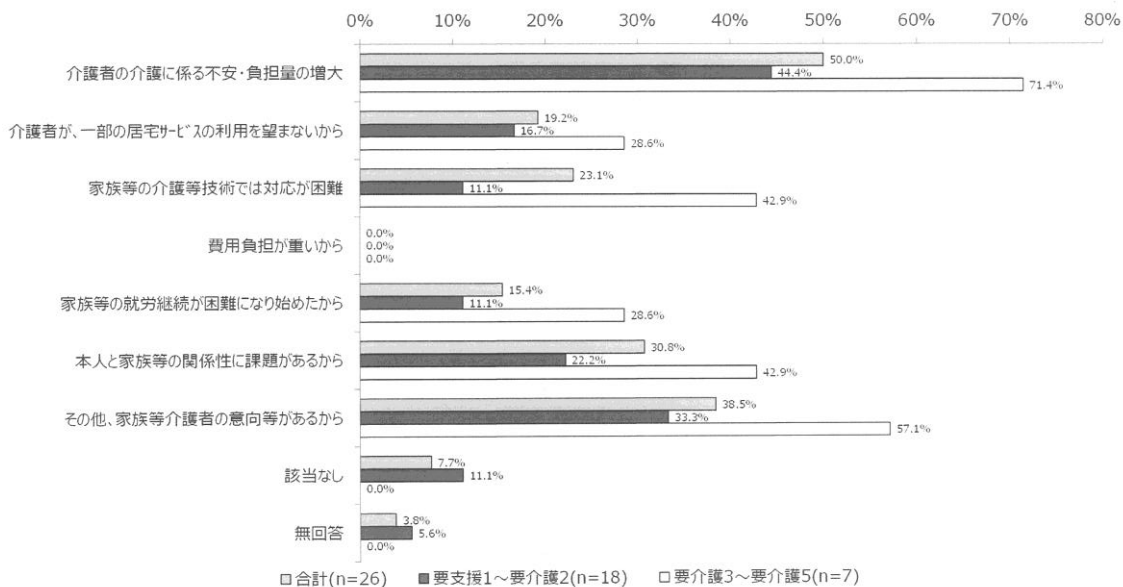


(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

11

現在の利用者の状況

生活の維持が難しくなっている理由
(家族等介護者の意向・負担等に属する理由、複数回答)

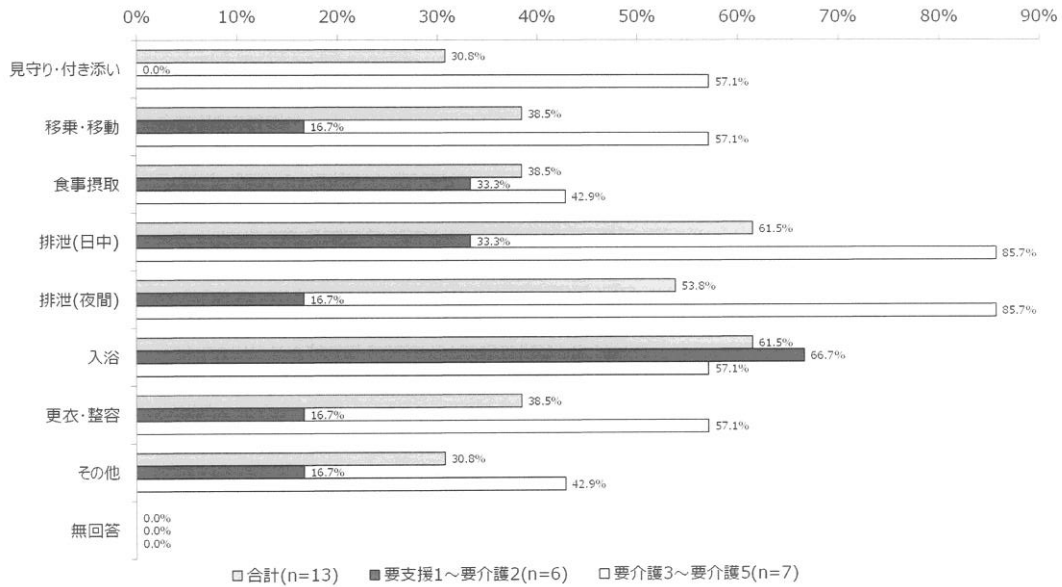


(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

12

現在の利用者の状況

「必要な身体介護の増大」が理由の人の具体的な内容（複数回答）

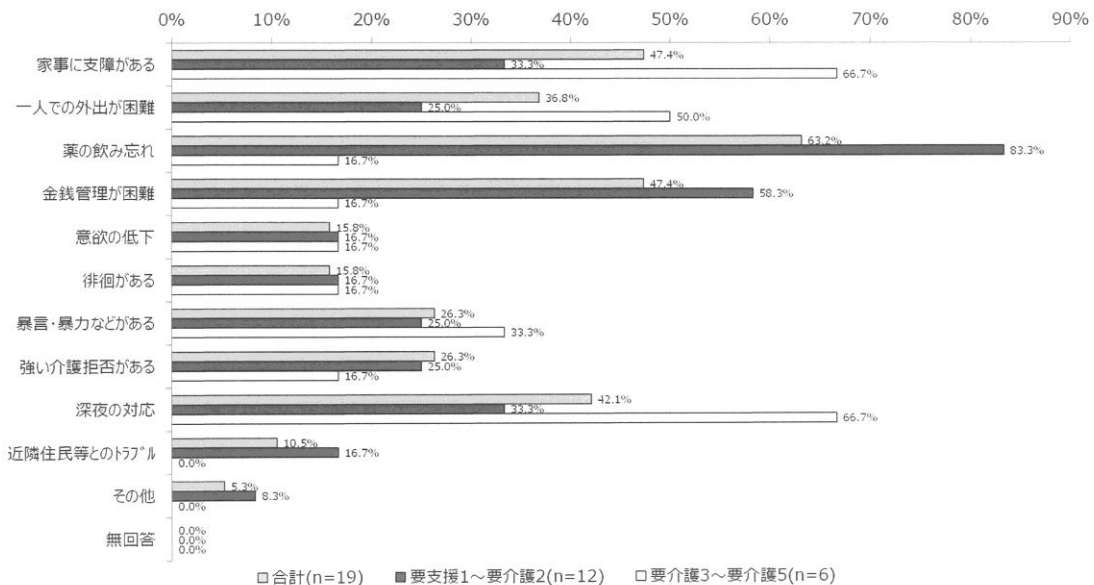


(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

13

現在の利用者の状況

「認知症の症状の悪化」が理由の人の具体的な内容（複数回答）

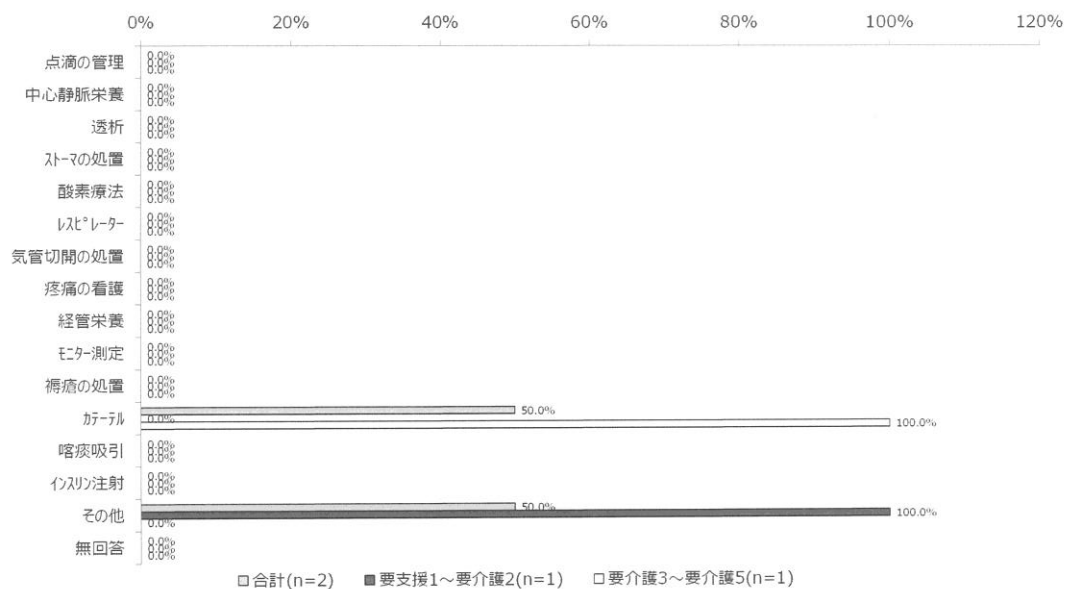


(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

14

現在の利用者の状況

「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」が理由の人の具体的な内容（複数回答）



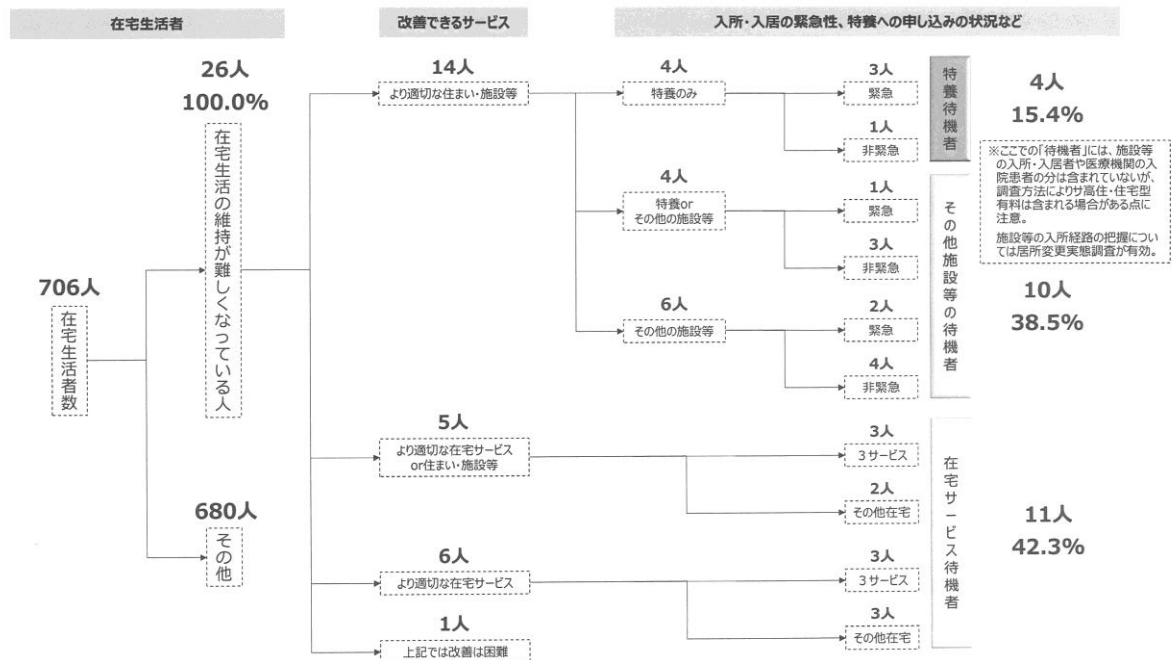
（注）「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

(6)生活が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更

「在宅生活の維持が難しくなっている人」のうち、担当のケアマネジャーが考える生活改善に必要なサービス等をみると、「特養」は4人（15.4%）、「その他施設等の待機者」は10人（38.5%）、「在宅サービス待機者」は11人（42.3%）となっています。

現在の利用者の状況

「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更



- (注1) 「より適切な在宅サービスor住まい・施設等」については、選択された在宅サービスで「住まい・施設等」を代替できるとして、「在宅サービス待機者」に分類しています。
(注2) 「生活の維持が難しくなっている人」の合計26人のうち、上記の分類が可能な26人について分類しています（分類不能な場合は「その他」に算入しています）。割合（%）は、26人を分母として算出したものです。
(注3) 「非緊急」には、緊急度について「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」「その他」と答えた方と無回答の方を含めています。
(注4) 上記に示す人数は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

(7)「その他施設等の待機者」と「在宅サービス待機者」の生活の改善に必要なサービス

特養以外の「その他施設等の待機者」と「在宅サービス待機者」の生活の改善に必要なサービスをみると、「その他施設等の待機者」で高いのは「グループホーム」の5人（50.0%）、「特別養護老人ホーム」の4人（40.0%）、「介護老人保健施設」「サービス付き高齢者向け住宅」の3人（30.0%）となっています。

「在宅サービス待機者」では、「ショートステイ」「小規模多機能型在宅介護」の4人（36.4%）、「グループホーム」「定期巡回型サービス」の3人（27.3%）が高くなっています。

現在の利用者の状況

「その他施設等の待機者」と「在宅サービス待機者」の生活の改善に必要なサービス（複数回答）

生活の改善に必要なサービス	その他施設等の待機者(10人)			在宅サービス待機者(11人)		
住まい・施設等	住宅型有料	1人	10.0%	住宅型有料	2人	18.2%
	サ高住	3人	30.0%	サ高住	2人	18.2%
	軽費老人ホーム	2人	20.0%	軽費老人ホーム	0人	0.0%
	グループホーム	5人	50.0%	グループホーム	3人	27.3%
	特定施設	0人	0.0%	特定施設	0人	0.0%
	介護老人保健施設	3人	30.0%	介護老人保健施設	2人	18.2%
	介護医療院	0人	0.0%	介護医療院	0人	0.0%
	特別養護老人ホーム	4人	40.0%	特別養護老人ホーム	2人	18.2%
在宅サービス	—			ショートステイ	4人	36.4%
				訪問介護、訪問入浴	2人	18.2%
				夜間対応型訪問介護	1人	9.1%
				訪問看護	0人	0.0%
				訪問リハ	0人	0.0%
				通所介護、通所リハ、認知症対応型通所	2人	18.2%
				定期巡回サービス	3人	27.3%
				小規模多機能	4人	36.4%
				看護小規模多機能	2人	18.2%
				訪問診療	1人	9.1%
				居宅療養管理指導	1人	9.1%

生活の改善に向けて、代替が可能

(注1) 割合は、それぞれ、その他施設等の待機者10人、在宅サービス待機者11人を分母として算出したものです。

(注2) 「在宅サービス待機者」について、生活改善に必要なサービスとして「住まい・施設等」と「在宅サービス」の両方を回答している場合は、代替が可能としています。

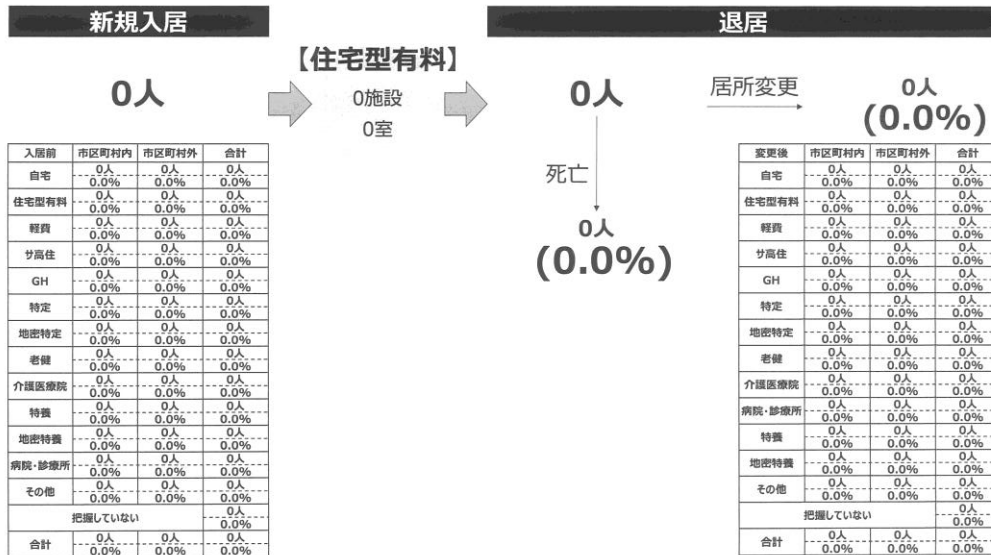
2. 居所変更実態調査

(1) 地域内の居所移動の実態

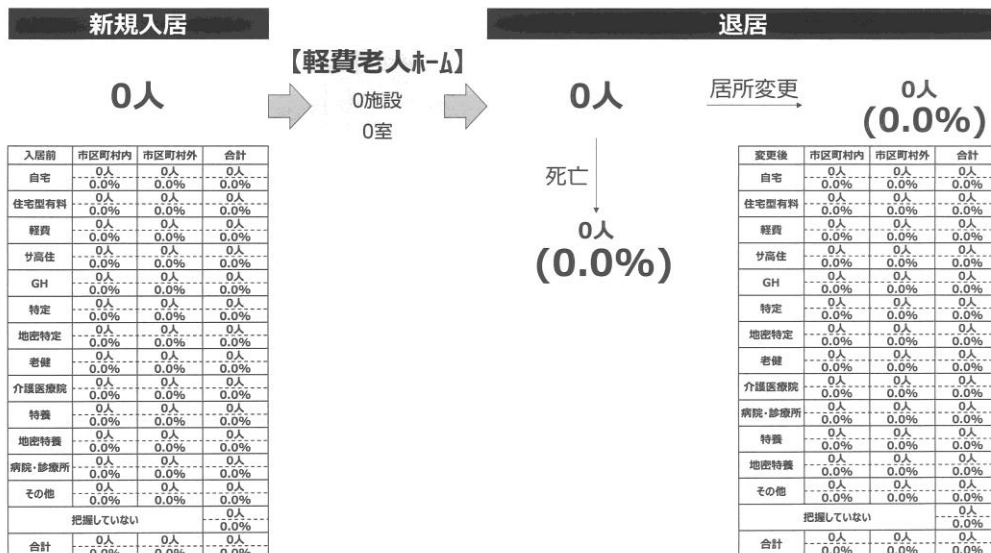
過去1年間の施設等の新規の入居・入所及び退去・退所の流れをサービス種類別にみると、入居・入所が最も多いのは「特別養護老人ホーム」の60人で、「介護老人保健施設」の41人が続きます。

退去・退所者については、最も多いのは同様に、「特別養護老人ホーム」の63人で、内訳は「死亡」が46人（73.0%）、「居所変更」が17人（27.0%）となっています。次に多いのは「介護老人保健施設」の28人で、内訳は「死亡」が20人（71.4%）、「居所変更」が8人（28.6%）となっています。

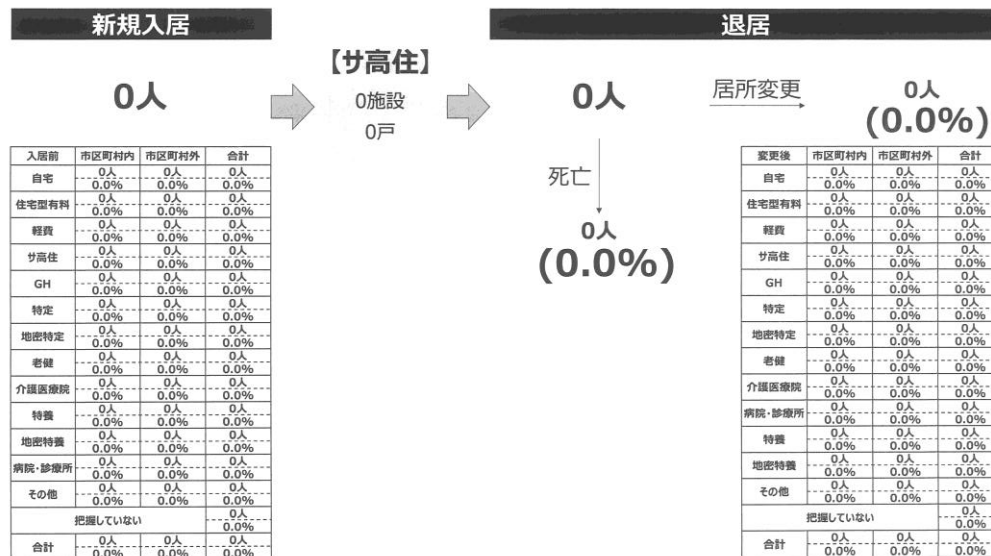
過去1年間の住宅型有料老人ホームの入居及び退居の流れ



過去1年間の軽費老人ホームの入居及び退居の流れ

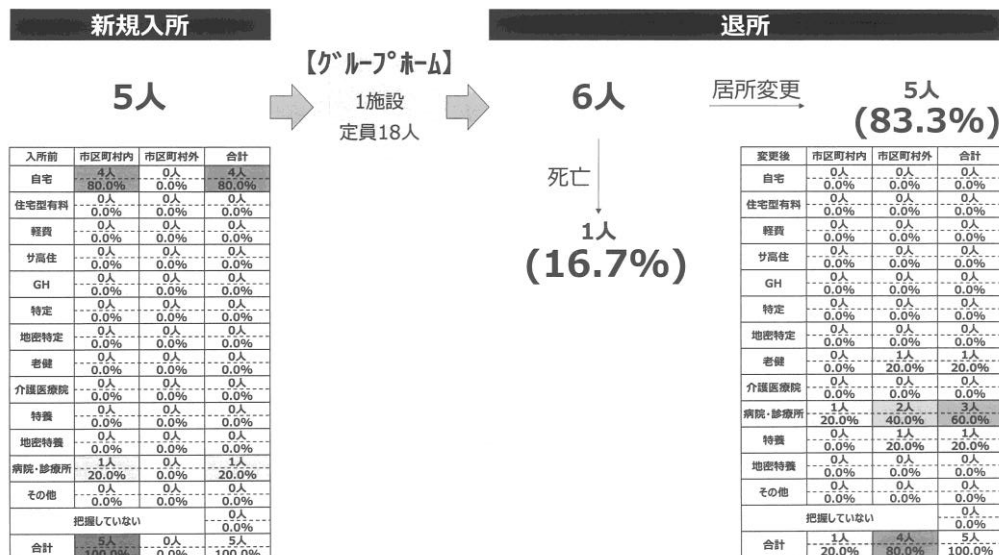


過去1年間のサービス付き高齢者向け住宅の入居及び退居の流れ



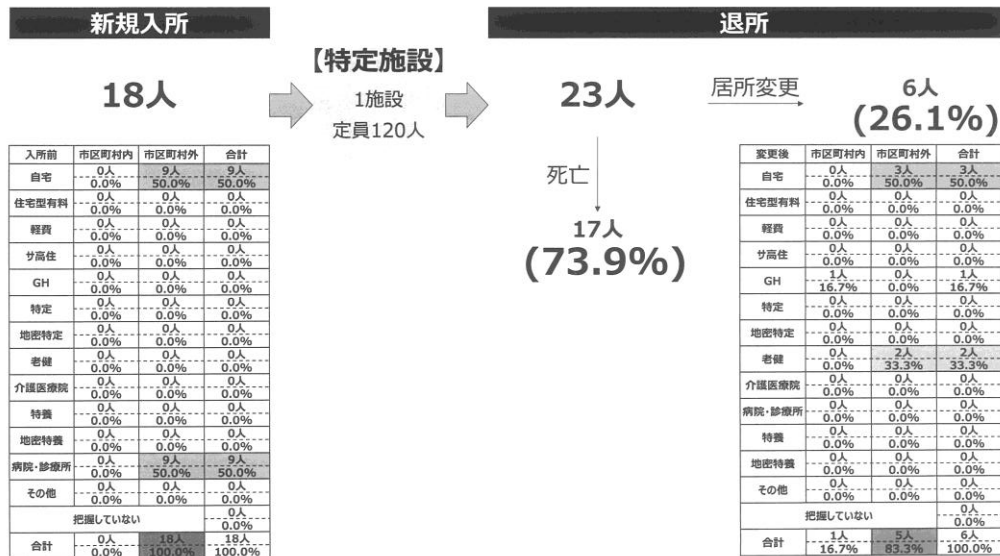
7

過去1年間のグループホームの入所及び退所の流れ



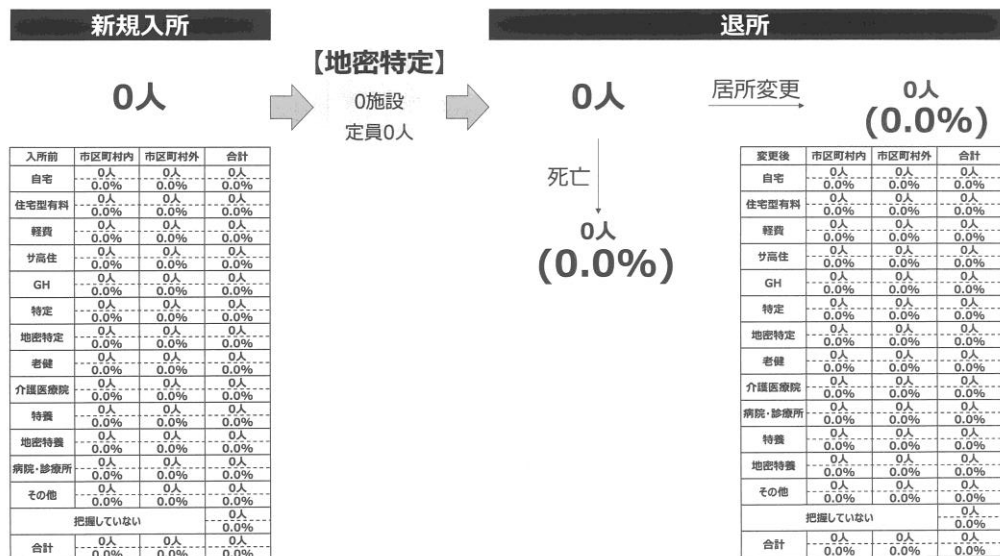
8

過去1年間の特定施設の入所及び退所の流れ



9

過去1年間の地域密着型特定施設の入所及び退所の流れ



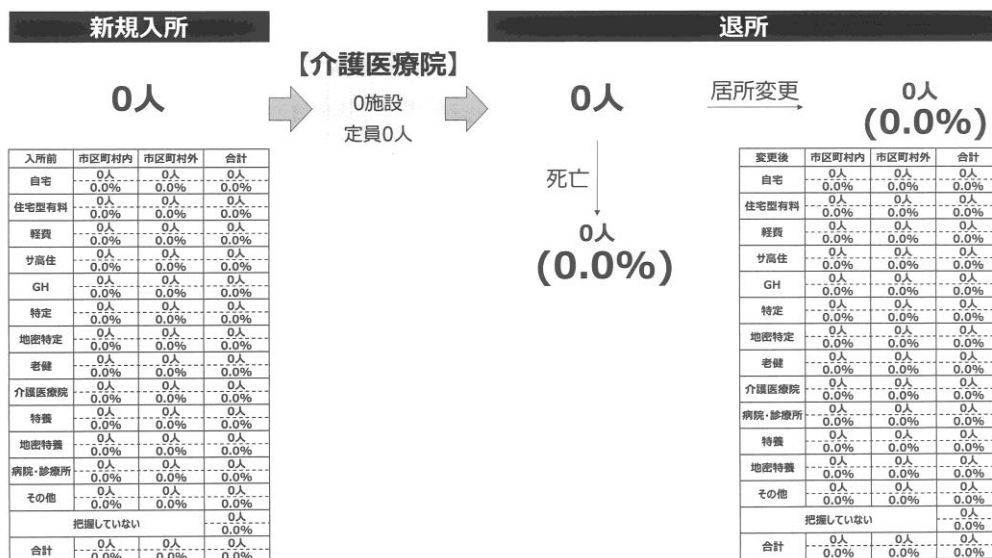
10

過去1年間の介護老人保健施設の入所及び退所の流れ



11

過去1年間の介護医療院の入所及び退所の流れ



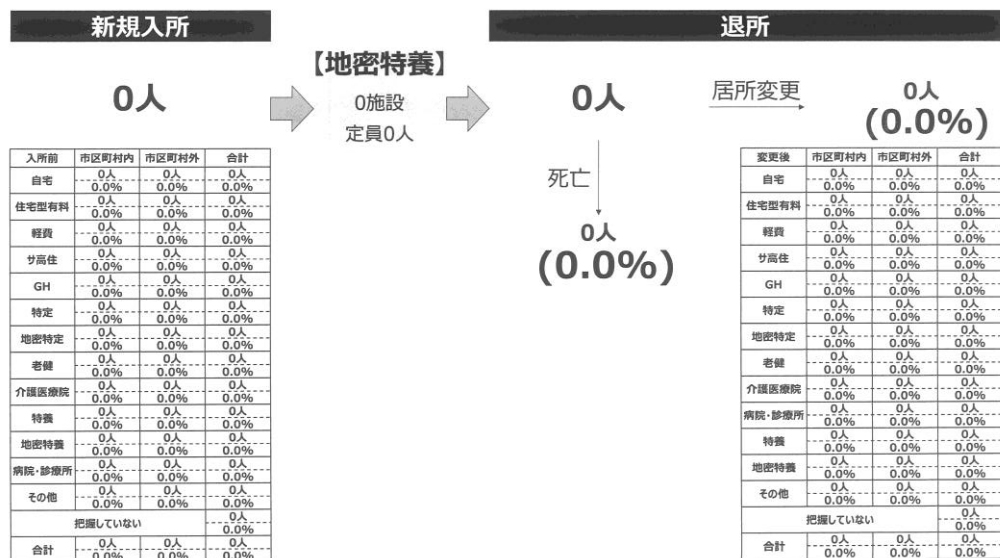
12

過去1年間の特別養護老人ホームの入所及び退所の流れ



13

過去1年間の地域密着型特別養護老人ホームの入所及び退所の流れ



14

(2) 居所変更した理由

各施設等から居所変更した理由をみると、全体では「費用負担が重くなった」の4人（80.0%）が最も高く、「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」の3人（60.0%）、「その他状態像の悪化」2人（40.0%）が続きます。

居所変更した理由

サービス種別	生活支援	身体介護	認知症	医療的ケア	その他状態像の悪化	状態等の改善	居宅サービス利用を望まなかった	費用負担	本人の希望	その他	無回答
住宅型有料 (n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
軽費 (n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
サ高住 (n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
GH (n=1)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
特定 (n=1)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
地密特定 (n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
老健 (n=1)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
介護医療院 (n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
特養 (n=2)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%
地密特養 (n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計 (n=5)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 60.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 80.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%

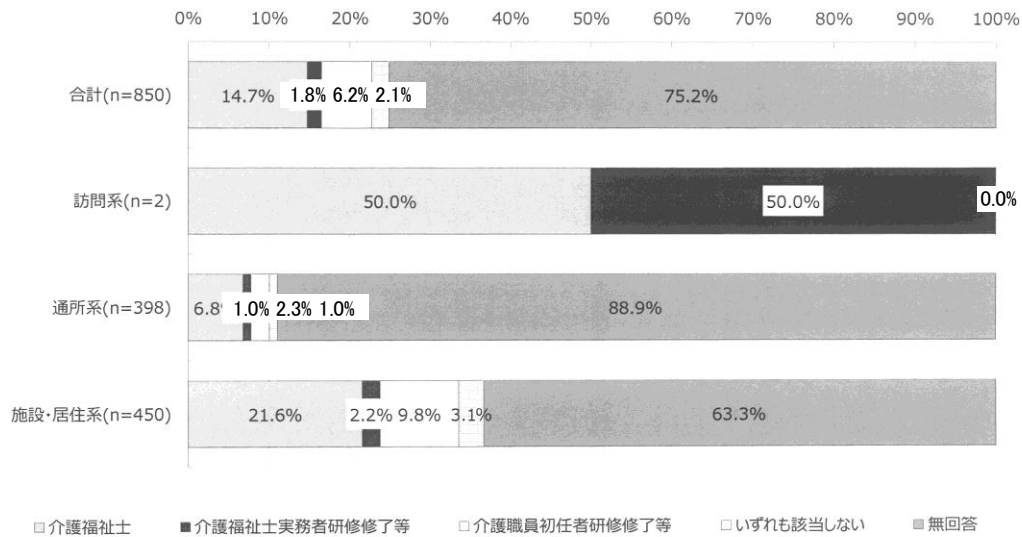
3. 介護人材実態調査

(1) サービス系統別の資格保有の状況

資格保有状況について全体では、無回答を除くと「介護福祉士」が14.7%と最も高く、次いで「介護職員初任者研修修了等」の6.2%が続きます。

サービス系統別にみると「介護福祉士」の割合が最も高いのは、「訪問系」の50.0%で、「施設・居住系」の21.6%、「通所系」の6.8%となっています。「施設・居住系」の「介護職員初任者研修修了等」も9.8%と比較的高くなっています。

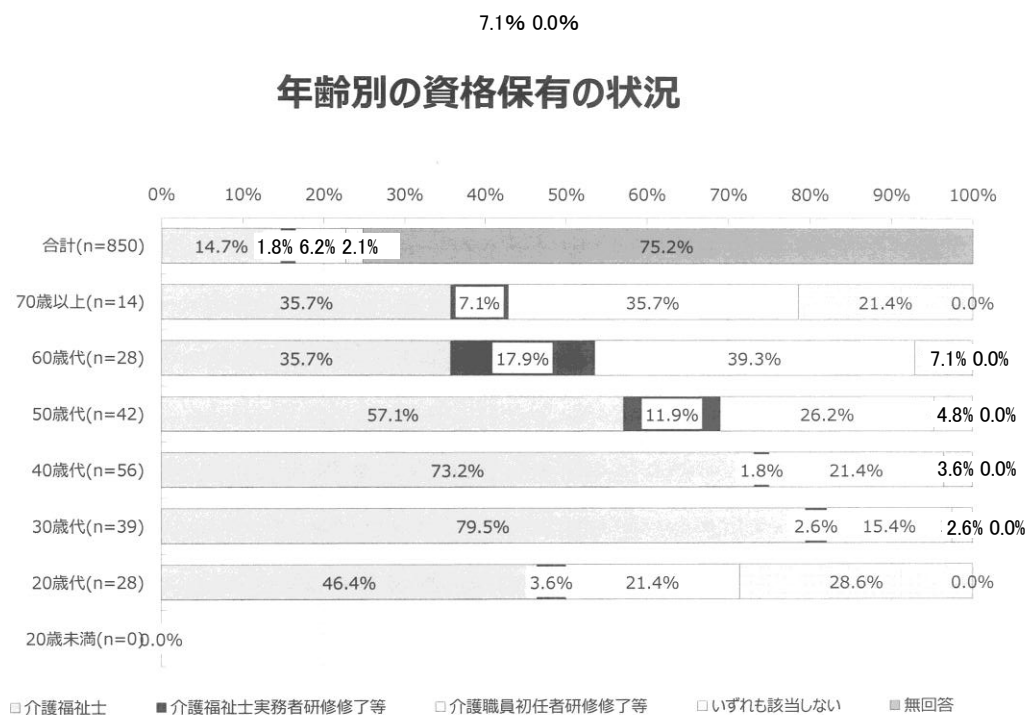
サービス系統別の資格保有の状況



(注)「合計」にはサービス系統不詳の方を含めています。

(2) 年齢別の資格保有状況

年齢別の資格保有状況をみると、「介護福祉士」の割合が最も高いのは「30歳代」の79.5%で、「40歳代」の73.5%、「50歳代」の57.1%と続きます。また「介護職員初任者研修修了者」の割合が最も高いのは「60歳代」の39.3%で、「70歳代」の35.7%、「50歳代」の26.2%と続きます。「介護福祉士実務者研修修了等」の割合が最も高いのは「60歳代」の17.9%となっています。



(注)「合計」には年齢不詳の方を含めています。

(3) サービス系統別の常勤職員・非常勤職員の割合

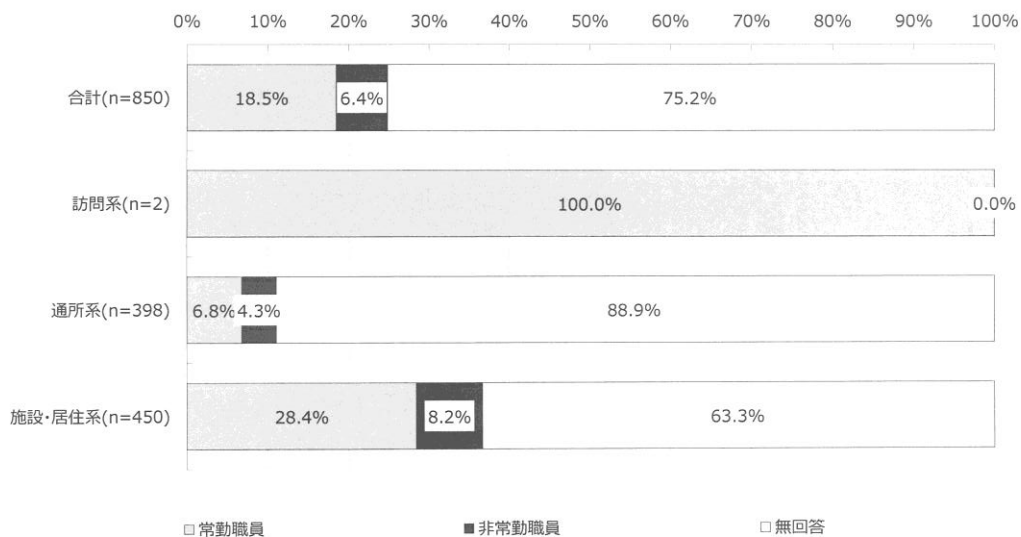
常勤職員・非常勤職員の割合について全体でみると、「常勤職員」が18.5%、「非常勤職員」が6.4%となっています。なお、無回答が75.2%を占めます。

サービス系統別にみると、「常勤職員」の割合が最も高いのは「訪問系」の100.0%で、「施設・居住系」の28.4%、「通所系」の6.8%と続きます。

性別・年齢別構成について全体でみると、各年齢層とも「女性」の割合が高くなっています。また、年齢層では「40歳代」の6.6%が最も高く、「50歳代」（4.9%）、「30歳代」（4.5%）と続きます。

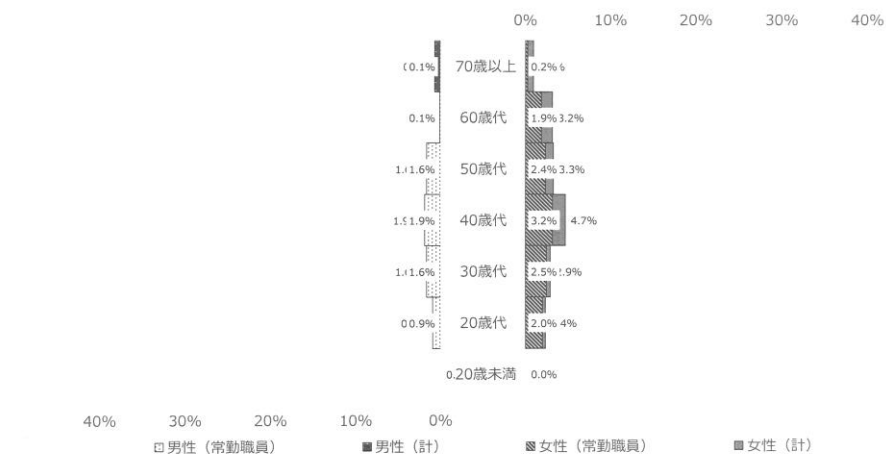
サービス系統別にみると、「通所系」では、特に女性の割合が高くなっています。「施設・居住系」では、「40歳代」「50歳代」「60歳代」と高い年齢層の割合が高くなっています。

サービス系統別の常勤職員・非常勤職員の割合



(注)「合計」にはサービス系統不詳の方を含めています。

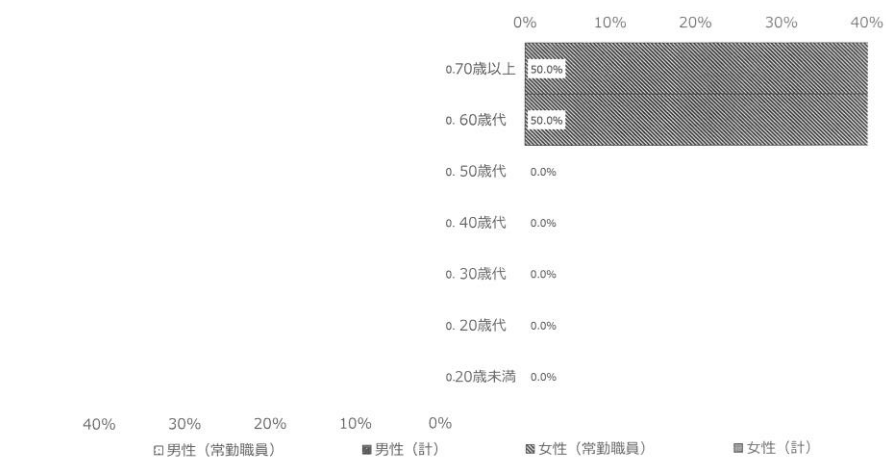
性別・年齢別の雇用形態の構成比（全サービス系統合計、n=850）



（注）分母には年齢・雇用形態不詳の方を含めて割合を算出しています。

6

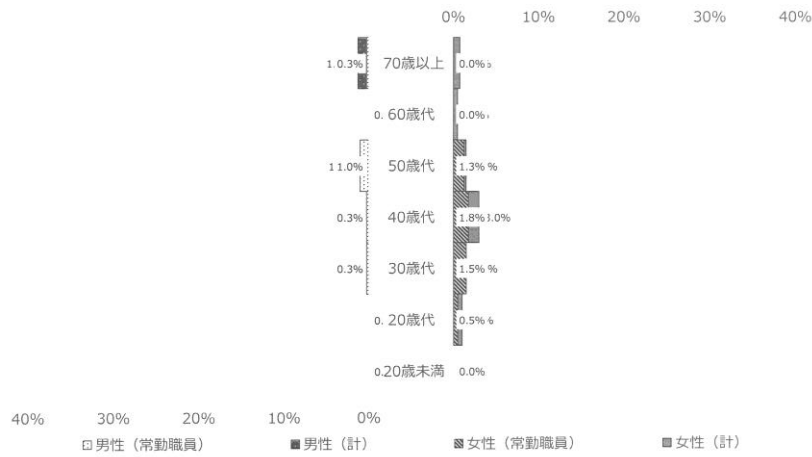
性別・年齢別の雇用形態の構成比（訪問系、n=2）



（注）分母には年齢・雇用形態不詳の方を含めて割合を算出しています。

7

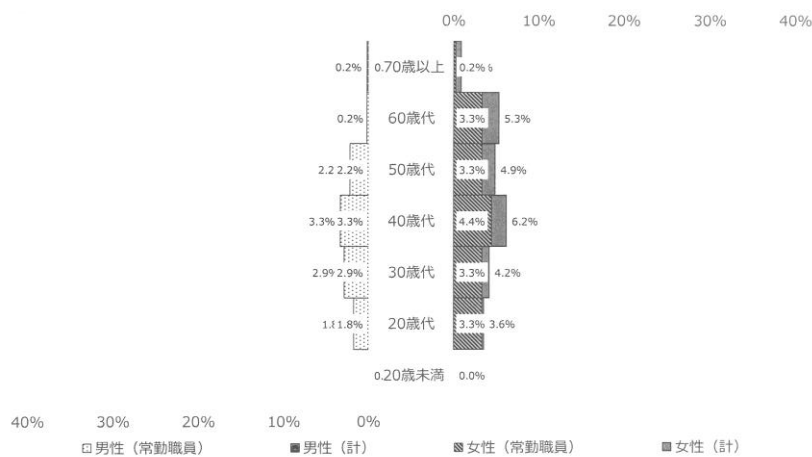
性別・年齢別の雇用形態の構成比（通所系、n=398）



（注）分母には年齢・雇用形態不詳の方を含めて割合を算出しています。

8

性別・年齢別の雇用形態の構成比（施設・居住系、n=450）



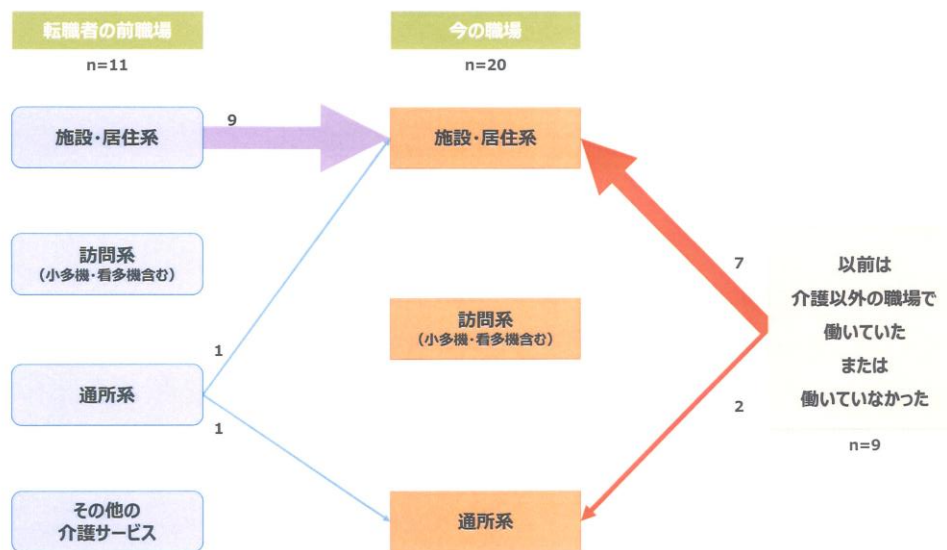
（注）分母には年齢・雇用形態不詳の方を含めて割合を算出しています。

9

(4) 過去1年間の介護職員の職場の変化

過去1年間の介護職員の職場の変化をみると、多いのは、前の職場が「施設・居住系」の人が「施設・居住系」の職場に採用される動線、「以前は介護以外の職場で働いていた、または働いていなかった」人が「施設・居住系」の職場に採用される動線が多くなっています。

過去1年間の介護職員の職場の変化
(同一法人・グループ内での異動は除く)



(注) 上記の分類が可能となる全ての設問に回答のあった方を集計対象としています。

利府町高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画策定業務
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び
在宅介護実態調査、サービス事業所調査
報 告 書

利府町 保健福祉部 地域福祉課 介護福祉係
〒981-0112 宮城県宮城郡利府町利府字新並松4番地
TEL：022-767-2198 FAX：022-767-2102
URL：<https://www.town.rifu.miyagi.jp/html>
